

科目分類	210-110-11（J）			授業コード	G00010
科目名称	仏教学Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	BuddhismⅠ			授業区分	講義
科目責任者	佐々木 俊道			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々木 俊道			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10			研究室	10-504
授業概要	本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」とその基礎となる仏教の開祖・釈尊の生涯と教え、さまざまな日本の仏教文化について概説する。日本文化の形成に大きな影響を与えた仏教が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、仏教学Ⅰの学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、仏教の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	１．建学の精神、および仏教の開祖釈尊の生涯と教えを理解することができる。 ２．日本の仏教文化について広く理解し、その特質を説明することができる。 ３．駒沢女子大学で学ぶ意義をみずから説明することができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	佐々木 俊道	【第1回】 予習：教科書（4 頁-9 頁）を読んでおく 授業：ガイダンス 駒澤学園の歴史、建学の精神 復習：建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせまとめる			
2	佐々木 俊道	【第2回】 予習：世界の三大宗教を調べておく 授業：宗教の成立と世界の宗教 復習：日本人の宗教観についてまとめる			
3	佐々木 俊道	【第3回】 予習：教科書（12 頁-18 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業：古代インドの宗教と釈尊の誕生（花まつり） 復習：駒澤学園の仏教行事「花まつり」の意義をまとめる			
4	佐々木 俊道	【第4回】 予習：教科書（18-19 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業：青年期の釈尊（四苦八苦）と出家（課題解決型授業） 復習：「四苦八苦」の要点をまとめる			
5	佐々木 俊道	【第5回】 予習：教科書（20 頁.28-29 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業：6 年間の苦行と「中道」の教え 復習：「中道」の教えの要点をまとめる			
6	佐々木 俊道	【第6回】 予習：教科書（64-74 頁）を読み、坐禅の作法を調べておく 授業：坐禅実習 坐禅の作法と意義を学ぶ 復習：坐禅の意義と礼儀作法の要点をまとめる			
7	佐々木 俊道	【第7回】 予習：教科書（21 頁.27-28 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業：釈尊の悟り（成道）と「縁起」の教え 復習：駒澤学園の仏教行事「成道会」「摂心会」の意義をまとめる			
8	佐々木 俊道	【第8回】 予習：教科書（22 頁.29-31 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業：初転法輪と「四諦八正道」の教え 復習：「四諦八正道」の教えの要点をまとめる			
9	佐々木 俊道	【第9回】 予習：「祇園精舎」「竹林精舎」について調べておく 授業：釈尊の伝道とさまざまな「対機説法」 復習：「応病与薬」と「対機説法」についてまとめる			
10	佐々木 俊道	【第10回】 予習：教科書（23-24 頁.32-35 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業：釈尊の入滅（涅槃）と「諸行無常」の教え 復習：駒澤学園の仏教行事「涅槃会」の意義をまとめる			

11	佐々木 俊道	【第 11 回】 予習 : 教科書 (64-74 頁) を読み、坐禅の心得 (調身・調息・調心) を調べておく 授業 : 坐禅実習 坐禅と礼儀作法 復習 : 坐禅の三つの心得についてまとめる							
12	佐々木 俊道	【第 12 回】 予習 : 教科書 (25-26 頁、36-37 頁) を読み、語句の意味を調べておく 授業 : 釈尊滅後の仏教の展開 (結集から大乘仏教へ) 復習 : 大乘仏教の「菩薩」についてまとめる							
13	佐々木 俊道	【第 13 回】 予習 : 日本文化と仏教の関係について調べておく 授業 : 仏教と日本の文化 (課題解決型授業) 復習 : 仏教と日本文化の特徴をまとめる							
14	佐々木 俊道	【第 14 回】 予習 : 仏教に由来する習慣・風習について調べておく 授業 : 日常に息づく仏教の教え 復習 : 日常の仏教の教えをまとめる							
15	佐々木 俊道	【第 15 回】 予習 : 仏教学 I で学んだ事項の要点を振り返る 授業 : 仏教学 I の学びの総括、駒澤学園の仏教行事の意義、仏教と現代社会 復習 : 仏教学 I の学びや駒沢女子大学での学びの意義をまとめる							
授業開始前学習		担当教員の指示に基づき、教科書の指定された頁ならびに配付資料を読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業で課した提出物 (レポート等) は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。							
テキスト・教材		『仏教学』(駒沢女子大学教科書) を基礎テキストとして用いる。その他、必要に応じてプリントを配付する。							
参考書		『英文対訳 道元禅師の典座教訓』(駒沢学園) その他、必要に応じて指示する。							
評価の基準と方法		授業での提出物 (30%) とテスト・レポート (70%) で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○		△				△
関連科目									
その他		坐禅実習は予定表に注意し、あらかじめ確認の上、服装を整えて参加すること。 板書事項はもらさずノートに書き写すように努力すること。建学の精神の学びの場である学燈会や摂心会などの学校行事には積極的に参加して、幅広い教養を身につけてほしい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神や釈尊の教え等を講じる。							

科目分類	210-110-11（J）		授業コード	G00020	
科目名称	仏教学Ⅱ		単位数	2.0 単位	
英文名称	BuddhismⅡ		授業区分	講義	
科目責任者	佐々木 俊道		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	佐々木 俊道		開講時期	1 年	
オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10		研究室	10-504	
授業概要	本講義は、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基礎となる曹洞宗の開祖・道元禅師の生涯と教え、さまざまな日本の禅文化について概説する。日本文化に大きな影響を与えた禅の教えが今を生きる私たちの日常生活にどのように関わり合ってくるのか、仏教学Ⅱ（禅）の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、禅の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	１． 建学の精神、および道元禅師の生涯と教えを理解することができる。 ２． 日本の禅文化について広く理解し、その特質を説明することができる。 ３． 駒沢女子大学で学ぶ意義をみずから説明することができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	佐々木 俊道	【第 1 回】 予習： 仏教学Ⅰ で学んだことを振り返る 授業： ガイダンス 建学の精神と仏教学Ⅰ の復習 復習： 駒沢女子大学と永平寺・道元禅師の関係についてまとめる			
2	佐々木 俊道	【第 2 回】 予習： 教科書（40-44 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業： 中国における仏教（禅宗）の展開 復習： 中国禅宗の特徴についてまとめる			
3	佐々木 俊道	【第 3 回】 予習： 教科書（46-49 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業： 日本における仏教の展開 1（仏教伝来～平安時代） 復習： 平安時代の仏教の特徴についてまとめる			
4	佐々木 俊道	【第 4 回】 予習： 教科書（49-51 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業： 日本における仏教の展開 2（平安後期～鎌倉時代） 復習： 鎌倉時代の仏教の特徴についてまとめる			
5	佐々木 俊道	【第 5 回】 予習： 教科書（56 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業： 道元禅師の誕生と出家 復習： 駒澤学園の仏教行事「誕生記念日」の意義をまとめる			
6	佐々木 俊道	【第 6 回】 予習： 教科書（56-57 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業： 道元禅師、比叡山と建仁寺での修行（課題解決型授業） 復習： 天台本覚法門に対する道元禅師の疑念をまとめる			
7	佐々木 俊道	【第 7 回】 予習： 教科書（64-74 頁）を読み、坐禅の作法を調べておく 授業： 坐禅実習 坐禅の作法と意義を学ぶ 復習： 坐禅の意義と礼儀作法の要点をまとめる			
8	佐々木 俊道	【第 8 回】 予習： 教科書（57-58 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業： 道元禅師の入宋求法と二人の典座の教え 復習： 典座の教えと禅修行の要点をまとめる			
9	佐々木 俊道	【第 9 回】 予習： 予習： 教科書（58 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業： 道元禅師、如浄禅師のもとでの大悟 復習： 「身心脱落」と「只管打坐」についてまとめる			
10	佐々木 俊道	【第 10 回】 予習： 教科書（58-59 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業： 道元禅師、帰朝後の教化 復習： 道元禅師の修証観の特色をまとめる			

11	佐々木 俊道	【第 11 回】 予習：教科書（60-61 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業：道元禅師の教えと実践 復習：道元禅師の仏教観の特色をまとめる							
12	佐々木 俊道	【第 12 回】 予習：教科書（59 頁）を読み、語句の意味を調べておく 授業：道元禅師の永平寺創建と示寂 復習：駒澤学園の仏教行事「追善記念日」の意義をまとめる							
13	佐々木 俊道	【第 13 回】 予習：禅と日本の文化の関係について調べておく 授業：禅と日本の文化（課題解決型授業） 復習：禅文化の特徴をまとめる							
14	佐々木 俊道	【第 14 回】 予習：永平寺など禅道場の修行について調べておく 授業：日常に息づく禅の教え 復習：禅の教えから日常生活を振り返る							
15	佐々木 俊道	【第 15 回】 予習：仏教学Ⅱで学んだ要点を振り返る 授業：仏教学Ⅱの学びの総括、駒澤学園の仏教行事の意義、禅と現代社会 復習：仏教学Ⅱの学びや駒沢女子大学での学びの意義を振り返る							
授業開始前学習		担当教員の指示に基づき、教科書の指定された頁ならびに配付資料を読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。							
テキスト・教材		『仏教学』（駒沢女子大学教科書）を基本テキストとして用いる。その他、必要に応じてプリントを配付する。							
参考書		『英文対訳 道元禅師の典座教訓』（駒沢学園） その他、必要に応じて指示する。							
評価の基準と方法		授業での提出物（30％）とテスト・レポート（70％）で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○		△				
関連科目									
その他		坐禅実習は予定表に注意し、あらかじめ確認の上、服装を整えて参加すること。 板書事項はもらさずノートに書き写すように努力すること。建学の精神の学びの場である学燈会や摂心会などの学校行事には積極的に参加して、幅広い教養を身につけてほしい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神や道元禅師の教え等を講じる。							

科目分類	210-130-11	授業コード	G00030
科目名称	☆日本文学／日本の文学	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Literature	授業区分	講義
科目責任者	松村 良	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村 良	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-617
授業概要	芥川龍之介の短編小説「鼻」「芋粥」と、太宰治の短編小説「魚服記」「道化の華」を読み、それぞれの作家についての基礎的な知識と、小説の読み方、作品へのアプローチの仕方について学ぶ。芥川と太宰の小説テキストの分析を通して、単なる感想に留まらない、文学研究の基礎と教養を身につけることを目的とする。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	文学研究の基礎である、作品の典拠との比較や、先行研究における問題点を把握できるようになる。登場人物の人間性や社会との関わり、小説の構成や語りについて、独自の論点を見つけ出せるようになる。さらに小説の読解を通して、自分の考えを論理的に説明できるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松村 良	【第 1 回】 予習 : 芥川龍之介と太宰治について知っていることをまとめておく 授業 : 授業の進め方について・芥川龍之介と太宰治に関する質問 復習 : 授業の進め方を理解し、質問に答える	
2	松村 良	【第 2 回】 予習 : 芥川龍之介について調べておく 授業 : 芥川龍之介の生涯と作品について 復習 : 芥川龍之介について学んだことをまとめる	
3	松村 良	【第 3 回】 予習 : 「鼻」を読み、内容を把握する 授業 : 「鼻」を読む 1 (教科書 20～30 頁、小説の内容と構成・典拠について・課題 1 提出) (課題解決型学習) 復習 : 小説の内容と構成、典拠について学んだことをまとめ、課題 1 に取り組む	
4	松村 良	【第 4 回】 予習 : 前回の授業で学んだことを読み返す 授業 : 「鼻」を読む 2 (人物造型と語りの特徴) 復習 : 人物造型と語りの特徴について学んだことをまとめる	
5	松村 良	【第 5 回】 予習 : 前回の授業で学んだことを読み返す 授業 : 「鼻」を読む 3 (小説の結末部の問題・課題 1 解説) 復習 : 「鼻」についての自分の意見をまとめる	
6	松村 良	【第 6 回】 予習 : 「芋粥」を読み、内容を理解しておく 授業 : 「芋粥」を読む 1 (教科書 32～59 頁、小説の内容と構成・典拠について・課題 2 提出) (課題解決型学習) 復習 : 小説の内容と構成、典拠について学んだことをまとめ、課題 2 に取り組む	
7	松村 良	【第 7 回】 予習 : 前回の授業で学んだことを読み返す 授業 : 「芋粥」を読む 2 (人物造型と語りの特徴) 復習 : 人物造型と語りの特徴について学んだことをまとめる	
8	松村 良	【第 8 回】 予習 : 前回の授業で学んだことを読み返す 授業 : 「芋粥」を読む 3 (小説の結末部の問題・課題 2 解説) 復習 : 「芋粥」についての自分の意見をまとめる	
9	松村 良	【第 9 回】 予習 : 太宰治について調べておく 授業 : 太宰治の生涯と作品について 復習 : 太宰治について学んだことをまとめる	
10	松村 良	【第 10 回】 予習 : 「魚服記」を読み、内容を把握する 授業 : 「魚服記」を読む 1 (教科書 84～95 頁、小説の構成と語り・典拠について・課題 3 提出) (課題解決型学習) 復習 : 小説の構成と語り、典拠について学んだことをまとめ、課題 3 に取り組む	

11	松村 良	【第 11 回】 予習 : 一章・二章を読み返し、内容について考える 授業 : 「魚服記」を読む 2 (一章・二章の特徴と内容読解) 復習 : 一章・二章について学んだことをまとめる							
12	松村 良	【第 12 回】 予習 : 三章・四章を読み返し、内容について考える 授業 : 「魚服記」を読む 3 (三章・四章の特徴と内容読解・課題 3 解説) 復習 : 「魚服記」についての自分の意見をまとめる							
13	松村 良	【第 13 回】 予習 : 「道化の華」を読み、内容を把握する 授業 : 「道化の華」を読む 1 (教科書 1 3 5 ～ 2 0 6 頁、私小説的手法と語りの問題・課題 4 提出) (課題解決型学習) 復習 : 私小説的手法と語りの問題について学んだことをまとめ、課題 4 に取り組む							
14	松村 良	【第 14 回】 予習 : 前半部を読み直し、内容について考える 授業 : 「道化の華」を読む 2 (前半部の特徴と内容読解) 復習 : 前半部について学んだことをまとめる							
15	松村 良	【第 15 回】 予習 : 後半部を読み直し、内容について考える 授業 : 「道化の華」を読む 3 (後半部の特徴と内容読解・課題 4 解説) 復習 : 「道化の華」についての自分の意見をまとめる							
授業開始前学習		授業で扱う作品は事前に必ず読んでおくこと。文庫本に収録されている他の作品や、解説、年譜なども読んでおく授業の理解に役立つ。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業で取り上げる 4 つの作品については、それぞれ授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		芥川龍之介『羅生門・鼻』(新潮文庫)・太宰治『晩年』(新潮文庫)							
参考書		授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		授業内課題 (40%) と、学期末レポート (60%) で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○						
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-11 (J)			授業コード	G00050
科目名称	日本の歴史			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese History			授業区分	講義
科目責任者	武廣 亮平			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	武廣 亮平			開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	日本の古代から近世までの歴史について、各時代の歴史書や日記などの記録、宗教的な著作、絵画史料など幅広い史料をもとに考える。またそれぞれの史料が物語る時代の特性などもあわせて学ぶ。				
到達目標	日本史の各時代のさまざまな史料を素材に歴史を考察することで、歴史的なものの見方、考え方を身に付ける。学生各自が「歴史」をより深く学ぶことで培った視角や問題認識をもとに、現代社会の諸問題も考えることができるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	武廣 亮平	【第 1 回】 予習 : シラバスの内容を確認する 授業 : オリエンテーション (日本史のさまざまな史料) 復習 : 授業で紹介した史料の特徴の確認			
2	武廣 亮平	【第 2 回】 予習 : 1 ～ 5 世紀の東アジアの歴史を概観する 授業 : 中国史料と金石文が記す古代の日本 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認			
3	武廣 亮平	【第 3 回】 予習 : 六国史について調べる 授業 : 『日本書紀』と史料批判 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認			
4	武廣 亮平	【第 4 回】 予習 : 奈良時代の歴史を概観する 授業 : 『続日本紀』と奈良時代の政変 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認			
5	武廣 亮平	【第 5 回】 予習 : 律令制下の税制についてまとめる 授業 : 木簡が語る古代人の生活 (平城京木簡を中心に) 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認			
6	武廣 亮平	【第 6 回】 予習 : 古代の武蔵国の郡と交通路を調べる 授業 : 奈良時代の古文書を読む (宝亀三年太政官符) 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認			
7	武廣 亮平	【第 7 回】 予習 : 摂関政治の特徴を調べる 授業 : 日記にみる平安貴族の生活と世界観 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認			
8	武廣 亮平	【第 8 回】 予習 : 末法思想について調べる 授業 : 『往生要集』と日本人の他界観 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認			
9	武廣 亮平	【第 9 回】 予習 : 平氏政権から鎌倉幕府の成立について調べる 授業 : 『吾妻鏡』が記す源頼朝とその権力 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認			
10	武廣 亮平	【第 10 回】 予習 : 鎌倉幕府の政治機構について調べる 授業 : 鎌倉時代の古文書を読む (政所下文) 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認			
11	武廣 亮平	【第 11 回】 予習 : 承久の乱と建武の新政について調べる 授業 : 「後鳥羽上皇像」と「後醍醐天皇像」 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認			

12	武廣 亮平	【第 12 回】 予習 : 日本におけるイエズス会の活動をまとめる 授業 : ルイス＝フロイスが見聞した戦国時代の日本 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認							
13	武廣 亮平	【第 13 回】 予習 : 織田信長の統一事業についてまとめる 授業 : 「本能寺の変」とはなにか 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認							
14	武廣 亮平	【第 14 回】 予習 : 江戸幕府の成立について調べる 授業 : 『武江年表』にみる江戸の成立と発展 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認							
15	武廣 亮平	【第 15 回】 予習 : 授業内容のノートの整理 授業 : 授業の総括と試験 復習 : 歴史における史料の重要性について自分の意見をもとめる							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		授業内のレポートや課題は次回の授業時に講評を行う。個別の質問についても毎回授業終了時に対応する。							
テキスト・教材		テキストは特に指定せず、毎回プリントを配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点（授業時の提出物） 4 0 点、レポート3 0 点、定期試験 3 0 点							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○						
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-11	授業コード	G00060
科目名称	西洋文化史	単位数	2.0 単位
英文名称	Cultural History of the West	授業区分	講義
科目責任者	河合 恵美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	河合 恵美	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	ルネサンス以降の西洋文化を衣・食・住の観点より学び、研究する。文化・生活に関連した装飾美術・工芸の分野にて、大国でありその発信地的役割を果たしたイギリス、フランスを中心に、バロック期から 20 世紀ミッド・センチュリーにおける装飾の歴史を俯瞰し、食であるテーブルウェア（陶磁器・銀器・ガラス）、住である建築と家具、衣であるモード（服飾）、ジュエリー、装飾小物などについて、映像・画像と共に、ものの見方、鑑定眼を身につけられるように研究し、現代の生活文化への影響やルーツを学ぶ。		
到達目標	西洋工芸品・西洋装飾美術品の様式や特徴に関し、その歴史と背景、代表的な建築・美術・工芸について理解できるようになる。7 月に実施される西洋アンティーク鑑定検定試験協会主催「アンティーク検定試験」3 級の合格を目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	河合 恵美	【第 1 回】 予習：シラバス全体を読み、装飾美術工芸とは何かを調べる 授業：美術（純粋美術）と装飾美術（応用美術）の定義、共通点と相違点について理解する 復習：西洋装飾美術工芸の世界を理解する	
2	河合 恵美	【第 2 回】 予習：教科書 P12-21 を読み、「様式とは何か」について調べておく 授業：バロックからモダニズムまでの装飾様式の特徴を俯瞰する 復習：各様式の特徴について時代背景と共に理解する	
3	河合 恵美	【第 3 回】 予習：教科書 P24-37 を読み、西洋の家具（椅子）について調べておく 授業：西洋家具の成り立ち、変遷と歴史について学ぶ 復習：西洋家具の歴史と各時代の特徴について理解する	
4	河合 恵美	【第 4 回】 予習：教科書 P66-71 を読み、陶磁器について調べておく 授業：西洋陶磁について、陶器・磁器それぞれの誕生の歴史と特徴を学ぶ 復習：陶磁器の歴史や種類について理解する	
5	河合 恵美	【第 5 回】 予習：教科書 P110-115 を読み、ガラスについて調べておく 授業：ヴェネツィアガラス、ボヘミアガラス、クリスタルガラスについて学ぶ 復習：ガラスの歴史と種類、製法について理解する	
6	河合 恵美	【第 6 回】 予習：教科書 P140-143 および P218-219 を読み、銀器について調べておく 授業：イギリスとフランスの銀器の刻印の読み方について学ぶ 復習：西洋における銀器の歴史、刻印について理解する	
7	河合 恵美	【第 7 回】 予習：教科書 P180-183 を読み、また宝飾品（ジュエリー）について調べておく 授業：貴石の種類とジュエリーの歴史について学ぶ 復習：ジュエリーの歴史、ダイヤモンドの世界を理解する	
8	河合 恵美	【第 8 回】 予習：モード（服飾）とジェンダーについて調べておく 授業：西洋モードの歴史と変遷について学ぶ 第 1 回レポート課題 復習：生活様式の中でのモードの歴史を理解する	
9	河合 恵美	【第 9 回】 予習：教科書 P19 を読みアール・ヌーヴォーについて調べておく 授業：アール・ヌーヴォー芸術と、その工芸品について学ぶ 復習：アール・ヌーヴォーの芸術様式を理解する	
10	河合 恵美	【第 10 回】 予習：教科書 P20 を読みアール・デコについて調べておく 授業：アール・デコ様式と、その工芸品について学ぶ 復習：アール・デコの芸術様式を理解する	
11	河合 恵美	【第 11 回】 予習：教科書 P21 を読み北欧デザインについて調べておく 授業：ミッド・センチュリーの家具工芸品について学ぶ 第 1 回のレポート講評、第 2 回レポート 復習：ミッド・センチュリーの家具工芸品を理解する	

12	河合 恵美	【第 12 回】 予習 : 19 世紀後半の万博について調べておく 授業 : 1851 年のロンドン博から 1900 年のパリ万博までを俯瞰する 復習 : 19 世紀後半の万博について、その意義と役割を理解する						
13	河合 恵美	【第 13 回】 予習 : 第 12 回までの授業につき復習をする 授業 : アンティーク検定対策 復習 : アンティーク検定試験に向けての総復習をする						
14	河合 恵美	【第 14 回】 予習 : テーブルウェアの歴史について調べておく 授業 : テーブルコーディネートの変遷について学ぶ 復習 : テーブルウェアの種類、テーブルコーディネートの歴史を理解する						
15	河合 恵美	【第 15 回】 予習 : 「アンティーク」とは何か、について調べておく 授業 : アンティーク、ヴィンテージ、コレクタブルなどの定義、その価値基準について学ぶ 第 2 回レポート講評 復習 : アートマーケットにおける実情を理解する						
授業開始前学習		本授業にて触れる時代・地域は 17 世紀～20 世紀のヨーロッパの生活文化史であるため、ルネサンス以降の世界史、西洋美術史の通史を読み、基本的知識を学んでおくと、授業が理解しやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 8 回目、11 回目に提出するレポートについては、それぞれ授業 11 回目、15 回目に講評を行う。						
テキスト・教材		「西洋骨董鑑定の教科書」ジュディス・ミラー著 (パイ インターナショナル)						
参考書		「フランステーブルウェアの教科書」イネス・ウージェル著 (パイ インターナショナル) 「ヨーロッパの装飾と文様」海野弘著 (パイ インターナショナル) 「アール・ヌーヴォーの美術」岡部昌幸著 (東京美術)						
評価の基準と方法		定期試験は実施せず、授業内に行う 2 回のレポート (60%) および外部検定試験「アンティーク検定試験 3 級」等 (40%) とする。授業内でのリアクションペーパーも随時行い、成績は絶対評価で加点方式とする。 出席が 3 分の 2 以下の場合、また出席の改ざんが発覚した場合は成績にかかわらず単位取得不可。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていくとする社会性の養成	健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成	栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						
関連科目								
その他		「西洋骨董鑑定の教科書」: 3600 円 + 税 アンティーク検定試験 3 級: 受験料未定 (学生割引あり) 7 月 7 日 (日) に実施予定、本受験 (任意) は、成績評価の対象となる。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-110-11			授業コード	G00070
科目名称	心理学 I			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology I			授業区分	講義
科目責任者	飯田 絵理子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	飯田 絵理子			開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	私たちが普段の生活で何気なく考え、話し、行動している時、その背後には「こころ」の動きがある。心理学はその見えない「こころ」を探求する学問である。心理学 I では心理学の学問が扱う領域や歴史、探究方法について概説し、理解を深めていく。また、知覚、記憶、学習、思考などを中心に、人の基本となる心の仕組みについて説明し、身近な問題とも関連付けながら学んでいく。				
到達目標	心理学の歴史や知覚、記憶、学習、思考など、人の基本的な心の動きや仕組みについて、鍵となる概念や代表的な理論を理解し、説明できるようになる。また、私たちの日常的な経験について、心理学的な観点から理解し、考察する力を身につける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	飯田 絵理子	【第 1 回】 予習：シラバス、テキスト i～xviii ページを読む 授業：ガイダンス 心理学 I で扱う内容について 復習：配布資料を確認し、自分が関心を持った心理学の領域について調べる			
2	飯田 絵理子	【第 2 回】 予習：テキスト第 1 章（1～20 ページ）を読む 授業：心理学史① 心理学の成り立ち、歴史 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、心理学の成り立ちについて理解を深める			
3	飯田 絵理子	【第 3 回】 予習：テキスト第 1 章（20～29 ページ）を読む 授業：心理学史② 心理学の研究手法、心理職 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、研究手法や心理職について理解を深める			
4	飯田 絵理子	【第 4 回】 予習：テキスト第 10 章（169～185 ページ）を読む 授業：感覚 感覚とは、視覚や聴覚の仕組み 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、視覚や聴覚の仕組みについて理解を深める			
5	飯田 絵理子	【第 5 回】 予習：テキスト第 11 章（187～204 ページ）を読む 授業：知覚 視知覚、錯視、運動視、知覚の恒常性 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、視知覚や知覚の恒常性について理解を深める			
6	飯田 絵理子	【第 6 回】 予習：テキスト第 12 章（205～213 ページ）を読む 授業：記憶① 記憶の過程、感覚記憶、短期記憶 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、記憶の過程や短期記憶について理解を深める			
7	飯田 絵理子	【第 7 回】 予習：テキスト第 12 章（213～220 ページ）を読む 授業：記憶② 長期記憶、記憶方略、知識とスキーマ 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、長期記憶や記憶方略について理解を深める			
8	飯田 絵理子	【第 8 回】 予習：テキスト第 13 章（221～228 ページ）を読む 授業：学習① 学習とは、古典的条件づけ 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、古典的条件づけについて理解を深める			
9	飯田 絵理子	【第 9 回】 予習：テキスト第 13 章（228～241 ページ）を読む 授業：学習② オペラント条件づけ、社会的学習、言語発達 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、オペラント条件づけについて理解を深める			
10	飯田 絵理子	【第 10 回】 予習：テキスト第 14 章（243～250 ページ）を読む 授業：思考① 推論、確率の推定 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、推論や確率の推定について理解を深める			
11	飯田 絵理子	【第 11 回】 予習：テキスト第 14 章（250～261 ページ）を読む 授業：思考② 問題解決、概念と言語 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、問題解決や概念と言語について理解を深める			

12	飯田 絵理子	【第 12 回】 予習：テキスト第 15 章（263～283 ページ）を読む 授業：脳と心① 脳と心的機能 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、脳と心的機能について理解を深める							
13	飯田 絵理子	【第 13 回】 予習：テキスト第 16 章（285～301 ページ）を読む 授業：脳と心② 高次脳機能障害、失認、健忘、失語 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、失認や健忘、失語について理解を深める							
14	飯田 絵理子	【第 14 回】 予習：テキスト第 17 章（303～318 ページ）を読む 授業：社会① 社会的促進・手抜き、同調、他者の認知 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、社会的促進や他者の認知について理解を深める							
15	飯田 絵理子	【第 15 回】 予習：テキスト第 18 章（319～337 ページ）を読む 授業：社会② ジレンマ、安心感と信頼 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、ジレンマや安心感と信頼について理解を深める							
授業開始前学習		人の「こころ」に関心を持ちながらテレビやニュースを見ておくと、授業内容を生活経験と結び付けて理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、授業内容について感想や疑問などのコメントを求め、次回の授業で取り上げる。							
テキスト・教材		長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行著 2020『はじめて出会う心理学 第 3 版』（有斐閣アルマ）							
参考書		授業の中で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		毎授業の出席 25% 毎授業の小テスト 25%（選択式） 毎授業のコメント 25%（授業意欲・内容理解） 定期試験 25%（期末テスト）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	△				
関連科目		臨床心理学Ⅰ、臨床心理学Ⅱ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-11	授業コード	G00080
科目名称	心理学Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology II	授業区分	講義
科目責任者	飯田 絵理子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	飯田 絵理子	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	私たちの思考や行動の背後にある「こころ」に焦点を当て、心理学Ⅱでは発達、性格、知能、臨床などの領域を取り上げ、心理学の重要な知見や概念を学んでいく。さらに、授業の終盤では教育や福祉、医療の現場をいくつか取り上げ、現場における心理的支援について概説する。		
到達目標	人の心の発達や性格・知能などの個人差、ストレスや心理療法などについて、鍵となる概念や代表的な理論を理解し、説明できるようになる。また、これらの概念や理論を臨床現場でどのように活かせるか、心理学的な観点から考察していく力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	飯田 絵理子	【第 1 回】 予習：シラバスを読む 授業：ガイダンス 心理学Ⅱで扱う内容について 復習：配布資料を確認し、関心を持ったテーマについて調べる	
2	飯田 絵理子	【第 2 回】 予習：テキスト第 2 章（33～50 ページ）を読む 授業：心の進化 動物の心、人間のユニークさ 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、人の心の進化について理解を深める	
3	飯田 絵理子	【第 3 回】 予習：テキスト第 3 章（51～64 ページ）を読む 授業：発達① 乳幼児期の心の発達 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、乳幼児期の心の発達について理解を深める	
4	飯田 絵理子	【第 4 回】 予習：テキスト第 3 章（64～70 ページ）を読む 授業：発達② 心の理論、発達障害 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、心の理論や発達障害について理解を深める	
5	飯田 絵理子	【第 5 回】 予習：テキスト第 4 章（71～85 ページ）を読む 授業：発達③ ライフサイクル、発達課題 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、ライフサイクルについて理解を深める	
6	飯田 絵理子	【第 6 回】 予習：テキスト第 5 章（87～92 ページ）を読む 授業：動機づけ① 動機づけ、生理的動機（摂食動機、睡眠動機、性動機） 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、動機づけや生理的動機について理解を深める	
7	飯田 絵理子	【第 7 回】 予習：テキスト第 5 章（93～104 ページ）を読む 授業：動機づけ② 内発的動機、社会的動機、情動 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、内発的動機や情動について理解を深める	
8	飯田 絵理子	【第 8 回】 予習：テキスト第 6 章（105～113 ページ）を読む 授業：性格① 性格の記述、性格をはかる方法 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、性格の記述やはかる方法について理解を深める	
9	飯田 絵理子	【第 9 回】 予習：テキスト第 6 章（113～121 ページ）を読む 授業：性格② 性格は変わるか、性格の類型論 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、性格の変化や類型論について理解を深める	
10	飯田 絵理子	【第 10 回】 予習：テキスト第 7 章（123～136 ページ）を読む 授業：知能 知能とは、知能検査 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、知能や知能検査について理解を深める	
11	飯田 絵理子	【第 11 回】 予習：テキスト第 8 章（137～150 ページ）を読む 授業：臨床① ストレス、心理病理とそのメカニズム 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、ストレスや心理病理について理解を深める	

12	飯田 絵理子	【第 12 回】 予習：テキスト第 9 章（151～165 ページ）を読む 授業：臨床② 精神分析療法、行動療法、認知療法、クライアント中心療法 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、各心理療法について理解を深める							
13	飯田 絵理子	【第 13 回】 予習：学校や福祉施設で働く心理職について調べる 授業：教育・福祉 教育領域（学校）や福祉領域（児童相談所、介護施設）での心理支援 復習：配布資料を読み直し、教育領域や福祉領域での心理支援について理解を深める							
14	飯田 絵理子	【第 14 回】 予習：心の病について調べる 授業：医療・健康 心の病、精神障害、心の健康 復習：配布資料を読み直し、心の病や心の健康について理解を深める							
15	飯田 絵理子	【第 15 回】 予習：食や栄養士の仕事と心がどのように関わっているかを考える 授業：食と心 食に関わる心の働き 復習：配布資料を読み直し、食に関わる心の働きについて理解を深める							
授業開始前学習		心理学Ⅰで学んだ内容を復習しておく、授業を理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、授業内容について感想や疑問などのコメントを求め、次の授業で取り上げる。							
テキスト・教材		長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行著 2020『はじめて出会う心理学 第 3 版』（有斐閣アルマ）							
参考書		授業の中で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		毎授業の小テスト 25%（選択式） 毎授業のコメント 25%（授業への意欲・理解） 毎授業の出席 25%（出欠） 定期試験 25%（選択式）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	△				
関連科目		臨床心理学Ⅰ、臨床心理学Ⅱ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-11	授業コード	G00090
科目名称	☆哲学／人間と思想 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Philosophy／Humans and Thought I	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 由加里	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 由加里	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	人間とはどのような存在なのか、人間の本質はどのようなものなのか、を考察することがテーマである。古代ギリシアから中世までの哲学的知識を講義する予定である。学んだ学説や概念を使って、現代的な問題についての考察、演習問題を行う予定である。		
到達目標	考える材料として西洋哲学を歴史的に学び、かつ現代社会の情報を踏まえつつ、学生が自分で考察ができるようになることが達成目標。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鈴木 由加里	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を吟味し、自分の興味対象がどこにあるのかを考えてくる 授業：人間と思想を学ぶということについて 授業の進め方評価基準などについて資料を配付 論述課題を実施 復習：自分がすでにもっている「人間」についてのイメージをまとめる	
2	鈴木 由加里	【第 2 回】 予習：人間とはどのような存在であるか 授業：人間学と哲学（映像資料を利用） 復習：授業で扱ったテーマについて考察を深めておく	
3	鈴木 由加里	【第 3 回】 予習：ギリシアの歴史について調べておく 授業：ギリシア哲学 I 古代ギリシアの世界 復習：自然学とは何かをまとめておく	
4	鈴木 由加里	【第 4 回】 予習：アテネの民主制について調べておく 授業：ギリシア哲学 II 自然哲学からソクラテスへ 復習：ソクラテスの刑死の意味を考えよう	
5	鈴木 由加里	【第 5 回】 予習：プラトンの時代のギリシア世界について調べておく 授業：プラトンの思想 復習：イデア論について問題点をまとめておく	
6	鈴木 由加里	【第 6 回】 予習：マケドニアとギリシアについての歴史を調べておく 授業：ヘレニズム期の哲学と文化 復習：アリストテレスと学問についてまとめる	
7	鈴木 由加里	【第 7 回】 予習：コスモポリタンの意味を調べておく 授業：ヘレニズム期の思想 復習：ストア派についてまとめる	
8	鈴木 由加里	【第 8 回】 予習：ヨーロッパ文化の特性を自分なりに語れるようにしておく 授業：ヘレニズムとヘブライズム 復習：文化論の意義について考えておく	
9	鈴木 由加里	【第 9 回】 予習：『創世記』第一章の内容を調べておく 授業：原始キリスト教 宗教と人間について 復習：贖い、福音という言葉の説明できるようにする	
10	鈴木 由加里	【第 10 回】 予習：宗教の力について考えておく 授業：キリスト教とローマ帝国 人生と哲学について 復習：布教活動の意味について再考しておく	
11	鈴木 由加里	【第 11 回】 予習：中世の定義を調べておく 授業：中世ヨーロッパの人間観 復習：歴史区分の意味について再考しておく	

12	鈴木 由加里	【第 12 回】 予習：現代における宗教の意義について考えてくる 授業：宗教と死について 復習：死の概念の違いを再解釈する							
13	鈴木 由加里	【第 13 回】 予習：キリスト教と世俗権力について調べておく 授業：中世キリスト教神学と哲学 復習：キリスト教の多様さを再確認すること							
14	鈴木 由加里	【第 14 回】 予習：「近代」という概念を調べておく 授業：古代・中世の人間観と現代の人間観について考察をする 復習：人文主義の意義について考えておく。							
15	鈴木 由加里	【第 15 回】 予習：各自ノート及びレジュメ参考文献などを味読しておくこと 授業 1 回から 14 回までの 授業内容確認レポートあるいはテスト形式での質問に答える (授業内でレポート作成) 復習：授業内容について不十分なところを補っておく * 学生の知識レベル興味関心に応じて内容を変更する可能性もある。							
授業開始前学習		課題提出などで、GWE(Google Workspace for Education)など PC 操作を必要とするシステムを使用予定である。パソコンの基本的な知識 (Web の閲覧、メールの送受信、ファイルの種類についての知識など) を学んでおいて欲しい。 授業内容に関しては、西洋の哲学史についての話になるので、常識のレベルでの西洋の歴史について学んでおいてもらいたい。							
授業内課題のフィードバックの方法		基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。 レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。遠隔授業になった場合、GWE(Google Workspace for Education)を通じてオンデマンドで行う。クラス記号など詳細は「クラスプロフィール」を通じて連絡をする予定。「クラスプロフィール」の使い方を確認しておくこと。							
テキスト・教材		GWE(Google Workspace for Education)Google Classroom にて、授業に必要な講義内容のレジュメと資料を PDF 形式ファイルで配付。各資料を DL したものをプリントアウトするか、PC やタブレットなどデジタル機器でノートテイクするか、各自の学習方法にあわせて使用すること。							
参考書		熊野 純彦 『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書 2006 その他 授業中に適宜指示する							
評価の基準と方法		GWE(Google Workspace for Education)において、課題を提出してもらう。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行う。課題の詳細は授業時に説明。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○		△		○		
関連科目		人間と思想							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-11	授業コード	G00100
科目名称	☆人間と思想／人間と思想Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Humans and Thought／Humans and Thought Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 由加里	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 由加里	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	近代以降の西洋哲学についての知識を深めつつ、人間はどのような存在として考えられてきたかということを考える。倫理や道徳に関する現代的なテーマについてとりあげて、知識を増やし、哲学的知識を実践で役立てる方法を講義する予定である。		
到達目標	哲学史を覚えるだけでなく、その知識を活用して、現代社会における様々な事象や社会問題との関連の中で人間について考察を深めていくことができるようになること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鈴木 由加里	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を吟味し、自分の興味対象がどこにあるのかを考えてくる 授業：現代的視点で人間について考えることについて及び授業説明 授業の進め方評価基準などについて資料を配付 授業内で論述課題を行う 復習：自分がすでにもっている「人間」についてのイメージをまとめる	
2	鈴木 由加里	【第 2 回】 予習：近代という言葉からイメージするものを考えてくる 授業：近代とは何か 復習：日本語で西洋のことについて学ぶことの意味について考える	
3	鈴木 由加里	【第 3 回】 予習：自分が考える「科学的」ということの意味を考えること 授業：科学革命と人間 復習：現代の科学は人間の何を明らかにしているのかを考える	
4	鈴木 由加里	【第 4 回】 予習：人権とは何か、箇条書きにしておく 授業：近代市民社会の成立 歴史的経緯と「市民」「社会」の意味 復習：現代社会における人権侵害の事例を調べる	
5	鈴木 由加里	【第 5 回】 予習：人間にとって許されないことは何かを考えてくる 授業：人間と悪についての小論文作成 復習：自分が言葉にできなかったことをもう一度考えてみよう	
6	鈴木 由加里	【第 6 回】 予習：17 世紀のヨーロッパ史について調べてくる 授業：デカルトと理性的存在としての人間について 復習：理性とは何かを考えてみよう	
7	鈴木 由加里	【第 7 回】 予習：30 年戦争の原因と結果を説明できるようにしておく 授業：17 世紀ヨーロッパの哲学について パスカールについて 復習：人間の弱さと強さについて考える	
8	鈴木 由加里	【第 8 回】 予習：17 世紀のイギリスのことを調べておく 授業：イギリスの経験論 思考の方法 復習：授業内で学んだ概念を原語と日本語訳を覚え、活用できるようにしておくこと	
9	鈴木 由加里	【第 9 回】 予習：「啓蒙」という漢字の意味を調べておくこと 授業：啓蒙主義 ①「百科全書派」とヴォルテール 復習：「リスボン大地震」について調べてみよう	
10	鈴木 由加里	【第 10 回】 予習：権力と啓蒙について考えておく 授業：啓蒙主義 ② 啓蒙専制君主について 復習：ルソーの思想についてまとめる	
11	鈴木 由加里	【第 11 回】 予習：人間の定義と自分の違いについて考えてみる 授業：18 世紀から 19 世紀の思想 自由と平等を中心に 復習：ジェンダーという概念を正しく理解しておく	

12	鈴木 由加里	【第 12 回】 予習：「女性」の権利について調べておこう 授業：「人間と女性」について 復習：「人間」＝女性なのか、ということを考えてみる						
13	鈴木 由加里	【第 13 回】 予習：日本の社会について考えてこよう 授業：現代の人間観 ①ジェンダー概念について 復習：自分と全く異なった人間観を持つ人たちがどうやって向き合うかを考える						
14	鈴木 由加里	【第 14 回】 予習：マイノリティという言葉について調べておく 授業：現代の人間観 ②「性的マイノリティ」について 復習：小テストで答えられなかったところを復習しておく						
15	鈴木 由加里	【第 15 回】 予習：これまでのノート及び資料の味読をしておく 授業：授業内容確認レポートもしくはテスト形式での質問（授業内でレポート作成） 復習：授業内容について不十分なところを補っておく * 学生の知識レベル興味関心理解度に応じて内容と講義の日程を変更する可能性がある。						
授業開始前学習		ルネサンス以降の西洋の歴史について概略を学んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。 対面授業の場合は、リアクションペーパーは手書き。授業時に回収し、返却はなし。 レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。遠隔授業の場合は、GWE(Google Workspace for Education)を通じて行う。クラス記号など詳細は「クラスプロフィール」を通じて連絡をする予定。						
テキスト・教材		GWE(Google Workspace for Education)Google Classroom にて、授業に必要な講義内容のレジメと資料を PDF 形式ファイルで配付。各資料を DL したものをプリントアウトするか、PC やタブレットなどデジタル機器でノートテイクするか、各自の学習方法にあわせて使用すること。						
参考書		授業概要のレジメやスライドで指示						
評価の基準と方法		GWE(Google Workspace for Education)において、課題を提出してもらう。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行う。課題の詳細は授業時に説明。						
ディプロマポリシー	人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成	健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成	栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△		○		
関連科目	哲学／人間と思想 I							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-130-11	授業コード	G00110
科目名称	倫理学	単位数	2.0 単位
英文名称	Ethics	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 由加里	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 由加里	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	本講義では、倫理学の概要と現代における倫理的テーマを考察する。現代社会に生きる個々人が直面する倫理的な判断をしなければならない具体的な諸問題を紹介し、それぞれに対して論議できるようになることを目的としたい。		
到達目標	平等や正義に関する哲学的知識を身につけ、現実的な問題について議論できるようになることが到達目標。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鈴木 由加里	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を吟味し、自分の興味対象がどこにあるのかを考えてくる 授業：倫理学を学ぶにあたって。レポートの書き方や単位取得条件及び勉強の仕方について説明する。 論述課題を実施 復習：配布したレジュメを読む	
2	鈴木 由加里	【第 2 回】 予習：配布した資料を読む 授業：倫理学の課題 復習：問題群を確認	
3	鈴木 由加里	【第 3 回】 予習：配付資料を読んでくる 授業：倫理学の歴史 ①古代ギリシア 復習：倫理学の歴史について知識を確認する	
4	鈴木 由加里	【第 4 回】 予習：配布資料を読んでくる 授業：倫理学の歴史 ②近代 復習：倫理学の歴史についての知識を確認する	
5	鈴木 由加里	【第 5 回】 予習：自由の価値について自分の考えをまとめる 授業：自由について① J・S・ミルの『自由論』を読む 復習：ミルとハリエット・テイラーについて確認する	
6	鈴木 由加里	【第 6 回】 予習：ミル自由主義の問題点を確認する 授業：自由について② 復習：自由が批判されるケースの確認	
7	鈴木 由加里	【第 7 回】 予習：功利主義という言葉調べてくる 授業：功利主義について 復習：功利主義と倫理の関係について確認	
8	鈴木 由加里	【第 8 回】 予習：19 世紀以降の歴史を確認してくる 授業：倫理学の現代的展開 科学と倫理 復習：科学の中立性について考える	
9	鈴木 由加里	【第 9 回】 予習：技術なしの生活を考えてみる 授業：科学技術と倫理 復習：科学技術の問題点を確認	
10	鈴木 由加里	【第 10 回】 予習：医療に対する不満を考えてくる 授業：医療と倫理① 医療の課題 復習：医療における課題の具体像を確認	
11	鈴木 由加里	【第 11 回】 予習：終末期に何をしたいか考える 授業：医療と倫理② 人間の尊厳について 復習：尊厳ある死について確認	

12	鈴木 由加里	【第 12 回】 予習：日本における法的な自由の定義を調べる 授業：再び自由の問題について 復習：自由の価値について確認する						
13	鈴木 由加里	【第 13 回】 予習：意見の対立についての具体的なケースを考えてくる 授業：相対主義という問題 復習：倫理的に生きることについて考察する						
14	鈴木 由加里	【第 14 回】 予習：ノートと配布した資料、参考文献を読んで理解しておく 授業 補足 授業内容確認レポート（授業内でレポート作成） 復習：授業内容について不十分なところを補っておく						
15	鈴木 由加里	【第 15 回】 予習：ノートと配布した資料、参考文献を読んで理解しておく 授業 授業内容確認小テスト（ノート レジメ 持ち込み可） 復習：小テストで答えられなかったところを復習しておく						
授業開始前学習		この授業では、課題の提出などで GWE(Google Workspace for Education)を使用する可能性がある。使用法を各自学習しておくこと。基本的なパソコンの操作を学んでおくこと。Web の閲覧、ファイルの種類の違いや、ワープロソフトの使用法、メールの送受信など基本的な操作ができるようにしておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。 対面授業の場合は、リアクションペーパーは手書き。授業時に回収し、返却はなし。 レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。クラス記号など詳細は「クラスプロフィール」を通じて連絡をする予定。「クラスプロフィール」の使い方を確認しておくこと。						
テキスト・教材		授業概要についてのレジメと資料を授業項目ごとに配布。参考文献や必要な資料は授業時に配布もしくはデジタル版へのリンクを指示する。						
参考書		各テーマごとにレジメで指示。ブックリスト配布を配布するので、図書館などを利用し、より多くの参考文献に目を通して欲しい。						
評価の基準と方法		GWE(Google Workspace for Education)において、課題を提出してもらう。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行う。課題の詳細は授業時に説明。不備のあるレポートには再提出を指示する。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成	健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成	栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△		○		
関連科目	特になし							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-130-11	授業コード	G00120
科目名称	社会学 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Sociology I	授業区分	講義
科目責任者	森島 由紀子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	森島 由紀子	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	社会学の基本的な考え方を理解するために、社会学とは何か、相互行為と自己、社会秩序と権力、組織とネットワーク、メディアとコミュニケーション、文化と再生産、といったテーマを取り上げます。講義が中心となりますが、身近な話題と結びつけながら、ディスカッションを取り入れて、分かりやすい内容にします。		
到達目標	社会学の基本的な考え方を理解することを目標とします。社会学的な概念、理論の理解を通じて、社会学的な「ものの考え方」を習得します。そして、自分の日常生活の「当たり前のこと」に対して、一歩引いて批判的な視点をもった柔軟な思考ができるようになることを最終目標とします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	森島 由紀子	【第 1 回】 予習 : 授業シラバスの確認 授業 : オリエンテーション、授業の進め方の相談 復習 : 授業計画、授業の進め方の確認	
2	森島 由紀子	【第 2 回】 予習 : 「社会」について考える 授業 : 社会学とは何か (1) : 社会学的分析の基本的アプローチ (輪読とディスカッション) 復習 : コント、スペンサー、ウェバー、デュルケムの理論の確認	
3	森島 由紀子	【第 3 回】 予習 : 公共空間の秩序について考える 授業 : 社会学とは何か (2) : 電車の中の社会学 (輪読とディスカッション) 復習 : ホールやゴフマンの理論の確認	
4	森島 由紀子	【第 4 回】 予習 : 「自己」について考える 授業 : 相互行為と自己 (1) : 自己の 2 側面 (ディスカッション) 復習 : ミードやパーソンズの理論の確認	
5	森島 由紀子	【第 5 回】 予習 : 「役割」について考える 授業 : 相互行為と自己 (2) : 役割期待と役割距離 (ディスカッション) 復習 : 相互行為と自己のまとめと整理	
6	森島 由紀子	【第 6 回】 予習 : 「ふつう」のなかの「秩序」について考える 授業 : 社会秩序と権力 (1) : 秩序問題 (ディスカッション) 復習 : ホブズやオルソンの理論の確認	
7	森島 由紀子	【第 7 回】 予習 : 社会にある「権力」について考える 授業 : 社会秩序と権力 (2) : 権力 (ディスカッション) 復習 : 社会秩序と権力のまとめと整理	
8	森島 由紀子	【第 8 回】 予習 : 身のまわりの「組織」について考える 授業 : 組織とネットワーク (1) : 官僚制と組織 (ディスカッション) 復習 : ウェバーやバーナードの理論の確認	
9	森島 由紀子	【第 9 回】 予習 : ネットワーク社会について考える 授業 : 組織とネットワーク (2) : NPO (ディスカッション) 復習 : 組織とネットワークのまとめと整理	
10	森島 由紀子	【第 10 回】 予習 : 社会のなかのメディア、メディアのなかの社会について考える 授業 : メディアとコミュニケーション (1) : メディアの歴史 (ディスカッション) 復習 : ギデンズやマクルーハンの理論の確認	
11	森島 由紀子	【第 11 回】 予習 : インターネットとコミュニケーションについて考える 授業 : メディアとコミュニケーション (2) : インターネット (ディスカッション) 復習 : メディアとコミュニケーションのまとめと整理	

12	森島 由紀子	【第 12 回】 予習 : 「文化」について考える 授業 : 文化と再生産（１）：文化の概念（ディスカッション） 復習 : ブルデューの理論の確認							
13	森島 由紀子	【第 13 回】 予習 : 文化の機能について考える 授業 : 文化と再生産（２）：文化の再生産（ディスカッション） 復習 : 文化と再生産のまとめと整理							
14	森島 由紀子	【第 14 回】 予習 : 今までの授業内容の確認 授業 : これからの社会学（ディスカッション） 復習 : 社会学の課題について考える							
15	森島 由紀子	【第 15 回】 予習 : 授業内容をテーマとした文献資料を読み、意見、感想をまとめる 授業 : 期末レポート（文献資料に対する意見・感想）提出、レポート内容の発表とディスカッション 復習 : 授業内容の復習							
授業開始前学習		社会学の入門または概論について、本を読んでおくと授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		ディスカッションを通してのフィードバックとなります。期末レポートについては、各自の発表内容に対してコメントします。							
テキスト・教材		特に指定しません。資料を配付します。							
参考書		授業中に紹介します。							
評価の基準と方法		期末レポート（７０％）、ディスカッション・授業態度（３０％）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	△		○				
関連科目									
その他		授業の実施方法や受講者数により、授業の予定を変更することがあります。また、授業の進捗状況や理解度により、部分的に内容を変更することがあります。講義資料は事前に配付しますので、予習に活用してください。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-11	授業コード	G00130
科目名称	社会学Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	SociologyⅡ	授業区分	講義
科目責任者	森島 由紀子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	森島 由紀子	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	社会学Ⅱでは、Ⅰで習得した社会学の基本的な理論や概念をもとに、より具体的な社会現象の理解ができるよう、家族、教育、労働といった身近なテーマを取り上げて、それらの歴史や現代の問題を学びます。授業後半では、テーマを選んで発表をし、ディスカッションを行います。		
到達目標	社会学の理論や概念の習得を土台として、より具体的な社会現象の理解ができることを目標とします。家族、教育、労働の領域における歴史や現代の問題についての理解を深め、発表を通して、身のまわりの「社会」に対して、主体的、批判的にとらえる能力を養うようにします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	森島 由紀子	【第 1 回】 予習 : 授業シラバスの確認 授業 : オリエンテーション 復習 : 授業計画の確認	
2	森島 由紀子	【第 2 回】 予習 : 「家族」について考える 授業 : 家族 (1) : 家族の社会学的定義 復習 : 家族の社会学的定義のキーワードの確認	
3	森島 由紀子	【第 3 回】 予習 : 核家族について調べる 授業 : 家族 (2) : 家族の類型 復習 : 家族の類型のキーワードの確認	
4	森島 由紀子	【第 4 回】 予習 : 家族の変化について考える 授業 : 家族 (3) : 家族の変化 復習 : 「家」制度と近代家族のキーワードの確認	
5	森島 由紀子	【第 5 回】 予習 : 同性婚について調べる 授業 : 家族 (4) : 家族の現代的問題 (ディスカッション) 復習 : 家族のまとめと整理	
6	森島 由紀子	【第 6 回】 予習 : 教育について考える 授業 : 前半 : 教育 (1) : 教育社会学 復習 : 教育社会学のキーワードの確認	
7	森島 由紀子	【第 7 回】 予習 : 日本の教育の歴史について考える 授業 : 前半 : 教育 (2) : 戦前の日本の教育 復習 : 日本の戦前の学校教育のキーワードの確認	
8	森島 由紀子	【第 8 回】 予習 : 教育の歴史について考える 授業 : 前半 : 教育 (3) : 戦後の日本の教育 復習 : 日本の戦後の学校教育のキーワードの確認	
9	森島 由紀子	【第 9 回】 予習 : 現代の教育の問題について考える 授業 : 教育 (4) : 教育の現代的問題 (ディスカッション) 復習 : 教育のまとめと整理	
10	森島 由紀子	【第 10 回】 予習 : 男女共同参画について考える 授業 : 労働 (1) : 女性の社会参画の歴史 復習 : 女性の社会参画の歴史の確認	
11	森島 由紀子	【第 11 回】 予習 : 女性の社会進出について考える、発表の準備 授業 : 労働 (2) : 女性の社会進出と雇用の現状 復習 : 女性の社会進出と雇用の現状の確認	

12	森島 由紀子	【第 12 回】 予習：現代の労働の問題について考える、発表の準備 授業：労働（３）：労働の現代的問題（ディスカッション） 復習：労働のまとめと整理							
13	森島 由紀子	【第 13 回】 予習：発表の準備 授業：家族・教育・労働（発表とディスカッション） 復習：発表内容のまとめと整理							
14	森島 由紀子	【第 14 回】 予習：発表の準備、レポートの準備 授業：家族・教育・労働（発表とディスカッション） 復習：発表内容のまとめと整理							
15	森島 由紀子	【第 15 回】 予習：レポートの準備 授業：家族・教育・労働に関するレポートの提出（発表とディスカッション） 復習：発表内容のまとめと整理							
授業開始前学習		社会学の入門または概論について、本を読んでおく授業が理解しやすい。社会学Ⅰを履修した者は配付資料を復習するとよい。							
授業内課題のフィードバックの方法		ディスカッションを通してフィードバックを行います。各自の発表の準備段階では、内容や進捗状況を確認しながらアドバイスをを行い、発表後に講評を行います。							
テキスト・教材		特に指定しません。授業時に資料を配付します。							
参考書		授業中に紹介します。							
評価の基準と方法		発表（４０％）、レポート（発表レジュメを文章としてまとめたもの）（４０％）、ディスカッション・授業態度（２０％）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	△		○				
関連科目									
その他		受講者数により、授業の予定や内容を変更することがあります。例年、少人数授業のため、履修者の要望（関心あるテーマなど）に応えたいと思います。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-11	授業コード	G00140
科目名称	政治学 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Politics I	授業区分	講義
科目責任者	野崎 孝弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野崎 孝弘	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	この講義の目的は、（１）政治学に関する基本的な知識を身につけていくこと、（２）自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を身につけていくこと、（３）授業で学んだ知識や、習得したスキル・分析視角などを使って、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を磨き上げていくことの三点にある。「大衆社会の成立と政治学の変貌」から「権力と支配」と「政治行動」を経て「政治制度」にいたるまで、幅広い題材を扱っていきたい。		
到達目標	（１）政治学に関する基本的な知識を習得することができる。 （２）自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を磨き上げることができる。 （３）授業で学んだ知識や、習得したスキル・分析視角などを使って、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を磨き上げることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	野崎 孝弘	【第 1 回】 予習：なし 授業：ガイダンス、現代政治学概論（１）大衆社会の成立と政治学の変貌（課題解決型学習） 復習：大衆社会の成立が政治学に及ぼした影響について説明してみる	
2	野崎 孝弘	【第 2 回】 予習：適宜指示する 授業：現代政治学概論（２）現代政治学の諸分野（課題解決型学習） 復習：行動主義政治学の特色について説明してみる	
3	野崎 孝弘	【第 3 回】 予習：権力とは何かについてイメージを膨らませてみる 授業：権力と支配（１）政治とは何か、権力とは何か（課題解決型学習） 復習：正当的支配の三つの類型について実例に即して説明してみる	
4	野崎 孝弘	【第 4 回】 予習：適宜指示する 授業：権力と支配（２）統治の形態（課題解決型学習） 復習：三つの政治体制の特色を実例に即して説明してみる	
5	野崎 孝弘	【第 5 回】 予習：適宜指示する 授業：権力と支配（３）権力構造論（課題解決型学習） 復習：権力エリート論と権力多元論の論争について簡潔にまとめてみる	
6	野崎 孝弘	【第 6 回】 予習：リーダーに必要な資質とは何かについてイメージしておく 授業：権力と支配（４）政治的リーダーシップ（課題解決型学習） 復習：政治的リーダーシップの四つの類型について実例に即して説明してみる	
7	野崎 孝弘	【第 7 回】 予習：適時指示する 授業：政治行動（１）政治意識（課題解決型学習） 復習：授業で取り上げたパーソナリティについて実例に即して説明してみる	
8	野崎 孝弘	【第 8 回】 予習：適宜指示する 授業：政治行動（２）政治的無関心（課題解決型学習） 復習：政治的無関心の類型について実例に即して説明してみる	
9	野崎 孝弘	【第 9 回】 予習：適宜指示する 授業：政治行動（３）投票行動（課題解決型学習） 復習：「アナウンス効果」について実例に即して説明してみる	
10	野崎 孝弘	【第 10 回】 予習：適宜指示する 授業：政治行動（４）マスメディアの機能（課題解決型学習） 復習：マス・コミュニケーションの特色についてまとめてみる	

11	野崎 孝弘	【第 11 回】 予習：適宜指示する 授業：政治行動（５）マスメディアの効果（課題解決型学習） 復習：「沈黙の螺旋」について事例に即して説明してみる							
12	野崎 孝弘	【第 12 回】 予習：議会の機能についてイメージを膨らませておく 授業：政治制度（１）議会制度の歴史と機能（課題解決型学習） 復習：議会の機能について簡潔にまとめる							
13	野崎 孝弘	【第 13 回】 予習：物事を多数決で決めるときに何に注意すべきかを考えておく 授業：政治制度（２）議会のしくみ（課題解決型学習） 復習：「多数派の専制」を最小限に抑えるための方途について考える							
14	野崎 孝弘	【第 14 回】 予習：高校までに学習してきた内容を思い出してみる 授業：政治制度（３）権力分立、議院内閣制と大統領制（課題解決型学習） 復習：議院内閣制と大統領制の違いについて説明してみる							
15	野崎 孝弘	【第 15 回】 予習：適宜指示する 授業：政治制度（４）イギリスの政治制度（課題解決型学習） 復習：イギリスの政治制度の特色について簡潔に説明してみる							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		特に、論理構成力の育成をねらいとした授業内課題を実施するに際しては、その翌週に講評を行い、関係づけができていない箇所とできていない箇所を全員であぶり出す作業を行う。							
テキスト・教材		毎回授業時にレジメを配布する。							
参考書		適宜、授業内で指示する。							
評価の基準と方法		計 3 回の小テスト（合計 30 点分）と授業内課題（合計 70 点分）の累計で評価を行う。合格点は 60 点以上とする。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	△		○				
関連科目		政治学Ⅱ、人間と思想Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ							
その他		（１）あらためて言うまでもないことですが、授業中の私語は厳禁とします。 （２）授業内課題は不定期に、しかも頻繁に実施します。 （３）配布したプリントはクリアファイルなどに入れて毎回持参するようにしましょう。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-11	授業コード	G00150
科目名称	政治学Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Politics Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	野崎 孝弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野崎 孝弘	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	この講義の目的は、（１）政治学に関する基本的な知識を身につけていくこと、（２）自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を身につけていくこと、（３）授業で学んだ知識や、習得したスキル・分析視角などを使って、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を磨き上げていくことの三点にある。「政治制度」から「政党」と「利益集団」を経て「選挙制度」にいたるまで、幅広い題材を扱っていきたい。		
到達目標	（１）政治学に関する基本的な知識を習得することができる。 （２）自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を磨き上げることができる。 （３）授業で学んだ知識や、習得したスキル・分析視角などを使って、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を磨き上げることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	野崎 孝弘	【第 1 回】 予習：なし 授業： ガイダンス、政治制度（５）アメリカの政治制度（課題解決型学習） 復習：アメリカの政治制度の特色について簡潔に説明してみる	
2	野崎 孝弘	【第 2 回】 予習：適宜指示する 授業：政党（１）政党の意義と機能（課題解決型学習） 復習：政党の機能について簡潔にまとめる	
3	野崎 孝弘	【第 3 回】 予習：適宜指示する 授業：政党（２）政党と政党制の分類（課題解決型学習） 復習：サルトルの分類に従って戦後の日本の政党制について考察してみる	
4	野崎 孝弘	【第 4 回】 予習：適宜指示する 授業：政党（３）イギリスとアメリカの政党と政党制（課題解決型学習） 復習：政党のありようの違いについて歴史的に考察してみる	
5	野崎 孝弘	【第 5 回】 予習：適宜指示する 授業：政党（４）日本の政党と政党制（課題解決型学習） 復習：55 年体制が崩壊する前と後の自民党のありようを比較してみる	
6	野崎 孝弘	【第 6 回】 予習：適宜指示する 授業：利益集団（１）利益集団の意義と機能（課題解決型学習） 復習：利益集団の機能について簡潔にまとめる	
7	野崎 孝弘	【第 7 回】 予習：適宜指示する 授業：利益集団（２）利益集団の分類（課題解決型学習） 復習：利益集団の活動について実例に即して説明してみる	
8	野崎 孝弘	【第 8 回】 予習：適宜指示する 授業：利益集団（３）多元主義とネオ・コーポラティズム（課題解決型学習） 復習：コーポラティズムとネオ・コーポラティズムの同異点について説明してみる	
9	野崎 孝弘	【第 9 回】 予習：全米ライフル協会の活動について調べてみる 授業：利益集団（４）アメリカの利益集団（課題解決型学習） 復習：アメリカの利益集団に見られる特徴について説明してみる	
10	野崎 孝弘	【第 10 回】 予習：日本の利益集団にはどのようなものがあるのかを事前に調べておく 授業：利益集団（５）日本の利益集団（課題解決型学習） 復習：新聞記事などを参考にして族議員のありようについて再度確認してみる	

11	野崎 孝弘	【第 11 回】 予習：高校までに学習してきた内容を思い出してみる 授業：選挙制度（１）選挙の機能と原則（課題解決型学習） 復習：選挙が担う機能について簡潔に説明してみる						
12	野崎 孝弘	【第 12 回】 予習：高校までに学習してきた内容を思い出してみる 授業：選挙制度（２）選挙制度の分類（課題解決型学習） 復習：ドント式やサン・ラゲ式などの計算方法について復習してみる						
13	野崎 孝弘	【第 13 回】 予習：高校までに学習してきた内容を思い出してみる 授業：選挙制度（３）選挙制度の長所と短所（課題解決型学習） 復習：それぞれの選挙制度の長所と短所について説明してみる						
14	野崎 孝弘	【第 14 回】 予習：「一票の格差」とは何かについて事前に調べておく 授業：選挙制度（４）日本の選挙制度（課題解決型学習） 復習：特定枠とはどのようなしくみのことなのかを説明してみる						
15	野崎 孝弘	【第 15 回】 予習：適宜指示する 授業：選挙制度（５）選挙とインターネット（課題解決型学習） 復習：インターネットを活用した選挙運動のあり方についてさらに調べてみる						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		特に、論理構成力の育成をねらいとした授業内課題を実施するに際しては、その翌週に講評を行い、関係づけができていない箇所とできていない箇所を全員であぶり出す作業を行う。						
テキスト・教材		毎回授業時にレジュメを配布する。						
参考書		適宜、授業内で指示する。						
評価の基準と方法		計 3 回の小テスト（合計 30 点分）と授業内課題（合計 70 点分）の累計で評価を行う。合格点は 60 点以上とする。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成	健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成	栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成			
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力 実践力
科目の該当		◎	△		○			
関連科目		政治学Ⅰ、人間と思想Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ						
その他		（１）あらためて言うまでもないことですが、授業中の私語は厳禁とします。 （２）授業内課題は不定期に、しかも頻繁に実施します。 （３）配布したプリントはクリアファイルなどに入れて毎回持参するようにしましょう。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-130-11	授業コード	G00160
科目名称	法学	単位数	2.0 単位
英文名称	Law	授業区分	講義
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	法は、人々が社会生活をよりよく営むための手段です。また一方で、法は私たちの生活を強く制約することがあります。あるべき法の姿を方向づけていくのは、私たち一人ひとりの考えに裏づけられた、世論です。この授業では、法と社会の関わりについて基本的な知識を伝えます。未解決な社会問題を考える際に、ひとつの手がかりを提供できれば幸いです。後期の授業では、個々の法のあり方（法の体系）を具体的に紹介した上で、後半において現代社会の抱える高齢社会の問題について考えます。		
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえて、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	福王 守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習 : 本科目シラバスおよびテキスト iii - X 頁の講読 授業 : 法学とは : この授業の目的・内容・学習方法について 【テキスト iii - X 頁】 復習 : テキスト iii - X 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
2	福王 守	【第 2 回】 予習 : テキスト 7-21、83-85、210 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 市民社会と法 : 日本法体系の今日的起源と特徴 【テキスト 7-21、83-85、210-219 頁】 復習 : テキスト 7-21、83-85、210-219 頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
3	福王 守	【第 3 回】 予習 : テキスト 94-110 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国家の基本法 : 日本国憲法制定の背景 【テキスト 94-110 頁】 復習 : テキスト 94-110 頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
4	福王 守	【第 4 回】 予習 : テキスト 94-110 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国家の基本法 : 日本憲法の抱える今日の問題 【テキスト 94-110 頁】 復習 : テキスト 94-110 頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
5	福王 守	【第 5 回】 予習 : テキスト 141-156 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 財産と家族 : 民法（財産法）について 【テキスト 141-156 頁】 復習 : テキスト 141-156 頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
6	福王 守	【第 6 回】 予習 : テキスト 128-140 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 財産と家族 : 民法（家族法）について 【テキスト 128-140 頁】 復習 : テキスト 128-140 頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
7	福王 守	【第 7 回】 予習 : テキスト 111-127 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 犯罪と刑罰 : 刑法について 【テキスト 111-127 頁】 復習 : テキスト 111-127 頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
8	福王 守	【第 8 回】 予習 : テキスト 118-119 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 犯罪と刑罰 : 未成年者の犯罪と処遇 【テキスト 118-119 頁】 復習 : テキスト 118-119 頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
9	福王 守	【第 9 回】 予習 : テキスト 180-204 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国家と国際機構 : 国際法について 【テキスト 180-204 頁】 復習 : テキスト 180-204 頁の再読、【第 9 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
10	福王 守	【第 10 回】 予習 : 第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業 : これまでの授業の総括と発展学習の手引 : 授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	

11	福王 守	【第 11 回】 予習 : テキスト 200-201 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国家と国際機構：国連と UNICEF 【テキスト 200-201 頁】 復習 : テキスト 200-201 頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理							
12	福王 守	【第 12 回】 予習 : テキスト 157-179 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 福祉と法：社会法の意義 【テキスト 157-179 頁】 復習 : テキスト 157-179 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理							
13	福王 守	【第 13 回】 予習 : テキスト 157-161 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 高齢社会と法：少子高齢社会と社会保障法 【テキスト 157-161 頁】 復習 : テキスト 157-161 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理							
14	福王 守	【第 14 回】 予習 : テキスト 160-161 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 高齢社会と法：高齢者福祉のあゆみと課題 【テキスト 160-161 頁】 復習 : テキスト 160-161 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理							
15	福王 守	【第 15 回】 予習 : テキスト iii - X 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 「法と社会」の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト 全学習頁】 復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理							
授業開始前学習		テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。							
授業内課題のフィードバックの方法		適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。							
テキスト・教材		伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門（第 4 版）』（有斐閣、2005 年） 『ポケット六法（令和 6 年版）』（有斐閣、2023 年）							
参考書		授業を通じて適宜紹介します。							
評価の基準と方法		・15 回のレポートの総合点で評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、15 回の授業のうち出席に基づく 10 回以上の提出が必要です。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	△		○				
関連科目		人間総合学群では、「法学」を基礎として授業が組み立てられています。関連科目として「日本国憲法」および「人権の基礎」があります。また、2 年次以降に受講できる科目として「国際法」があります。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-11	授業コード	G00170
科目名称	生物学 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Biology I	授業区分	講義
科目責任者	齋藤 理佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	齋藤 理佳	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	本講義では、微生物学、栄養学、生化学などの専門科目を理解するための生物学の基礎知識を得ることを目的とし、ミクロの切り口から大学における「生物学の基礎」を学びます。		
到達目標	本科目の目標としては、おもに細胞（がん細胞や iPS 細胞を含む）、エネルギーと酵素、DNA、RNA、遺伝子のはたらき、代謝、及び遺伝の様式と人の遺伝学について学ぶ。ミクロな生物学の内容を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	齋藤 理佳	【第 1 回】 予習：高校の生物の教科書に目を通しておくこと 授業：個体の生命の始まりについて、及び日常生活の中でどのように身体はコントロールされているか、について学ぶ 復習：実際に自分の身体と比較しながら授業内容を振り返って理解を深める。	
2	齋藤 理佳	【第 2 回】 予習：高校の生物の教科書に目を通しておくこと 授業：生物が共有する特徴、及び多様な生物の共通点にはなにがあるか、について学ぶ 復習：「生物が共有する特徴」についての内容をノートにまとめて理解を深める	
3	齋藤 理佳	【第 3 回】 予習：細胞の構造と区画について調べておくこと 授業：生物の共通の構造 I 細胞の構造と区画、について学ぶ 復習：細胞の構造と区画及びその特徴についての内容をノートにまとめておくこと	
4	齋藤 理佳	【第 4 回】 予習：iPS 細胞と再生医療についてどのようなところで生かされているか考えておくこと 授業：ES 細胞、iPS 細胞及び再生医療 I 未分化性を維持した細胞（ES、iPS 細胞）について 復習：ES 細胞、iPS 細胞についての内容をノートにまとめておくこと	
5	齋藤 理佳	【第 5 回】 予習：ES 細胞、iPS 細胞以外の幹細胞について調べておくこと 授業：ES 細胞、iPS 細胞及び再生医療 I 未分化性を維持した細胞（身体の中の幹細胞）について 復習：様々な幹細胞についての内容をノートにまとめておくこと	
6	齋藤 理佳	【第 6 回】 予習：私たちの身近な代謝の全体像について考えておくこと 授業：代謝のしくみについて 復習：代謝のはたらきについてノートにまとめておくこと	
7	齋藤 理佳	【第 7 回】 予習：生体とエネルギーの関係について考えておくこと 授業：化学的構成部品、エネルギーと酵素について 復習：様々な働きを持った酵素についてノートにまとめておくこと	
8	齋藤 理佳	【第 8 回】 予習：光合成とは何かを復習しておくこと 授業：光合成と呼吸 復習：解糖系、クエン酸回路系、電子伝達系などについてノートにまとめておくこと	
9	齋藤 理佳	【第 9 回】 予習：DNA の構造とはたらきについて考えておくこと 授業：遺伝子 I ー遺伝情報と DNAー 復習：DNA の構造および修復機構と DNA 複製についてノートにまとめておくこと	
10	齋藤 理佳	【第 10 回】 予習：どのように遺伝子をはたらくのか、について考えておくこと 授業：遺伝子 I ー遺伝子からタンパク質へー 復習：「遺伝子（暗号）からタンパク質（機能）への流れ」（機能）についてノートにまとめておくこと	
11	齋藤 理佳	【第 11 回】 予習：細胞に含まれる DNA は全て同じだが細胞ごとに異なる遺伝子が活性化されている、について考えておくこと 授業：遺伝子 I ー遺伝子発現の制御ー 復習：遺伝子発現はどのように制御されているかについてノートにまとめておくこと	

12	齋藤 理佳	【第 12 回】 予習 : 身近なバイオ技術についてどのようなものがあるか考えておくこと 授業 : DNA テクノロジー グループディスカッション 復習 : 今後 DNA 技術はどのような分野で応用されるか考えてみよう						
13	齋藤 理佳	【第 13 回】 予習 : 生物の遺伝についてどのような遺伝様式があるのかについて調べておくこと 授業 : 遺伝の様式 I 遺伝の法則について 復習 : 「メンデル遺伝の法則」についてノートにまとめておくこと						
14	齋藤 理佳	【第 14 回】 予習 : ヒトの遺伝にはどのような遺伝形式があるか考えておくこと 授業 : 遺伝の様式 I 「染色体とヒトの遺伝学」について 復習 : ヒトの様々な遺伝形式についてノートにまとめておくこと						
15	齋藤 理佳	【第 15 回】 予習 : 身近な腸内細菌について考えてみよう 授業 : 腸内細菌 復習 : 腸内細菌の特徴についてノートにまとめておくこと						
授業開始前学習		生物の基礎的知識を学習しておくことと授業が理解しやすい。高校の生物の教科書を復習しておくことをお勧めします。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内に皆で「復習しよう」を実施します。全体の講評を行うと共に答えられなかった問題及び間違いが多かった点をみんなで繰り返し復習する。 併せて個別の質問に対しても回答する。						
テキスト・教材		予め講義中に使用するスライドと講義メモを配布する。その他、講義中に適宜必要に応じて追加資料を配布する。						
参考書		授業中に必要に応じて適宜参考書類を紹介する。						
評価の基準と方法		まとめの試験（80%）ならびに授業内に実施する「復習しよう」などの課題点を含む授業態度、授業への貢献（20%）などにより総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○	△		
関連科目	分子生物学、再生発生学、微生物学							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-130-11 (J)			授業コード	G00180
科目名称	生物学Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Biology Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	齋藤 理佳			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	齋藤 理佳			開講時期	1 年
オフィスアワー	—			研究室	—
授業概要	生物学Ⅱでは、前期の生物学Ⅰの細胞、代謝、遺伝のメカニズム、遺伝子などの学習内容に加え、病理学や解剖生理学を学ぶために必要な生物学の基礎知識を得ることを目的とし、生物学Ⅰが「生物学の骨格」及び「ミクロの生物学」を講義テーマであったのに対し、生物学Ⅱでは「マクロの生物学」および「応用」を講義テーマとします。				
到達目標	本講義の目標としては、上記講義テーマに沿った項目、具体的に主にヒトのからだの構造や体内環境の維持、調節および刺激への応答や免疫について理解できるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	齋藤 理佳	【第 1 回】 予習：高校の生物の教科書に目を通しておくこと 授業：体内環境の維持 I 血液の働きについて 復習：ポイントとして示した、血液の働きについての内容をまとめる。			
2	齋藤 理佳	【第 2 回】 予習：動物全般のガス交換の意義について考えておくこと 授業：体内環境の維持 I ガス交換の意義について 復習：ポイントとして示した、ガス交換の必要性をノートにまとめておく。			
3	齋藤 理佳	【第 3 回】 予習：細菌とウイルスの違いについて高校の教科書を見て復習しておくこと 授業：細菌とウイルスについて、並びに感染症について 復習：ポイントとして示した、細菌とウイルスの違いについて整理しておくこと			
4	齋藤 理佳	【第 4 回】 予習：身近なヒトの免疫とアレルギーについてどんなものがあるかを考えておくこと 授業：免疫とアレルギー について。 復習：ポイントとして示した、免疫とアレルギーの違いについてその関係を中心にまとめておくこと			
5	齋藤 理佳	【第 5 回】 予習：動物全般の神経系、感覚系にはどんなものがあるかについて考えておくこと 授業：神経系、感覚系 I 神経系、感覚系の一般的性質について 復習：ポイントとして示した、神経系、感覚系の一般的性質についてノートにまとめる			
6	齋藤 理佳	【第 6 回】 予習：動物全般における脳について調べておくこと 授業：神経系、感覚系 I 脳の構造と機能について 復習：ポイントとして示した、脳の構造と機能についてまとめる。			
7	齋藤 理佳	【第 7 回】 予習：脳を構成している細胞にはどのような役割があるのかを考えておくこと 授業：神経系、感覚系 I 神経細胞とグリア細胞について 復習：ポイントとして示した、神経細胞とグリア細胞について異なる点などを比較しつつまとめる			
8	齋藤 理佳	【第 8 回】 予習：ヒトの感覚にはどのような種類があるか考えておくこと 授業：神経系と感覚系 II 視覚、味覚について 復習：ポイントとして示した、視覚、味覚 についての特徴をそれぞれまとめる			
9	齋藤 理佳	【第 9 回】 予習：ヒトは様々な感覚について考えておくこと 授業：神経系と感覚系 II 体性感覚について 復習：ポイントとして示した、体性感覚にはどのような感覚があるかを含め、それぞれの特徴についてまとめる			
10	齋藤 理佳	【第 10 回】 予習：ヒトは様々な感覚について考えておくこと 授業：神経系と感覚系 II 聴覚、嗅覚について 復習：ポイントとして示した、聴覚、嗅覚にはどのような感覚があるかを含め、それぞれの特徴についてまとめる			
11	齋藤 理佳	【第 11 回】 予習：動物全般における発生・分化、特にヒトの発生・分化における過程について考えておくこと 授業：次世代個体の誕生について、特に発生・分化について 復習：ポイントとして示した、ヒトの発生・分化の過程についてまとめる。			

12	齋藤 理佳	【第 12 回】 予習 : 私たちの身近なホメオスタシス (恒常性) については、どんな種類があるか？ 授業 : 恒常性について 復習 : 動物全般のホメオスタシス (恒常性) の意義についてまとめること						
13	齋藤 理佳	【第 13 回】 予習 : ヒトの睡眠の意義について考えておくこと 授業 : 個体の制御 I 睡眠の意義について グループディスカッション 復習 : ポイントとして示した、わたしたちにとって必要な睡眠のメカニズムについて睡眠の意義を中心にまとめる						
14	齋藤 理佳	【第 14 回】 予習 : なにが睡眠時間をコントロールしているかについて考えておくこと 授業 : 個体の制御 I 睡眠と睡眠時間をコントロールしている特異的な体内物質との関係について 復習 : ポイントとして示した、睡眠と特異的な体内物質との関係を、体内物質名と共に整理してまとめる。						
15	齋藤 理佳	【第 15 回】 予習 : 私達の身近なホルモンにはどのような働きがあるかを考えておくこと。 授業 : ヒトのホルモンについて 復習 : ポイントとして示した、ヒトのホルモンによる体内環境の調節についての内容をノートにまとめる。						
授業開始前学習		生物の基礎的知識を学習しておくことと授業が理解しやすい。高校の生物の教科書を復習しておくことをお勧めする。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内に皆で「復習しよう」を実施します。全体の講評を行うと共に答えられなかった問題及び間違いが多かった点をみんなで繰り返し復習する。 併せて個別の質問に対しても回答する。						
テキスト・教材		予め講義中に使用する資料を配布します。その他、講義中に適宜必要に応じて追加資料を配布する。						
参考書		授業中に必要に応じて適宜参考書類を紹介する。						
評価の基準と方法		学期末試験 (80%) ならびに授業内に実施する「復習しよう」などの課題点を含む授業態度、授業への貢献 (20%) などにより総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○	△		
関連科目		生理学、神経学、発生生物学、免疫学						
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容		脳腫瘍に関わる癌幹細胞 (cancer stem cell) の研究を現在継続して実施している。そのため、脳、神経及び生殖や免疫を中心に講義する。						

科目分類	210-131-11	授業コード	G00191
科目名称	化学 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Chemistry I	授業区分	講義
科目責任者	河合 忍	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	河合 忍	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	高校までの化学の学力を補い、食品学や栄養学について学ぶための化学の基礎を身につけることを目的とする。そのために化学の初歩から解説を始め学部専門科目や実習に必要な基礎を学ぶための講義を行う。「モル計算」、「酸、塩基とpH」、「化学反応式や化学式の書き方」などに自身のない人は、本講義を履修することを薦める。		
到達目標	化学記号、化学式、化学反応、質量%濃度の計算、モル濃度の計算などの基本知識の習得し、管理栄養士の国家試験の試験問題解答に必要な基礎知識と計算力を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	河合 忍	【第 1 回】 予習：高校化学のテキストを持っている人は用意してください。ない人は、こちらが用意する資料でもよいです。 授業：ガイダンスと講義の進め方 化学が苦手な人のために化学を好きになるには、何が一番大事か。 復習：用意したプリントを毎回出してもらい、翌週に返します。それを使って復習してください。	
2	河合 忍	【第 2 回】 予習：元素表の元素について原子番号の 1 番から 20 種類程度憶えておく。 授業：物質の構成元素（元素と元素記号） 復習：講義中に演習問題を行い翌週に返却するのでこれらを用いて不得意な分野を復習する。	
3	河合 忍	【第 3 回】 予習：原子の構造について調べておくこと。 授業：原子の構造と電子配置 復習：講義で配付するプリントを活用し不得意の問題を復習すること。	
4	河合 忍	【第 4 回】 予習：イオンとは何かを調べておくこと。 授業：陽イオンと陰イオンができる仕組み 復習：イオンについての演習問題を講義中に配付するので復習に活用すること。	
5	河合 忍	【第 5 回】 予習：イオン結合と金属結合について調べておくこと。 授業：イオン結合及び金属結合 復習：イオン結合についての演習問題を行うので復習に活用すること。	
6	河合 忍	【第 6 回】 予習：共有結合について調べておくこと。 授業：共有結合と分子の構造 復習：講義内容をまとめたプリントを配付するので復習に用いるとよい。	
7	河合 忍	【第 7 回】 予習：原子量、分子量について調べておくこと。 授業：原子量とは何か、分子量、式量の定義と求め方 復習：分子量、式量についてのプリントを配付するので復習に活用するとよい。	
8	河合 忍	【第 8 回】 予習：アボガドロ数について調べておくこと。 授業：アボガドロ数と物質質量（モル）、質量と物質量の換算 復習：モル計算の演習問題を用意するので復習に活用するとよい。	
9	河合 忍	【第 9 回】 予習：質量パーセント濃度について調べておくこと。 授業：溶液の濃度の表し方、質量パーセント濃度とモル濃度 復習：モル濃度の計算問題を用意するので復習に活用するとよい。	
10	河合 忍	【第 10 回】 予習：モル濃度の定義と計算について 授業：質量パーセントとモル濃度の換算 復習：プリントによる計算問題を配布する。	
11	河合 忍	【第 11 回】 予習：モル濃度の計算について 授業：モル濃度と密度の計算問題 復習：配付プリントの問題による計算問題を復習すること。	

12	河合 忍	【第 12 回】 予習 : 化学反応式について調べておくこと。 授業 : 化学反応式の規則と作り方 復習 : 配付プリントに解説した化学反応式について理解を深めること。							
13	河合 忍	【第 13 回】 予習 : 化学反応の前後における物質の変化について 授業 : 化学反応式の量的関係 復習 : 講義中に配付するプリントを活用すること。							
14	河合 忍	【第 14 回】 予習 : 酸、アルカリについて調べておくこと。 授業 : 酸と塩基の定義 復習 : 講義中に配付するプリントを活用するとよい。							
15	河合 忍	【第 15 回】 予習 : これまでの講義で分からなかったところを書きだし、質問すること。 授業 : 前期の講義のまとめを行う。 復習 : 前期の講義のプリントをよく読み返して復習すること。							
授業開始前学習		高校の化学を復習しておくこと。高校で化学を履修していなかった者にも講義中に参考資料などを紹介する。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業で行った内容を演習問題としたプリントにより授業の復習を行う。							
テキスト・教材		特にテキストは定めない。講義ごとに毎回配付するプリント、資料、問題集などを用意する。							
参考書		高校で使用した化学の教科書、参考書等を準備してもよい。 そのほか、講義で紹介する。							
評価の基準と方法		定期試験は参照不可の試験を行い、60 分の試験を 70 点満点で試験行う。これと講義毎に提出する課題 30 点、合わせて 100 点満点で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○	△		
関連科目		化学Ⅱ、生化学							
その他		化学Ⅰは化学があまり得意ではない学生に特に履修することを進める。講義は高校での復習が主だが管理栄養士を目指すものは是非履修を進める。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-131-11	授業コード	G00201
科目名称	化学Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Chemistry Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	河合 忍	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	河合 忍	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	高校までの化学の学力を補い、生化学や生化学実験をはじめとする化学の基礎学力を必要とする専門科目に役立つ内容の講義を行う。また、生命科学や化学の役割を身の回りにあるものから学ぶ「化学とは何か」を本講義では紹介する。高校で化学を履修しなかった人や高校化学の学力に自信ない人は特に履修することを薦める。		
到達目標	有機化学の基礎知識を中心に、炭化水素、アミノ酸、糖類の構造と性質を理解し、管理栄養士の国家試験とその応用に必要な知識を身に付けることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	河合 忍	【第 1 回】 予習 : モル濃度の計算方法について 授業 : モル計算の応用 復習 : 講義で配付した問題集を復習すること。	
2	河合 忍	【第 2 回】 予習 : アルコールなど有機化学の基礎 授業 : 身の回りの化学 復習 : 講義内容のプリントを活用し復習するとよい。	
3	河合 忍	【第 3 回】 予習 : 酸と塩基 (アルカリ) について予習すること。 授業 : 中和反応と中和の公式 復習 : 講義で配布する演習問題の解答編をもとに復習すること。	
4	河合 忍	【第 4 回】 予習 : 中和反応の計算法を理解しておくこと。 授業 : 中和の量的関係 復習 : 講義で配布する演習問題を活用するとよい。	
5	河合 忍	【第 5 回】 予習 : モル濃度の計算法と酸、塩基について 授業 : 酸と塩基の量的関係 復習 : 講義中に配布する演習問題を活用するとよい。	
6	河合 忍	【第 6 回】 予習 : pH とは何かについて調べておく。 授業 : pH と中和 復習 : 講義で配布する演習問題を活用するとよい。	
7	河合 忍	【第 7 回】 予習 : 炭化水素化合物について 授業 : 有機化合物 (炭化水素: アルカン、アルケン、アルキン) 復習 : 講義中に配布する演習問題を活用するとよい。	
8	河合 忍	【第 8 回】 予習 : アルコールの特徴について調べておく。 授業 : 有機化合物 (アルコール) 復習 : 講義中に配布する演習問題を活用するとよい。	
9	河合 忍	【第 9 回】 予習 : アルデヒドとは何か調べておく。 授業 : 有機化合物 (アルデヒド) 復習 : 講義で配布する演習問題を活用するとよい。	
10	河合 忍	【第 10 回】 予習 : カルボン酸について調べておくこと。 授業 : 有機化合物 (カルボン酸) 復習 : 講義中に配布する演習問題で復習するとよい。	
11	河合 忍	【第 11 回】 予習 : 環式炭化水素について調べておくこと。 授業 : 芳香族 (フェノール) 復習 : 講義中に配布する演習問題を活用するとよい。	

12	河合 忍	【第 12 回】 予習 : アミノ酸と蛋白質について調べておくこと。 授業 : 有機化合物 (アミノ酸) 復習 : 講義中に配布する演習問題を活用するとよい。							
13	河合 忍	【第 13 回】 予習 : 糖類の種類を調べておくこととよい。 授業 : 単糖類、二糖類、多糖類 復習 : 講義中に配布する演習問題を活用するとよい。							
14	河合 忍	【第 14 回】 予習 : 溶解度とは何かしらべておく。 授業 : 溶解度 (個体の溶解度など) 復習 : 講義中に配布する演習問題を活用するとよい。							
15	河合 忍	【第 15 回】 予習 : これまでの講義内容の質問 授業 : これまでの講義内容のポイントと質問への解答とまとめ 復習 : 講義で配布した全ての配布プリント							
授業開始前学習		高校化学の復習							
授業内課題のフィードバックの方法		授業で行った内容を演習問題としたプリントにより授業の復習を行う。							
テキスト・教材		テキストは特に定めない。講義毎にプリント、資料等を配布する。また、演習問題も用意する。							
参考書		高校で使用した化学の教科書や問題集、資料などでよい。							
評価の基準と方法		定期試験 (参照不可の試験) と毎回の演習問題提出で評価する。定期試験 (70 点) と演習問題 (30 点) で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○	△		
関連科目		化学Ⅰ、生化学、食品学							
その他		化学Ⅰと同様に化学Ⅱでも苦手意識を持たないように。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-11	授業コード	G00211
科目名称	栄養の基礎 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Introductory Nutrition I	授業区分	講義
科目責任者	岡田 昌己	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岡田・松本	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	本科目は栄養士・管理栄養士を目指す学生のための入門科目であり、栄養士・管理栄養士に必要な知識を修得するための専門基礎科目（食品学、調理学、解剖生理学など）を履修する上で、身に付けておくべき基礎学力を向上することを目標とする。具体的には化学・生物学について学び、定期的に基礎学力試験を行う。		
到達目標	食品学、調理学、解剖生理学などの専門基礎科目を履修するうえで必要となる基礎化学（物質の構成、物質の変化）と有機化学、そして生物学の知識を修得する。また、比・割合などの基礎数学の知識も身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 1 回】 予習：基礎ゼミ I・II 教科書 P14 から 25 を読んでおく。 授業：授業の概要説明、第 1 回基礎学力試験（試験科目：基礎数学、化学、基礎生物学） 復習：キーワードの確認、第 1 回基礎学力試験の復習	
2	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 2 回】 予習：基礎化学（原子の構造、電子配置等）の自習 授業：第 1 回基礎学力試験の解説、基礎化学（原子の構造、電子配置等） 復習：基礎化学（原子の構造、電子配置等）の復習	
3	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 3 回】 予習：基礎数学（比、割合）の自習 授業：基礎数学（比、割合等） 復習：キーワードの確認	
4	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 4 回】 予習：基礎有機化学（有機化合物について）の自習 授業：基礎有機化学（有機化合物について） 復習：キーワードの確認	
5	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 5 回】 予習：基礎生物学（細胞と組織について）の自習 授業：基礎生物学（細胞と組織について） 復習：キーワードの確認	
6	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 6 回】 予習：これまでの授業の重要項目を確認しておく。 授業：第 2 回基礎学力試験（試験科目：基礎数学、基礎化学、有機化学） 復習：第 2 回基礎学力試験の復習	
7	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 7 回】 予習：基礎有機化学（有機化合物の分類、官能基について）の自習 授業：第 2 回基礎学力試験の解説、基礎有機化学（有機化合物の分類、官能基について） 復習：キーワードの確認	
8	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 8 回】 予習：基礎生物学（消化管の構造について）の自習 授業：基礎生物学（消化管の構造について） 復習：キーワードの確認	
9	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 9 回】 予習：有機化学（炭水化物について）の自習 授業：有機化学（炭水化物について） 復習：キーワードの確認	
10	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 10 回】 予習：基礎生物学（消化・吸収・代謝について）の自習 授業：基礎生物学（消化・吸収・代謝について） 復習：キーワードの確認	
11	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 11 回】 予習：これまでの授業の重要項目を確認しておく。 授業：第 3 回基礎学力試験（試験科目：基礎数学、有機化学、基礎生物学） 復習：第 3 回基礎学力試験の復習	

12	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 12 回】 予習：有機化学（炭水化物について）の自習 授業：第 3 回基礎学力試験の解説、有機化学（炭水化物について） 復習：キーワードの確認						
13	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 13 回】 予習：基礎化学（モルについて）の自習 授業：基礎化学（モルについて） 復習：キーワードの確認						
14	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 14 回】 予習：有機化学（脂質・たんぱく質について）の自習 授業：有機化学（脂質・たんぱく質について） 復習：キーワードの確認						
15	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 15 回】 予習：基礎化学（モル濃度について）の自習 授業：基礎化学（モル濃度について） 復習：キーワードの確認						
授業開始前学習		化学基礎、生物基礎について学習しておくが良い。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 1 回目、6 回目、11 回目に実施する基礎学力試験については、翌週に解説を行う。						
テキスト・教材		指定の教科書はなく、必要に応じて資料を配布する。						
参考書		駒沢女子大学 教科書シリーズ『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』 『食べ物と健康Ⅰ 食品学総論』高岡素子編（八千代出版）						
評価の基準と方法		基礎学力試験、定期試験で評価する。配点（100 点満点における）は基礎学力試験 30%、定期試験 70%とする。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力 実践力
科目の該当		◎				○	△	
関連科目		基礎ゼミⅠ・Ⅱ、化学、生物学、食品学						
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-110-11	授業コード	G00221
科目名称	栄養の基礎Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Introductory Nutrition Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	岡田 昌己	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岡田・松本	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	本科目は、前期と同様に専門基礎科目を履修する上で必要となる基礎知識を習得することを目標とする。具体的には基礎学力試験を定期的に行い、基礎学力の向上を図りながら、核酸化学、食の化学、実験化学、代謝について理解を深める。		
到達目標	基礎栄養学、解剖生理学などの専門基礎科目を履修するうえで必要となる生物学と食品学、調理学の理解をより深めるための知識を習得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 1 回】 予習 : 栄養の基礎Ⅰ で配布したプリント (物質量、モル濃度の計算) についての復習 授業 : 栄養の基礎Ⅰ の復習 (物質量、モル濃度の計算について) 復習 : 授業内配布プリントの確認	
2	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 2 回】 予習 : 栄養の基礎Ⅰ で配布したプリント (基礎化学、有機化学、三大栄養素) についての復習 授業 : 栄養の基礎Ⅰ の復習 (基礎化学、有機化学、三大栄養素について) 復習 : 授業内配布プリントの確認	
3	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 3 回】 予習 : 生物学、化学、三大栄養素の復習 授業 : 第 1 回基礎学力試験 (試験内容 : 生物学、化学 (計算を含む)、三大栄養素) 復習 : 第 1 回基礎学力試験の復習	
4	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 4 回】 予習 : 基礎化学の復習 授業 : 実験のための化学の基礎知識について (酸・塩基、中和滴定について)、第 1 回基礎学力試験の解説 復習 : 中和の公式の確認	
5	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 5 回】 予習 : 食品学Ⅰ についての復習 授業 : 水及び炭水化物 (単糖類、少糖類) について、第 1 回基礎学力試験の解説 復習 : キーワードの確認	
6	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 6 回】 予習 : 基礎化学の復習 授業 : 実験のための化学の基礎知識について (酸・塩基、モル濃度、希釈について) 復習 : 中和の公式の確認	
7	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 7 回】 予習 : 食品学Ⅰ の復習 授業 : 炭水化物 (多糖類) 及び脂質について 復習 : キーワードの確認	
8	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 8 回】 予習 : 基礎化学、有機化学の復習 授業 : 第 2 回基礎学力試験 (化学 (計算を含む)、水、炭水化物、脂質) 復習 : キーワードの確認	
9	岡田 昌己・松本 雄宇	【第 9 回】 予習 : 栄養の基礎Ⅰ (人体の構造) の復習 授業 : 基礎生物学 (糖質の消化と吸収および代謝について)、第 2 回基礎学力試験の解説 復習 : キーワードの確認	

10	岡田 昌己・松本雄宇	【第 10 回】 予習 : 食品学Ⅰの復習 授業 : タンパク質及び酵素について、第 2 回基礎学力試験の解説 復習 : キーワードの確認							
11	岡田 昌己・松本雄宇	【第 11 回】 予習 : 栄養の基礎Ⅰ（人体の構造）の復習 授業 : 基礎生物学（脂質の消化と吸収および代謝について） 復習 : キーワードの確認							
12	岡田 昌己・松本雄宇	【第 12 回】 予習 : 食品学Ⅰの復習 授業 : ビタミン及び無機質について 復習 : キーワードの確認							
13	岡田 昌己・松本雄宇	【第 13 回】 予習 : 有機化学、基礎生物学の復習 授業 : 第 3 回基礎学力試験（代謝、タンパク質及び酵素、ビタミン及び無機質） 復習 : 第 3 回基礎学力試験の復習							
14	岡田 昌己・松本雄宇	【第 14 回】 予習 : 栄養の基礎Ⅰ（人体の構造）の復習 授業 : 基礎生物学（タンパク質の消化と吸収および代謝について）、第 3 回基礎学力試験の解説 復習 : キーワードの確認							
15	岡田 昌己・松本雄宇	【第 15 回】 予習 : 生物学の復習 授業 : ヌクレオチド及び核酸について、第 3 回基礎学力試験の解説 復習 : キーワードの確認							
授業開始前学習		化学基礎、生物基礎について学習しておくが良い。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業 3 回目、8 回目、13 回目に実施する基礎学力試験については、翌週に解説を行う。							
テキスト・教材		事前に資料を配布する。							
参考書		駒沢女子大学 教科書シリーズ『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』 『食べ物と健康Ⅰ 食品学総論』高岡素子編（八千代出版） 『栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学』田地陽一編（羊土社）							
評価の基準と方法		基礎学力試験、定期試験で評価する。配点（100 点満点における）は基礎学力試験 30%、定期試験 70%とする。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○	△		
関連科目		基礎ゼミⅠ・Ⅱ、化学、生物学、食品学、基礎栄養学、解剖生理学							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-11	授業コード	G00230
科目名称	統計の基礎	単位数	2.0 単位
英文名称	Basic Statistics	授業区分	講義
科目責任者	田端 章明	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田端 章明	開講時期	1・2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	この授業では統計学のなかでも、より基礎的な「記述統計学」の習得をテーマとします。 記述統計学の狙いは、与えられたデータを、特徴がわかりやすくなるようにまとめることです。この授業では平均値のような単純なまとめ方からスタートして、より高度なまとめ方までを段階的に勉強していきます。		
到達目標	記述統計学の基礎を理解し、目的に応じてデータを適切にまとめ、知見を引き出せるようになること。これを到達目標とします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田端 章明	【第 1 回】 予習 : このシラバスを読んでおくこと 授業 : 記述統計学とは何か 復習 : シラバスと初回の授業を手がかりに、自分はこの授業を履修すべきかについて熟考すること	
2	田端 章明	【第 2 回】 予習 : 「次回予告レジュメ (1)」を読んでおくこと 授業 : 1 変数の統計的分析 (1) 代表値と散布度 復習 : わからなかったところを解決しておくこと (自力で解決できなかったところは質問すること。以下、同様)	
3	田端 章明	【第 3 回】 予習 : 「次回予告レジュメ (2)」を読んでおくこと 授業 : 1 変数の統計的分析 (2) 標準化得点と偏差値、変動係数 復習 : わからなかったところを解決しておくこと	
4	田端 章明	【第 4 回】 予習 : 授業内課題に向けて、復習をしておくこと 授業 : ここまでのまとめと授業内課題 (1) 1 変数の統計的分析について 復習 : 問題用紙を見ながら、自分の解答についてふりかえること	
5	田端 章明	【第 5 回】 予習 : 「次回予告レジュメ (3)」を読んでおくこと 授業 : 2 変数の統計的分析 (1) 共分散と相関係数 復習 : わからなかったところを解決しておくこと	
6	田端 章明	【第 6 回】 予習 : 「次回予告レジュメ (4)」を読んでおくこと 授業 : 2 変数の統計的分析 (2) 相関関係と因果関係 復習 : わからなかったところを解決しておくこと	
7	田端 章明	【第 7 回】 予習 : 授業内課題に向けて、復習をしておくこと 授業 : ここまでのまとめと授業内課題 (2) 相関係数について 復習 : 問題用紙を見ながら、自分の解答についてふりかえること	
8	田端 章明	【第 8 回】 予習 : 「次回予告レジュメ (5)」を読んでおくこと 授業 : 量的変数と質的変数の違い、4 つの尺度の区別 復習 : わからなかったところを解決しておくこと	
9	田端 章明	【第 9 回】 予習 : 「次回予告レジュメ (6)」を読んでおくこと 授業 : 2 変数の統計的分析 (3) 2×2 のクロス表の関連性指標 復習 : わからなかったところを解決しておくこと	
10	田端 章明	【第 10 回】 予習 : 「次回予告レジュメ (7)」を読んでおくこと 授業 : 2 変数の統計的分析 (4) 2×2 より大きなクロス表の関連性指標 復習 : わからなかったところを解決しておくこと	
11	田端 章明	【第 11 回】 予習 : 授業内課題に向けて、復習をしておくこと 授業 : ここまでのまとめと授業内課題 (3) クロス表について 復習 : 問題用紙を見ながら、自分の解答についてふりかえること	

12	田端 章明	【第 12 回】 予習 : 「次回予告レジュメ (8)」を読んでおくこと 授業 : 3 変数の統計的分析 (1) 多重クロス表の読み方 復習 : わからなかったところを解決しておくこと							
13	田端 章明	【第 13 回】 予習 : 「次回予告レジュメ (9)」を読んでおくこと 授業 : 3 変数の統計的分析 (2) 偏相関係数 復習 : わからなかったところを解決しておくこと							
14	田端 章明	【第 14 回】 予習 : 授業内課題に向けて、復習をしておくこと 授業 : ここまでのまとめと授業内課題 (4) 3 変数の統計的分析について 復習 : 問題用紙を見ながら、自分の解答についてふりかえること							
15	田端 章明	【第 15 回】 予習 : この回は、予習は不要 授業 : 記述統計学から推測統計学へ 復習 : 期末試験に向けて、勉強すること							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		授業内課題は翌週の授業で返却し、問題について解説します。							
テキスト・教材		テキストは指定しません。代わりに授業内容をまとめたレジュメを配布します。							
参考書		参考書は折に触れて紹介します。							
評価の基準と方法		コメントシート (30 点満点)、授業内課題 (40 点満点)、期末試験 (30 点満点) で評価します。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○		○	△
関連科目		同じ講師による後期開講科目「統計の応用」では、統計学のもう 1 つの柱である「推測統計学」について学びます。							
その他		授業での計算には電卓を使います。8 ケタ以上表示でき、平方根 (ルート) の計算ができる電卓を用意してください。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-11	授業コード	G00240
科目名称	統計の応用	単位数	2.0 単位
英文名称	Applied Statistics	授業区分	講義
科目責任者	田端 章明	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田端 章明	開講時期	1・2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	同じ講師による「統計の基礎」の続編です。授業のテーマは「推測統計学のエッセンスに触れる」です。「推測統計学」とは、「限られたデータをもとにして、未知のデータも含む全体の傾向を推し測る（おしはかる）」ことを目的とした統計学です。 最初の数週は基礎固めとして記述統計学について、推測統計学を学ぶのに必要な範囲を学習します。その後、推測統計学の主要な役割である、「統計的推定」と「統計的検定」について、じっくりと学習します。		
到達目標	推測統計学の基礎を理解し、統計データを目にしたときに「この結果は統計的に意味があるのか」という判断ができるようになること。これを到達目標とします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田端 章明	【第 1 回】 予習 : このシラバスを読んでおくこと 授業 : 推測統計学とは何か 復習 : 「自分にとってこの授業がプラスになるかどうか」を熟慮したうえで、履修を決めること	
2	田端 章明	【第 2 回】 予習 : 「次回予告レジュメ (1)」を読んでおくこと 授業 : 記述統計学の復習 (1) : 代表値と散布度 復習 : 授業でわからなかったところを解決すること (解決できない疑問は質問すること。以下、同様)	
3	田端 章明	【第 3 回】 予習 : 「次回予告レジュメ (2)」を読んでおくこと 授業 : 記述統計学の復習 (2) : 標準化得点と変動係数 復習 : 授業でわからなかったところを解決すること	
4	田端 章明	【第 4 回】 予習 : 授業内課題に向けて、今までの内容を復習しておくこと 授業 : ここまでのまとめと授業内課題 (1) : 記述統計学のまとめと課題 復習 : 今までのレジュメを参照しながら、「自分の答えはあれでよかったか」とふりかえること	
5	田端 章明	【第 5 回】 予習 : 「次回予告レジュメ (3)」を読んでおくこと 授業 : 推測統計学 (1) : 確率分布とは何か 復習 : 授業でわからなかったところを解決すること	
6	田端 章明	【第 6 回】 予習 : 「次回予告レジュメ (4)」を読んでおくこと 授業 : 推測統計学 (2) : 確率分布表のしくみと使い方 復習 : 授業でわからなかったところを解決しておくこと	
7	田端 章明	【第 7 回】 予習 : 授業内課題に向けて、関係する内容を復習しておくこと 授業 : ここまでのまとめと授業内課題 (2) : 確率分布のまとめと課題 復習 : 今までのレジュメを参照しながら、「自分の答えはあれでよかったか」とふりかえること	
8	田端 章明	【第 8 回】 予習 : 「次回予告レジュメ (5)」を読んでおくこと 授業 : 推測統計学 (3) : 統計的推定の方法 1 (標準化正規分布を使った平均値の区間推定) 復習 : 授業でわからなかったところを解決しておくこと	
9	田端 章明	【第 9 回】 予習 : 「次回予告レジュメ (6)」を読んでおくこと 授業 : 推測統計学 (4) : 統計的推定の方法 2 (t 分布を使った平均値の区間推定) 復習 : 授業でわからなかったところを解決しておくこと	
10	田端 章明	【第 10 回】 予習 : 授業内課題に向けて、関係する内容を復習しておくこと 授業 : ここまでのまとめと授業内課題 (3) : 統計的推定のまとめと課題 復習 : 今までのレジュメを参照しながら、「自分の答えはあれでよかったか」とふりかえること	

11	田端 章明	【第 11 回】 予習：「次回予告レジュメ（7）」を読んでおくこと 授業：推測統計学（5）：統計的検定の発想としくみ 復習：授業でわからなかったところを解決しておくこと							
12	田端 章明	【第 12 回】 予習：「次回予告レジュメ（8）」を読んでおくこと 授業：推測統計学（6）：統計的検定の方法 1（カイ 2 乗検定） 復習：授業でわからなかったところを解決しておくこと							
13	田端 章明	【第 13 回】 予習：「次回予告レジュメ（9）」を読んでおくこと 授業：推測統計学（7）：統計的検定の方法 2（t 検定） 復習：授業でわからなかったところを解決しておくこと							
14	田端 章明	【第 14 回】 予習：授業内課題に向けて、関係する内容を復習しておくこと 授業：ここまでのまとめと授業内課題（4）：統計的検定のまとめと課題 復習：今までのレジュメを参照しながら、「自分の答えはあれでよかったか」とふりかえること							
15	田端 章明	【第 15 回】 予習：この回は予習は不要 授業：より高度な統計的分析に向けて 復習：期末試験に向けて勉強すること							
授業開始前学習		前期開講科目の「統計の基礎」を履修しないでこの科目を履修する場合には、記述統計学の基礎（平均値・分散・標準偏差・標準化得点など）について勉強しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内課題は翌週の授業で返却し、問題について解説します。							
テキスト・教材		テキストは指定しません。代わりに授業の流れをまとめたレジュメを配布します。							
参考書		参考書は折に触れて紹介します。							
評価の基準と方法		コメントシート（30 点満点）、授業内課題（40 点満点）、期末試験（30 点満点）で評価します。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○		○	△
関連科目		同じ講師による前期開講科目「統計の基礎」では、統計学のもう 1 つの柱である「記述統計学」について学びます。							
その他		授業での計算には電卓を使います。8 ケタ以上表示でき、平方根（ルート）の計算ができる電卓を用意してください。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-21	授業コード	G00521
科目名称	コンピュータ演習 I	単位数	1.0 単位
英文名称	Computer Laboratory I	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	田崎 仁美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田崎 仁美	開講時期	1・2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 13:00～16:00	研究室	4-204
授業概要	管理栄養士業務を行う上で、情報処理能力は重要である。本授業では、一般的な OS(Operating System) である Windows の操作方法、Office ソフトの Word、Excel、PowerPoint の基礎知識と操作技法を習得する。		
到達目標	・情報処理、コンピュータの基礎知識、情報モラル（個人情報管理、著作権等）を身につける ・Office ソフトの基本的な操作ができるようになる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田崎 仁美	【第 1 回】 予習 : 履修ガイド・学生生活ガイド、教科書 P 4 ～ 8 を読んでおくこと 授業 : コンピューターの基本操作 復習 : KOMAJO ポータルのログインやメールの送受信など復習し、慣れておくこと	
2	田崎 仁美	【第 2 回】 予習 : コンピューターの基本操作について復習する 授業 : ワープロの基本操作 復習 : タイピングのホームポジションを確認し、積極的にタイピングの練習をする	
3	田崎 仁美	【第 3 回】 予習 : タイピングのホームポジションを確認し、積極的にタイピングの復習をする 授業 : Word – Basic①基本操作 復習 : 演習内容を復習する	
4	田崎 仁美	【第 4 回】 予習 : P10～23 を読んでおく 授業 : Word – Basic②ビジネス文章の作成 復習 : 演習内容を復習する	
5	田崎 仁美	【第 5 回】 予習 : P24～P40 を読んでおく 授業 : Word – Basic③タブの設定と表、図形要素の挿入 復習 : 演習内容を復習する	
6	田崎 仁美	【第 6 回】 予習 : 今まで学んだ Word の操作方法について復習する 授業 : Word – Basic④小テスト : ポスター作成 (ディスカッション) 復習 : 小テストで作成した課題内容を確認する	
7	田崎 仁美	【第 7 回】 予習 : P82～101 を読んでおく 授業 : Excel – Basic①基本操作 復習 : 演習内容を復習する	
8	田崎 仁美	【第 8 回】 予習 : P102～112 を読んでおく 授業 : Excel – Basic②グラフの作成と編集 復習 : 演習内容を復習する	
9	田崎 仁美	【第 9 回】 予習 : P 113～119 を読んでおく 授業 : Excel – Basic③ページレイアウトと印刷 復習 : 演習内容を復習する	
10	田崎 仁美	【第 10 回】 予習 : 今まで学んだ Excel の操作方法について復習する 授業 : Excel – Basic④小テスト : データ資料の作成 復習 : 小テストで作成した課題内容を確認する	
11	田崎 仁美	【第 11 回】 予習 : Word、Excel の操作方法を復習する 授業 : Word・Excel – Collaborated 小テスト : 栄養新聞の作成 (ディスカッション) 復習 : 小テストで作成した課題内容を完成させる	

12	田崎 仁美	【第 12 回】 予習 : Word、Excel の操作方法を復習する 授業 : PowerPoint – Basic①基本操作 復習 : 演習内容を復習する							
13	田崎 仁美	【第 13 回】 予習 : PowerPoint の操作方法について復習する 授業 : PowerPoint – Basic②プレゼンテーシ資料の作成 (グループワーク) 復習 : 作成した資料の確認をする							
14	田崎 仁美	【第 14 回】 予習 : 発表に向けて準備をする 授業 : PowerPoint – Basic③発表・評価 (発表・ディスカッション) 復習 : 発表内容を見直し、評価する							
15	田崎 仁美	【第 15 回】 予習 : PowerPoint の操作方法を復習する 授業 : PowerPoint – Basic④小テスト : 栄養メモの作成 復習 : 今までの演習内容を復習する							
授業開始前学習		指定の教科書をよく読んでおくこと							
授業内課題のフィードバックの方法		・作成した課題について、翌週の授業で解説を行い、個々について添削をして返却をする ・演習の内容についての個々の質問に対して随時回答する							
テキスト・教材		『30 時間アカデミック 情報基礎 Word&Excel2016』(実教出版株式会社)							
参考書									
評価の基準と方法		毎回の演習課題 (40%)、小テスト (40%)、発表内容 (10%)、授業態度 (10%)							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		△				○	
関連科目		コンピュータ演習Ⅱ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-21	授業コード	G00530
科目名称	コンピュータ演習Ⅱ	単位数	1.0 単位
英文名称	Computer Laboratory Ⅱ	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	田崎 仁美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田崎 仁美	開講時期	1・2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 13:00～16:00	研究室	4-204
授業概要	コンピュータ演習Ⅰで学んだ Office ソフトの Word、Excel、PowerPoint の基本操作方法を踏まえ、社会人として実務に即した技能を習得する。本授業では、栄養計算をはじめとしたデータベースの活用や、Google フォームを活用したデータ収集、プレゼンテーションのための媒体作成能力を身につける。		
到達目標	・Excel 関数を用いたデータの集計（栄養計算を含む）の知識、技能を身につける ・場面に応じて適切な情報の利用とそれを活かした資料（教材）を作成することができる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田崎 仁美	【第 1 回】 予習 : P51～62 を読んでおく 授業 : Word-Advanced①表の編集、段組み 復習 : 演習内容を復習する	
2	田崎 仁美	【第 2 回】 予習 : P67～75 を読んでおく 授業 : Word-Advanced②長文に便利な機能 復習 : 演習内容を復習する	
3	田崎 仁美	【第 3 回】 予習 : P133～141 を読んでおく 授業 : Excel-Advanced①関数の活用 復習 : 演習内容を復習する	
4	田崎 仁美	【第 4 回】 予習 : P145～151 を読んでおく 授業 : Excel-Advanced②データベースの利用 復習 : 演習内容を復習する	
5	田崎 仁美	【第 5 回】 予習 : P154～156 を読んでおく 授業 : Excel-Advanced②ピボットテーブル 復習 : 演習内容を復習する	
6	田崎 仁美	【第 6 回】 予習 : P167 を読んでおく 授業 : Word・Excel・PowerPoint—Collaborated 差し込み印刷「はがきの作成」 復習 : 課題内容を確認し、必要に応じて修正する	
7	田崎 仁美	【第 7 回】 予習 : Excel 関数について復習する 授業 : 栄養計算① 復習 : 課題内容を復習する	
8	田崎 仁美	【第 8 回】 予習 : 前回作成した栄養計算表を確認する 授業 : 栄養計算② 復習 : 演習内容を復習する	
9	田崎 仁美	【第 9 回】 予習 : 今までの課題内容を復習する 授業 : Google フォーム①アンケート作成 復習 : 課題内容を復習する	
10	田崎 仁美	【第 10 回】 予習 : アンケート結果を確認しておく 授業 : Google フォーム②データの利用 復習 : 演習内容を復習する	
11	田崎 仁美	【第 11 回】 予習 : 作成課題の確認 授業 : Google フォーム、PowerPoint 資料作成 復習 : 作成課題の見直し、修正	

12	田崎 仁美	【第 12 回】 予習 : 発表の準備を進めておく 授業 : プレゼンテーション演習 (発表・ディスカッション) 復習 : 演習内容を復習する						
13	田崎 仁美	【第 13 回】 予習 : 今までの授業内容を復習しておく 授業 : 総合演習①資料作成 (ディスカッション) 復習 : 作成資料の確認、修正						
14	田崎 仁美	【第 14 回】 予習 : 今までの授業内容を復習しておく 授業 : 総合演習②資料作成 (ディスカッション) 復習 : 作成資料の確認、修正						
15	田崎 仁美	【第 15 回】 予習 : 発表の準備を進めておく 授業 : 資料作成方法の発表および評価 (発表・ディスカッション) 復習 : 成果物の見直しと、改善						
授業開始前学習		コンピュータ演習 I の内容を復習しておく						
授業内課題のフィードバックの方法		提出課題について添削し、速やかに返却する						
テキスト・教材		『30 時間アカデミック 情報基礎 Word & Excel 2016』(実教出版会社)						
参考書								
評価の基準と方法		毎回の演習課題 (40%)、作成課題 (40%)、授業態度 (20%)						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		△		△		○	
関連科目		コンピュータ演習 I						
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-130-21	授業コード	G00611
科目名称	言語表現演習 I	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Japanese Representation I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橋本 衆宝	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋本 衆宝	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00	研究室	10-616
授業概要	ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。敬語の使い方、文法上問題のある表現、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考え、実際に文章を書いて理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	敬語や文法などの日本語の基礎を身に付け、状況に応じて適切な文章を書けるようになる。日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	橋本 衆宝	【第 1 回】 予習 : 教科書 2 冊 (a と b) を準備して目を通す。教科書 a の 12～14 頁を読んでおく。 授業 : 前期の授業の進め方について説明する。教科書 a「敬語の種類と使い分け」(12～14 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 12～14 頁を復習する。	
2	橋本 衆宝	【第 2 回】 予習 : 教科書 a の 15～17 頁の練習・応用問題を予習する。 授業 : 教科書 a「敬語の種類と使い分け」の練習・応用問題 (15～17 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 15～17 頁を復習する。	
3	橋本 衆宝	【第 3 回】 予習 : 教科書 a の 18～20 頁を読み、21～23 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業 : 教科書 a「注意すべき敬語」(18～20 頁) について説明し、練習・応用問題 (21～23 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 18～23 頁を復習する	
4	橋本 衆宝	【第 4 回】 予習 : 教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「配慮を示す言葉」(24～26 頁) について説明する。教科書 b「手紙を書こう」(39～46 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を復習する。	
5	橋本 衆宝	【第 5 回】 予習 : 教科書 b の 39～46 頁を読み直す。 授業 : 教科書 b「手紙を書こう」(39～46 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。作文課題 1 (手紙文) を授業時間内に書いて提出する (課題解決型学習)。 復習 : 手紙文の書き方を復習する。	
6	橋本 衆宝	【第 6 回】 予習 : 教科書 a の 27～29 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業 : 作文課題 1 を返却し、解説する。教科書 a「配慮を示す言葉」の練習・応用問題 (27～29 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 27～29 頁を復習する。	
7	橋本 衆宝	【第 7 回】 予習 : 教科書 a の 32～34 頁を読み、35～36 頁の練習問題を予習しておく。 授業 : 教科書 a「品詞・活用の種類」(32～34 頁) について説明してから、練習問題 (35～36 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 32～36 頁を復習する。	
8	橋本 衆宝	【第 8 回】 予習 : 教科書 a の 37 頁の応用問題を予習しておく。教科書 b の 5～10 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「品詞・活用の種類」の応用問題 (37 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。 教科書 b「まずは書いてみよう」(5～10 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 37 頁と、教科書 b の 5～10 頁を復習する。	
9	橋本 衆宝	【第 9 回】 予習 : 教科書 b の 11～18 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 b「よい文章を書くために」(11～18 頁) の「(1)「文」を書くときの注意点」(11～13 頁) について説明してから、作文課題 2 (原稿用紙に書く) を授業時間内に書いて提出する (課題解決型学習)。 復習 : 「文」を書くときの注意点と、原稿用紙の使い方を復習する。	

10	橋本 衆宝	【第 10 回】 予習 : 教科書 b の 11～18 頁を読み直す。 授業 : 作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 b「よい文章を書くために」(11～18 頁)の「(2)「文」から「文章」へ」以降(13～18 頁)について説明する。 復習 : 教科書 b の 11～18 頁を復習する。							
11	橋本 衆宝	【第 11 回】 予習 : 教科書 a の 38～40 頁を読んでおく。教科書 b の 5～18 頁を読み直す。 授業 : 教科書 b「まずは書いてみよう」(5～10 頁)・「よい文章を書くために」(11～18 頁)の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」(38～40 頁)について説明する。 復習 : 教科書 a の 38～40 頁と、教科書 b の 5～18 頁を復習する。							
12	橋本 衆宝	【第 12 回】 予習 : 教科書 a の 41～43 頁の練習・応用問題を予習し、44～46 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」の練習・応用問題(41～43 頁)の答え合わせと解説を行い(課題解決型学習)、「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」(44～46 頁)について説明する。 復習 : 教科書 a の 41～46 頁を復習する。							
13	橋本 衆宝	【第 13 回】 予習 : 教科書 b の 19～21 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 b「さあ文章を書いてみよう」(19～21 頁)を説明してから、作文課題 3(論理的な文章)の下書き(構成)を考えさせた上で、宿題にする(課題解決型学習)。 復習 : 教科書 b の 19～21 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。							
14	橋本 衆宝	【第 14 回】 予習 : 教科書 a の 47～49 頁の練習・応用問題を予習する。 授業 : 教科書 a「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」の練習・応用問題(47～49 頁)の答え合わせと解説を行う(課題解決型学習)。教科書 a で前期に学んだことを振り返る。 復習 : 教科書 a の 47～49 頁と、教科書 a で前期に学んだことを復習する。							
15	橋本 衆宝	【第 15 回】 予習 : 教科書 b の 19～21 頁を読み直す。前期の授業内容を振り返る。 授業 : 教科書 b の「さあ文章を書いてみよう」(19～21 頁)の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。作文課題 3 を解説する。教科書 b で前期に学んだことを振り返る。 復習 : 教科書 b で前期の授業で学んだことを復習する。							
授業開始前学習		教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著(東京書籍) b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著(翰林書房) 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。							
参考書									
評価の基準と方法		定期試験(60%)と作文課題・授業内テスト(40%)で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		◎				○	
関連科目									
その他		毎回、国語辞典(電子辞書可)を持ってくること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間(1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-21	授業コード	G00621
科目名称	言語表現演習Ⅱ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Japanese Representation II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橋本 衆宝	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋本 衆宝	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00	研究室	10-616
授業概要	ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。文の構造や文体、表記の仕方、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考え、実際に文章を書いて理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を身に付け、状況に応じて適切な文章を書けるようになる。日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	橋本 衆宝	【第 1 回】 予習 : 教科書 2 冊 (a と b) を準備して目を通す。教科書 a の 50～52 頁を読み、53～54 頁の練習問題を予習する。 授業 : 後期の授業の進め方について説明する。教科書 a「接続語・指示語と文章」(50～52 頁) について説明し、53～54 頁の練習問題の答え合わせと解説を行う(課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 50～54 頁を復習する。	
2	橋本 衆宝	【第 2 回】 予習 : 教科書 a の 55 頁の応用問題を予習し、58～60 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「接続語・指示語と文章」の応用問題(55 頁) の答え合わせと解説を行い(課題解決型学習)、「類義語・対義語」(58～60 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 55 頁、58～60 頁を復習する。	
3	橋本 衆宝	【第 3 回】 予習 : 教科書 a の 61～63 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 47～52 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「類義語・対義語」の練習・応用問題(61～63 頁) の答え合わせと解説を行い(課題解決型学習)、教科書 b の「効果的な電子メールとは？」(47～52 頁) について説明する。作文課題 1 (電子メールの文章) を宿題にする(課題解決型学習)。 復習 : 教科書 a の 61～63 頁、教科書 b の 47～52 頁を復習し、作文課題 1 を書いて Classroom に提出する。	
4	橋本 衆宝	【第 4 回】 予習 : 教科書 b の 23～27 頁を読んでおく。 授業 : 作文課題 1 について解説する。教科書 b の「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」(23～27 頁) について説明する。 復習 : 電子メールの書き方と、教科書 b の 23～27 頁を復習する。	
5	橋本 衆宝	【第 5 回】 予習 : 教科書 a の 64～66 頁を読んでおく。教科書 b の 23～27 頁と 47～52 頁を読み直す。 授業 : 教科書 b「効果的な電子メールとは？」(47～52 頁) と「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」(23～27 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。教科書 a の「動詞の自他・視点」(64～66 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 64～66 頁を復習する。	
6	橋本 衆宝	【第 6 回】 予習 : 教科書 a の 67～69 頁の練習・応用問題を予習し、70～72 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「動詞の自他・視点」の練習・応用問題(67～69 頁) の答え合わせと解説を行い(課題解決型学習)、「文体・話し言葉・書き言葉」(70～72 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 67～72 頁を復習する。	
7	橋本 衆宝	【第 7 回】 予習 : 教科書 a の 73～75 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 53～57 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「文体・話し言葉・書き言葉」の練習・応用問題(73～75 頁) の答え合わせと解説を行い(課題解決型学習)、教科書 b「効果的な文書作成」(53～57 頁) について説明する。 復習 : 教科書 a の 73～75 頁、教科書 b の 53～57 頁を復習する。	
8	橋本 衆宝	【第 8 回】 予習 : 教科書 b の 53～57 頁を読み直す。 授業 : 教科書 b「効果的な文書作成」(53～57 頁) の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。作文課題 2 (履歴書・エントリーシート) を授業時間内に書いて提出する(課題解決型学習)。 復習 : 履歴書・エントリーシートの書き方について復習する。	

9	橋本 衆宝	【第 9 回】 予習 : 教科書 a の 76～78 頁を読んでおく。 授業 : 作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 a「コロケーション」(76～78 頁)について説明する。 復習 : 教科書 a の 76～78 頁を復習する。						
10	橋本 衆宝	【第 10 回】 予習 : 教科書 a の 79～81 頁の練習・応用問題を予習し、84～86 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「コロケーション」の練習・応用問題 (79～81 頁) の答え合わせと解説を行い (課題解決型学習)、「部首・音訓・熟語」(84～86 頁)について説明する。 復習 : 教科書 a の 79～81 頁と 84～86 頁を復習する。						
11	橋本 衆宝	【第 11 回】 予習 : 教科書 a の 87～89 頁の練習・応用問題を予習し、教科書 b の 59～63 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 a「部首・音訓・熟語」の練習・応用問題 (87～89 頁) の答え合わせと解説を行い (課題解決型学習)、教科書 b の「冠婚葬祭・贈答のしきたり」(59～63 頁)について説明する。 復習 : 教科書 a の 87～89 頁と、教科書 b の 59～63 頁を復習する。						
12	橋本 衆宝	【第 12 回】 予習 : 教科書 b の 59～63 頁を読み直す。教科書 a の 90～92 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 b「冠婚葬祭・贈答のしきたり」(59～63 頁)の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。教科書 a「仮名遣い・送り仮名」(90～92 頁)について説明する。 復習 : 冠婚葬祭について復習する。教科書 a の 90～92 頁を復習する。						
13	橋本 衆宝	【第 13 回】 予習 : 教科書 a の 93～95 頁の練習・応用問題を予習する。 授業 : 教科書 a「仮名遣い・送り仮名」の練習・応用問題 (93～95 頁) の答え合わせと解説を行う (課題解決型学習)。作文課題 3 (授業で学んだこと)を宿題にする (課題解決型学習)。 復習 : 教科書の 93～95 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。						
14	橋本 衆宝	【第 14 回】 予習 : 教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 b「プレゼンテーションをより効果的に」(29～31 頁)と「敬語を適切に使う」(33～38 頁)について説明する。 復習 : 教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を復習する。						
15	橋本 衆宝	【第 15 回】 予習 : 教科書 b の 33～38 頁を読んでおく。 授業 : 教科書 b の「敬語を適切に使う」(33～38 頁)の内容を理解しているか問題を出して確認する。教科書 a・b で後期の授業で学んだことを振り返る。 復習 : 後期の授業で学んだことを復習する。						
授業開始前学習		教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著 (東京書籍) b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著 (翰林書房) 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験 (60 %) と作文課題・授業内テスト (40%) で評価する。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていくとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	
関連科目								
その他		毎回、国語辞典 (電子辞書可) を持ってくること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-110-21	授業コード	G00711
科目名称	英語 I	単位数	1.0 単位
英文名称	English I	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	田野尻 哲郎	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田野尻 哲郎	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	英語 4 技能「リスニング」、「スピーキング」、「リーディング」、「ライティング」に関する学習活動によって、総合的な英語力を向上させます。 授業ではまず、リーディングとリスニングのスキル習得と、各技能の開発に必要なボキャブラリーの基礎を構築します。 要約作成とディスカッション及びプレゼンテーションなど、高度なコミュニケーション英語とその活動へのリエゾンによって、4 技能の統合的向上を目指します。 これらを可能とする英語力を全員に保証するために、リメディアルとしての英文法および栄養学の専門家としての教養英語を、授業内で並行して学習します。		
到達目標	基本的な英語の文章を、英文構造理解を前提とするリーディングスキルによって読解できる。 基礎的な英語の音声・映像の意味内容を、複数回にわたり聞き取る・視聴することで理解できる。 英語によるコミュニケーション活動の方法を、読解とライティング、グループワーク等を通して理解できる。 栄養学の専門家として必要となる「教養英語」を理解できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田野尻 哲郎	【第 1 回】 予習：中等教育での英語学習を振り返り、高等教育とその後へ向けた英語学習のあり方を理解します。 授業：オリエンテーションのあと、リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 01 の 13-17p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。	
2	田野尻 哲郎	【第 2 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 1 の 1-2 ページ)を読みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 01 の 18-22p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。	
3	田野尻 哲郎	【第 3 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 1 の 3 ページ)に取り組みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 02 の 23-27p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。	
4	田野尻 哲郎	【第 4 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 2 の 4-5 ページ)を読みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 02 の 28-32p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。	
5	田野尻 哲郎	【第 5 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 2 の 6 ページ)に取り組みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 03 の 33-37p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認	
6	田野尻 哲郎	【第 6 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 3 の 7-8 ページ)を読みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 03 の 38-42p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。	
7	田野尻 哲郎	【第 7 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 3 の 9 ページ)に取り組みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 04 の 43-47p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。	
8	田野尻 哲郎	【第 8 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 4 の 10-11 ページ)を読みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 04 の 48-52p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。	

9	田野尻 哲郎	【第 9 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 4 の 12-13 ページ)に取り組みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 05 の 53-57p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。							
10	田野尻 哲郎	【第 10 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 5 の 14-16 ページ)を読みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 05 の 58-64p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。							
11	田野尻 哲郎	【第 11 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 6 の 17-18 ページ)に取り組みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 06 の 65-69p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。							
12	田野尻 哲郎	【第 12 回】 予習：前回の確認をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 6 の 19 ページ)を読みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 06 の 70-74p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。							
13	田野尻 哲郎	【第 13 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 7 の 20-22 ページ)に取り組みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 07 の 75-79p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。							
14	田野尻 哲郎	【第 14 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 07 の 80-84p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。							
15	田野尻 哲郎	【第 15 回】 予習：これまでの復習をします。 授業：確認試験をします。夏休み中の学習について説明します。 復習：これまでの復習をします。							
授業開始前学習		詳細は授業中に指示します。							
授業内課題のフィードバックの方法		教科書のユニットおよび配布・提示する紙媒体や映像媒体の資料のテーマに関連した演習を行い、提出します。その解説や添削を通して、学習内容の理解を進化させ、確認します。							
テキスト・教材		1. 『やさしい栄養英語』（田中芳文・編著 中里菜穂子／松浦加寿子・著、講談社サイエンティフィック、2019 年） 2. 『コミュニケーションスキルが身に付く TOEIC® L&R TEST〈中級編〉』（角山照彦 / Simon Capper / 遠藤利昌・著、成美堂、2023 年） 1. がリーディングテキスト、2. がリスニング・スピーキング・ライティングテキストです。 その他、教師が作成した学習用プリントまたはインターネットサイトを、授業中に配布または指示または提示します。							
参考書		授業中に指示します。							
評価の基準と方法		授業態度や提出物等の平常点を概ね 40 パーセント、確認試験を概ね 60 パーセントとして、総合的に評価します。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていくとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	○			△	
関連科目									
その他		英語の辞書（電子辞書可）と、インターネットに接続できる電子端末（スマートフォン、タブレット、ノートパソコンなど）を、毎回持参してください。 その他の教材は、教員がその都度に用意します。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-21	授業コード	G00721
科目名称	英語Ⅱ	単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishⅡ	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	田野尻 哲郎	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田野尻 哲郎	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	英語 4 技能「リスニング」、「スピーキング」、「リーディング」、「ライティング」に関する学習活動によって、総合的な英語力を向上させます。 授業ではまず、リーディングとリスニングのスキル習得と、各技能の開発に必要なボキャブラリーの基礎を構築します。 要約作成とディスカッション及びプレゼンテーションなど、高度なコミュニケーション英語とその活動へのリエゾンによって、4 技能の統合的向上を目指します。 これらを可能とする英語力を全員に保証するために、リメディアルとしての英文法および栄養学の専門家としての教養英語を、授業内で並行して学習します。		
到達目標	基本的な英語の文章を、英文構造理解を前提とするリーディングスキルによって読解できる。 基礎的な英語の音声・映像の意味内容を、複数回にわたり聞き取る・視聴することで理解できる。 英語によるコミュニケーション活動の方法を、読解とライティング、グループワーク等を通して理解できる。 栄養学の専門家として必要となる「教養英語」を理解できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田野尻 哲郎	【第 1 回】 予習：中等教育での英語学習を振り返り、高等教育とその後へ向けた英語学習のあり方を理解します。 授業：オリエンテーションのあと、リーディングテキスト(Unit 8 の 23-25 ページ)を読みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト (Unit 08 の 85-89p) に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。	
2	田野尻 哲郎	【第 2 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 8 の 26 ページ)を読みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト (Unit 08 の 90-94p) に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。	
3	田野尻 哲郎	【第 3 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 9 の 27-28 ページ)に取り組みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト (Unit 09 の 95-99p) に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。	
4	田野尻 哲郎	【第 4 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 9 の 29 ページ)を読みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト (Unit 09 の 100-104p) に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。	
5	田野尻 哲郎	【第 5 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 10 の 30-32 ページ)に取り組みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト (Unit 10 の 105-109p) に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認	
6	田野尻 哲郎	【第 6 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 11 の 33-35 ページ)を読みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト (Unit 10 の 110-114p) に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。	
7	田野尻 哲郎	【第 7 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 11 の 36 ページ)に取り組みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト (Unit 11 の 115-119p) に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。	
8	田野尻 哲郎	【第 8 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 12 の 37-40 ページ)を読みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト (Unit 11 の 120-124p) に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。	

9	田野尻 哲郎	【第 9 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 12 の 41 ページ)に取り組みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 12 の 125-129p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。							
10	田野尻 哲郎	【第 10 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 13 の 42-45 ページ)を読みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 12 の 130-134p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。							
11	田野尻 哲郎	【第 11 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 13 の 46 ページ)に取り組みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 13 の 135-139p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。							
12	田野尻 哲郎	【第 12 回】 予習：前回の確認をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 14 の 47-49 ページ)を読みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 13 の 140-144p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。							
13	田野尻 哲郎	【第 13 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 14 の 50 ページ)に取り組みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 14 の 145-149p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。							
14	田野尻 哲郎	【第 14 回】 予習：前回の復習をします。 授業：リーディングテキスト(Unit 15 の 51-53 ページ)に取り組みます。リスニング・スピーキング・ライティングテキスト（Unit 14 の 150-156p）に取り組みます。 復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認をします。							
15	田野尻 哲郎	【第 15 回】 予習：これまでの復習をします。 授業：確認試験をします。これまでのまとめをします。 復習：これまでの復習をします。							
授業開始前学習		詳細は授業中に指示します。							
授業内課題のフィードバックの方法		教科書のユニットおよび配布・提示する紙媒体や映像媒体の資料のテーマに関連した演習を行い、提出します。 その解説や添削を通して、学習内容の理解を進化させ、確認します。							
テキスト・教材		1. 『やさしい栄養英語』（田中芳文・編著 中里菜穂子／松浦加寿子・著、講談社サイエンティフィック、2019 年） 2. 『コミュニケーションスキルが身に付く TOEIC® L&R TEST〈中級編〉』（角山照彦 / Simon Capper / 遠藤利昌・著、成美堂、2023 年） 1. がリーディングテキスト、2. がリスニング・スピーキング・ライティングテキストです。 その他、教師が作成した学習用プリントまたはインターネットサイトを、授業中に配布または指示または提示します。							
参考書		授業中に指示します。							
評価の基準と方法		授業態度や提出物等の平常点を概ね 40 パーセント、確認試験を概ね 60 パーセントとして、総合的に評価します。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	○			△	
関連科目									
その他		英語の辞書（電子辞書可）と、インターネットに接続できる電子端末（スマートフォン、タブレット、ノートパソコンなど）を、毎回持参してください。 その他の教材は、教員がその都度に用意します。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-22	授業コード	G00731
科目名称	英語Ⅲ	単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishⅢ	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	薬師 英子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	薬師 英子	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	英語の運用能力を、今まで学んできた基礎力を背景に育成する。「話す・聞く・読む・書く」という英語の 4 技能の向上を目標とする。		
到達目標	基本的な英語を一度で聞き取り、理解できる。基本的な英語文を読み、理解できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	薬師 英子	【第 1 回】 予習 : 自分の英語学習を振り返る 授業 : オリエンテーション (授業のねらい、授業の進め方等について) (グループワーク) 復習 : 家庭学習を考える	
2	薬師 英子	【第 2 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 1 Hungry Cat (pp.1~4) 復習 : Unit 1 Hungry Cat の新出単語・重要熟語・文法事項の復習	
3	薬師 英子	【第 3 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 2 Chocolate Chip Cookies (pp.5~8) 復習 : Unit 2 Chocolate Chip Cookies の新出単語・重要熟語・文法事項の復習	
4	薬師 英子	【第 4 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Review of Unit 1 & 2 (グループワーク) 復習 : Unit 1 Hungry Cat・Unit 2 Chocolate Chip Cookies の英語要約と文法 Exercise	
5	薬師 英子	【第 5 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 3 Hollywood's Hero (pp.9~12) 復習 : Unit 3 Hollywood's Hero の新出単語・重要熟語・文法事項の復習	
6	薬師 英子	【第 6 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 4 Miscommunication (pp.13~16) 復習 : Unit 4 Miscommunication の新出単語・重要熟語・文法事項の復習	
7	薬師 英子	【第 7 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Review of Unit 3 & Unit 4 (グループワーク&プレゼンテーション) 復習 : Unit 3 Hollywood's Hero & Unit 4 Miscommunication の英語要約と文法 Exercise	
8	薬師 英子	【第 8 回】 予習 : ここまでの授業を総復習する 授業 : 中間のまとめ 復習 : まとめを振り返る	
9	薬師 英子	【第 9 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 5 The Lucky Ride (pp.17~19) 復習 : Unit 5 The Lucky Ride の新出単語・重要熟語・文法事項の復習	
10	薬師 英子	【第 10 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 5 The Lucky Ride (p.20) Review & Activity (グループワーク) 復習 : Unit 5 The Lucky Ride の英語要約と文法 Exercise	
11	薬師 英子	【第 11 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 6 A Real Monster (pp.21~23) 復習 : Unit 6 A Real Monster の新出単語・重要熟語・文法事項の復習	

12	薬師 英子	【第 12 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 6 A Real Monster (p.24) Review & Activity (グループワーク) 復習 : Unit 6 A Real Mosnter の英語要約と文法 Exercise							
13	薬師 英子	【第 13 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 7 Lunchbox Revolution (pp.25~27) 復習 : Unit 7 Lunchbox Revolution の新出単語・重要熟語・文法事項の復習							
14	薬師 英子	【第 14 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 7 Lunchbox Revolution (p.28) Review & Activity (グループワーク) 復習 : Unit 7 Lunchbox Revolution の英語要約と文法 Exercise							
15	薬師 英子	【第 15 回】 予習 : 今まで授業で学んだことを振り返る 授業 : Review of Unit 1 The Hungry Cat ~ Unit 7 Lunchbox Revolution (プレゼンテーション) 復習 : 自分の課題を見つけ対策を立てる							
授業開始前学習		学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業 7 回目、13 回目に提出するまとめについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		Robert Juppe, 馬場 幸雄『Premium Reader ~Elementary~』（金星堂）							
参考書		授業中に紹介する。							
評価の基準と方法		試験 60%、平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	○			△	
関連科目		英語							
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。欠席した回の授業内容は各自 Googleclassroom に配信された授業資料やシラバス等を確認し、フォローアップをする。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-22	授業コード	G00741
科目名称	英語Ⅳ	単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishⅣ	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	薬師 英子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	薬師 英子	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	英語の運営能力を、今まで学んできた基礎能力を背景に育成する。「話す・聞く・読む・書く」という英語の 4 技能の向上を目指す。		
到達目標	発展的な英語を複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。発展的な英語文を時間をかけて読み、理解できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	薬師 英子	【第 1 回】 予習 : 自分の英語学習を振り返る 授業 : Talk about your Summer Vacation / Reveiw of the first term & Introduction (グループワーク) 復習 : 家庭学習を考える	
2	薬師 英子	【第 2 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 8 How English Grew & Grows (pp.29~32) 復習 : Unit 8 How English Grew & Grows の新出単語・重要熟語・文法事項の復習	
3	薬師 英子	【第 3 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 9 Hudson River Miracle (pp.33~36) 復習 : Unit 9 Hudson River Miracle の新出単語・重要熟語・文法事項の復習	
4	薬師 英子	【第 4 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Review of Unit 8 & Unit 9 (グループワーク) 復習 : Unit 8 How English Grew & Grows・Unit 9 Hudson River Miracle の英語要約と文法 Exercise	
5	薬師 英子	【第 5 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 10 Odd Crimes (pp.37~40) 復習 : Unit 10 Odd Crimes の新出単語・重要熟語・文法事項の復習	
6	薬師 英子	【第 6 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 11 The Lucky Traveler (pp.41~44) 復習 : Unit 11 The Lucky Traveler の新出単語・重要熟語・文法事項の復習	
7	薬師 英子	【第 7 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Review of Unit 10 & 11 (グループワーク&プレゼンテーション) 復習 : Unit 10 Odd Crimes & Unit 11 The Lucky Traveler の英語要約と文法 Exercise	
8	薬師 英子	【第 8 回】 予習 : ここまでの授業を総復習する 授業 : 中間のまとめ 復習 : まとめを振り返る	
9	薬師 英子	【第 9 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 12 Are Men Losing? (pp.45~48) 復習 : Unit 12 Are Men Losing?の新出単語・重要熟語・文法事項の復習	
10	薬師 英子	【第 10 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 13 Super-Sized Dream (pp.49~52) 復習 : Unit 13 Super-Sixed Dream の新出単語・重要熟語・文法事項の復習	
11	薬師 英子	【第 11 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Review of Unit 12 & 13 (グループワーク) 復習 : Unit 12 Are Men Losing?・Unit 13 Super-Sized Dream の英語要約と文法 Exercise	

12	薬師 英子	【第 12 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 14 It's Against the Law (pp.53~54) 復習 : Unit 14 It's Against the Law の新出単語・重要熟語・文法事項の復習							
13	薬師 英子	【第 13 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Unit 15 Black Sunday (pp.55~56) 復習 : Unit 15 Black Sunday の新出単語・重要熟語・文法事項の復習							
14	薬師 英子	【第 14 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読む 授業 : Review of Unit 14 &15 (グループワーク) 復習 : Unit 14 It's Against the Law & Unit 15 Black Sunday の英語要約と文法 Exercise							
15	薬師 英子	【第 15 回】 予習 : 今まで授業で学んだことを振り返る 授業 : Overall Review (プレゼンテーション) 復習 : 自分の課題を見つけ対策を立てる							
授業開始前学習		学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業 7 回目、13 回目に提出するまとめについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		Robert Juppe、馬場 幸雄『Premium Reader ~Elementary~』（金星堂）							
参考書		授業中に紹介する。							
評価の基準と方法		試験 60%、平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	○			△	
関連科目		英語							
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。欠席した回の授業内容は各自 Googleclassroom に配信された授業資料やシラバス等を確認し、フォローアップをする。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-21	授業コード	G00810
科目名称	☆ドイツ語Ⅰ／基礎ドイツ語Ⅰ	単位数	1.0 単位
英文名称	German I / Basic German I	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	岡野 史	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岡野 史	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	ドイツ語初学者を対象とし、ドイツ語初級文法の修得を目指す。具体的な文法事項としては、ドイツ語の読み方、発音からはじめ、人称代名詞、動詞の現在形活用、名詞の性と格変化、ドイツ語の語順、様々な冠詞類や並列接続詞の習得を目標とする。合わせて基本的な挨拶などの表現や、ドイツ語圏における様々な都市や文化について触れていく。各課において短いドイツ語の文章読解や、ドイツ語作文に取り組み、初級ドイツ語の基礎を確実に身につける。さらに動画資料や文学作品、時事的なニュースなど実際に用いられているドイツ語表現を紹介し、ドイツ語圏文化に対する関心をさらに高めていくことができるよう進めていく。		
到達目標	基本的なドイツ語の読み方、発音ができるようになることをはじめ、ドイツ語学習の基礎となる人称代名詞の変化、動詞の現在形、冠詞の格変化や語順のルールなどを理解し、簡単な文章読解、ドイツ語作文のなかで用いることができるようになることを目標とする。また基本的な挨拶や自己紹介などの会話表現を学び、短くともドイツ語でコミュニケーションをとることができるようになる。同時に、第二外国語としてドイツ語を学ぶ意義や目標を各々が見つけられるよう、ドイツ語圏への文化理解を深めていく。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	岡野 史	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を確認。 授業：ガイダンス・ドイツ語とは：ヨーロッパにおけるドイツ語圏。アルファベット 復習：授業計画の内容確認。配布資料の確認。	
2	岡野 史	【第 2 回】 予習：テキスト p.1-3「アルファベット」「つづりと発音」の予習。前回の授業での配布資料を確認。 授業：アルファベット、つづりと発音① 復習：テキスト p.1-3 までの範囲で不明点を再チェック。配布資料の確認。	
3	岡野 史	【第 3 回】 予習：テキスト p.1-3「アルファベット」「つづりと発音」の確認。テキスト p.4「あいさつ」p.9「数字」の確認。前回の授業での配布資料を確認。 授業：つづりと発音②、簡単な挨拶と数字 復習：テキスト p.1-3, 4, 9 までの内容を確認。配布資料の確認。	
4	岡野 史	【第 4 回】 予習：テキスト p.10「主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化」の確認。 授業：Lektion1：主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化（規則変化） 復習：テキスト p.10-11 の文法事項と単語を確認すること。配布資料の確認。	
5	岡野 史	【第 5 回】 予習：テキスト p.14-15 の確認。 授業：Lektion1：自己紹介 復習：テキスト p. 14-15 の表現と単語の確認、確認テストの準備。	
6	岡野 史	【第 6 回】 予習：確認テスト（Lektion1）の準備。p.80: Freut mich!の確認。 授業：確認テスト（Lektion1）、p.80: Freut mich!、Lektion2：名詞の性・冠詞 復習：テキスト p.80 の文法事項と単語の確認をすること。	
7	岡野 史	【第 7 回】 予習：テキスト p.16-17「名詞の性・冠詞、名詞の格変化」の予習。 授業：Lektion2：名詞の性・冠詞、名詞の格変化 復習：テキスト p. 16-17 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。	
8	岡野 史	【第 8 回】 予習：テキスト p.18-19「疑問代名詞の格変化、並列の接続詞」の予習。 授業：Lektion2: 疑問代名詞の格変化、並列の接続詞 復習：テキスト p.18-19 の表現と単語の確認、確認テストの準備。	
9	岡野 史	【第 9 回】 予習：確認テスト（Lektion2）の準備。p.80: Werner Adam, Journalist の確認。 授業：確認テスト（Lektion2）、p.20-21：職業、p.80: Werner Adam, Journalist、 復習：テキスト p.20-23, 80 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。	
10	岡野 史	【第 10 回】 予習：テキスト p.24「動詞の現在人称変化 2、命令形」の予習。 授業：Lektion3：動詞の現在人称変化 2、命令形 復習：テキスト p.24-25 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。	

11	岡野 史	【第 11 回】 予習：テキスト p.26「人称代名詞の 3・4 格、語順、非人称の es」の予習。 授業：Lektion3：人称代名詞の 3・4 格、語順、非人称の es 復習：テキスト p.26-27 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。							
12	岡野 史	【第 12 回】 予習：テキスト p.28-29, p.81: Pierre in Köln の確認。 授業：趣味、 p.81: Pierre in Köln 復習：テキスト p.28-29, p.81 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。							
13	岡野 史	【第 13 回】 予習：テキスト p.30「名詞の複数形、冠詞類」の予習。 授業：Lektion4 :名詞の複数形、冠詞類 復習：テキスト p.30-31 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。							
14	岡野 史	【第 14 回】 予習：テキスト p.32「kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方」の予習、p.81: Deutsches Brot の確認。 授業：Lektion4：kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方、p.81: Deutsches Brot 復習：テキスト p.32-34, p.81、Lektion4 まで全体の復習。							
15	岡野 史	【第 15 回】 予習：ドイツ語 I で扱った内容について、不明点がないか確認。全体の復習。 授業：Lektion4 について理解度の確認、ドイツ語 I で扱った内容の確認 復習：Lektion1-4 の内容を確認、これまでの配布資料の確認。							
授業開始前学習		ドイツ語がどのような言語であるのかを知るために、教科書などに目を通しておくこと。 ドイツ文学、映画、音楽などにふれ、ドイツ語文化圏への理解を深めておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で確認小テストを行う。次週までに返却し、解説を行う。							
テキスト・教材		小野寿美子ほか『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語』(朝日出版社)							
参考書		授業内で適宜紹介。 独和辞典については紙でも電子でも可							
評価の基準と方法		平常点（授業内での課題への取り組み、確認テスト） 50%、期末試験 50%							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	○			△	
関連科目		観光のドイツ語、海外観光資源研究 B(ヨーロッパ 2)							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-21	授業コード	G00820
科目名称	☆ドイツ語Ⅱ／基礎ドイツ語Ⅱ	単位数	1.0 単位
英文名称	German II / Basic German II	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	岡野 史	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岡野 史	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	ドイツ語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進める。文法事項や単語などを繰り返し確認することで、初級ドイツ語の知識の定着を目指していく。前置詞・話法の助動詞・未来形・不定代名詞などの文法事項を新たに学び、ドイツ語の表現の幅を広げていく。また同時に、様々な資料を通してドイツ語圏の文化に対する理解を深める。動画や音声などを利用した学習により、ドイツ語の音に親しみ、自然なドイツ語の表現を学んでいく。		
到達目標	ドイツ語の初級文法を理解し、ドイツ語でさらに幅広い表現ができるようになる。ドイツ語の音に慣れ親しむことで、簡単な会話を聞き取り、さらにそれに答えることができるようになる。またドイツ語圏についての知識を得ることで、言葉だけでなくドイツ文化の理解も深める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	岡野 史	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を確認。ドイツ語Ⅰでの既習事項について、復習と確認をすること。 授業：ガイダンス・Lektion 4 までの復習と確認。 復習：授業計画の内容確認。Lektion 4 までの範囲で不明点があるか確認。	
2	岡野 史	【第 2 回】 予習：Lektion 4 までの復習と確認。前回の授業での配布資料を確認。 授業：Lektion 4 までの復習と確認、発音の確認 復習：Lektion 4 までの範囲で不明点の再チェック。	
3	岡野 史	【第 3 回】 予習：テキスト p.38「前置詞の格支配」の予習。 授業：Lektion 5：前置詞の格支配 復習：テキスト p.38-39 の文法事項の確認をすること。配布資料の確認。	
4	岡野 史	【第 4 回】 予習：テキスト p.40「前置詞と定冠詞の融合形」の予習。 授業：Lektion 5：前置詞と定冠詞の融合形、前置詞の練習 復習：テキスト p.40-41 の文法事項と単語を確認すること。配布資料の確認。	
5	岡野 史	【第 5 回】 予習：テキスト p.42-43 単語の意味を調べておく。 授業：Lektion 5：どう行けばいいですか？、p.82「Mozartstadt」 復習：テキスト p.42-43, p.82 の表現と単語の確認、確認テストの準備。	
6	岡野 史	【第 6 回】 予習：テキスト p.44「話法の助動詞、未来形」の予習。 授業：確認テスト（Lektion5）、Lektion 6：話法の助動詞、未来形 復習：テキスト p.44-45 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。	
7	岡野 史	【第 7 回】 予習：テキスト p.46「従属の接続詞と副文、時刻の表現、不定代名詞 man」の予習。 授業：Lektion 6：従属の接続詞と副文、時刻の表現、不定代名詞 man 復習：テキスト p.46-47 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。	
8	岡野 史	【第 8 回】 予習：テキスト p.48-49 単語の性と意味を確認しておく。 授業：Lektion 6：ノイシュヴァンシュタイン城を見たい、p.82「Schloss Neuschwanstein」 復習：テキスト p.48-49, p.82 の表現と単語の確認、確認テストの準備。	
9	岡野 史	【第 9 回】 予習：テキスト p.52「形容詞の格変化」の予習。 授業：確認テスト（Lektion6）、Lektion7：形容詞の格変化 復習：テキスト p.52-53 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。	
10	岡野 史	【第 10 回】 予習：テキスト p.54「形容詞・副詞の比較」の予習。 授業：Lektion 7：形容詞・副詞の比較 復習：テキスト p.54-55 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。	
11	岡野 史	【第 11 回】 予習：テキスト p.56-57 の単語の性と意味を確認しておく。 授業：Lektion 7：レストランでの料理の注文、p.83「Restaurants in Deutschland」 復習：テキスト p.56-57, p.83 の表現と単語の確認、確認テストの準備。	

12	岡野 史	【第 12 回】 予習：確認テストの準備。 授業：確認テスト（Lektion7）、冠詞類まとめ 復習：配布資料の確認。							
13	岡野 史	【第 13 回】 予習：動詞（現在形）についてこれまでの内容を復習 授業：動詞（現在形）まとめ 復習：配布資料の確認。							
14	岡野 史	【第 14 回】 予習：形容詞（格変化）についてこれまでの内容を復習 授業：形容詞（格変化）まとめ 復習：配布資料の確認。Lektion7 まで全体の復習。							
15	岡野 史	【第 15 回】 予習：ドイツ語 II で扱った内容について、不明点がないか確認。全体の復習。 授業：理解度の確認、ドイツ語 II で扱った内容、理解度の確認 復習：Lektion5-7 の内容を確認、これまでの配布資料の確認。							
授業開始前学習		ドイツ語 I で学習した内容を確認しておくこと。 またドイツ文学、映画、音楽などにふれ、ドイツ語文化圏への理解を深めておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内にて確認小テストを行う。次週までに返却し、解説を行う。							
テキスト・教材		小野寿美子ほか『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語』（朝日出版社）							
参考書		授業内で適宜紹介 独和辞典を持参すること（紙、電子など媒体は問わず）							
評価の基準と方法		平常点（授業内での課題への取り組み、確認テスト）50%、期末試験 50%							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	○			△	
関連科目		観光のドイツ語、海外観光資源研究 B(ヨーロッパ 2)							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-21	授業コード	G00830
科目名称	☆フランス語Ⅰ／基礎フランス語Ⅰ	単位数	1.0 単位
英文名称	French I / Basic French I	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	米金 孝雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金 孝雄	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00 後期 水曜日 10:00～10:40 水曜日 12:10～13:00	研究室	10-711
授業概要	基礎的なフランス語の表現・成句を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の習得を目指す。特に、フランス語特有の音に慣れ親しみ、文を暗誦するだけでなく、現実的な練習「ロール・プレイ」「シミュレーション」など、コミュニケーションのための言語使用に重点を置いた授業である。		
到達目標	初歩的なフランス語運用能力（話す・聞く・読む・書く）を習得することが目標である。フランス語特有のアルファベットの発音・基本的な挨拶の仕方・綴り字などを学び、積極的に使用する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	米金 孝雄	【第 1 回】 予習：自分の知っているフランス語、フランス文化の紹介 1 授業：自己紹介、授業概要、授業の進め方、勉強の仕方、教科書、辞書の紹介、注意点など 復習：アルファベットの復習	
2	米金 孝雄	【第 2 回】 予習：自分の知っているフランス語、フランス文化を紹介する 2 授業：特有の音、フランス語の使われている国、フランス語に慣れ親しむ（テキスト 6-7 頁） 復習：基本的なフランス語表現、アルファベットの復習	
3	米金 孝雄	【第 3 回】 予習：レッスン 1 の音声を聴くこと 授業：綴り字と発音の仕方、挨拶の仕方、名前を言う、国籍を言う、男性形と女性形（8-9 頁）（ペアワーク） 復習：主語人称代名詞、s'appeler 動詞、Etre 動詞、国籍の表現	
4	米金 孝雄	【第 4 回】 予習：レッスン 1 の音声を聴くこと 授業：国籍、数の数え方、職業、名前、数字、アルファベットの練習（10-11 頁）（ペアワーク） 復習：職業名詞、形容詞性数に一致	
5	米金 孝雄	【第 5 回】 予習：レッスン 1,1+の音声を聴くこと 授業：名前・国籍、数字、アルファベットの練習、基本表現、アクサン記号（11 頁、76-77 頁）（ペアワーク） 復習：名前の言い方、対話練習	
6	米金 孝雄	【第 6 回】 予習：レッスン 2 の音声を聴くこと 授業：綴り字と発音の仕方、国籍、職業（12-13 頁）（ペアワーク） 復習：質問と答え	
7	米金 孝雄	【第 7 回】 予習：レッスン 2 の音声を聴くこと 授業：数の数え方、職業（14-15 頁）（ペアワーク） 復習：女性形、自己紹介、職業	
8	米金 孝雄	【第 8 回】 予習：レッスン 2,2+の音声を聴くこと 授業：国籍、職業、tu と vous の表現（78 頁）（ペアワーク） 復習：女性形、自己紹介、職業	
9	米金 孝雄	【第 9 回】 予習：レッスン 3 の音声を聴くこと 授業：発音の仕方、アポストロフ、名前・職業・国籍を言う、住んでいる場所を尋ねる、国名、都市、 人称代名詞強制形、En + 国籍、冠詞の縮約形（16-17 頁）（ペアワーク） 復習：Etre, Habiter, S'appeler 動詞の活用、対話練習、En + 国籍、冠詞の縮約形	
10	米金 孝雄	【第 10 回】 予習：レッスン 3,3+の音声を聴くこと 授業：否定文の答え方、名前、職業、国籍、住んでいる場所の質問と答え。（18 頁,79 頁）（ペアワーク） 復習：対話練習	

11	米金 孝雄	【第 11 回】 予習：レッスン 3,3+の音声を聴くこと 授業：練習問題 (19,79,91 頁) (ペアワーク) 復習：練習問題の確認と再考							
12	米金 孝雄	【第 12 回】 予習：レッスン 4 の音声を聴くこと 授業：アンシェンヌマン、この人は誰？、場所を示す疑問文、Parler,habiter,etre 動詞活用の確認 (20-21 頁)(ペアワーク) 復習：人・場所を示す質問と答え、Parler,habiter,etre 動詞活用							
13	米金 孝雄	【第 13 回】 予習：レッスン 4 の音声を聴くこと 授業：parler 動詞を使った質問と答え、数字、紹介と質問の仕方、練習問題 (22-23 頁) (ペアワーク) 復習：「名前、国籍、職業、住んでいる場所、話せる言語」についての質問と答え							
14	米金 孝雄	【第 14 回】 予習：レッスン 4,4+の音声を聴くこと 授業：er 動詞の確認、quel を使った疑問文、練習問題 (80 頁)(ペアワーク) 復習：er 動詞(aimer,preferer), quel の用法、練習問題の確認と再考							
15	米金 孝雄	【第 15 回】 予習：フランス語を話す国・フランス語に慣れ親しむ・特有の音の確認と再考 授業：前期授業の復習と確認(Dans la classe1 から lecon4/4+), 場所の表現と都市(C'est ou?)(6-25 頁,77-80 頁)(ペアワーク) 復習：前期学習事項を再考し、自分の弱点を克服すること							
授業開始前学習		前回の学習事項の復習と、次回の学習事項の予習をすること。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題(レポート、練習問題、小テスト等)を提出後、内容を再考させ、各人の弱点を把握させ、確実な学習事項の修得へと導く。							
テキスト・教材		Petites Conversations(プティットウ・コンヴェルサシオン) (駿河台出版社)							
参考書		適宜、授業内で資料を配布する。							
評価の基準と方法		【配点】：小テスト・提出課題・レポート 80 点、平常点(授業態度)20 点							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	○			△	
関連科目									
その他		注意事項： 3 回の遅刻で 1 回欠席とみなす 予習・復習を怠らないこと							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-130-21			授業コード	G00840
科目名称	☆フランス語Ⅱ／基礎フランス語Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	FrenchⅡ／Basic FrenchⅡ			授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	米金 孝雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金 孝雄			開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00 後期 水曜日 10:00～10:40 水曜日 12:10～13:00			研究室	10-711
授業概要	基礎的なフランス語の表現・成句を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の習得を目指す。 特に、フランス語特有の音に慣れ親しみ、文を暗誦するだけでなく、現実的な練習「ロール・プレイ」「シミュレーション」など、コミュニケーションのための言語使用に重点を置いた授業である。				
到達目標	初歩的なフランス語運用能力（話す・聞く・読む・書く）を習得することが目標である。 フランス語特有のアルファベの発音・基本的な挨拶の仕方・綴り字などを学び、積極的に使用する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	米金 孝雄	【第 1 回】 予習：前期の復習(レッスン 1-4)とレッスン 5 の音声を聴くこと 授業：前期の復習、前期課題の確認、否定形の作り方と答え方、エリズィオン(26-27 頁,80 頁)（ペアワーク） 復習：国籍名詞、habiter の練習			
2	米金 孝雄	【第 2 回】 予習：レッスン 5 の音声を聴くこと 授業：どこに住んでるの、否定形、名前、職業 数字、不定冠詞、男性名詞、女性名詞（27-28 頁）（ペアワーク） 復習：職業名詞、 いいえの答え方、1-20 の数字、C'est + 名詞の練習			
3	米金 孝雄	【第 3 回】 予習：レッスン 5,5+の音声を聴くこと 授業：練習問題（女性形、否定文）、Etre de + 地名、対話練習（29 頁、81 頁）（ペアワーク） 復習：地図、国籍と名前の言い方			
4	米金 孝雄	【第 4 回】 予習：レッスン 6 の音声を聴くこと 授業：発音、年齢を言う、数字、リエゾン（30-31 頁）（ペアワーク） 復習：1-30 の数字、年齢表現			
5	米金 孝雄	【第 5 回】 予習：レッスン 6 の音声を聴くこと 授業：年号、曜日、科目名詞、練習問題（31-33 頁）（ペアワーク） 復習：年号、曜日、科目名を言う			
6	米金 孝雄	【第 6 回】 予習：レッスン 6 ,6+の音声を聴くこと 授業：前回の復習、自己紹介、会話練習、（34 頁、82 頁、92 頁）（ペアワーク） 復習：自己紹介の練習			
7	米金 孝雄	【第 7 回】 予習：予習：レッスン 5, 6 の復習と確認 授業：レッスン 5, 6 の課題（27-34 頁、81-82 頁、92 頁）（ペアワーク） 復習：レッスン 5, 6 の課題再考			
8	米金 孝雄	【第 8 回】 予習：レッスン 7 の音声を聴くこと 授業：中間試験再考、フランス語圏、体調を伝える、On の用法、Avoir 動詞の疑問文と答え（35-36 頁）（ペアワーク） 復習：on の用法、Aoir 動詞の確認、			
9	米金 孝雄	【第 9 回】 予習：レッスン 7 の音声を聴くこと 授業：数字、形容詞の質問と答え、Etre の否定文（37-38 頁）（ペアワーク） 復習：1-40 の数字、形容詞を使った表現			
10	米金 孝雄	【第 10 回】 予習：レッスン 7,7+の音声を聴くこと 授業：練習問題(形容詞の用法と avoir/etre 動詞)、（39 頁、83 頁）（ペアワーク） 復習：練習問題、レッスン 5-7 の復習			

11	米金 孝雄	【第 11 回】 予習：レッスン 8 の音声を聴くこと 授業：不定冠詞の種類と用法、「C'est?」表現（40-41 頁）（ペアワーク） 復習：不定冠詞の練習、C'est?の練習							
12	米金 孝雄	【第 12 回】 予習：レッスン 8 の音声を聴くこと 授業：数字 1?50、「C'est combien ?」表現，練習問題（42-43 頁）（ペアワーク） 復習：数字表現の練習、C'est?の練習							
13	米金 孝雄	【第 13 回】 予習：レッスン 8 の音声を聴くこと 授業：Revisions 会話表現，練習問題(44-45 頁)，（ペアワーク） 復習：聞き取り練習、応答練習							
14	米金 孝雄	【第 14 回】 予習：レッスン 8,8+の音声を聴くこと 授業：「Qu'est-ce que c'est ? 」の応答練習(84 頁)（ペアワーク） 復習：「Qu'est-ce que c'est ? 」の練習、課題							
15	米金 孝雄	【第 15 回】 予習：後期授業の復習 授業：1 年次授業内容・重要事項の確認 復習：1 年次授業内容再考							
授業開始前学習		前回の学習事項の復習と、次回の学習事項の予習をすること。							
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト・課題・レポート等提出後、内容を再考させ、各人の弱点を把握させ、確実な学習事項の習得へと導く。							
テキスト・教材		Petites Conversations(プティットウ・コンヴェルサシオン)（駿河台出版社）							
参考書		適宜、授業内で資料を配布する。							
評価の基準と方法		配点：小テスト・提出課題・レポート 80 点， 平常点(授業態度)20 点							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	○			△	
関連科目									
その他		注意事項： 3 回の遅刻で 1 回欠席とみなす 予習・復習を怠らないこと							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-21	授業コード	G01011
科目名称	スポーツ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Physical Education I	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	小澤 多賀子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小澤 多賀子	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:10 後期 金曜日 09:00～12:10	研究室	16-103
授業概要	バレーボールは、生涯にわたる健康や競技および娯楽という様々な点で優れたスポーツである。レジャー目的で行うバレーボールは、速歩きや水中運動と同等の運動強度であり、一定量を習慣的に行うことで体力の向上や健康の維持・改善効果が期待できる。本授業では、バレーボールを通じて楽しみながら体力づくり・健康づくりを実践することで、運動・スポーツが体力や健康に与える効果を理解することを目的とする。また、創造力・コミュニケーション力を養うとともに、自立して習慣的に体力づくり・健康づくりを実践する意識を高める。		
到達目標	・習慣的な運動・スポーツが体力や健康に与える効果を理解する。 ・バレーボールの基本技術を習得する。 ・習慣的な運動・スポーツの重要性を認識し、自立して体力づくり・健康づくりを実践する意識を高める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小澤 多賀子	【第 1 回】 予習：バレーボールの実践にふさわしい服装と室内運動靴の準備 運動・スポーツと健康との関係の下調べ 授業：講義 運動・スポーツ実践の意義と効果 ・課題「運動・スポーツの習慣化に向けた運動プログラムの作成と実践」の説明 ・アンケート 復習：準備した服装と室内運動靴が授業に適しているかの確認 運動・スポーツ実践の意義とその効果についての整理	
2	小澤 多賀子	【第 2 回】 予習：バレーボールのルールの下調べ 授業：実習 バレーボール（1）コートの準備方法とルールの理解（グループワーク） 復習：コートの準備方法とルールの再確認	
3	小澤 多賀子	【第 3 回】 予習：バスの種類の下調べ 授業：実習 バレーボール（2）ボールに慣れる（グループワーク） 復習：ボールやネットなどの保管場所の確認	
4	小澤 多賀子	【第 4 回】 予習：オーバーハンドパスの方法の下調べ 授業：実習 バレーボール（3）オーバーハンドパス（グループワーク） 復習：オーバーハンドパスの実践方法の確認	
5	小澤 多賀子	【第 5 回】 予習：バレーボールに必要な体力の下調べ 授業：実習 バレーボール（4）バレーボールに必要な体力の評価（1 回目） 復習：自分の体力レベルの確認	
6	小澤 多賀子	【第 6 回】 予習：アンダーハンドパスの方法の下調べ 授業：実習 バレーボール（5）アンダーハンドパス（グループワーク） 復習：アンダーハンドパスの実践方法の確認	
7	小澤 多賀子	【第 7 回】 予習：サーブの打ち方とレシーブの方法の下調べ 授業：実習 バレーボール（6）アンダー/オーバーサーブの打ち方とレシーブ（グループワーク） 復習：アンダー/オーバーサーブの打ち方とレシーブの実践方法の確認	
8	小澤 多賀子	【第 8 回】 予習：アタックの打ち方とレシーブの方法の下調べ 授業：実習 バレーボール（7）アタックの打ち方とレシーブ（グループワーク） 復習：アタックの打ち方とレシーブの実践方法の確認	
9	小澤 多賀子	【第 9 回】 予習：6 人制のゲームルールの下調べ 授業：実習 バレーボール（8）ゲームを楽しむ①：6 人制（グループワーク） 復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り	

10	小澤 多賀子	【第10回】 予習：ゲームで行いたいプレーの確認 授業：実習 バレーボール（9）ゲームを楽しむ②：6人制（グループワーク） 復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り															
11	小澤 多賀子	【第11回】 予習：ゲームで行いたいプレーの確認 授業：実習 バレーボール（10）リーグ戦①：6人制（グループワーク） 復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り															
12	小澤 多賀子	【第12回】 予習：ゲームで行いたいプレーの確認 授業：実習 バレーボール（11）リーグ戦②：6人制（グループワーク） 復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り															
13	小澤 多賀子	【第13回】 予習：バレーボールに必要な体力の評価結果（1回目）の振り返り 授業：実習 バレーボール（12）バレーボールに必要な体力の評価（2回目） 復習：1回目と2回目との体力の比較															
14	小澤 多賀子	【第14回】 予習：ヘルスパレーボールのルールの下調べ 授業：実習 ヘルスパレーボール ゲームを楽しむ（グループワーク） 復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り															
15	小澤 多賀子	【第15回】 予習：これまでの授業の振り返り 授業：講義 授業の振り返り ・運動・スポーツの実践で得たものをレポートにまとめる ・課題「運動・スポーツの習慣化に向けた運動プログラムの作成と実践」の提出 ・アンケート 復習：授業を通して成長した点をまとめて、これからの生活や活動にて活かす															
授業開始前学習		バレーボールの実践にふさわしい服装と室内運動靴の準備。															
授業内課題のフィードバックの方法		体力評価などの授業内課題の結果は、授業時に個別返却して総評を伝える。															
テキスト・教材		該当なし															
参考書		森田淳悟著：『わかりやすいバレーボールのルール』（成美堂出版）2011年 田中喜代次、大月直美、小澤多賀子編：『健幸華齢のためのスマートライフ』（サンライフ企画）2019年															
評価の基準と方法		成績評価：体力の評価15％、試合の戦績15％、課題の評価15％、到達目標に関するレポート15％および授業に対する姿勢や態度40％（チームキャプテンなどの役割10％、コートや用具の準備と片付け15％、試合の運営15％）															
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当				○		△		◎									
関連科目		スポーツⅡ															
その他																	
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容																	

科目分類	210-110-21	授業コード	G01021
科目名称	スポーツⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Physical Education II	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	小澤 多賀子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小澤 多賀子	開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:10 後期 金曜日 09:00～12:10	研究室	16-103
授業概要	バドミントンは、生涯にわたる健康や競技および娯楽という様々な点で優れたスポーツである。レジャー目的で行うバドミントンは、一定量を習慣的に行うことで体力の向上や健康の維持・改善効果が期待できる。本授業では、バドミントンを通じて楽しみながら体力づくり・健康づくりを実践することで、運動・スポーツが体力や健康に与える効果を理解することを目的とする。また、創造力・コミュニケーション力を養うとともに、自立して習慣的に体力づくり・健康づくりを実践する意識と能力を高める。		
到達目標	・習慣的な運動・スポーツが体力や健康に与える効果を理解する。 ・バドミントンの基本技術を習得する。 ・習慣的な運動・スポーツの重要性を認識し、自立して体力づくり・健康づくりを実践する意識と能力を高める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小澤 多賀子	【第 1 回】 予習：バドミントン実践にふさわしい服装と室内運動靴の準備 バドミントンのルールの下調べ 授業：講義 運動・スポーツ実践の意義と効果 ・バドミントンのルールの理解 ・アンケート 復習：準備した服装と室内運動靴が授業に適しているかの確認 運動・スポーツ実践の意義とその効果についての整理 バドミントンのルールの確認	
2	小澤 多賀子	【第 2 回】 予習：ラケットとシャトルの仕様の下調べ 授業：実習 バドミントン（１）ラケットとシャトルに慣れる（グループワーク） 復習：コートの準備方法とラケットやネットなどの保管場所の確認	
3	小澤 多賀子	【第 3 回】 予習：ストロークの方法の下調べ 授業：実習 バドミントン（２）ストロークの実践（グループワーク） 復習：ストロークの実践方法の確認	
4	小澤 多賀子	【第 4 回】 予習：サービスの打ち方の下調べ 授業：実習 バドミントン（３）サービスの打ち方とレシーブ（グループワーク） 復習：サービスの打ち方とレシーブの実践方法の確認	
5	小澤 多賀子	【第 5 回】 予習：スマッシュの打ち方の下調べ 授業：実習 バドミントン（４）スマッシュの打ち方とレシーブ（グループワーク） 復習：スマッシュの打ち方とレシーブの実践方法の確認	
6	小澤 多賀子	【第 6 回】 予習：シングルのゲームルールの下調べ 授業：実習 バドミントン（５）ゲームを楽しむ：シングルス①（グループワーク） 復習：シングルのゲームルールの確認	
7	小澤 多賀子	【第 7 回】 予習：ゲームで行いたいプレーの確認 授業：実習 バドミントン（６）ゲームを楽しむ：シングルス② リーグ戦（グループワーク） 復習：ゲームでの良かった点と改善点の振り返り	
8	小澤 多賀子	【第 8 回】 予習：ゲームで行いたいプレーの確認 授業：実習 バドミントン（７）ゲームを楽しむ：シングルス③ リーグ戦（グループワーク） 復習：ゲームでの良かった点と改善点の振り返り	
9	小澤 多賀子	【第 9 回】 予習：ダブルスのゲームルールの下調べ 授業：実習 バドミントン（８）ダブルス基本練習（グループワーク） 復習：ダブルスのゲームルールの確認	

10	小澤 多賀子	【第 10 回】 予習：ゲームで行いたいプレーの確認 授業：実習 バドミントン（9）ダブルス応用練習（グループワーク） 復習：ゲームで行いたいプレーの整理							
11	小澤 多賀子	【第 11 回】 予習：ゲームで行いたいプレーの確認 授業：実習 バドミントン（10）ゲームを楽しむ：ダブルス① リーグ戦（グループワーク） 復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とダブルスのペアでの振り返り							
12	小澤 多賀子	【第 12 回】 予習：バドミントンに必要な体力の下調べ 授業：実習 バドミントン（11）バドミントンに必要な技術と体力の評価 復習：技術と体力の変化の振り返り							
13	小澤 多賀子	【第 13 回】 予習：ゲームで行いたいプレーの確認 授業：実習 バドミントン（12）ゲームを楽しむ：ダブルス② リーグ戦（グループワーク） 復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とダブルスのペアでの振り返り							
14	小澤 多賀子	【第 14 回】 予習：団体戦で勝利するための作戦をチームで検討 授業：実習 バドミントン（13）ゲームを楽しむ：ダブルス③ 団体戦（グループワーク） 復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り							
15	小澤 多賀子	【第 15 回】 予習：これまでの授業の振り返り 授業：講義 授業の振り返り ・「身体活動不足の改善に向けた取り組みを考える」（グループワーク） ・運動・スポーツの実践で得たものをレポートにまとめる ・アンケート 復習：授業を通して成長した点をまとめて、これからの生活や活動にて活かす							
授業開始前学習		バドミントンの実践にふさわしい服装と室内運動靴の準備。							
授業内課題のフィードバックの方法		技術や体力評価などの授業内課題の結果は、授業時に個別返却して総評を伝える。							
テキスト・教材		該当なし							
参考書		阿部一佳、渡辺雅弘著：『基本レッスン バドミントン』（大修館書店）2002年 田中喜代次、大月直美、小澤多賀子編：『健幸華齢のためのスマートライフ』（サンライフ企画）2019年							
評価の基準と方法		成績評価：技術と体力レベルの評価15%、試合の戦績15%、課題の評価15%、到達目標に関するレポート15%および授業に対する姿勢や態度40%（チームキャプテンなどの役割10%、コートや用具の準備と片付け15%、試合の運営15%）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	△	◎				
関連科目		スポーツⅠ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-21	授業コード	G01111
科目名称	基礎ゼミ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar I	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	岡田 昌己	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岡田 昌己	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～13:00 後期 木曜日 09:00～13:00	研究室	4-201
授業概要	本講義では、要約、情報収集、レポート作成、発表の方法等を学習することにより、与えられた問題に対する調査を適切に行い、得られた情報をわかりやすいレポートとして報告できる技法について学ぶ。なお、本講義はプレゼンテーションやグループワークを含みます。		
到達目標	大学での学習を始めるにあたって必要とされる心構えや技法を身につけ、予習・復習等の自学自習を効率よく行えるようになることを目標とする。また、要約課題、インタビュー、レポート作成、個人発表等を通して「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作の習得を目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	岡田 昌己	【第 1 回】 予習：オリエンテーションで配布された各種資料を熟読する、自己紹介書を作成する 授業：授業の概要説明、「健康栄養学科に入学した理由」に関する発表について説明する 復習：発表原稿の作成	
2	岡田 昌己	【第 2 回】 予習：教科書 p.28-32 を読んでおく 授業：大学生活の基本マナーについて学ぶ（p.28-32） 復習：基本マナーに則り、メール送信の練習をする	
3	岡田 昌己	【第 3 回】 予習：作成した原稿を音読し、発表の練習を行う 授業：発表（1）：「健康栄養学科に入学した理由」について（p.56）（プレゼンテーション） 復習：自分の発表を振り返り、改善点をまとめる	
4	岡田 昌己	【第 4 回】 予習：教科書 p.70-78 を読み、どのような大学生活を送りたいかを考える 授業：講演（1）：大学生活を送るにあたっての心構えを学ぶ 復習：講演内容を振り返り、それに対する自分の考え・意見をまとめる	
5	岡田 昌己	【第 5 回】 予習：教科書 p.38-41 を読んでおく 授業：文章の要約：文章の要約を行う（p.38-41） 復習：練習問題を要約する	
6	岡田 昌己	【第 6 回】 予習：教科書 p.42-54 を読んでおく 授業：レポート：レポートの書き方、説明構成、情報収集法を学ぶ（p.42-54） 復習：レポート作成に使用する資料を図書館等で調べる	
7	岡田 昌己	【第 7 回】 予習：教科書 p.62-64 を読んでおく 授業：伝達・説明（1）：物事の捉え方や見方を学ぶ（p.62-64）（グループワーク） 復習：わかりやすい伝え方のポイントをレポートにまとめる	
8	岡田 昌己	【第 8 回】 予習：新聞などのインタビュー記事を読み、インタビューの方法を学ぶ 授業：情報収集（1）：取材の方法について学ぶ（p.42-45）（グループワーク） 復習：インタビュー内容や順序について整理しておく	
9	岡田 昌己	【第 9 回】 予習：インタビューを行うための心構えを確認する 授業：情報収集（2）：教職員への取材を行う（p.42-45）（グループワーク） 復習：インタビューで得た情報をもとに構成を考え、発表原稿を作成する	
10	岡田 昌己	【第 10 回】 予習：発表テーマについて、情報収集しておく 授業：発表準備：レジュメを作成し、発表の準備をする（p.56-61） 復習：レジュメを使用し、音読で発表練習をする	
11	岡田 昌己	【第 11 回】 予習：発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（2）：取材内容のグループ発表（グループワーク）（プレゼンテーション） 復習：自分たちの発表の良かった点、改善点についてまとめる	

12	岡田 昌己	【第 12 回】 予習：発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（3-1）：口頭発表（p.56）（プレゼンテーション） 復習：自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
13	岡田 昌己	【第 13 回】 予習：発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（3-2）：口頭発表（p.56）（プレゼンテーション） 復習：他の人の発表を聞いて、良い点、改善すべき点についてのアドバイスをレポートにまとめる							
14	岡田 昌己	【第 14 回】 予習：新聞、雑誌等で管理栄養士についての情報を集める 授業：講演（2）：管理栄養士について学ぶ（p.66-69,79-81） 復習：講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる							
15	岡田 昌己	【第 15 回】 予習：前回の授業の内容を見直す 授業：伝達・説明（2）：物事の捉え方や見方を学ぶ（p.62-64）（グループワーク） 復習：授業で新たに学んだ物事の捉え方について、レポートにまとめる							
授業開始前学習		授業前に『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』テキストの関連ページについて目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各授業での課題（講演の感想などを含む）を期限までに提出させ、ゼミの担当教員が添削（訂正）を行い、後日の授業で学生に返却する。また、返却の際には、間違いが多かった箇所、全体の評価等も指導する。							
テキスト・教材		『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』(駒沢女子大学教科書シリーズ)							
参考書		必要に応じて授業中に提示する。							
評価の基準と方法		課題等の提出状況 100%で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	○				
関連科目		大学で学ぶための基礎科目であるので、教養教育科目を含めた全科目							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-21	授業コード	G01112
科目名称	基礎ゼミ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar I	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	小澤 多賀子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小澤 多賀子	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:10 後期 金曜日 09:00～12:10	研究室	16-103
授業概要	本講義では、要約、情報収集、レポート作成、発表の方法等を学習することにより、与えられた問題に対する調査を適切に行い、得られた情報をわかりやすいレポートとして報告できる技法について学ぶ。なお、本講義はプレゼンテーションやグループワークを含みます。		
到達目標	大学での学習を始めるにあたって必要とされる心構えや技法を身につけ、予習・復習等の自学自習を効率よく行えるようになることを目標とする。また、要約課題、インタビュー、レポート作成、個人発表等を通して「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作の習得を目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小澤 多賀子	【第 1 回】 予習：オリエンテーションで配布された各種資料を熟読する、自己紹介書を作成する 授業：授業の概要説明、「健康栄養学科に入学した理由」に関する発表について説明する 復習：発表原稿の作成	
2	小澤 多賀子	【第 2 回】 予習：教科書 p.28-32 を読んでおく 授業：大学生活の基本マナーについて学ぶ（p.28-32） 復習：基本マナーに則り、メール送信の練習をする	
3	小澤 多賀子	【第 3 回】 予習：作成した原稿を音読し、発表の練習を行う 授業：発表（1）：「健康栄養学科に入学した理由」について（p.56）（プレゼンテーション） 復習：自分の発表を振り返り、改善点をまとめる	
4	小澤 多賀子	【第 4 回】 予習：教科書 p.70-78 を読み、どのような大学生活を送りたいかを考える 授業：講演（1）：大学生活を送るにあたっての心構えを学ぶ 復習：講演内容を振り返り、それに対する自分の考え・意見をまとめる	
5	小澤 多賀子	【第 5 回】 予習：教科書 p.38-41 を読んでおく 授業：文章の要約：文章の要約を行う（p.38-41） 復習：練習問題を要約する	
6	小澤 多賀子	【第 6 回】 予習：教科書 p.42-54 を読んでおく 授業：レポート：レポートの書き方、説明構成、情報収集法を学ぶ（p.42-54） 復習：レポート作成に使用する資料を図書館等で調べる	
7	小澤 多賀子	【第 7 回】 予習：教科書 p.62-64 を読んでおく 授業：伝達・説明（1）：物事の捉え方や見方を学ぶ（p.62-64）（グループワーク） 復習：わかりやすい伝え方のポイントをレポートにまとめる	
8	小澤 多賀子	【第 8 回】 予習：新聞などのインタビュー記事を読み、インタビューの方法を学ぶ 授業：情報収集（1）：取材の方法について学ぶ（p.42-45）（グループワーク） 復習：インタビュー内容や順序について整理しておく	
9	小澤 多賀子	【第 9 回】 予習：インタビューを行うための心構えを確認する 授業：情報収集（2）：教職員への取材を行う（p.42-45）（グループワーク） 復習：インタビューで得た情報をもとに構成を考え、発表原稿を作成する	
10	小澤 多賀子	【第 10 回】 予習：発表テーマについて、情報収集しておく 授業：発表準備：レジュメを作成し、発表の準備をする（p.56-61） 復習：レジュメを使用し、音読で発表練習をする	
11	小澤 多賀子	【第 11 回】 予習：発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（2）：取材内容のグループ発表（グループワーク）（プレゼンテーション） 復習：自分たちの発表の良かった点、改善点についてまとめる	

12	小澤 多賀子	【第 12 回】 予習：発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（3-1）：口頭発表（p.56）（プレゼンテーション） 復習：自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
13	小澤 多賀子	【第 13 回】 予習：発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（3-2）：口頭発表（p.56）（プレゼンテーション） 復習：他の人の発表を聞いて、良い点、改善すべき点についてのアドバイスをレポートにまとめる							
14	小澤 多賀子	【第 14 回】 予習：新聞、雑誌等で管理栄養士についての情報を集める 授業：講演（2）：管理栄養士について学ぶ（p.66-69,79-81） 復習：講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる							
15	小澤 多賀子	【第 15 回】 予習：前回の授業の内容を見直す 授業：伝達・説明（2）：物事の捉え方や見方を学ぶ（p.62-64）（グループワーク） 復習：授業で新たに学んだ物事の捉え方について、レポートにまとめる							
授業開始前学習		授業前に『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』テキストの関連ページについて目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各授業での課題（講演の感想などを含む）を期限までに提出させ、ゼミの担当教員が添削（訂正）を行い、後日の授業で学生に返却する。また、返却の際には、間違いが多かった箇所、全体の評価等も指導する。							
テキスト・教材		『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』(駒沢女子大学教科書シリーズ)							
参考書		必要に応じて授業中に提示する。							
評価の基準と方法		課題等の提出状況 100%で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	○				
関連科目		大学で学ぶための基礎科目であるので、教養教育科目を含めた全科目							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-21	授業コード	G01113
科目名称	基礎ゼミⅠ	単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar I	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	田崎 仁美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田崎 仁美	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 13:00～16:00	研究室	4-204
授業概要	本講義では、要約、情報収集、レポート作成、発表の方法等を学習することにより、与えられた問題に対する調査を適切に行い、得られた情報をわかりやすいレポートとして報告できる技法について学ぶ。なお、本講義はプレゼンテーションやグループワークを含みます。		
到達目標	大学での学習を始めるにあたって必要とされる心構えや技法を身につけ、予習・復習等の自学自習を効率よく行えるようになることを目標とする。また、要約課題、インタビュー、レポート作成、個人発表等を通して「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作の習得を目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田崎 仁美	【第 1 回】 予習：オリエンテーションで配布された各種資料を熟読する、自己紹介書を作成する 授業：授業の概要説明、「健康栄養学科に入学した理由」に関する発表について説明する 復習：発表原稿の作成	
2	田崎 仁美	【第 2 回】 予習：教科書 p.28-32 を読んでおく 授業：大学生活の基本マナーについて学ぶ（p.28-32） 復習：基本マナーに則り、メール送信の練習をする	
3	田崎 仁美	【第 3 回】 予習：作成した原稿を音読し、発表の練習を行う 授業：発表（1）：「健康栄養学科に入学した理由」について（p.56）（プレゼンテーション） 復習：自分の発表を振り返り、改善点をまとめる	
4	田崎 仁美	【第 4 回】 予習：教科書 p.70-78 を読み、どのような大学生活を送りたいかを考える 授業：講演（1）：大学生活を送るにあたっての心構えを学ぶ 復習：講演内容を振り返り、それに対する自分の考え・意見をまとめる	
5	田崎 仁美	【第 5 回】 予習：教科書 p.38-41 を読んでおく 授業：文章の要約：文章の要約を行う（p.38-41） 復習：練習問題を要約する	
6	田崎 仁美	【第 6 回】 予習：教科書 p.42-54 を読んでおく 授業：レポート：レポートの書き方、説明構成、情報収集法を学ぶ（p.42-54） 復習：レポート作成に使用する資料を図書館等で調べる	
7	田崎 仁美	【第 7 回】 予習：教科書 p.62-64 を読んでおく 授業：伝達・説明（1）：物事の捉え方や見方を学ぶ（p.62-64）（グループワーク） 復習：わかりやすい伝え方のポイントをレポートにまとめる	
8	田崎 仁美	【第 8 回】 予習：新聞などのインタビュー記事を読み、インタビューの方法を学ぶ 授業：情報収集（1）：取材の方法について学ぶ（p.42-45）（グループワーク） 復習：インタビュー内容や順序について整理しておく	
9	田崎 仁美	【第 9 回】 予習：インタビューを行うための心構えを確認する 授業：情報収集（2）：教職員への取材を行う（p.42-45）（グループワーク） 復習：インタビューで得た情報をもとに構成を考え、発表原稿を作成する	
10	田崎 仁美	【第 10 回】 予習：発表テーマについて、情報収集しておく 授業：発表準備：レジュメを作成し、発表の準備をする（p.56-61） 復習：レジュメを使用し、音読で発表練習をする	
11	田崎 仁美	【第 11 回】 予習：発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（2）：取材内容のグループ発表（グループワーク）（プレゼンテーション） 復習：自分たちの発表の良かった点、改善点についてまとめる	

12	田崎 仁美	【第 12 回】 予習：発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（3-1）：口頭発表（p.56）（プレゼンテーション） 復習：自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
13	田崎 仁美	【第 13 回】 予習：発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（3-2）：口頭発表（p.56）（プレゼンテーション） 復習：他の人の発表を聞いて、良い点、改善すべき点についてのアドバイスをレポートにまとめる							
14	田崎 仁美	【第 14 回】 予習：新聞、雑誌等で管理栄養士についての情報を集める 授業：講演（2）：管理栄養士について学ぶ（p.66-69,79-81） 復習：講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる							
15	田崎 仁美	【第 15 回】 予習：前回の授業の内容を見直す 授業：伝達・説明（2）：物事の捉え方や見方を学ぶ（p.62-64）（グループワーク） 復習：授業で新たに学んだ物事の捉え方について、レポートにまとめる							
授業開始前学習		授業前に『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』テキストの関連ページについて目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各授業での課題（講演の感想などを含む）を期限までに提出させ、ゼミの担当教員が添削（訂正）を行い、後日の授業で学生に返却する。また、返却の際には、間違いが多かった箇所、全体の評価等も指導する。							
テキスト・教材		『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』(駒沢女子大学教科書シリーズ)							
参考書		必要に応じて授業中に提示する。							
評価の基準と方法		課題等の提出状況 100%で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	○				
関連科目		大学で学ぶための基礎科目であるので、教養教育科目を含めた全科目							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-21	授業コード	G01114
科目名称	基礎ゼミⅠ	単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar I	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	松本 雄宇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松本 雄宇	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:10 後期 火曜日 13:00～16:10	研究室	4-103
授業概要	本講義では、要約、情報収集、レポート作成、発表の方法等を学習することにより、与えられた問題に対する調査を適切に行い、得られた情報をわかりやすいレポートとして報告できる技法について学ぶ。なお、本講義はプレゼンテーションやグループワークを含みます。		
到達目標	大学での学習を始めるにあたって必要とされる心構えや技法を身につけ、予習・復習等の自学自習を効率よく行えるようになることを目標とする。また、要約課題、インタビュー、レポート作成、個人発表等を通して「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作の習得を目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松本 雄宇	【第 1 回】 予習：オリエンテーションで配布された各種資料を熟読する、自己紹介書を作成する 授業：授業の概要説明、「健康栄養学科に入学した理由」に関する発表について説明する 復習：発表原稿の作成	
2	松本 雄宇	【第 2 回】 予習：教科書 p.28-32 を読んでおく 授業：大学生活の基本マナーについて学ぶ（p.28-32） 復習：基本マナーに則り、メール送信の練習をする	
3	松本 雄宇	【第 3 回】 予習：作成した原稿を音読し、発表の練習を行う 授業：発表（1）：「健康栄養学科に入学した理由」について（p.56）（プレゼンテーション） 復習：自分の発表を振り返り、改善点をまとめる	
4	松本 雄宇	【第 4 回】 予習：教科書 p.70-78 を読み、どのような大学生活を送りたいかを考える 授業：講演（1）：大学生活を送るにあたっての心構えを学ぶ 復習：講演内容を振り返り、それに対する自分の考え・意見をまとめる	
5	松本 雄宇	【第 5 回】 予習：教科書 p.38-41 を読んでおく 授業：文章の要約：文章の要約を行う（p.38-41） 復習：練習問題を要約する	
6	松本 雄宇	【第 6 回】 予習：教科書 p.42-54 を読んでおく 授業：レポート：レポートの書き方、説明構成、情報収集法を学ぶ（p.42-54） 復習：レポート作成に使用する資料を図書館等で調べる	
7	松本 雄宇	【第 7 回】 予習：教科書 p.62-64 を読んでおく 授業：伝達・説明（1）：物事の捉え方や見方を学ぶ（p.62-64）（グループワーク） 復習：わかりやすい伝え方のポイントをレポートにまとめる	
8	松本 雄宇	【第 8 回】 予習：新聞などのインタビュー記事を読み、インタビューの方法を学ぶ 授業：情報収集（1）：取材の方法について学ぶ（p.42-45）（グループワーク） 復習：インタビュー内容や順序について整理しておく	
9	松本 雄宇	【第 9 回】 予習：インタビューを行うための心構えを確認する 授業：情報収集（2）：教職員への取材を行う（p.42-45）（グループワーク） 復習：インタビューで得た情報をもとに構成を考え、発表原稿を作成する	
10	松本 雄宇	【第 10 回】 予習：発表テーマについて、情報収集しておく 授業：発表準備：レジュメを作成し、発表の準備をする（p.56-61） 復習：レジュメを使用し、音読で発表練習をする	
11	松本 雄宇	【第 11 回】 予習：発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（2）：取材内容のグループ発表（グループワーク）（プレゼンテーション） 復習：自分たちの発表の良かった点、改善点についてまとめる	

12	松本 雄宇	【第 12 回】 予習 : 発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (3-1) : 口頭発表 (p.56) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
13	松本 雄宇	【第 13 回】 予習 : 発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (3-2) : 口頭発表 (p.56) (プレゼンテーション) 復習 : 他の人の発表を聞いて、良い点、改善すべき点についてのアドバイスをレポートにまとめる							
14	松本 雄宇	【第 14 回】 予習 : 新聞、雑誌等で管理栄養士についての情報を集める 授業 : 講演 (2) : 管理栄養士について学ぶ (p.66-69,79-81) 復習 : 講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる							
15	松本 雄宇	【第 15 回】 予習 : 前回の授業の内容を見直す 授業 : 伝達・説明 (2) : 物事の捉え方や見方を学ぶ (p.62-64) (グループワーク) 復習 : 授業で新たに学んだ物事の捉え方について、レポートにまとめる							
授業開始前学習		授業前に『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』テキストの関連ページについて目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各授業での課題（講演の感想などを含む）を期限までに提出させ、ゼミの担当教員が添削（訂正）を行い、後日の授業で学生に返却する。また、返却の際には、間違いが多かった箇所、全体の評価等も指導する。							
テキスト・教材		『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』(駒沢女子大学教科書シリーズ)							
参考書		必要に応じて授業中に提示する。							
評価の基準と方法		課題等の提出状況 100%で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	○				
関連科目		大学で学ぶための基礎科目であるので、教養教育科目を含めた全科目							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-21	授業コード	G01115
科目名称	基礎ゼミ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar I	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	松森 慎悟	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松森 慎悟	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	4-116
授業概要	本講義では、要約、情報収集、レポート作成、発表の方法等を学習することにより、与えられた問題に対する調査を適切に行い、得られた情報をわかりやすいレポートとして報告できる技法について学ぶ。なお、本講義はプレゼンテーションやグループワークを含みます。		
到達目標	大学での学習を始めるにあたって必要とされる心構えや技法を身につけ、予習・復習等の自学自習を効率よく行えるようになることを目標とする。また、要約課題、インタビュー、レポート作成、個人発表等を通して「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作の習得を目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松森 慎悟	【第 1 回】 予習：オリエンテーションで配布された各種資料を熟読する、自己紹介書を作成する 授業：授業の概要説明、「健康栄養学科に入学した理由」に関する発表について説明する 復習：発表原稿の作成	
2	松森 慎悟	【第 2 回】 予習：教科書 p.28-32 を読んでおく 授業：大学生活の基本マナーについて学ぶ（p.28-32） 復習：基本マナーに則り、メール送信の練習をする	
3	松森 慎悟	【第 3 回】 予習：作成した原稿を音読し、発表の練習を行う 授業：発表（1）：「健康栄養学科に入学した理由」について（p.56）（プレゼンテーション） 復習：自分の発表を振り返り、改善点をまとめる	
4	松森 慎悟	【第 4 回】 予習：教科書 p.70-78 を読み、どのような大学生活を送りたいかを考える 授業：講演（1）：大学生活を送るにあたっての心構えを学ぶ 復習：講演内容を振り返り、それに対する自分の考え・意見をまとめる	
5	松森 慎悟	【第 5 回】 予習：教科書 p.38-41 を読んでおく 授業：文章の要約：文章の要約を行う（p.38-41） 復習：練習問題を要約する	
6	松森 慎悟	【第 6 回】 予習：教科書 p.42-54 を読んでおく 授業：レポート：レポートの書き方、説明構成、情報収集法を学ぶ（p.42-54） 復習：レポート作成に使用する資料を図書館等で調べる	
7	松森 慎悟	【第 7 回】 予習：教科書 p.62-64 を読んでおく 授業：伝達・説明（1）：物事の捉え方や見方を学ぶ（p.62-64）（グループワーク） 復習：わかりやすい伝え方のポイントをレポートにまとめる	
8	松森 慎悟	【第 8 回】 予習：新聞などのインタビュー記事を読み、インタビューの方法を学ぶ 授業：情報収集（1）：取材の方法について学ぶ（p.42-45）（グループワーク） 復習：インタビュー内容や順序について整理しておく	
9	松森 慎悟	【第 9 回】 予習：インタビューを行うための心構えを確認する 授業：情報収集（2）：教職員への取材を行う（p.42-45）（グループワーク） 復習：インタビューで得た情報をもとに構成を考え、発表原稿を作成する	
10	松森 慎悟	【第 10 回】 予習：発表テーマについて、情報収集しておく 授業：発表準備：レジュメを作成し、発表の準備をする（p.56-61） 復習：レジュメを使用し、音読で発表練習をする	
11	松森 慎悟	【第 11 回】 予習：発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（2）：取材内容のグループ発表（グループワーク）（プレゼンテーション） 復習：自分たちの発表の良かった点、改善点についてまとめる	

12	松森 慎悟	【第 12 回】 予習：発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（3-1）：口頭発表（p.56）（プレゼンテーション） 復習：自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
13	松森 慎悟	【第 13 回】 予習：発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（3-2）：口頭発表（p.56）（プレゼンテーション） 復習：他の人の発表を聞いて、良い点、改善すべき点についてのアドバイスをレポートにまとめる							
14	松森 慎悟	【第 14 回】 予習：新聞、雑誌等で管理栄養士についての情報を集める 授業：講演（2）：管理栄養士について学ぶ（p.66-69,79-81） 復習：講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる							
15	松森 慎悟	【第 15 回】 予習：前回の授業の内容を見直す 授業：伝達・説明（2）：物事の捉え方や見方を学ぶ（p.62-64）（グループワーク） 復習：授業で新たに学んだ物事の捉え方について、レポートにまとめる							
授業開始前学習		授業前に『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』テキストの関連ページについて目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各授業での課題（講演の感想などを含む）を期限までに提出させ、ゼミの担当教員が添削（訂正）を行い、後日の授業で学生に返却する。また、返却の際には、間違いが多かった箇所、全体の評価等も指導する。							
テキスト・教材		『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』（駒沢女子大学教科書シリーズ）							
参考書		必要に応じて授業中に提示する。							
評価の基準と方法		課題等の提出状況 100%で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	○				
関連科目		大学で学ぶための基礎科目であるので、教養教育科目を含めた全科目							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-21	授業コード	G01116
科目名称	基礎ゼミ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar I	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	吉野 菜穂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	吉野 菜穂子	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	4-202
授業概要	本講義では、要約、情報収集、レポート作成、発表の方法等を学習することにより、与えられた問題に対する調査を適切に行い、得られた情報をわかりやすいレポートとして報告できる技法について学ぶ。なお、本講義はプレゼンテーションやグループワークを含みます。		
到達目標	大学での学習を始めるにあたって必要とされる心構えや技法を身につけ、予習・復習等の自学自習を効率よく行えるようになることを目標とする。また、要約課題、インタビュー、レポート作成、個人発表等を通して「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作の習得を目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	吉野 菜穂子	【第 1 回】 予習：オリエンテーションで配布された各種資料を熟読する、自己紹介書を作成する 授業：授業の概要説明、「健康栄養学科に入学した理由」に関する発表について説明する 復習：発表原稿の作成	
2	吉野 菜穂子	【第 2 回】 予習：教科書 p.28-32 を読んでおく 授業：大学生活の基本マナーについて学ぶ (p.28-32) 復習：基本マナーに則り、メール送信の練習をする	
3	吉野 菜穂子	【第 3 回】 予習：作成した原稿を音読し、発表の練習を行う 授業：発表 (1)：「健康栄養学科に入学した理由」について (p.56) (プレゼンテーション) 復習：自分の発表を振り返り、改善点をまとめる	
4	吉野 菜穂子	【第 4 回】 予習：教科書 p.70-78 を読み、どのような大学生活を送りたいかを考える 授業：講演 (1)：大学生活を送るにあたっての心構えを学ぶ 復習：講演内容を振り返り、それに対する自分の考え・意見をまとめる	
5	吉野 菜穂子	【第 5 回】 予習：教科書 p.38-41 を読んでおく 授業：文章の要約：文章の要約を行う (p.38-41) 復習：練習問題を要約する	
6	吉野 菜穂子	【第 6 回】 予習：教科書 p.42-54 を読んでおく 授業：レポート：レポートの書き方、説明構成、情報収集法を学ぶ (p.42-54) 復習：レポート作成に使用する資料を図書館等で調べる	
7	吉野 菜穂子	【第 7 回】 予習：教科書 p.62-64 を読んでおく 授業：伝達・説明 (1)：物事の捉え方や見方を学ぶ (p.62-64) (グループワーク) 復習：わかりやすい伝え方のポイントをレポートにまとめる	
8	吉野 菜穂子	【第 8 回】 予習：新聞などのインタビュー記事を読み、インタビューの方法を学ぶ 授業：情報収集 (1)：取材の方法について学ぶ (p.42-45) (グループワーク) 復習：インタビュー内容や順序について整理しておく	
9	吉野 菜穂子	【第 9 回】 予習：インタビューを行うための心構えを確認する 授業：情報収集 (2)：教職員への取材を行う (p.42-45) (グループワーク) 復習：インタビューで得た情報をもとに構成を考え、発表原稿を作成する	
10	吉野 菜穂子	【第 10 回】 予習：発表テーマについて、情報収集しておく 授業：発表準備：レジュメを作成し、発表の準備をする (p.56-61) 復習：レジュメを使用し、音読で発表練習をする	
11	吉野 菜穂子	【第 11 回】 予習：発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表 (2)：取材内容のグループ発表 (グループワーク) (プレゼンテーション) 復習：自分たちの発表の良かった点、改善点についてまとめる	

12	吉野 菜穂子	【第 12 回】 予習：発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（3-1）：口頭発表（p.56）（プレゼンテーション） 復習：自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
13	吉野 菜穂子	【第 13 回】 予習：発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（3-2）：口頭発表（p.56）（プレゼンテーション） 復習：他の人の発表を聞いて、良い点、改善すべき点についてのアドバイスをレポートにまとめる							
14	吉野 菜穂子	【第 14 回】 予習：新聞、雑誌等で管理栄養士についての情報を集める 授業：講演（2）：管理栄養士について学ぶ（p.66-69,79-81） 復習：講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる							
15	吉野 菜穂子	【第 15 回】 予習：前回の授業の内容を見直す 授業：伝達・説明（2）：物事の捉え方や見方を学ぶ（p.62-64）（グループワーク） 復習：授業で新たに学んだ物事の捉え方について、レポートにまとめる							
授業開始前学習		授業前に『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』テキストの関連ページについて目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各授業での課題（講演の感想などを含む）を期限までに提出させ、ゼミの担当教員が添削（訂正）を行い、後日の授業で学生に返却する。また、返却の際には、間違いが多かった箇所、全体の評価等も指導する。							
テキスト・教材		『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』(駒沢女子大学教科書シリーズ)							
参考書		必要に応じて授業中に提示する。							
評価の基準と方法		課題等の提出状況 100%で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	○				
関連科目		大学で学ぶための基礎科目であるので、教養教育科目を含めた全科目							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-21	授業コード	G01121
科目名称	基礎ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar II	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	岡田 昌己	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岡田 昌己	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～13:00 後期 木曜日 09:00～13:00	研究室	4-201
授業概要	本講義では、基礎ゼミⅠで学習した「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作について引き続き要約課題、レポート作成、グループ課題を通して学ぶ。特に、基礎ゼミⅡでは『話す』という基本動作に重点を置き、個人発表やグループワーク課題を通して他者にわかりやすく情報を伝達する技法について学ぶ。なお、本講義はプレゼンテーション、グループワーク等を含みます。		
到達目標	「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作の習得と、管理栄養士・栄養士に対する理解を深めながら、基本的知識を習得することを目標とする。2 年次から開始される専門教育への導入科目となる授業を展開し、大学における学習の基礎を確立する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	岡田 昌己	【第 1 回】 予習 : 教科書 p.36-64 を読んでおく 授業 : ガイダンス : 授業の概要説明 復習 : 発表に使用する資料を図書館等で調べる	
2	岡田 昌己	【第 2 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : 文章の要約 (1) (p.40-41、p.57-61) 復習 : 練習問題を要約する	
3	岡田 昌己	【第 3 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : グループ活動 (1) : 文章の要約 (2) (p.40-41、p.57-61) (グループワーク) 復習 : 練習問題を要約する	
4	岡田 昌己	【第 4 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : 文章の要約 (3) (p.40-41、p.57-61) 復習 : 練習問題を要約する	
5	岡田 昌己	【第 5 回】 予習 : 新聞、書籍等で管理栄養士についての情報を集める 授業 : 講演 (1) 管理栄養士について学ぶ (p.66-81) 復習 : 講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる	
6	岡田 昌己	【第 6 回】 予習 : 発表のテーマについて資料を集める 授業 : 発表 (1) の準備 : レジュメを作成し、発表の練習をする (p.56-61) 復習 : 発表原稿を推敲し、音読の練習を行う	
7	岡田 昌己	【第 7 回】 予習 : 新聞、書籍等で管理栄養士についての情報を集める 授業 : 講演 (2) 管理栄養士について学ぶ (p.66-81) 復習 : 講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる	
8	岡田 昌己	【第 8 回】 予習 : 発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (1) : 口頭発表 (p.56-61) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる	
9	岡田 昌己	【第 9 回】 予習 : 発表のテーマについて資料を集める 授業 : 発表 (2) の準備 : レジュメを作成し、発表の練習をする (p.56-61) 復習 : 発表原稿を推敲し、音読の練習を行う	
10	岡田 昌己	【第 10 回】 予習 : グループ活動について学ぶ (p.62-64) 授業 : グループ活動 (2) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : グループ活動における自分の役割について振り返る	
11	岡田 昌己	【第 11 回】 予習 : グループ活動における自分の役割について、目標を考えておく 授業 : グループ活動 (3) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : 自分のグループや他のグループの良かった点、改善点についてまとめる	

12	岡田 昌己	【第 12 回】 予習 : 発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (2-1) : 口頭発表 (p.56) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
13	岡田 昌己	【第 13 回】 予習 : グループ活動における自分の役割について、目標を考えておく 授業 : グループ活動 (4) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : 自分のグループや他のグループの良かった点、改善点についてまとめる							
14	岡田 昌己	【第 14 回】 予習 : 発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (2-2) : 口頭発表 (p.56) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
15	岡田 昌己	【第 15 回】 予習 : スムーズにグループ活動が行えるよう準備しておく 授業 : グループ活動 (5) : 基礎ゼミⅡの振り返り (p.62-64) (グループワーク) 復習 : グループ活動において大事なことをまとめる							
授業開始前学習		授業前に『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』テキストの関連ページについて目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各授業での課題（講演の感想などを含む）を期限までに提出させ、ゼミの担当教員が添削（訂正）を行い、後日の授業で学生に返却する。また、返却の際には、間違いが多かった箇所、全体の評価等も指導する。							
テキスト・教材		『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』(駒沢女子大学 教科書シリーズ)							
参考書		必要に応じて授業中に提示する。							
評価の基準と方法		課題等の提出状況 100%で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	○				
関連科目		大学で学ぶための基礎科目であるので、教養教育科目を含めた全科目。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-21	授業コード	G01122
科目名称	基礎ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar II	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	小澤 多賀子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小澤 多賀子	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:10 後期 金曜日 09:00～12:10	研究室	16-103
授業概要	本講義では、基礎ゼミⅠで学習した「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作について引き続き要約課題、レポート作成、グループ課題を通して学ぶ。特に、基礎ゼミⅡでは『話す』という基本動作に重点を置き、個人発表やグループワーク課題を通して他者にわかりやすく情報を伝達する技法について学ぶ。なお、本講義はプレゼンテーション、グループワーク等を含みます。		
到達目標	「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作の習得と、管理栄養士・栄養士に対する理解を深めながら、基本的知識を習得することを目標とする。2 年次から開始される専門教育への導入科目となる授業を展開し、大学における学習の基礎を確立する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小澤 多賀子	【第 1 回】 予習 : 教科書 p.36-64 を読んでおく 授業 : ガイダンス : 授業の概要説明 復習 : 発表に使用する資料を図書館等で調べる	
2	小澤 多賀子	【第 2 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : 文章の要約 (1) (p.40-41、p.57-61) 復習 : 練習問題を要約する	
3	小澤 多賀子	【第 3 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : グループ活動 (1) : 文章の要約 (2) (p.40-41、p.57-61) (グループワーク) 復習 : 練習問題を要約する	
4	小澤 多賀子	【第 4 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : 文章の要約 (3) (p.40-41、p.57-61) 復習 : 練習問題を要約する	
5	小澤 多賀子	【第 5 回】 予習 : 新聞、書籍等で管理栄養士についての情報を集める 授業 : 講演 (1) 管理栄養士について学ぶ (p.66-81) 復習 : 講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる	
6	小澤 多賀子	【第 6 回】 予習 : 発表のテーマについて資料を集める 授業 : 発表 (1) の準備 : レジューメを作成し、発表の練習をする (p.56-61) 復習 : 発表原稿を推敲し、音読の練習を行う	
7	小澤 多賀子	【第 7 回】 予習 : 新聞、書籍等で管理栄養士についての情報を集める 授業 : 講演 (2) 管理栄養士について学ぶ (p.66-81) 復習 : 講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる	
8	小澤 多賀子	【第 8 回】 予習 : 発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (1) : 口頭発表 (p.56-61) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる	
9	小澤 多賀子	【第 9 回】 予習 : 発表のテーマについて資料を集める 授業 : 発表 (2) の準備 : レジューメを作成し、発表の練習をする (p.56-61) 復習 : 発表原稿を推敲し、音読の練習を行う	
10	小澤 多賀子	【第 10 回】 予習 : グループ活動について学ぶ (p.62-64) 授業 : グループ活動 (2) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : グループ活動における自分の役割について振り返る	
11	小澤 多賀子	【第 11 回】 予習 : グループ活動における自分の役割について、目標を考えておく 授業 : グループ活動 (3) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : 自分のグループや他のグループの良かった点、改善点についてまとめる	

12	小澤 多賀子	【第 12 回】 予習 : 発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (2-1) : 口頭発表 (p.56) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
13	小澤 多賀子	【第 13 回】 予習 : グループ活動における自分の役割について、目標を考えておく 授業 : グループ活動 (4) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : 自分のグループや他のグループの良かった点、改善点についてまとめる							
14	小澤 多賀子	【第 14 回】 予習 : 発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (2-2) : 口頭発表 (p.56) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
15	小澤 多賀子	【第 15 回】 予習 : スムーズにグループ活動が行えるよう準備しておく 授業 : グループ活動 (5) : 基礎ゼミⅡの振り返り (p.62-64) (グループワーク) 復習 : グループ活動において大事なことをまとめる							
授業開始前学習		授業前に『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』テキストの関連ページについて目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各授業での課題 (講演の感想などを含む) を期限までに提出させ、ゼミの担当教員が添削 (訂正) を行い、後日の授業で学生に返却する。また、返却の際には、間違いが多かった箇所、全体の評価等も指導する。							
テキスト・教材		『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』(駒沢女子大学 教科書シリーズ)							
参考書		必要に応じて授業中に提示する。							
評価の基準と方法		課題等の提出状況 100%で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	○				
関連科目		大学で学ぶための基礎科目であるので、教養教育科目を含めた全科目。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-21	授業コード	G01123
科目名称	基礎ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar II	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	田崎 仁美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田崎 仁美	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 13:00～16:00	研究室	4-204
授業概要	本講義では、基礎ゼミⅠで学習した「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作について引き続き要約課題、レポート作成、グループ課題を通して学ぶ。特に、基礎ゼミⅡでは『話す』という基本動作に重点を置き、個人発表やグループワーク課題を通して他者にわかりやすく情報を伝達する技法について学ぶ。なお、本講義はプレゼンテーション、グループワーク等を含みます。		
到達目標	「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作の習得と、管理栄養士・栄養士に対する理解を深めながら、基本的知識を習得することを目標とする。2 年次から開始される専門教育への導入科目となる授業を展開し、大学における学習の基礎を確立する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田崎 仁美	【第 1 回】 予習 : 教科書 p.36-64 を読んでおく 授業 : ガイダンス : 授業の概要説明 復習 : 発表に使用する資料を図書館等で調べる	
2	田崎 仁美	【第 2 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : 文章の要約 (1) (p.40-41、p.57-61) 復習 : 練習問題を要約する	
3	田崎 仁美	【第 3 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : グループ活動 (1) : 文章の要約 (2) (p.40-41、p.57-61) (グループワーク) 復習 : 練習問題を要約する	
4	田崎 仁美	【第 4 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : 文章の要約 (3) (p.40-41、p.57-61) 復習 : 練習問題を要約する	
5	田崎 仁美	【第 5 回】 予習 : 新聞、書籍等で管理栄養士についての情報を集める 授業 : 講演 (1) 管理栄養士について学ぶ (p.66-81) 復習 : 講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる	
6	田崎 仁美	【第 6 回】 予習 : 発表のテーマについて資料を集める 授業 : 発表 (1) の準備 : レジューメを作成し、発表の練習をする (p.56-61) 復習 : 発表原稿を推敲し、音読の練習を行う	
7	田崎 仁美	【第 7 回】 予習 : 新聞、書籍等で管理栄養士についての情報を集める 授業 : 講演 (2) 管理栄養士について学ぶ (p.66-81) 復習 : 講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる	
8	田崎 仁美	【第 8 回】 予習 : 発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (1) : 口頭発表 (p.56-61) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる	
9	田崎 仁美	【第 9 回】 予習 : 発表のテーマについて資料を集める 授業 : 発表 (2) の準備 : レジューメを作成し、発表の練習をする (p.56-61) 復習 : 発表原稿を推敲し、音読の練習を行う	
10	田崎 仁美	【第 10 回】 予習 : グループ活動について学ぶ (p.62-64) 授業 : グループ活動 (2) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : グループ活動における自分の役割について振り返る	
11	田崎 仁美	【第 11 回】 予習 : グループ活動における自分の役割について、目標を考えておく 授業 : グループ活動 (3) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : 自分のグループや他のグループの良かった点、改善点についてまとめる	

12	田崎 仁美	【第 12 回】 予習 : 発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (2-1) : 口頭発表 (p.56) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
13	田崎 仁美	【第 13 回】 予習 : グループ活動における自分の役割について、目標を考えておく 授業 : グループ活動 (4) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : 自分のグループや他のグループの良かった点、改善点についてまとめる							
14	田崎 仁美	【第 14 回】 予習 : 発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (2-2) : 口頭発表 (p.56) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
15	田崎 仁美	【第 15 回】 予習 : スムーズにグループ活動が行えるよう準備しておく 授業 : グループ活動 (5) : 基礎ゼミⅡの振り返り (p.62-64) (グループワーク) 復習 : グループ活動において大事なことをまとめる							
授業開始前学習		授業前に『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』テキストの関連ページについて目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各授業での課題（講演の感想などを含む）を期限までに提出させ、ゼミの担当教員が添削（訂正）を行い、後日の授業で学生に返却する。また、返却の際には、間違いが多かった箇所、全体の評価等も指導する。							
テキスト・教材		『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』(駒沢女子大学 教科書シリーズ)							
参考書		必要に応じて授業中に提示する。							
評価の基準と方法		課題等の提出状況 100%で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	○				
関連科目		大学で学ぶための基礎科目であるので、教養教育科目を含めた全科目。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-21	授業コード	G01124
科目名称	基礎ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar II	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	松本 雄宇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松本 雄宇	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:10 後期 火曜日 13:00～16:10	研究室	4-103
授業概要	本講義では、基礎ゼミⅠで学習した「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作について引き続き要約課題、レポート作成、グループ課題を通して学ぶ。特に、基礎ゼミⅡでは『話す』という基本動作に重点を置き、個人発表やグループワーク課題を通して他者にわかりやすく情報を伝達する技法について学ぶ。なお、本講義はプレゼンテーション、グループワーク等を含みます。		
到達目標	「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作の習得と、管理栄養士・栄養士に対する理解を深めながら、基本的知識を習得することを目標とする。2 年次から開始される専門教育への導入科目となる授業を展開し、大学における学習の基礎を確立する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松本 雄宇	【第 1 回】 予習 : 教科書 p.36-64 を読んでおく 授業 : ガイダンス : 授業の概要説明 復習 : 発表に使用する資料を図書館等で調べる	
2	松本 雄宇	【第 2 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : 文章の要約 (1) (p.40-41、p.57-61) 復習 : 練習問題を要約する	
3	松本 雄宇	【第 3 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : グループ活動 (1) : 文章の要約 (2) (p.40-41、p.57-61) (グループワーク) 復習 : 練習問題を要約する	
4	松本 雄宇	【第 4 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : 文章の要約 (3) (p.40-41、p.57-61) 復習 : 練習問題を要約する	
5	松本 雄宇	【第 5 回】 予習 : 新聞、書籍等で管理栄養士についての情報を集める 授業 : 講演 (1) 管理栄養士について学ぶ (p.66-81) 復習 : 講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる	
6	松本 雄宇	【第 6 回】 予習 : 発表のテーマについて資料を集める 授業 : 発表 (1) の準備 : レジューメを作成し、発表の練習をする (p.56-61) 復習 : 発表原稿を推敲し、音読の練習を行う	
7	松本 雄宇	【第 7 回】 予習 : 新聞、書籍等で管理栄養士についての情報を集める 授業 : 講演 (2) 管理栄養士について学ぶ (p.66-81) 復習 : 講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる	
8	松本 雄宇	【第 8 回】 予習 : 発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (1) : 口頭発表 (p.56-61) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる	
9	松本 雄宇	【第 9 回】 予習 : 発表のテーマについて資料を集める 授業 : 発表 (2) の準備 : レジューメを作成し、発表の練習をする (p.56-61) 復習 : 発表原稿を推敲し、音読の練習を行う	
10	松本 雄宇	【第 10 回】 予習 : グループ活動について学ぶ (p.62-64) 授業 : グループ活動 (2) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : グループ活動における自分の役割について振り返る	
11	松本 雄宇	【第 11 回】 予習 : グループ活動における自分の役割について、目標を考えておく 授業 : グループ活動 (3) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : 自分のグループや他のグループの良かった点、改善点についてまとめる	

12	松本 雄宇	【第 12 回】 予習：発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（2-1）：口頭発表（p.56）（プレゼンテーション） 復習：自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
13	松本 雄宇	【第 13 回】 予習：グループ活動における自分の役割について、目標を考えておく 授業：グループ活動（4）：観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う（p.62-64）（グループワーク） 復習：自分のグループや他のグループの良かった点、改善点についてまとめる							
14	松本 雄宇	【第 14 回】 予習：発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業：発表（2-2）：口頭発表（p.56）（プレゼンテーション） 復習：自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
15	松本 雄宇	【第 15 回】 予習：スムーズにグループ活動が行えるよう準備しておく 授業：グループ活動（5）：基礎ゼミⅡの振り返り（p.62-64）（グループワーク） 復習：グループ活動において大事なことをまとめる							
授業開始前学習		授業前に『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』テキストの関連ページについて目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各授業での課題（講演の感想などを含む）を期限までに提出させ、ゼミの担当教員が添削（訂正）を行い、後日の授業で学生に返却する。また、返却の際には、間違いが多かった箇所、全体の評価等も指導する。							
テキスト・教材		『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』（駒沢女子大学 教科書シリーズ）							
参考書		必要に応じて授業中に提示する。							
評価の基準と方法		課題等の提出状況 100%で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	○				
関連科目		大学で学ぶための基礎科目であるので、教養教育科目を含めた全科目。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-21	授業コード	G01125
科目名称	基礎ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen SeminarⅡ	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	松森 慎悟	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松森 慎悟	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	4-116
授業概要	本講義では、基礎ゼミⅠで学習した「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作について引き続き要約課題、レポート作成、グループ課題を通して学ぶ。特に、基礎ゼミⅡでは『話す』という基本動作に重点を置き、個人発表やグループワーク課題を通して他者にわかりやすく情報を伝達する技法について学ぶ。なお、本講義はプレゼンテーション、グループワーク等を含みます。		
到達目標	「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作の習得と、管理栄養士・栄養士に対する理解を深めながら、基本的知識を習得することを目標とする。2 年次から開始される専門教育への導入科目となる授業を展開し、大学における学習の基礎を確立する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松森 慎悟	【第 1 回】 予習 : 教科書 p.36-64 を読んでおく 授業 : ガイダンス : 授業の概要説明 復習 : 発表に使用する資料を図書館等で調べる	
2	松森 慎悟	【第 2 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : 文章の要約 (1) (p.40-41、p.57-61) 復習 : 練習問題を要約する	
3	松森 慎悟	【第 3 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : グループ活動 (1) : 文章の要約 (2) (p.40-41、p.57-61) (グループワーク) 復習 : 練習問題を要約する	
4	松森 慎悟	【第 4 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : 文章の要約 (3) (p.40-41、p.57-61) 復習 : 練習問題を要約する	
5	松森 慎悟	【第 5 回】 予習 : 新聞、書籍等で管理栄養士についての情報を集める 授業 : 講演 (1) 管理栄養士について学ぶ (p.66-81) 復習 : 講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる	
6	松森 慎悟	【第 6 回】 予習 : 発表のテーマについて資料を集める 授業 : 発表 (1) の準備 : レジューメを作成し、発表の練習をする (p.56-61) 復習 : 発表原稿を推敲し、音読の練習を行う	
7	松森 慎悟	【第 7 回】 予習 : 新聞、書籍等で管理栄養士についての情報を集める 授業 : 講演 (2) 管理栄養士について学ぶ (p.66-81) 復習 : 講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる	
8	松森 慎悟	【第 8 回】 予習 : 発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (1) : 口頭発表 (p.56-61) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる	
9	松森 慎悟	【第 9 回】 予習 : 発表のテーマについて資料を集める 授業 : 発表 (2) の準備 : レジューメを作成し、発表の練習をする (p.56-61) 復習 : 発表原稿を推敲し、音読の練習を行う	
10	松森 慎悟	【第 10 回】 予習 : グループ活動について学ぶ (p.62-64) 授業 : グループ活動 (2) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : グループ活動における自分の役割について振り返る	
11	松森 慎悟	【第 11 回】 予習 : グループ活動における自分の役割について、目標を考えておく 授業 : グループ活動 (3) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : 自分のグループや他のグループの良かった点、改善点についてまとめる	

12	松森 慎悟	【第 12 回】 予習 : 発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (2-1) : 口頭発表 (p.56) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
13	松森 慎悟	【第 13 回】 予習 : グループ活動における自分の役割について、目標を考えておく 授業 : グループ活動 (4) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : 自分のグループや他のグループの良かった点、改善点についてまとめる							
14	松森 慎悟	【第 14 回】 予習 : 発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (2-2) : 口頭発表 (p.56) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
15	松森 慎悟	【第 15 回】 予習 : スムーズにグループ活動が行えるよう準備しておく 授業 : グループ活動 (5) : 基礎ゼミⅡの振り返り (p.62-64) (グループワーク) 復習 : グループ活動において大事なことをまとめる							
授業開始前学習		授業前に『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』テキストの関連ページについて目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各授業での課題 (講演の感想などを含む) を期限までに提出させ、ゼミの担当教員が添削 (訂正) を行い、後日の授業で学生に返却する。また、返却の際には、間違いが多かった箇所、全体の評価等も指導する。							
テキスト・教材		『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』(駒沢女子大学 教科書シリーズ)							
参考書		必要に応じて授業中に提示する。							
評価の基準と方法		課題等の提出状況 100%で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	○				
関連科目		大学で学ぶための基礎科目であるので、教養教育科目を含めた全科目。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-110-21	授業コード	G01126
科目名称	基礎ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar II	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	吉野 菜穂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	吉野 菜穂子	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	4-202
授業概要	本講義では、基礎ゼミⅠで学習した「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作について引き続き要約課題、レポート作成、グループ課題を通して学ぶ。特に、基礎ゼミⅡでは『話す』という基本動作に重点を置き、個人発表やグループワーク課題を通して他者にわかりやすく情報を伝達する技法について学ぶ。なお、本講義はプレゼンテーション、グループワーク等を含みます。		
到達目標	「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作の習得と、管理栄養士・栄養士に対する理解を深めながら、基本的知識を習得することを目標とする。2 年次から開始される専門教育への導入科目となる授業を展開し、大学における学習の基礎を確立する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	吉野 菜穂子	【第 1 回】 予習 : 教科書 p.36-64 を読んでおく 授業 : ガイダンス : 授業の概要説明 復習 : 発表に使用する資料を図書館等で調べる	
2	吉野 菜穂子	【第 2 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : 文章の要約 (1) (p.40-41、p.57-61) 復習 : 練習問題を要約する	
3	吉野 菜穂子	【第 3 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : グループ活動 (1) : 文章の要約 (2) (p.40-41、p.57-61) (グループワーク) 復習 : 練習問題を要約する	
4	吉野 菜穂子	【第 4 回】 予習 : 教科書 p.40-41、p.57-61 を読んでおく 授業 : 文章の要約 (3) (p.40-41、p.57-61) 復習 : 練習問題を要約する	
5	吉野 菜穂子	【第 5 回】 予習 : 新聞、書籍等で管理栄養士についての情報を集める 授業 : 講演 (1) 管理栄養士について学ぶ (p.66-81) 復習 : 講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる	
6	吉野 菜穂子	【第 6 回】 予習 : 発表のテーマについて資料を集める 授業 : 発表 (1) の準備 : レジューメを作成し、発表の練習をする (p.56-61) 復習 : 発表原稿を推敲し、音読の練習を行う	
7	吉野 菜穂子	【第 7 回】 予習 : 新聞、書籍等で管理栄養士についての情報を集める 授業 : 講演 (2) 管理栄養士について学ぶ (p.66-81) 復習 : 講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる	
8	吉野 菜穂子	【第 8 回】 予習 : 発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (1) : 口頭発表 (p.56-61) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる	
9	吉野 菜穂子	【第 9 回】 予習 : 発表のテーマについて資料を集める 授業 : 発表 (2) の準備 : レジューメを作成し、発表の練習をする (p.56-61) 復習 : 発表原稿を推敲し、音読の練習を行う	
10	吉野 菜穂子	【第 10 回】 予習 : グループ活動について学ぶ (p.62-64) 授業 : グループ活動 (2) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : グループ活動における自分の役割について振り返る	
11	吉野 菜穂子	【第 11 回】 予習 : グループ活動における自分の役割について、目標を考えておく 授業 : グループ活動 (3) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : 自分のグループや他のグループの良かった点、改善点についてまとめる	

12	吉野 菜穂子	【第 12 回】 予習 : 発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (2-1) : 口頭発表 (p.56) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
13	吉野 菜穂子	【第 13 回】 予習 : グループ活動における自分の役割について、目標を考えておく 授業 : グループ活動 (4) : 観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う (p.62-64) (グループワーク) 復習 : 自分のグループや他のグループの良かった点、改善点についてまとめる							
14	吉野 菜穂子	【第 14 回】 予習 : 発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う 授業 : 発表 (2-2) : 口頭発表 (p.56) (プレゼンテーション) 復習 : 自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる							
15	吉野 菜穂子	【第 15 回】 予習 : スムーズにグループ活動が行えるよう準備しておく 授業 : グループ活動 (5) : 基礎ゼミⅡの振り返り (p.62-64) (グループワーク) 復習 : グループ活動において大事なことをまとめる							
授業開始前学習		授業前に『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』テキストの関連ページについて目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各授業での課題（講演の感想などを含む）を期限までに提出させ、ゼミの担当教員が添削（訂正）を行い、後日の授業で学生に返却する。また、返却の際には、間違いが多かった箇所、全体の評価等も指導する。							
テキスト・教材		『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』(駒沢女子大学 教科書シリーズ)							
参考書		必要に応じて授業中に提示する。							
評価の基準と方法		課題等の提出状況 100%で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	○				
関連科目		大学で学ぶための基礎科目であるので、教養教育科目を含めた全科目。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-211-14 (J)	授業コード	GA0010
科目名称	社会福祉概論	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Social Welfare	授業区分	講義
科目責任者	永井 亮	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	永井 亮	開講時期	4 年
オフィスアワー	—	研究室	—
授業概要	本授業では 報道機関の特集記事や、講師の社会福祉実践など、事例を多く紹介しながら「社会福祉の実際」をイメージできるようにし、社会福祉の法律・制度の仕組みや相談援助の基本的理論と方法を学ぶ。その上で、管理栄養士がなぜ社会福祉の知識を習得する必要があるかを明らかにする。 具体的には、人間社会で複雑多様な問題を抱えて生きる人々、いわゆる「社会的弱者」の「生活課題」や「人権問題」を発見し、そのような人々の「心」を同情ではなく「共感的理解」の姿勢で受け止め、人間の「生活」や「命」を保障する管理栄養士が社会福祉を意味する「社会における全ての人の幸せ」をどのように支援することが求められるかを探求する。「問題発見・問題解決」型の授業内容である。 なお「社会福祉学」は現在のあらゆる社会問題を対象とした幅広い学問であり、半期 15 回では到底学びきれないので、本授業はあくまで科目名にある「概論」にふさわしく各トピックの要点のみをおさえた内容である。 但し、更に知識を深めたい場合や質問があれば授業中の積極的な発言を歓迎する。毎時間に「小課題」を実施するのでそこに質問や疑問点を記入しても良い。その際には詳しく、より分かりやすく解説をする。		
到達目標	①管理栄養士が社会福祉の視点を持って臨床現場で活躍する意義、重要性、方法の理解を目標とする。 ②社会福祉全般の様々な法律・制度や相談援助体制の基本的知識を暗記・理解できるようになる。 ③社会福祉の支援を必要とする人々の「声にならない SOS」を想像、傾聴、そして共感的に理解できるようになる。 ④講義内容と毎時間提示する事例から、「人間社会の諸問題」「社会的弱者の生活課題」「人権問題」などを発見し、管理栄養士としてどのように解決していけるかについて、自らの言葉で専門的に考察を論じることができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の授業形態
授業回数	担当者	授業の内容	
1	永井 亮	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を確認し、本授業で学ぶポイントを理解しておく。 授業：本授業に関する説明 / 管理栄養士が社会福祉を学ぶということ / 【小課題】（課題解決型学習） 復習：管理栄養士が社会福祉の視点を持つとはどのような意義があるか、概略を整理する。	
2	永井 亮	【第 2 回】 予習：社会福祉の基盤である「日本国憲法第 25 条（生存権）」について理解しておく。 授業：社会福祉とは何か / 現在の人間社会（少子高齢化の現状と課題、ヤングケアラー、ひとり親家庭、子どもの貧困） / 【小課題】（課題解決型学習） 復習：授業資料を読み返し、社会福祉とは誰のために、どのようにあるべきことなのかを整理する。	
3	永井 亮	【第 3 回】 予習：現在の人間社会において「女性」が直面している諸問題を調べておく。 授業：女性福祉 1（DV の定義・現状、DV 被害者の心理、DV 被害者保護の法律・制度、相談援助機関・社会福祉施設） / 【小課題】（課題解決型学習） 復習：授業資料を読み返し、DV に関する法律・制度の概要を整理する。被害者が入所している福祉施設名称を暗記する。	
4	永井 亮	【第 4 回】 予習：「望まない妊娠」と「10 代の妊娠」とはどのようなことを調べておく。 授業：女性福祉 2（内密出産・こうのとりのゆりかご、女性の人権問題） / 【小課題】（課題解決型学習） 復習：第 3 回・第 4 回の授業を振り返り女性の「人権」について意識を深める。貧困状態の女性が助産を受けられる福祉施設名称を暗記する。	
5	永井 亮	【第 5 回】 予習：「母子健康手帳」は、いつ、何のためにできたのかを調べておく。 授業：母子保健（SBS、SIDS、社会福祉の相談援助、母子保健の制度・政策・方法） / 【小課題】（課題解決型学習） 復習：授業資料を読み返し、管理栄養士が知っておかなければならない母子保健のポイントを整理する。	
6	永井 亮	【第 6 回】 予習：「児童虐待」に関する事件やトピックを新聞、ニュース、インターネットなどでチェックしておく。 授業：児童福祉 1（児童虐待の定義・現状、被虐待児の心の傷、被虐待児への相談援助機関・社会福祉施設） / 【小課題】（課題解決型学習） 復習：授業資料を読み返し、被虐待児の心の傷の「共感的理解」を試みる。被虐待児を支援する福祉施設名称を暗記する。	
7	永井 亮	【第 7 回】 予習：「虐待の世代間連鎖」とはどのようなことを調べておく。 授業：児童福祉 2（被虐待児の行動特性、被虐待児への「心の治療的関わり」、虐待の世代間連鎖と対策、社会的養護） / 【小課題】（課題解決型学習） 復習：授業資料を読み返し、管理栄養士による被虐待児の支援の方法を、その重要性を加味して整理する。	
8	永井 亮	【第 8 回】 予習：「児童の性虐待・性被害」の現状について調べておく。 授業：児童福祉 3（代理によるコンヒルワゼン症候群、児童の性虐待・性被害、児童を虐待から護る各法律） / 【小課題】（課題解決型学習） 復習：授業資料を読み返し、児童を虐待から護る各法律の重要点を整理して、児童の「人権」について意識を深める。	

9	永井 亮	【第 9 回】 予習：障害児や障害者が直面している社会問題を調べておく。 授業：障害福祉 1（障害の概念、障害児の定義、障害者の定義） / 【小課題】（課題解決型学習） 復習：授業資料を読み返し、「障害とは何か？」について整理する。							
10	永井 亮	【第 10 回】 予習：障害児・障害者と管理栄養士の「接点」について調べて理解しておく。 授業：障害福祉 2（障害児・障害者への相談援助機関・社会福祉施設、障害児・障害者支援の社会福祉制度） / 【小課題】（課題解決型学習） 復習：授業資料を読み返し、管理栄養士による障害児・障害者の支援の在り方を整理する。障害児・障害者の福祉施設名称を暗記する。							
11	永井 亮	【第 11 回】 予習：「ノーマライゼーション」という単語の意味と社会における実践例を調べておく。 授業：障害福祉 3（障害福祉の理念、障害者虐待、障害児・障害者の権利擁護、障害に関する各法律・制度） / 【小課題】（課題解決型学習） 復習：授業資料を読み返し、日本の障害児・障害者福祉政策の概要を整理する。障害児・障害者の「人権」について意識を深める。							
12	永井 亮	【第 12 回】 予習：「高齢化社会」、「高齢社会」、「超高齢社会」という単語の意味を調べておく。 授業：高齢者福祉（介護保険、高齢者虐待の定義・現状、介護施設内での虐待、高齢者を虐待から護る法律） / 【小課題】（課題解決型学習） 復習：授業資料を読み返し、介護保険制度の仕組みを整理する。高齢者の「人権」について意識を深める。							
13	永井 亮	【第 13 回】 予習：「少年非行」に関する事件やトピックを新聞、ニュース、インターネットなどでチェックしておく。 授業：司法福祉（非行少年とは、少年非行と児童虐待の関係、非行少年の心理、少年審判、少年法の厳罰化） / 【小課題】（課題解決型学習） 復習：授業資料を読み返し「少年法の厳罰化は少年非行・少年犯罪の抑止力となるか」について考えをまとめる。非行少年が入所している福祉施設名称を暗記する。							
14	永井 亮	【第 14 回】 予習：「国民皆保険・皆年金」の意味を調べておく。 授業：社会保障制度（医療保険制度・年金保険制度の種類と概要） / 【小課題】（課題解決型学習） 復習：授業資料を読み返し、医療保険制度と年金保険制度の仕組みを整理する。							
15	永井 亮	【第 15 回】 予習：第 1 回～第 14 回を復習し、管理栄養士になぜ社会福祉の知識が必要かを改めて理解しておく。 授業：管理栄養士が社会福祉を学ぶということ(再考) / 【小課題・まとめの確認テスト】（課題解決型学習） 復習：授業を振り返り、社会福祉の支援を必要とする人々（＝社会的弱者）に、管理栄養士はどのような関わりをしていくべきかを総合的に整理する。							
授業開始前学習		日ごろから新聞やニュースで人間社会の諸問題に関心を持つ習慣をつけておくこと、授業内容をスムーズに理解できる。但し、Twitter や Instagram などの SNS を参照する場合には、正しく記述されているサイトのみを読むこと（例えば公的機関や企業、社会福祉施設、病院などの公式 SNS など）。投稿者の主観や感情的意見、憶測やデマが書きこまれていると思われる SNS は学習に利用しないこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各授業回、講義内容とそれに沿った事例（報道機関の特集記事または講師の社会福祉実践）から、「問題発見・問題解決」の視点で考察を論述してもらう（＝小課題）。そこに書かれた重要意見や質問事項に、次週授業冒頭で受講者全員に対して詳細に解説、回答する。							
テキスト・教材		使用しない。毎授業時に配布する授業資料プリントを使って講義する。 （プリントは B4 版の両面印刷。教科書を使用しないため、プリントの枚数が授業全 15 回で計 20 枚前後になる）							
参考書		志濃原亜美・編集 『社会福祉』（株式会社みらい）							
評価の基準と方法		以下の 2 点をもとに総合的に成績評価を決定する。 ①毎時間内の小課題提出・受講態度：45 点満点（3 点満点×15 回＝45 点満点） ②まとめの確認テスト：55 点満点							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		△	◎	○		
関連科目		公衆衛生学							
その他		①配布する授業資料プリントは各自やりやすい方法で保存しておくこと。 例）ファイル、クリアファイルフォルダー、クリップ留め、など ※プリントは B4 版両面印刷となっており、折ると B5 版としてファイルできる。 ②授業資料プリント記載事項以外にも、要所所で口頭または板書で追加説明をすることがあるので、それを書き留めておく物（ルーズリーフ用紙、ノート、メモ帳、など）を用意しておくことが好ましい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		児童福祉、精神保健福祉の分野でソーシャルワーカーとして勤務経験があり、現場でのエピソードを紹介しながら、人間と社会・環境を総合した視点から講義をする。社会福祉士。							

科目分類	210-211-13（J）		授業コード	GA0030	
科目名称	公衆衛生学Ⅰ		単位数	2.0 単位	
英文名称	Public HealthⅠ		授業区分	講義	
科目責任者	児玉 小百合		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	児玉 小百合		開講時期	3 年	
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 14:40～17:40		研究室	16-104	
授業概要	人々の健康と生活の質（QOL）は、広く社会・環境・経済等と関わりがあります。個人の努力だけでは、健康の維持・増進は困難であり、社会全体で公衆衛生の取り組みが必要です。この授業では、人々の健康や QOL を社会・環境との関連から見つめ、どのように解決していけばよいかを考えましょう。基礎的な学びとして、人々の健康・疾病の現状や測定・評価方法等を学習します。				
到達目標	1) 公衆衛生の概念について説明できる。 2) 健康に影響を及ぼす要因、健康増進と疾病対策について理解する。 2) 健康、疾病、行動にかかわる保健統計を理解する。 3) 健康状態・疾病の測定や評価の疫学手法について説明できる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	児玉 小百合	【第 1 回】 予習：シラバスの授業内容確認・社会と健康（第 1 章） 授業：社会と健康（健康の概念、公衆衛生の概念、健康格差の是正）（第 1 章） 復習：社会と健康（第 1 章）のスライド復習とノート作成			
2	児玉 小百合	【第 2 回】 予習：保健統計の概要、人口静態統計、人口動態統計、生命表（第 3 章 1～4） 授業：健康、疾病、行動にかかわる保健統計 1（保健統計の概要、人口静態統計、人口動態統計、生命表）（第 3 章 1～4） 復習：保健統計 1（第 3 章 1～4）のスライド復習とノート作成			
3	児玉 小百合	【第 3 回】 予習：傷病統計、死因統計、年齢調整死亡率（第 3 章 5, 7） 授業：健康、疾病、行動にかかわる保健統計 2（疾病統計、死因統計、年齢調整死亡率）（第 3 章 5, 7） 復習：保健統計 2（第 3 章 5, 7）のスライド復習とノート作成			
4	児玉 小百合	【第 4 回】 予習：国民健康・栄養調査、その他健康増進に関する統計、情報とコミュニケーション（第 3 章 6, 8, 第 5 章） 授業：健康、疾病、行動にかかわる保健統計 3（国民健康・栄養調査、その他健康増進に関する統計、情報とコミュニケーション）（第 3 章 6, 8, 第 5 章） 復習：保健統計 3（第 3 章 6, 8, 第 5 章）のスライド復習とノート作成			
5	児玉 小百合	【第 5 回】 予習：疫学の概念、指標（罹患率、有病率）、疫学の方法（第 4 章 1～ 3） 授業：疫学 1（疫学の概念、指標（罹患率、有病率）、疫学の方法（第 4 章 1～ 3）） 復習：疫学 1（第 4 章 1～ 3）のスライド復習とノート作成			
6	児玉 小百合	【第 6 回】 予習：バイアスと交絡の制御（年齢調整）、因果関係（第 4 章 4～5） 授業：疫学 2（バイアスと交絡の制御（年齢調整）、因果関係（第 4 章 4～5）） 復習：疫学 2（第 4 章 4～5）のスライド復習とノート作成			
7	児玉 小百合	【第 7 回】 予習：スクリーニング（感受度、特異度他）（第 4 章 6） 授業：疫学 3（スクリーニング（感受度、特異度他））（第 4 章 6） 復習：疫学 3（第 4 章 6）のスライド復習とノート作成			
8	児玉 小百合	【第 8 回】 予習：第 5～7 回疫学授業復習（第 4 章 1～6） 授業：ふりかえりテスト（第 5～7 回疫学）と解説、疫学研究と倫理、リスク分析（第 4 章 7～8） 復習：ふりかえりテスト復習、疫学研究と倫理、リスク分析（第 4 章 7～8）の復習とノート作成			
9	児玉 小百合	【第 9 回】 予習：生態系と環境の保全、地球規模の環境破壊（第 2 章 1～ 2） 授業：環境と健康 1（生態系と環境の保全、地球規模の環境破壊）（第 2 章 1～ 2） 復習：環境と健康 1（第 2 章 1～ 2）のスライド復習とノート作成			

10	児玉 小百合	【第 10 回】 予習 : 環境汚染と健康影響, 環境衛生 (第 2 章 3~ 4) 授業 : 環境と健康 2 (環境汚染と健康影響, 環境衛生) (第 2 章 3~ 4) 復習 : 環境と健康 2 (第 2 章 3~ 4) のスライド復習とノート作成						
11	児玉 小百合	【第 11 回】 予習 : 生活習慣と健康, 身体活動・運動 (第 6 章 1) 授業 : 生活習慣 (ライフスタイル) の現状と対策 1 (生活習慣と健康, 身体活動・運動, 他) (第 6 章 1) 復習 : 生活習慣 (ライフスタイル) の現状と対策 1 (第 6 章 1) のスライド復習とノート作成						
12	児玉 小百合	【第 12 回】 予習 : 国の健康づくり対策, 健康日本 21(第三次) (第 6 章 2) 授業 : 生活習慣 (ライフスタイル) の現状と対策 2 (国の健康づくり対策, 健康日本 21(第三次)) (第 6 章 2) 復習 : 生活習慣 (ライフスタイル) の現状と対策 2 (第 6 章 2) のスライド復習とノート作成						
13	児玉 小百合	【第 13 回】 予習 : 第 9~12 回授業復習 (第 2 章, 第 6 章) 授業 : ふりかえりテスト (第 2 章, 第 6 章) と解説, 国際保健 (地球規模の健康問題) (第 21 章 1) 復習 : ふりかえりテスト復習, 国際保健 (第 21 章 1) の復習とノート作成						
14	児玉 小百合	【第 14 回】 予習 : 国際保健 (グローバルヘルスの基本概念) (第 21 章 2) 授業 : 国際保健 (グローバルヘルスの基本概念) (第 21 章 2) , 授業まとめ 復習 : 国際保健 (グローバルヘルスの基本概念) (第 21 章 2) , 授業全体のスライド復習とノート作成						
15	児玉 小百合	【第 15 回】 予習 : 授業全体のふりかえり, スライドとノートの復習 授業 : 第 1 回~第 14 回までの最終確認まとめテスト 復習 : 最終確認まとめテストの復習						
授業開始前学習		1, 2 年生で学習した健康に関連する事項について、ふりかえりしておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		各ふりかえりテストの実施後に解説を行う。						
テキスト・教材		柳川 洋・尾島俊之・大木いずみ (編) 『社会・環境と健康 公衆衛生学 2024 年版』 (医歯薬出版株式会社)						
参考書		『国民衛生の動向 2023/2024』 (厚生労働統計協会) , その他参考資料のコピーを適宜配布する。						
評価の基準と方法		3 回のテストにより 90% , 授業態度など 10% により評価する。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていくとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△		△	◎	○		
関連科目		公衆栄養学, 健康管理概論, 応用栄養学						
その他		感染症はなぜ大流行するのでしょうか? どのように予防すればよいのか知るためには、人々を集団として見つめ、原因と結果の関連を科学的に究明する必要があります。地域社会で人々の健康と QOL を支援する管理栄養士に必要な、公衆衛生の科学的視点と技術の基礎を身につけましょう。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容		沖縄県の健康長寿関連事業 (内閣府一括交付金) の研究協力者として、保健センターと協働して疫学研究の分析や評価に携わった経験と、「日本公衆衛生学会認定専門家」として認定された専門能力を活かし、公衆衛生学の基礎事項を講義する。						

科目分類	210-211-14（J）			授業コード	GA0040
科目名称	公衆衛生学Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Public HealthⅡ			授業区分	講義
科目責任者	児玉 小百合			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	児玉 小百合			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 14:40～17:40			研究室	16-104
授業概要	公衆衛生は地域社会の組織的な努力を通して疾病を予防し、人々の健康増進と生活の質（QOL）向上を支援するための技術と科学です。この授業では、公衆衛生の制度や関連法規を学び、保健・医療・福祉の分野の取り組みを理解しましょう。地域保健活動例を紹介し、人々の健康増進と疾病予防、QOL 向上に役立てる考え方と取り組みについて理解を深めます。				
到達目標	1) 保健・医療・福祉の制度や関連法規を理解する。 2) 主要疾患の疫学と予防対策について説明できる。 3) 地域保健活動の概要および健康づくり対策に関連する保健活動について説明できる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	児玉 小百合	【第 1 回】 予習：シラバスの授業内容確認・生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策（第 6 章） 授業：生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策（生活習慣と健康他、国の健康増進対策、健康日本 21（第三次））（第 6 章） 復習：生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策（第 6 章）のスライド復習とノート作成			
2	児玉 小百合	【第 2 回】 予習：生活習慣病、NCDs、その他の疾患（第 7 章 1～6）、成人保健（第 17 章） 授業：主要疾患の疫学と予防対策（生活習慣病、NCDs、その他の疾患）（第 7 章 1～6）、成人保健（第 17 章） 復習：主要疾患の疫学と予防対策（第 7 章 1～6）、成人保健（第 17 章）のスライド復習とノート作成			
3	児玉 小百合	【第 3 回】 予習：感染症（第 8 章）、精神疾患、自殺、不慮の事故他（第 9～10 章） 授業：感染症（第 8 章）、精神疾患、自殺、不慮の事故他（第 9～10 章） 復習：感染症（第 8 章）、精神疾患、自殺、不慮の事故他（第 9～10 章）のスライド復習とノート作成			
4	児玉 小百合	【第 4 回】 予習：社会保障の概念、行政のしくみ（第 11 章） 授業：保健・医療・福祉の制度（社会保障の概念、行政のしくみ）（第 11 章） 復習：保健・医療・福祉の制度（第 11 章）のスライド復習とノート作成			
5	児玉 小百合	【第 5 回】 予習：医療保険制度、医療費他（第 12 章） 授業：医療制度（医療保険制度、医療費他）（第 12 章） 復習：医療制度（第 12 章）のスライド復習とノート作成			
6	児玉 小百合	【第 6 回】 予習：社会福祉の概要、在宅ケア、訪問看護他（第 13 章）、食品安全行政の概要、食中毒他（第 15 章） 授業：福祉制度（社会福祉の概要、在宅ケア、訪問看護他）（第 13 章）、食品衛生（食品安全行政の概要、食中毒他）（第 15 章） 復習：福祉制度（第 13 章）、食品衛生（第 15 章）のスライド復習とノート作成			
7	児玉 小百合	【第 7 回】 予習：第 1～6 回授業復習（第 6～13 章、15 章） 授業：ふりかえりテスト（第 1～6 回授業）と解説、地域保健活動 1（概要）（第 14 章） 復習：ふりかえりテスト復習、地域保健活動の概要（第 14 章）の復習とノート作成			
8	児玉 小百合	【第 8 回】 予習：健康危機管理他（第 14 章） 授業：地域保健活動 2（健康危機管理他。DVD 視聴によるディスカッション）（第 14 章） 復習：地域保健活動 2（第 14 章）の復習とノート作成			
9	児玉 小百合	【第 9 回】 予習：母子保健の概要、母子保健法（第 2 章 1～ 2） 授業：母子保健 1（母子保健の概要、母子保健法）（第 16 章 1～ 2） 復習：母子保健 1（第 16 章 1～ 2）のスライド復習とノート作成			
10	児玉 小百合	【第 10 回】 予習：健やか親子 21、少子化対策他（第 16 章 3～9） 授業：母子保健 2（健やか親子 21、少子化対策他）（第 16 章 3～9） 復習：母子保健 2（第 16 章 3～9）のスライド復習とノート作成			

11	児玉 小百合	【第 11 回】 予習：学校保健の概要，学校保健統計他（第 20 章） 授業：学校保健（学校保健の概要，学校保健統計他）（第 20 章） 復習：学校保健（第 20 章）のスライド復習とノート作成							
12	児玉 小百合	【第 12 回】 予習：介護保険法，地域包括ケアシステム他（第 18 章） 授業：高齢者保健・介護（介護保険法，地域包括ケアシステム他）（第 18 章） 復習：高齢者保健・介護（第 18 章）のスライド復習とノート作成							
13	児玉 小百合	【第 13 回】 予習：第 8～12 回授業復習（第 14,16,18, 20 章） 授業：ふりかえりテスト（第 14,16,18, 20 章）と解説，産業保健（労働と健康，労働安全対策他）（第 19 章） 復習：ふりかえりテスト復習，産業保健（第 19 章）の復習とノート作成							
14	児玉 小百合	【第 14 回】 予習：国際協力，保健関連の国際機関（第 21 章 3～4） 授業：国際保健（国際協力，保健関連の国際機関）（第 21 章 3～4），授業まとめ 復習：国際保健（第 21 章 3～4），授業全体のスライド復習とノート作成							
15	児玉 小百合	【第 15 回】 予習：授業全体のふりかえり，スライドとノートの復習 授業：第 1 回～第 14 回までの最終確認まとめテスト 復習：最終確認まとめテストの復習							
授業開始前学習		公衆衛生学Ⅰで学習した事項について、ふりかえりしておくこと。 教科書は公衆衛生学Ⅰと同じものを使用する。							
授業内課題のフィードバックの方法		各ふりかえりテストの実施後に解説を行う。							
テキスト・教材		柳川 洋・尾島俊之（編）『社会・環境と健康 公衆衛生学 2023 年版』（医歯薬出版株式会社）							
参考書		『国民衛生の動向 2023/2024』（厚生労働統計協会），その他参考資料のコピーを適宜配布する。							
評価の基準と方法		3 回のテストにより 90%，授業態度など 10%により評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に伝える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		△	◎	○		
関連科目		公衆栄養学，健康管理概論，応用栄養学							
その他		保健・医療・福祉制度や関連法規の概要を理解し、地域保健活動例を参考に、地域社会で人々の健康増進と QOL 向上を支援する管理栄養士として必要な公衆衛生学の考え方と取り組みを理解しましょう。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		沖縄県の健康長寿関連事業（内閣府一括交付金）の研究協力者として、保健センターと協働して疫学研究の分析や評価に携わった。「日本公衆衛生学会認定専門家」として認定された専門能力を活かし、地域保健活動等について講義する。							

科目分類	210-211-11	授業コード	GA0050
科目名称	健康管理概論	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Health Care	授業区分	講義
科目責任者	本川 佳子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本川 佳子	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	将来管理栄養士として働く際に、健康管理というのは職場に限らず共通のテーマとなる。本授業では、健康の概念、健康増進、疾病予防について学び、各ライフステージではどのような課題があるか理解し、将来現場で活用できる知識を習得する。		
到達目標	健康管理について基本的用語と考え方を理解し、説明できるようになる。将来にわたり使える知識を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	本川 佳子	【第 1 回】 予習：教科書を読んでくる 授業：授業ガイダンス、健康管理概論の意義について 復習：健康管理の概念について考えをまとめる	
2	本川 佳子	【第 2 回】 予習：教科書を読んでくる 授業：社会と健康 教科書 P1～9 復習：社会と健康について整理する	
3	本川 佳子	【第 3 回】 予習：教科書を読んでくる 授業：環境と健康 教科書 P13～28 復習：環境と健康について整理する	
4	本川 佳子	【第 4 回】 予習：教科書を読んでくる 授業：健康、疾病、行動に関わる統計資料 教科書 P31～45 復習：統計学について整理する	
5	本川 佳子	【第 5 回】 予習：教科書を読んでくる 授業：健康状態・疾病の測定と評価① 教科書 P47～60 復習：疫学概念について理解する	
6	本川 佳子	【第 6 回】 予習：教科書を読んでくる 授業：健康状態・疾病の測定と評価② 教科書 P47～60 復習：EBM について理解する	
7	本川 佳子	【第 7 回】 予習：教科書を読んでくる 授業：健康状態・疾病の測定と評価③ 教科書 P47～60 復習：疫学、EBM について理解する	
8	本川 佳子	【第 8 回】 予習：教科書を読んでくる 授業：生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策 教科書 P63～79 復習：健康に関連する生活習慣について理解する	
9	本川 佳子	【第 9 回】 予習：教科書を読んでくる 授業：主要疾患の疫学と予防対策① 教科書 P85～114 復習：主要疾患の疫学について理解する	

10	本川 佳子	【第 10 回】 予習：教科書を読んでくる 授業：主要疾患の疫学と予防対策② 教科書 P85～114 復習：主要疾患の疫学について理解する							
11	本川 佳子	【第 11 回】 予習：教科書を読んでくる 授業：保険・医療・福祉の制度① 教科書 P117～173 復習：各種社会保障制度について整理する							
12	本川 佳子	【第 12 回】 予習：教科書を読んでくる 授業：保険・医療・福祉の制度② 教科書 P117～173 復習：各種社会保障制度について整理する							
13	本川 佳子	【第 13 回】 予習：教科書を読んでくる 授業：保険・医療・福祉の制度③ 教科書 P117～173 復習：各種社会保障制度について整理する							
14	本川 佳子	【第 14 回】（プリントで対応予定） 予習：日本人の食事摂取基準 2020 年版を調べる 授業：日本人の食事摂取基準、健康日本 2 1、国民健康・栄養調査 復習：栄養に大きく関わる調査・ガイドラインを整理する							
15	本川 佳子	【第 15 回】 予習：教科書を読んでくる 授業：授業のまとめ、試験対策 復習：試験対策							
授業開始前学習		事前に教科書を読み、授業の流れについて確認しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		期間中にレポート 1 回、小テスト 1 回を実施予定。レポートは採点后返却。							
テキスト・教材		『サクセス管理栄養士・栄養士 公衆衛生学・健康管理概論』（第一出版）							
参考書									
評価の基準と方法		定期試験（90％）、レポート（10％）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△	◎	△		
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-211-12	授業コード	GA0061
科目名称	生化学 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Biochemistry I	授業区分	講義
科目責任者	西山 一朗	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西山 一朗	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 16:00～18:00 水曜日 16:00～18:00 後期 月曜日 16:00～18:00 水曜日 16:00～18:00	研究室	16-107
授業概要	生体を構成する種々の物質を化学的に理解するために必要な、生化学の基礎知識を習得することを目標とする。まず糖質、脂質、たんぱく質、核酸等の主要な生体構成物質の化学構造や生化学的特性を学ぶ。また、酵素や補酵素の性質および酵素反応の基礎についても学習する。次いで、各種のホルモンについて、その分泌器官やそれぞれの生体調節機構について学ぶ。さらに、ビタミンの働きや欠乏症、過剰症について理解を深める。		
到達目標	糖質、脂質、たんぱく質、核酸等の化学構造と諸性質を理解する。酵素や補酵素の性質および酵素反応の基礎を理解する。各種ホルモンの分泌器官と生体調節機構を理解する。ビタミンの化学構造と生理機能を理解する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	西山 一朗	【第 1 回】 予習 : テキスト p1～p13 を読み、分子や細胞についての概念を確認する 授業 : 生体と細胞【テキスト p1～p13】 復習 : 生体と細胞に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
2	西山 一朗	【第 2 回】 予習 : テキスト p14～p18 を読み、糖質の分類や単糖の化学構造および性質を確認する 授業 : (糖質 I) 糖質の分類、単糖類とその誘導体の生化学【テキスト p14～p18】 復習 : 単糖に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
3	西山 一朗	【第 3 回】 予習 : テキスト p18～p20 を読み、二糖類ならびに多糖類の化学構造や性質を確認する 授業 : (糖質 II) 二糖類ならびに多糖類の生化学【テキスト p18～p20】 復習 : 二糖類や多糖類に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
4	西山 一朗	【第 4 回】 予習 : テキスト p20～p23 を読み、脂肪酸やアシルグリセロールの化学構造や性質を確認する 授業 : (脂質 I) 脂肪酸とアシルグリセロールの生化学【テキスト p20～p23】 復習 : 脂肪酸とアシルグリセロールに関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
5	西山 一朗	【第 5 回】 予習 : テキスト p23～p27 を読み、リン脂質やステロイド化合物の化学構造や性質を確認する 授業 : (脂質 II) 複合脂質とステロイド化合物の生化学【テキスト p23～p27】 復習 : リン脂質やステロイド化合物に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
6	西山 一朗	【第 6 回】 予習 : テキスト p28～p31 を読み、アミノ酸の化学構造と分類を確認する 授業 : (たんぱく質 I) アミノ酸の構造とペプチド結合【テキスト p28～p31】 復習 : アミノ酸やペプチド結合に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
7	西山 一朗	【第 7 回】 予習 : テキスト p31～p36 を読み、たんぱく質の立体構造を形成する化学結合を確認する 授業 : (たんぱく質 II) たんぱく質の高次構造と変性【テキスト p31～p36】 復習 : たんぱく質の高次構造に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
8	西山 一朗	【第 8 回】 予習 : テキスト p28～p36 を読み、両性電解質や等電点とは何かを確認する 授業 : (たんぱく質 III) 両性電解質と等電点、たんぱく質の分類【テキスト p28～p36】 復習 : 両性電解質や等電点に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
9	西山 一朗	【第 9 回】 予習 : テキスト p36～p43 を読み、DNA や RNA の化学構造や性質を確認する 授業 : (ヌクレオチド・核酸) ヌクレオチドと核酸の生化学【テキスト p36～p43】 復習 : ヌクレオチドと核酸に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
10	西山 一朗	【第 10 回】 予習 : テキスト p44～p48 を読み、酵素の基本的な諸性質を確認する 授業 : (酵素 I) 酵素の生化学的特性と分類【テキスト p44～p48】 復習 : 酵素に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
11	西山 一朗	【第 11 回】 予習 : テキスト p48～p52 を読み、酵素反応速度論と酵素活性調節のしくみを確認する 授業 : (酵素 II) 酵素反応速度論と酵素活性の調節【テキスト p48～p52】 復習 : 酵素反応速度論と酵素活性調節に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	

12	西山 一朗	【第 12 回】 予習 : テキスト p52～p58 を読み、それぞれのホルモンの分泌器官や生理作用を確認する 授業 : (ホルモン I) 下垂体、副腎および甲状腺ホルモン【テキスト p52～p58】 復習 : 下垂体、副腎および甲状腺ホルモンに関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し							
13	西山 一朗	【第 13 回】 予習 : テキスト p58～p62 を読み、それぞれのホルモンの分泌器官や生理作用を確認する 授業 : (ホルモン II) Ca 代謝調節ホルモン、膵臓および消化管ホルモン【テキスト p58～p62】 復習 : Ca 代謝調節ホルモン、膵臓および消化管ホルモンに関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し							
14	西山 一朗	【第 14 回】 予習 : テキスト p62～p66 を読み、脂溶性ビタミンの化学構造や生理作用を確認する 授業 : (ビタミン I) 脂溶性ビタミンの生化学【テキスト p62～p66】 復習 : 脂溶性ビタミンに関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し							
15	西山 一朗	【第 15 回】 予習 : テキスト p66～p72 を読み、水溶性ビタミンの化学構造や生理作用を確認する 授業 : (ビタミン II) 水溶性ビタミンの生化学【テキスト p66～p72】 復習 : 水溶性ビタミンに関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し							
授業開始前学習		化学や生物の基礎を復習し、弱い分野があれば補っておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		第 13 回目の授業で、それまでの授業内容に関する課題を出す。提出された課題は、添削した後に第 14 回目の授業で返却する。なお、この課題については、成績評価の対象としない。							
テキスト・教材		木元幸一・後藤潔・大西淳之 編著『Nブックス 四訂 生化学』（建帛社）							
参考書									
評価の基準と方法		定期試験期間中に行う筆記試験（100％）により評価を行う。筆記試験は、五肢択一問題（各 4 点）を 25 問出題する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△				◎	○		
関連科目		「解剖生理学」、「食品学」および「基礎栄養学」と密接に関連する内容が含まれるため、これらの科目と合わせて総合的に理解することが重要である。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-211-12	授業コード	GA0071
科目名称	生化学Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	BiochemistryⅡ	授業区分	講義
科目責任者	西山 一朗	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西山 一朗	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 16:00～18:00 水曜日 16:00～18:00 後期 月曜日 16:00～18:00 水曜日 16:00～18:00	研究室	16-107
授業概要	「生化学Ⅰ」で学んだ知識を基礎として、より発展的な内容を理解することを目標とする。具体的には、まず食物として摂取された糖質、脂質、たんぱく質等の栄養素が生体内においてどのように代謝され、また、エネルギーを生じるかについて理解を深める。次いで遺伝子の本体であるDNAの構造と遺伝子発現機構についても学ぶ。さらに、遺伝子多型と栄養との関連や遺伝子工学技術についての知識も深める。		
到達目標	生体内における糖質代謝（解糖系、クエン酸回路、ペントースリン酸回路、糖新生系など）、脂質代謝（ β 酸化、脂肪酸合成、コレステロール合成など）、たんぱく質代謝（アミノ基転移反応、尿素サイクル、脱炭酸反応など）、核酸代謝（ヌクレオチド合成、プリン体からの尿酸生成など）を理解する。DNAの構造と遺伝子発現機構、遺伝子多型と栄養との関連や遺伝子工学技術について理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の授業形態
授業回数	担当者	授業の内容	
1	西山 一朗	【第1回】 予習：テキスト p73～p84 を読み、生体エネルギーの概念や酸化的リン酸化について確認する 授業：生体エネルギー【p73～p84】 復習：生体エネルギーに関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
2	西山 一朗	【第2回】 予習：テキスト p85～p91 を読み、解糖系の概要について確認する 授業：（糖質の代謝Ⅰ）解糖系【p85～p91】 復習：解糖系に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
3	西山 一朗	【第3回】 予習：テキスト p91～p96 を読み、クエン酸回路（TCA サイクル）の概要について確認する 授業：（糖質の代謝Ⅱ）クエン酸回路（TCA サイクル）【p91～p96】 復習：クエン酸回路（TCA サイクル）に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
4	西山 一朗	【第4回】 予習：テキスト p96～p100 を読み、グリコーゲンの合成・分解と糖新生系の概要について確認する 授業：（糖質の代謝Ⅲ）グリコーゲンの合成・分解と糖新生系【p96～p100】 復習：グリコーゲンの合成・分解と糖新生系に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
5	西山 一朗	【第5回】 予習：テキスト p100～p108 を読み、ペントースリン酸回路や血糖値の調節機構について確認する 授業：（糖質の代謝Ⅳ）ペントースリン酸回路、血糖値の調節【p100～p108】 復習：ペントースリン酸回路や血糖値の調節機構に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
6	西山 一朗	【第6回】 予習：テキスト p109～p115 を読み、リボたんぱく質や脂肪酸の β 酸化について確認する 授業：（脂質の代謝Ⅰ）リボたんぱく質、脂肪酸の β 酸化【p109～p115】 復習：リボたんぱく質や脂肪酸の β 酸化に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
7	西山 一朗	【第7回】 予習：テキスト p116～p121 を読み、ケトン体の代謝や脂肪酸の生合成過程について確認する 授業：（脂質の代謝Ⅱ）ケトン体の代謝や脂肪酸の生合成過程【p116～p121】 復習：ケトン体の代謝や脂肪酸の生合成過程に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
8	西山 一朗	【第8回】 予習：テキスト p121～p126 を読み、アシルグリセロール、リン脂質、コレステロールの代謝について確認する 授業：（脂質の代謝Ⅲ）アシルグリセロール、リン脂質とコレステロールの代謝【p121～p126】 復習：アシルグリセロールやコレステロールの代謝に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
9	西山 一朗	【第9回】 予習：テキスト p127～p133 を読み、生体中におけるアミノ基窒素の排出について確認する 授業：（たんぱく質の代謝Ⅰ）アミノ基転移反応と尿素サイクル【p127～p133】 復習：アミノ基転移反応と尿素サイクルに関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	
10	西山 一朗	【第10回】 予習：テキスト p134～p144 を読み、各種アミノ酸の利用とアミノ酸代謝異常症について確認する 授業：（たんぱく質の代謝Ⅱ）各種アミノ酸の代謝と代謝異常【p134～p144】 復習：各種アミノ酸の代謝と代謝異常に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し	

11	西山 一朗	【第 11 回】 予習 : テキスト p162～p170 を読み、ヌクレオチドの代謝とその代謝異常に起因する痛風について確認する 授業 : ヌクレオチドの合成・分解と代謝異常【p162～p170】 復習 : ヌクレオチドの合成・分解と代謝異常に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し							
12	西山 一朗	【第 12 回】 予習 : テキスト p171～p182 を読み、DNA の複製や遺伝子発現機構について確認する 授業 : (遺伝子発現とその制御 I) DNA の複製と遺伝子発現【p171～p182】 復習 : DNA の複製と遺伝子発現に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し							
13	西山 一朗	【第 13 回】 予習 : テキスト p182～p186 を読み、遺伝子発現の調節機構について確認する 授業 : (遺伝子発現とその制御 II) 遺伝子発現の調節機構【p182～p186】 復習 : 遺伝子発現の調節機構に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し							
14	西山 一朗	【第 14 回】 予習 : テキスト p186～p190 を読み、「DNA の損傷と修復」や「栄養と遺伝子」について確認する 授業 : (遺伝子発現とその制御 III) 「DNA の損傷と修復」や「栄養と遺伝子」【p186～p190】 復習 : 「DNA の損傷と修復」や「栄養と遺伝子」に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し							
15	西山 一朗	【第 15 回】 予習 : テキスト p190～p196 を読み、遺伝子多型と栄養との関連や遺伝子工学技術について確認する 授業 : (遺伝子発現とその制御 IV) 遺伝子多型と栄養、遺伝子工学【p190～p196】 復習 : 遺伝子多型や遺伝子工学に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し							
授業開始前学習		「生化学Ⅰ」で学んだ内容が基礎となるので、よく復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		第 13 回目の授業で、それまでの授業内容に関する課題を出す。提出された課題は、添削した後に第 14 回目の授業で返却する。なお、この課題については、成績評価の対象としない。							
テキスト・教材		木元幸一・後藤潔・大西淳之 編著『Nブックス 四訂 生化学』（建帛社）							
参考書									
評価の基準と方法		定期試験期間中に行う筆記試験（100％）により評価を行う。筆記試験は、五肢択一問題（各 4 点）を 25 問出題する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△				◎	○		
関連科目		「解剖生理学」、「食品学」および「基礎栄養学」と密接に関連する内容が含まれるため、これらの科目と合わせて総合的に理解することが重要である。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-211-32	授業コード	GA0081
科目名称	生化学実験 I	単位数	1.0 単位
英文名称	Experiment in Biochemistry I	授業区分	実習・実験
科目責任者	岡田 昌己	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岡田 昌己	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～13:00 後期 木曜日 09:00～13:00	研究室	4-201
授業概要	まず、生化学実験において汎用される器具類や電子天秤等の測定機器類の使用法や試薬の調製法を習得する。次いで糖質、脂質、タンパク質などの生化学的な性状・性質を理解するための実験を行う。具体的には単糖類・二糖類の還元性と呈色反応、二糖類・多糖類の加水分解、脂質の抽出や定性分析、アミノ酸やタンパク質の呈色反応ならびに酵素に関する実験を行い、得られた結果について考察を加える。実験を通して、「生化学 I」で学んだ知識を確認し、発展させることを目標とする実験科目である。		
到達目標	生化学 I で学んだ、糖質、脂質、タンパク質、酵素について、構造や性質・特徴の理解を深める。実験操作においては、正確なピペット操作、その他機器の使用技術を習得し、次年度以降の実験操作を円滑にするための基礎的な技術を身に付ける。レポートにおいては、結果を詳細にまとめ、特に考察を生化学的な観点からしっかりと考えられるようにすることに加え、類似関連科目への理解も深める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	岡田 昌己	【第 1 回】 予習 : テキスト 1 頁から 13 頁を読み、安全に実験を行うための注意点について確認する 授業 : 安全に実験を行うための諸注意、小実験とレポートの書き方について【p1 から p13】 復習 : 溶液の質量パーセント濃度やモル濃度に関する計算を復習する	
2	岡田 昌己	【第 2 回】 予習 : テキスト 15 頁から 21 頁を読み、実験の概要について確認する 授業 : (糖質 I) 単糖類・二糖類・デンプンの定性反応【p15 から p21】 「グループワーク」 復習 : 実験結果をまとめ、確認できたことを整理する	
3	岡田 昌己	【第 3 回】 予習 : 糖質 I の実験結果を整理し、理解に努める 授業 : 糖質 I の重要事項の確認と補足実験【テキスト p15 から p21】 復習 : 糖質 I のレポートを作成する	
4	岡田 昌己	【第 4 回】 予習 : テキスト 23 頁から 27 頁を読み、実験の概要について確認する 授業 : (糖質 II) デンプン粒の調製とデンプンの糊化、デンプンの性質【テキスト p23 から p27】 「グループワーク」 復習 : 実験結果をまとめ、確認できたことを整理する	
5	岡田 昌己	【第 5 回】 予習 : 糖質 II の実験結果を整理し、理解に努める 授業 : 糖質 II の重要事項の確認と補足実験【テキスト p23 から p27】 復習 : 糖質 II のレポートを作成する	
6	岡田 昌己	【第 6 回】 予習 : テキスト 29 頁から 36 頁を読み、実験の概要について確認する 授業 : (脂質 I) 脂質の薄層クロマトグラフィー【テキスト p29 から p36】 「グループワーク」 復習 : 実験結果をまとめ、確認できたことを整理する	
7	岡田 昌己	【第 7 回】 予習 : テキスト 37 頁から 40 頁を読み、実験の概要について確認する 授業 : (脂質 II) 卵黄中のリン脂質の抽出と定性分析【テキスト p37 から p40】 「グループワーク」 復習 : 実験結果をまとめ、確認できたことを整理する	
8	岡田 昌己	【第 8 回】 予習 : 脂質 I および II の実験結果を整理し、理解に努める 授業 : 脂質 I および II の重要事項の確認と補足実験【テキスト p29 から p40】 復習 : 脂質 I および II のレポートを作成する	

9	岡田 昌己	【第 9 回】 予習 : テキスト 41 頁から 44 頁を読み、実験の概要について確認する 授業 : (タンパク質 I) アミノ酸、タンパク質の定性反応【テキスト p41 から p44】 「グループワーク」 復習 : 実験結果をまとめ、確認できたことを整理する							
10	岡田 昌己	【第 10 回】 予習 : テキスト 47 頁から 52 頁を読み、実験の概要について確認する 授業 : (酵素 I) グルコースオキシダーゼ法による血糖の定量【テキスト p47 から p52】 「グループワーク」 復習 : 実験結果をまとめ、確認できたことを整理する							
11	岡田 昌己	【第 11 回】 予習 : タンパク質 I および酵素 I の実験結果を整理し、理解に努める 授業 : タンパク質 I および酵素 I の重要事項の確認と補足実験【テキスト p41 から p52】 復習 : タンパク質 I および酵素 I のレポートを作成する							
12	岡田 昌己	【第 12 回】 予習 : テキスト 15 頁から 19 頁、41 頁から 44 頁を読み、糖質、タンパク質の定性実験について確認する 授業 : (未知検体の定性実験)【テキスト p53 から p54】 復習 : 実験結果をまとめ、確認できたことを整理し、レポートを作成する							
授業開始前学習		テキストの該当部分を熟読した上で、毎回の授業に臨むこと。「生化学 I」の内容も、よく復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		各実験に対して解説を行い、レポートを作成させる。レポートを添削・修正を行い学生に返却する。また、返却したレポートの解説を行う。							
テキスト・教材		「生化学実験 I」 (無償配付)							
参考書		Nブックス 生化学 (建帛社) 林淳三 監修 その他、授業の中で推薦図書を紹介する。							
評価の基準と方法		各実験項目につきレポートの提出を求める。レポート点 (70 点満点) と授業態度 (30 点満点) の合計点として評価を行う。提出期限を過ぎてからレポートが提出された場合は、その遅れた日数にしたがって減点とする。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎		○	△
関連科目		あらかじめ「生化学 I」の内容をよく理解しておくこと。「解剖生理学」、「食品学」および「基礎栄養学」と密接に関連する内容が含まれるため、これらの科目と合わせて総合的に理解することが重要である。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-211-33	授業コード	GA0091
科目名称	生化学実験Ⅱ	単位数	1.0 単位
英文名称	Experiment in BiochemistryⅡ	授業区分	実習・実験
科目責任者	西山 一朗	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西山 一朗	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 16:00～18:00 水曜日 16:00～18:00 後期 月曜日 16:00～18:00 水曜日 16:00～18:00	研究室	16-107
授業概要	本実験では、まず高速液体クロマトグラフィーによるビタミン類の分析や定量を試行し、生体機能成分の働きを理解する。次いで消化酵素の働きを中心として、至適温度、至適 pH、基質特異性などの酵素の生化学的性質についても理解を深める。また、生化学的手法によるたんぱく質の分離・精製および定量分析を行う。さらに血清中の総たんぱく質やアルブミンの濃度を測定し、A/G 比と各種疾病との関係を学ぶ。これらの実験を通して、生体の構造と機能についての生化学的な理解を深める。実験科目であるため、毎回グループ・ワークを行う。		
到達目標	ビタミン類の化学構造や生体中での機能を説明できるようになる。酵素の諸性質（pH 依存性、温度依存性や基質特異性など）を理解する。電気泳動法によるたんぱく質の分析の理論を理解し、たんぱく質の生化学的特性を説明できるようになる。たんぱく質の定量を通じて血清中のアルブミンとグロブリンの比率を確認し、疾病との関連を理解する。クロロフィルやカロテノイドなどの色素についても理解を深める。グリコゲンの構造と、生体内での合成・分解の様式を理解する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	西山 一朗	【第 1 回】 予習 : ビタミン D の化学構造や生体内での機能について確認する 授業 : (ビタミン I) ビタミン D の構造と機能 (グループ・ワーク) 復習 : ビタミン D の定量分析に関する実験結果やその生理機能についてまとめ、確認できたことを整理する	
2	西山 一朗	【第 2 回】 予習 : ビタミン C の化学構造や生体内での機能について確認する 授業 : (ビタミン II) ビタミン C (アスコルビン酸) の構造と機能 (グループ・ワーク) 復習 : アスコルビン酸の定量分析に関する実験結果やその生理機能についてまとめ、確認できたことを整理する	
3	西山 一朗	【第 3 回】 予習 : 酵素の性質や消化酵素の働きについて確認する 授業 : (酵素 I) ペプシン、トリプシン、膵リパーゼによる人工消化 (グループ・ワーク) 復習 : 人工消化に関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する	
4	西山 一朗	【第 4 回】 予習 : トリプシンおよびキモトリプシンの基質特異性について確認する 授業 : (酵素 II) トリプシンおよびキモトリプシンの基質特異性と至適 pH (グループ・ワーク) 復習 : トリプシンおよびキモトリプシンに関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する	
5	西山 一朗	【第 5 回】 予習 : たんぱく質の生化学的性状について確認する 授業 : (たんぱく質 I-1) たんぱく質の性質 (塩析) (グループ・ワーク) 復習 : 卵白アルブミンの単離に関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する	
6	西山 一朗	【第 6 回】 予習 : たんぱく質の代表的な定性反応や定量反応について確認する 授業 : (たんぱく質 I-2) フェノール試薬法 (Lowry 法) によるたんぱく質の定量 (グループ・ワーク) 復習 : たんぱく質の定量に関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する	
7	西山 一朗	【第 7 回】 予習 : たんぱく質の構造や電気的性質について確認する 授業 : (たんぱく質 I-3) SDS-電気泳動法によるたんぱく質の分子量算定 (グループ・ワーク) 復習 : 電気泳動法による分子量算定の結果をまとめ、確認できたことを整理する	
8	西山 一朗	【第 8 回】 予習 : 酵素の抽出方法やプロテアーゼの作用について確認する 授業 : (酵素Ⅲ-1) 酵素の抽出とその食品たんぱく質分解作用 (グループ・ワーク) 復習 : 酵素の抽出とその食品たんぱく質分解作用に関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する	
9	西山 一朗	【第 9 回】 予習 : SDS-電気泳動法について確認する 授業 : (酵素Ⅲ-2) 食品たんぱく質分解作用の電気泳動法による確認 (グループ・ワーク) 復習 : プロテアーゼによる食品たんぱく質の分解作用に関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する	
10	西山 一朗	【第 10 回】 予習 : 血液中のたんぱく質の種類と働きについて確認する 授業 : (たんぱく質 II) アルブミン/グロブリン比 (A/G 比) を測定する (グループ・ワーク) 復習 : 血清中の総たんぱく質およびアルブミンの定量に関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する	

11	西山 一朗	【第 11 回】 予習：食物色素の種類とカロテノイド色素のプロビタミン A 活性について確認する 授業：（食物色素）カロテノイドやクロロフィルの分析（グループ・ワーク） 復習：色素の TLC 分析に関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する							
12	西山 一朗	【第 12 回】 予習：グリコーゲンの構造や生体内での合成と加リン酸分解について確認する 授業：（糖質）筋組織に含まれるグリコーゲンの抽出（グループ・ワーク） 復習：グリコーゲンに関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		第 10 回目の授業で、それまでの授業内容に関する課題を出す。提出された課題は、添削した後に第 11 回目の授業で返却する。なお、この課題については、成績評価の対象としない。							
テキスト・教材		冊子印刷した「生化学実験Ⅱ 第 6.1 版」を配付する。							
参考書		木元幸一・後藤潔 編著『Nブックス 四訂 生化学』（建帛社）							
評価の基準と方法		筆記試験（100％）により評価を行う。筆記試験は、五肢択一問題を 30 問出題する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎		○	△
関連科目		あらかじめ「生化学Ⅰ・Ⅱ」の内容をよく理解しておくこと。「解剖生理学」、「食品学」および「基礎栄養学」と密接に関連する内容も含まれるため、これらの科目と合わせて総合的に理解することが重要である。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類		210-211-11 （J）		授業コード		GA0100					
科目名称		解剖生理学		単位数		2.0 単位					
英文名称		Anatomy and Physiology		授業区分		講義					
科目責任者		佐藤 勝重		必修・選択		履修ガイド参照					
担当教員		佐藤 勝重		開講時期		1 年					
オフィスアワー		前期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 09:00～10:30 後期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10		研究室		16-108					
授業概要		本講義では、人体の構造と生理機能の基礎事項を解説する。具体的には、マクロ解剖、細胞や組織の基礎知識を学習し、各器官の構造と機能を相互に関連付けながら解説する。本講義は、2 年以降の病理学、臨床栄養学、栄養生理学を理解するための基礎知識となる。									
到達目標		「人体の構造と機能」について、その基本的事項を学習し知識を体系化して、将来、管理栄養士として活動していく際にその知識が具現化できるようにすることを目標とする。									
アクティブ・ラーニング 型授業		無		全授業回数		15 回		複数教員の場合の 授業形態			
授業 回数	担当者		授業の内容								
1	佐藤 勝重		【第 1 回】 予習：指定参考書などで、「細胞の構造と機能、膜輸送」について概要をつかんでおく。 授業：Introduction、細胞の構造と機能、膜輸送 復習：第 1 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。								
2	佐藤 勝重		【第 2 回】 予習：指定参考書などで、「運動器の構造・筋収縮機構」について概要をつかんでおく。 授業：運動器系（運動器の構造・筋収縮機構） 復習：第 2 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。								
3	佐藤 勝重		【第 3 回】 予習：指定参考書などで、「神経系の構造、ニューロンの機能、運動系」について概要をつかんでおく。 授業：神経系Ⅰ（神経系の構造、ニューロンの機能、運動系） 復習：第 3 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。								
4	佐藤 勝重		【第 4 回】 予習：指定参考書などで、「感覚系、高次神経機能、自律神経系」について概要をつかんでおく。 授業：神経系Ⅱ（感覚系、高次神経機能、自律神経系） 復習：第 4 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。								
5	佐藤 勝重		【第 5 回】 予習：指定参考書などで、「心臓」について概要をつかんでおく。 授業：循環器系Ⅰ（心臓） 復習：第 5 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。								
6	佐藤 勝重		【第 6 回】 予習：指定参考書などで、「循環」について概要をつかんでおく。 授業：循環器系Ⅱ（循環） 復習：第 6 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。								
7	佐藤 勝重		【第 7 回】 予習：指定参考書などで、「呼吸器系の構造、呼吸運動と調節、換気、ガス交換と運搬」について概要をつかんでおく。 授業：呼吸器系（呼吸器系の構造、呼吸運動と調節、換気、ガス交換と運搬） 復習：第 7 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。								
8	佐藤 勝重		【第 8 回】 予習：指定参考書などで、「消化器系の構造、栄養素の消化と吸収」について概要をつかんでおく。 授業：消化器系Ⅰ（消化器系の構造、栄養素の消化と吸収） 復習：第 8 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。								
9	佐藤 勝重		【第 9 回】 予習：指定参考書などで、「肝臓、胆嚢、膵臓、血糖の調節」について概要をつかんでおく。 授業：消化器系Ⅱ（肝臓、胆嚢、膵臓、血糖の調節） 復習：第 9 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。								
10	佐藤 勝重		【第 10 回】 予習：指定参考書などで、「ホルモンの分泌・構造・作用機序、視床下部、下垂体」について概要をつかんでおく。 授業：内分泌系Ⅰ（ホルモンの分泌・構造・作用機序、視床下部、下垂体） 復習：第 10 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。								
11	佐藤 勝重		【第 11 回】 予習：指定参考書などで、「甲状腺、副甲状腺、副腎、膵臓、性腺」について概要をつかんでおく。 授業：内分泌系Ⅱ（甲状腺、副甲状腺、副腎、膵臓、性腺） 復習：第 11 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。								

12	佐藤 勝重	【第 12 回】 予習：指定参考書などで、「男性・女性、妊娠分娩、思春期と更年期、生殖器の発生」について概要をつかんでおく。 授業：生殖器系（男性・女性、妊娠分娩、思春期と更年期、生殖器の発生） 復習：第 12 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。							
13	佐藤 勝重	【第 13 回】 予習：指定参考書などで、「血液の組成、造血、物質輸送、止血、生態防御」について概要をつかんでおく。 授業：血液・免疫系（血液の組成、造血、物質輸送、止血、生態防御） 復習：第 13 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。							
14	佐藤 勝重	【第 14 回】 予習：指定参考書などで、「泌尿器系の構造、尿の生成と排泄」について概要をつかんでおく。 授業：泌尿器系（泌尿器系の構造、尿の生成と排泄） 復習：第 14 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。							
15	佐藤 勝重	【第 15 回】 予習：指定参考書などで、「ホメオスタシス、体液、基礎代謝と体温調節」について概要をつかんでおく。 授業：ホメオスタシス、体液、基礎代謝と体温調節 復習：第 15 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。							
授業開始前学習		指定参考書を一読してくると理解が深まる。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回講義終了時に、その日の講義内容に相当する管理栄養士国家試験から作成した練習問題を課す。問題に対する解答に関して、講義内に講評する。							
テキスト・教材		講義中に自作テキストを配布する。							
参考書		栄養科学イラストレイテッド解剖生理学（志村・岡・山田編）羊土社 栄養科学シリーズ栄養解剖生理学（河田・小澤・上田編）講談社 エスカベーシック解剖生理学（奈良著）同文書院							
評価の基準と方法		定期試験(配点 100 点)により評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△				◎	○		
関連科目		解剖生理学実験 病理学 臨床医学論							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		内科、神経内科医としての実務経験有り。正常な人体の構造と機能について講義する。							

科目分類	210-211-32 (J)	授業コード	GA0111
科目名称	解剖生理学実験	単位数	1.0 単位
英文名称	Experiment in Anatomy and Physiology	授業区分	実習・実験
科目責任者	佐藤 勝重	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 勝重	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 09:00～10:30 後期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	16-108
授業概要	「解剖生理学」で学んだ基礎知識をさらに深めるための実習・実験を行う。人体モデルや各臓器の組織標本を観察し、人体の解剖をマクロ、ミクロの両面から理解を深める。また、神経系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系の生理機能を測定することにより、人体の生命維持機構についての詳細を理解できるようにする。これらの内容の理解は、病理学や各病態での治療法、臨床栄養学に必要な不可欠である。		
到達目標	解剖生理学の講義で学んだ「人体の構造と機能」について、その基本的事項を実験を通して体系化して、将来、管理栄養士として活動していく際にその知識が具現化できるようにすることを目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	佐藤 勝重	【第 1 回】 予習 : 解剖生理学のプリント (細胞、膜輸送、運動器系) を復習する。 授業 : Introduction/細胞・膜輸送/運動器系(I) (マクロ解剖) ---マクロ標本観察 (実習) 復習 : 実習レポート (細胞、膜輸送、筋肉、骨) を完成させる。	
2	佐藤 勝重	【第 2 回】 予習 : 解剖生理学のプリント (運動器系) を復習する。 授業 : 運動器系(II) (骨格筋、平滑筋) ---顕微鏡観察 (実習) 復習 : 実習レポート (骨格筋と平滑筋の違い) を完成させる。	
3	佐藤 勝重	【第 3 回】 予習 : 解剖生理学のプリント (神経 I) を復習する。 授業 : 神経系(I) (ニューロン、神経系の構造、運動系) ---顕微鏡観察 (実習) 復習 : 実習レポート (ニューロン、神経系の構造、運動系) を完成させる。	
4	佐藤 勝重	【第 4 回】 予習 : 解剖生理学のプリント (神経 II) を復習する。 授業 : 神経系(II) (感覚系、自律神経系) ---顕微鏡観察、腱反射、気導と骨導、マリOTTの盲点、皮膚の微細構造 (実習) 復習 : 実習レポート (感覚器、腱反射) を完成させる。	
5	佐藤 勝重	【第 5 回】 予習 : 解剖生理学のプリント (呼吸器系) を復習する。 授業 : 呼吸器系---顕微鏡観察、呼吸数測定、スパイロメトリー法による呼吸分析/血糖測定 (実習) 復習 : 実習レポート (呼吸器系) を完成させる。	
6	佐藤 勝重	【第 6 回】 予習 : 解剖生理学のプリント (心臓、循環、血液・免疫) を復習する。 授業 : 循環器系/血液・免疫 ---マクロ標本観察、顕微鏡観察 (心臓/循環の構造と機能、血球細胞の種類と機能、血液像の観察) (実習) 復習 : 実習レポート (心臓、循環、血液・免疫) を完成させる。	
7	佐藤 勝重	【第 7 回】 予習 : 解剖生理学のプリント (心臓、循環) を復習する。 授業 : 一般的診察方法/心電図 ---医療面接、バイタルサインの測定、聴診 (心音、呼吸音)、心電図記録 (実習) 復習 : 実習レポート (問診、聴診器の使い方、心電図) を完成させる。	
8	佐藤 勝重	【第 8 回】 予習 : 解剖生理学のプリント (消化器系 I) を復習する。 授業 : 消化器系(I) (食道、胃、小腸、大腸) ---消化管のマクロ解剖、顕微鏡観察 (実習) 復習 : 実習レポート (消化管) を完成させる。	
9	佐藤 勝重	【第 9 回】 予習 : 解剖生理学のプリント (肝・胆・膵) を復習する。 授業 : 消化器系(II) (肝、胆、膵) ---肝・胆・膵のマクロ解剖、顕微鏡観察 (実習) 復習 : 実習レポート (肝・胆・膵) を完成させる。	
10	佐藤 勝重	【第 10 回】 予習 : 解剖生理学のプリント (腎臓) を復習する。 授業 : 泌尿器系 (腎、膀胱) ---顕微鏡観察、尿検査 (実習) 復習 : 実習レポート (腎、膀胱) を完成させる。	

11	佐藤 勝重	【第 11 回】 予習：解剖生理学のプリント（内分泌系、生殖器系）を復習する。 授業：内分泌系/生殖器系---顕微鏡観察、血糖値測定、性周期と基礎体温表（実習） 復習：実習レポート（内分泌系、生殖器系）を完成させる。							
12	佐藤 勝重	【第 12 回】 予習：ラットの解剖について調べておく。 授業：小動物を用いた実験---ラットの臓器観察と血液成分の測定（実習） 復習：実習レポート（ラットのマクロ解剖）を完成させる。							
授業開始前学習		解剖生理学で学習したことをよく復習する。解剖生理学で配布したテキストを実習の時に必ず持参すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、実験内容に関連したレポートを課す。提出されたレポートは添削の上返却し、実習時間内に講評する。							
テキスト・教材		実験中に自作テキストを配布する。							
参考書		実験中に適宜紹介する。							
評価の基準と方法		小テスト（配点 40 点）、レポート提出（配点 60 点）より評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎		○	△
関連科目		解剖生理学							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容		内科、神経内科医としての実務経験有り。正常な人体の構造と機能について実習を行う。							

科目分類	210-211-13 (J)	授業コード	GA0121
科目名称	栄養生理学	単位数	2.0 単位
英文名称	Nutritional Physiology	授業区分	講義
科目責任者	曽我部 夏子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	曽我部 夏子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	16-102
授業概要	各種栄養素の代謝について理解を深めることを目的とする。摂食行動や水・電解質代謝、ビタミンの栄養学的作用などについて理解する。さらに、遺伝因子の個人差（遺伝子多型）と環境因子のひとつである栄養との関連についてディスカッションを交えて学習する。		
到達目標	・糖質・脂質・タンパク質代謝の概要を説明できるようになる ・水分、電解質代謝、ミネラル代謝について説明できるようになる ・遺伝子多型と栄養についての関連を理解する		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	曽我部 夏子	【第 1 回】 予習 : 「基礎栄養学」の講義のノートを読み返す : 「糖質・脂質・タンパク質」の消化・吸収の講義内容の部分 授業 : 栄養代謝の概要 : 糖質・脂質・タンパク質代謝の概要 (グループワーク) (テキスト 14 頁?24 頁) 復習 : 糖質・脂質・タンパク質代謝の概要を説明できるよう、自分なりに文章でまとめる	
2	曽我部 夏子	【第 2 回】 予習 : テキスト 84?94 頁を読む 授業 : 糖質の体内代謝について : 食前・食後の糖質代謝 (ディスカッション) (テキスト 84 頁?94 頁) 復習 : 食前・食後の糖質代謝を説明できるようになる	
3	曽我部 夏子	【第 3 回】 予習 : テキスト 97?111 頁を読む 授業 : 脂質の体内代謝 : 食前・食後の脂質代謝、コレステロール代謝の調節 (ディスカッション) (テキスト 97 頁?111 頁) 復習 : 授業内容を説明できるよう、自分で文章にまとめる	
4	曽我部 夏子	【第 4 回】 予習 : テキスト 68?82 頁を読む 授業 : たんぱく質の体内代謝 : 食後・食間期のたんぱく質・アミノ酸代謝相互関係について (ディスカッション) (テキスト 68?82 頁) 復習 : 授業の内容を説明できるよう、自分なりに文章でまとめる	
5	曽我部 夏子	【第 5 回】 予習 : テキスト 27?31 頁を読む 授業 : 摂食行動 : 空腹感と食欲、味覚 (ディスカッション) (テキスト 27?31 頁) 復習 : : 空腹感と食欲、味覚とは何かを説明できるよう、文章でまとめる	
6	曽我部 夏子	【第 6 回】 予習 : テキスト 32?35 頁を読む 授業 : 摂食行動 : 摂食中枢と満腹中枢、摂食を調節する要因 (ディスカッション) (テキスト 32?35 頁) 復習 : 摂食中枢と満腹中枢について、摂食を調節する要因について説明できるよう、文章でまとめる	
7	曽我部 夏子	【第 7 回】 予習 : テキスト 115?125 頁を読む 授業 : ビタミンの栄養 : ビタミン代謝と栄養学的作用 (ディスカッション) (テキスト 115?125 頁) 復習 : ビタミン代謝と栄養学的作用を覚える	
8	曽我部 夏子	【第 8 回】 予習 : テキスト 115?125 頁を読む 授業 : ビタミンの栄養 : 他の栄養素との関係 (ディスカッション) (テキスト 115 頁?125 頁) 復習 : ビタミンと他の栄養素との関係について、文章でまとめる	
9	曽我部 夏子	【第 9 回】 予習 : テキスト 129?132 頁を読む 授業 : 無機質の栄養 : 無機質の栄養学的機能 (ディスカッション) (テキスト 129?132 頁) 復習 : 無機質の栄養学的機能について覚える	
10	曽我部 夏子	【第 10 回】 予習 : テキスト 133?136 頁を読む 授業 : 無機質の栄養 : 吸収率に影響を与える要因 (ディスカッション) (テキスト 133 頁?136 頁) 復習 : 吸収率に影響を与える要因を理解し、文章にまとめる	

11	曽我部 夏子	【第 11 回】 予習：テキスト 138?144 頁を読む 授業：水・電解質の代謝：水の出納（ディスカッション）（テキスト 138?144 頁） 復習：水の出納について理解し、文章にまとめる							
12	曽我部 夏子	【第 12 回】 予習：テキスト 144?150 頁を読む 授業：水・電解質の代謝：体液の p H の調節（ディスカッション）（テキスト 144?150 頁） 復習：体液の p H の調節について理解し、文章にまとめる							
13	曽我部 夏子	【第 13 回】 予習：生化学の講義で習った「遺伝子」の講義ノートを読み返す 授業：遺伝子発現と栄養：遺伝形質と栄養の相互作用（ディスカッション） 復習：遺伝子、DNA などの用語の意味を理解し、説明できるようにまとめる							
14	曽我部 夏子	【第 14 回】 予習：授業で配布するプリントを事前に読んでおく 授業：遺伝子発現と栄養：生活習慣病と遺伝子多型（ディスカッション） 復習：遺伝子多型と関連のある栄養因子について説明できるよう、理解を深める							
15	曽我部 夏子	【第 15 回】 予習：授業で配布するプリントを事前に読んでおく 授業：遺伝子発現と栄養：後天的遺伝子変異と栄養（ディスカッション） 復習：後天的遺伝子変異の原因物質について理解し、覚える							
授業開始前学習		『基礎栄養学』、『基礎栄養学実習』の内容を復習しておくこと。また、授業の前にテキストの該当ページを読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題については採点の上、返却して解説を行う。							
テキスト・教材		田地陽一編著『基礎栄養学』（羊土社）							
参考書		授業の中で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		授業態度（小テストなど）10%、定期試験 90%とし 100 点満点で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△				◎	○		
関連科目		基礎栄養学、解剖生理学、生化学							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		産業保健領域での管理栄養士の実務経験あり。就労者に対する保健指導、栄養教育において、本授業で学ぶ糖質代謝、消化吸収等の知識をどのように活かすのか、授業で実例を挙げて紹介する。							

科目分類	210-211-33（J）			授業コード	GA0131
科目名称	栄養生理学実験			単位数	1.0 単位
英文名称	Experiment in Nutritional Physiology			授業区分	実習・実験
科目責任者	曽我部 夏子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	曽我部 夏子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30			研究室	16-102
授業概要	「栄養生理学」で学んだ知識を、自らが実験者および被験者となって実験することによって、理解を深める。実験結果を解析し、考察することで、知識を定着させる。				
到達目標	・超音波による骨量測定を実施し、骨代謝に関与する要因について理解する ・食品に含まれる栄養素の違いによる食後血糖値の変化の違いに関して理解する ・24 時間蓄尿を実施し、食事からの摂取量と尿中ミネラル排泄量との関連について理解する				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	曽我部 夏子	【第 1 回】 予習：栄養生理学の講義で行った「遺伝子と栄養」の項目を復習する 授業：研究計画の立案、研究実験の進め方について、アルコールパッチテストの実施（実習） 復習：アルデヒド脱水素酵素 ALDH2 遺伝子多型の分布について調べる			
2	曽我部 夏子	【第 2 回】 予習：糖質、脂質、たんぱく質摂取による血糖値への影響について復習する 授業：実験① 糖質、脂質、たんぱく質摂取による血糖値への影響（実験） 復習：血糖値変化測定の統計解析し、レポートを作成する			
3	曽我部 夏子	【第 3 回】 予習：骨代謝に関する先行研究の文献を読み込む 授業：実験② 骨量と運動歴、体格等との関連の検討、骨量測定（実験） 復習：骨代謝に関する先行研究を紹介するための、レジュメを作成する			
4	曽我部 夏子	【第 4 回】 予習：栄養生理学の講義「水分・電解質代謝」の項目のノートを復習する 授業：実験③ 食事からの栄養素摂取量と尿中排泄量との関連（採尿、食事調査について） 復習：実験④ 体温の日内変動の結果解析のレポート作成			
5	曽我部 夏子	【第 5 回】 予習：24 時間蓄尿、食事内容を記録する 授業：遺伝子多型（アルコールパッチテスト）結果の解析 復習：遺伝子多型の結果解析のレポート作成			
6	曽我部 夏子	【第 6 回】 予習：自由研究のプロトコルを完成させる 授業：骨代謝に関する先行研究のレジュメの発表、解説（プレゼンテーション） 実験③ 食事からの栄養素摂取量と尿中排泄量との関連（食事記録の栄養素等の計算） 復習：食事記録の栄養素等を算出し、数値を確認する			
7	曽我部 夏子	【第 7 回】 予習：栄養素摂取量と尿中排泄量との関連についての先行研究の読み込み、レジュメの作成 授業：実験② 骨量と運動歴、体格等との関連の検討 結果解析① （骨量と運動経験、骨量と BMI とではそれぞれどのような関連がみられるか、検定する） 復習：解析結果について、先行研究を踏まえて考察し、レポート作成			
8	曽我部 夏子	【第 8 回】 予習：栄養生理学の講義「ミネラル代謝」のノートを復習する 授業：実験 2-②骨量と運動歴、栄養素摂取状況との関連の検討 結果解析② 骨量と運動歴、栄養素摂取状況との関連の検討 （魚の摂取頻度とビタミン D 摂取状況、牛乳・乳製品摂取頻度とカルシウム摂取状況、 高校時代および現在の牛乳・乳製品の摂取と骨量との関連について解析する） 復習：解析結果について、先行研究を踏まえて考察し、レポート作成			

9	曾我部 夏子	【第9回】 予習：国民健康・栄養調査の野菜、食塩相当量の摂取状況を調べる 授業：栄養素摂取量と尿中排泄量との関連についての先行研究に関するレジュメの発表(プレゼンテーション)、および実験結果の解析①(野菜、食塩摂取に関する認識と栄養摂取状況との関連解析) 復習：解析結果について、先行研究を踏まえて考察し、レポート作成						
10	曾我部 夏子	【第10回】 予習：国民健康・栄養調査のカルシウム、カリウム、リン、たんぱく質の摂取状況を調べる 授業：栄養素摂取量と尿中排泄量との関連について実験結果の解析②(尿中の排泄：ナトリウム、カルシウム、カリウム、リン、たんぱく質を測定することによって、食事からのその栄養素の摂取量を推定することが可能であるのか、検討する) 復習：解析結果について、先行研究を踏まえて考察し、レポート作成						
11	曾我部 夏子	【第11回】 予習：自由研究を各自で実施して、データを揃える 授業：自由研究の結果を解析し、グラフや表にまとめ、発表資料を作成する 復習：プレゼンテーション資料を完成させる						
12	曾我部 夏子	【第12回】 予習：発表を制限時間内に行えるように、読みの練習を行う 授業：自由研究の発表(プレゼンテーション)、期末テスト 復習：期末テストで間違えた問題について、復習する						
授業開始前学習		テキストの該当部分を熟読した上で、実験内容を把握して授業に臨むこと。「基礎栄養学」、「栄養生理学」の講義内容も、よく復習しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		小テストは、採点した後に返却し、解説を行う。						
テキスト・教材		授業用オリジナルテキストを配布する。						
参考書		田地陽一編著「基礎栄養学」羊土社						
評価の基準と方法		・レポート(文献レジュメ含め) 40%、小テストおよび期末試験 35%、自由実験(レポート・プレゼンテーション資料) 25%とする。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行できる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎		○	△
関連科目	「基礎栄養学」、「栄養生理学」の内容をよく理解しておくこと。さらに、「解剖生理学」、「生化学」と密接に関連する内容が含まれるため、これらの科目と合わせて総合的に理解することが大切である							
その他	4回以上の欠席、レポート課題の未提出は、単位取得できない場合がある。 なお、提出期限を過ぎてレポートが提出された場合は、その遅れた日数にしたがって減点とする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容	産業保健領域での管理栄養士の実務経験あり。就労者に対する保健指導、栄養教育において、本授業で学ぶ糖質代謝、消化吸収等の知識をどのように活かすのか、授業で実例を挙げて紹介する。							

科目分類	210-211-12	授業コード	GA0141
科目名称	微生物学	単位数	2.0 単位
英文名称	Microbiology	授業区分	講義
科目責任者	松本 雄宇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松本 雄宇	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:10 後期 火曜日 13:00～16:10	研究室	4-103
授業概要	微生物の活動はヒトの生活と深いかわりがある。この講義では、微生物学の発展および多種多様な微生物の種類と特徴を学ぶことで微生物学の基礎を修得し、微生物の利用について理解を深める。		
到達目標	微生物学の基礎から食品に関連する有用微生物の利用法を理解し、身近な微生物の特徴と性質を習得する。微生物に関連する現状の課題と今後の課題解決法について考察できる実力を獲得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松本 雄宇	【第 1 回】 予習 教科書 p. 1 – 5 を下読みし、微生物の定義と微生物学史を確認する 授業 微生物の定義と微生物学の歴史（教科書 p. 1 – 5） 復習 微生物学の発展に寄与した人物とその成果についてまとめる	
2	松本 雄宇	【第 2 回】 予習 教科書 p. 6 – 13 を下読みし、微生物利用技術と生物界における微生物の位置、微生物の分類方法について確認する 授業 微生物利用技術と微生物の分類（教科書 p. 6 – 13） 復習 微生物利用の発展に寄与した人物とその成果、微生物の分類についてまとめる	
3	松本 雄宇	【第 3 回】 予習 教科書 P. 14 – 31 を下読みし、微生物の種類と特徴について確認する 授業 微生物の種類と特徴（教科書 P. 14 – 31） 復習 微生物の種類と特徴についてまとめる	
4	松本 雄宇	【第 4 回】 予習 教科書 P. 33 – 42 を下読みし、微生物の特徴的な構造と機能について確認する 授業 微生物の構造と機能（教科書 P. 33 – 42） 復習 微生物がもつ特徴的な構造とその機能についてまとめる	
5	松本 雄宇	【第 5 回】 予習 教科書 P. 45 – 57 を下読みし、微生物の代謝について確認する 授業 微生物の代謝（教科書 P. 45 – 57） 復習 微生物の代謝（嫌氣的・好氣的）についてまとめる	
6	松本 雄宇	【第 6 回】 予習 教科書 P. 59 – 67 を下読みし、微生物の増殖について確認する 授業 微生物の増殖（教科書 P. 59 – 67） 復習 微生物の増殖に影響する要因と増殖曲線についてまとめる	
7	松本 雄宇	【第 7 回】 予習 P. 68 – 73 を下読みし、微生物の分化について確認する。 授業 微生物の分化（教科書 P. 68 – 73） 復習 微生物の分化について重要語句を確認しまとめる	
8	松本 雄宇	【第 8 回】 予習 教科書 P. 75 – 83 を下読みし、遺伝子の基本構造と突然変異について確認する 授業 遺伝子の基本構造と突然変異（教科書 P. 75 – 83） 復習 遺伝子の基本構造と突然変異について重要語句を確認しまとめる	
9	松本 雄宇	【第 9 回】 予習 教科書 P. 83 – 93 を下読みし、微生物による遺伝子組換えと技術利用について調べる 授業 微生物による遺伝子組換えと技術利用（教科書 P. 83 – 93） 復習 微生物を利用した遺伝子組換え技術について重要語句を確認しまとめる	
10	松本 雄宇	【第 10 回】 予習 教科書 P. 95 – 100 を下読みし、発酵食品と微生物の関係性について確認する 授業 発酵食品（教科書 P. 95 – 100） 復習 各発酵食品の発酵メカニズムと関与微生物についてまとめる	
11	松本 雄宇	【第 11 回】 予習 教科書 P. 100 – 119 を下読みし、微生物代謝産物の工業生産と利用について確認する 授業 微生物代謝産物の工業生産と利用：アミノ酸・酵素・抗生物質（教科書 P. 100 – 119） 復習 微生物を用いた物質生産技術についてまとめる	

12	松本 雄宇	【第 12 回】 予習 教科書 P.1 2 1－1 2 9 を下読みし、食品の殺菌と保存について確認する 授業 食品の保存（教科書 P.1 2 1－1 2 9） 復習 食品の殺菌と保存について重要語句を確認しまとめる							
13	松本 雄宇	【第 13 回】 予習 教科書 P.1 3 1－1 3 9 を下読みし、環境中の微生物とその利用について確認する 授業 環境における微生物の活動（教科書 P.1 3 1－1 3 9） 復習 微生物による環境浄化と特殊環境下に生息する微生物についてまとめる							
14	松本 雄宇	【第 14 回】 予習 細菌やウイルスによる感染症や感染経路について調べてまとめる 授業 微生物による感染症 復習 微生物の感染経路と、各感染症がどの微生物によって引き起こされるのか整理する							
15	松本 雄宇	【第 15 回】 予習 小テストの内容についてまとめる 授業 第 1 ～ 1 4 回講義のまとめ、課題の講評、問題演習 復習 教科書・配布資料の重要なキーワードについてまとめる							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で行った小テストについて解説する。							
テキスト・教材		別府輝彦 著 『新バイオテクノロジーテキストシリーズ 新・微生物学 [新装第 2 版] (ISBN978-4-06-156356-8)』（講談社）							
参考書									
評価の基準と方法		定期試験（60％）、小テスト（40％）で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△				◎	○		
関連科目		生物学、生化学、解剖生理学の授業内容と関連する。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類		210-211-12（J）		授業コード		GA0150			
科目名称		病理学		単位数		2.0 単位			
英文名称		Pathology		授業区分		講義			
科目責任者		佐藤 勝重		必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		佐藤 勝重		開講時期		2 年			
オフィスアワー		前期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 09:00～10:30 後期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10		研究室		16-108			
授業概要		「解剖生理学」では、正常な人体の構造と機能について学んだが、これをふまえて、様々な疾患により人体が障害をうけるとどのようなかに関して学習し、将来、管理栄養士として臨床栄養管理を行うにあたり、必要不可欠な知識を身につける。							
到達目標		解剖生理学や解剖生理学実験を通して学んだ「人体の構造と機能」を基礎として、疾病に関する概念を学習し、将来、管理栄養士として活動していく際に必要不可欠な知識を身につけることを目標とする。							
アクティブ・ラーニング 型授業		無		全授業回数		15 回		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容						
1	佐藤 勝重		【第 1 回】 予習：「解剖学」・「生理学」とは何であったかを再考する。 授業：Introduction：病理学の概念、疾患の病因と病理学、病理組織細胞診断 復習：第 1 回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。						
2	佐藤 勝重		【第 2 回】 予習：解剖生理学で学んだ「細胞の機能と構造」について復習する。 授業：細胞障害と細胞増殖：細胞の増殖と細胞死、細胞障害、遺伝子傷害 復習：第 2 回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。						
3	佐藤 勝重		【第 3 回】 予習：解剖生理学で学んだ「組織の機能と構造」について復習する。 授業：組織、細胞の修復と再生：再生、化生、創傷治癒、異物の処理 復習：第 3 回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。						
4	佐藤 勝重		【第 4 回】 予習：解剖生理学で学んだ「心臓」について復習する。 授業：循環障害(I)：局所的循環障害 復習：第 4 回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。						
5	佐藤 勝重		【第 5 回】 予習：解剖生理学で学んだ「循環」について復習する。 授業：循環障害(II)：全身的循環障害 復習：第 5 回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。						
6	佐藤 勝重		【第 6 回】 予習：解剖生理学で学んだ「血液」について復習する。 授業：炎症：炎症の定義、急性炎症、慢性炎症、組織修復 復習：第 6 回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。						
7	佐藤 勝重		【第 7 回】 予習：細菌学で学んだ内容全般について復習する。 授業：感染症(I)：微生物の病原性、感染の成立、感染防御機構 復習：第 7 回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。						
8	佐藤 勝重		【第 8 回】 予習：解剖生理学で学んだ「血液」・「免疫」について復習する。 授業：感染症(II)：中和抗体と持続感染、日和見感染症、抗生物質 復習：第 8 回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。						
9	佐藤 勝重		【第 9 回】 予習：解剖生理学で学んだ「免疫」について復習する。 授業：免疫機構の異常：免疫反応、アレルギー反応、自己免疫疾患 復習：第 9 回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。						
10	佐藤 勝重		【第 10 回】 予習：解剖生理学実験で観察した「細胞」について復習する。 授業：腫瘍(I)：腫瘍の形態、発生、転移 復習：第 10 回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。						
11	佐藤 勝重		【第 11 回】 予習：解剖生理学実験で観察した各臓器の微細構造について復習する。 授業：腫瘍(II)：腫瘍の組織学的分類、疫学 復習：第 11 回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。						

12	佐藤 勝重	【第 12 回】 予習：「遺伝」・「染色体」とは何かを復習する。 授業：遺伝と先天異常：先天異常の病因、遺伝病、染色体異常、遺伝子診断 復習：第 12 回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。							
13	佐藤 勝重	【第 13 回】 予習：解剖生理学で学んだ「肝臓」について復習する。 授業：代謝異常(I)：細胞外物質沈着、細胞内物質沈着、黄疸 復習：第 13 回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。							
14	佐藤 勝重	【第 14 回】 予習：解剖生理学で学んだ「消化と吸収」について復習する。 授業：代謝異常(II)：たんぱく質代謝異常症、脂質代謝異常症 復習：第 14 回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。							
15	佐藤 勝重	【第 15 回】 予習：解剖生理学で学んだ「脾臓」について復習する。 授業：代謝異常(III)：糖質代謝異常症、痛風 復習：第 15 回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。							
授業開始前学習		解剖生理学で学習したことをよく復習する。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回講義終了時に、その日の講義内容に相当する管理栄養士国家試験から作成した練習問題を課す。問題に対する解答に関して、講義内に講評する。							
テキスト・教材		講義中に自作テキストを配布する。							
参考書		笹野、岡田、石倉編「シンプル病理学」(南江堂) 山口和克著「病気の地図帳」(講談社) その他適切な参考書を適宜、授業中に紹介する。							
評価の基準と方法		授業中に行う小テスト(配点 100 点)により評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△				◎	○	△	
関連科目		解剖生理学 解剖生理学実験 臨床医学論							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		内科、神経内科医としての実務経験有り。正常な人体の構造と機能が、病気の場合にどのように変化するかについて講義する。							

科目分類	210-211-14	授業コード	GA0161
科目名称	運動生理学	単位数	2.0 単位
英文名称	Athletic Physiology	授業区分	講義
科目責任者	小澤 多賀子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小澤 多賀子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:10 後期 金曜日 09:00～12:10	研究室	16-103
授業概要	近年、社会的問題となっている生活習慣病患者や要介護者の増加を抑制するためには、「予防」に関する知識を備えることが必要である。生活習慣病と要介護化の予防には、「食習慣の改善」と「運動の習慣化」が有効であり、両者をいかに両立できるかが予防を推進する上で鍵となる。 本講義では運動と栄養の密接な関係性について理解を深めるとともに、生活習慣病と要介護化の予防のための健康支援をする上で必要な運動・栄養生理学的知識を学ぶ。		
到達目標	・生活習慣病と要介護化の予防のための健康支援に関する基礎知識を身につける。 ・ヘルスプロモーションを推進できる基礎能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小澤 多賀子	【第 1 回】 予習：自分の食習慣と運動習慣についての振り返り 授業：食事と運動の両面から健康を考える 復習：「なぜ食事と運動の両面から健康を考える必要があるのか」について整理	
2	小澤 多賀子	【第 2 回】 予習：キーワード（体組成、肥満、やせ、アセスメント）の下調べ 授業：健康状態のアセスメント（1）体組成測定の意義と評価方法 復習：体組成の評価方法と評価指標の整理	
3	小澤 多賀子	【第 3 回】 予習：肥満度とメタボリックシンドロームの判定基準の事前確認 授業：健康状態のアセスメント（2）体組成の正しい測り方 復習：体組成計測の精度と再現性を向上させる方法の確認	
4	小澤 多賀子	【第 4 回】 予習：糖質・脂質・たんぱく質の代謝過程の事前確認 授業：エネルギー代謝（1）安静時と運動時のエネルギー代謝 復習：運動種類別のエネルギー代謝の相違についての整理	
5	小澤 多賀子	【第 5 回】 予習：肥満症、糖尿病、および脂質異常症の発症機序の下調べ 授業：エネルギー代謝（2）糖・脂質代謝と運動 復習：運動が糖・脂質代謝に及ぼす影響の整理	
6	小澤 多賀子	【第 6 回】 予習：競技力向上のための栄養・食事指導の事例の下調べ 授業：スポーツ栄養（1）競技力向上のための栄養・食事 復習：運動パフォーマンス向上に関与する栄養素の整理	
7	小澤 多賀子	【第 7 回】 予習：スポーツ選手のコンディション維持に対する栄養・食事指導の事例の下調べ 授業：スポーツ栄養（2）コンディション維持のための栄養・食事 復習：運動時に利用・消費される栄養素の整理	
8	小澤 多賀子	【第 8 回】 予習：キーワード（血圧、心拍数、心拍出量、末梢血管抵抗）の下調べ 授業：心臓と血管（1）血圧測定の意義と正しい測り方 復習：血圧の正しい測り方の確認	
9	小澤 多賀子	【第 9 回】 予習：高血圧症の発症機序と血圧の測定方法の下調べ 授業：心臓と血管（2）血圧と運動の関係 復習：運動時の血圧変動とその機序の整理	
10	小澤 多賀子	【第 10 回】 予習：肺と血管の構造および機能の下調べ 授業：呼吸と循環 酸素の利用と運動の関係 復習：最大酸素摂取量の意味とその変動要因の整理	

11	小澤 多賀子	【第 11 回】 予習：骨格筋の種類と筋繊維の種類の下調べ 授業：骨格筋の役割と機能 復習：筋繊維の種類と加齢にともなう骨格筋の変化の整理							
12	小澤 多賀子	【第 12 回】 予習：全身の内分泌腺とホルモンの種類の下調べ 授業：内分泌系（１）ホルモンの役割と機能 復習：ホルモンの役割と機能の整理							
13	小澤 多賀子	【第 13 回】 予習：運動時の血圧と血糖の変化の下調べ 授業：内分泌系（２）運動時のホルモン動態 復習：運動時に分泌されるホルモンの整理							
14	小澤 多賀子	【第 14 回】 予習：キーワード（活性酸素、抗酸化物質）の下調べ 授業：エイジングの生理学的メカニズム 老化、活性酸素、運動との関係 復習：活性酸素と老化および運動との関係の整理							
15	小澤 多賀子	【第 15 回】 予習：健康づくりのための身体活動基準 2 0 1 3 とアクティブガイドの下調べ 授業：健康づくりのための身体活動基準と指針 復習：健康づくりのための身体活動基準 2 0 1 3 とアクティブガイドの要点整理							
授業開始前学習		配布資料や参考書を閲読しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業時に課すショートレポートは、採点后に授業内にて返却する。							
テキスト・教材		適宜資料を配付する。							
参考書		・勝田茂、征矢英昭著：『運動生理学 2 0 講（第 3 版）』（朝倉書店）2 0 1 5 年 ・鈴木志保子著：『理論と実践 スポーツ栄養学』（日本文芸社）2 0 2 1 年							
評価の基準と方法		成績評価：試験 4 0 %、ショートレポート 3 0 %、および授業に対する姿勢や態度 3 0 %を総合的に判断して評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△				◎	○	△	
関連科目		健康管理論、解剖生理学、栄養生理学、臨床医学論、基礎栄養学、スポーツ栄養学							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-211-12 (J)			授業コード	GA0170
科目名称	臨床医学論			単位数	2.0 単位
英文名称	Clinical Medicine			授業区分	講義
科目責任者	佐藤 勝重			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 勝重			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 09:00～10:30 後期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10			研究室	16-108
授業概要	本講義では、臨床医学の基礎を学びます。1 年生および、2 年生の前期に学んだ、解剖生理学、病理学をマスターした上で、疾病の病因、病態、症状を学び、さらに、現代医学の最先端の検査法や治療法を理解することを求めます。ここでの学習は、臨床栄養学、応用栄養学を理解するための基礎知識となります。種々の疾病の治療や予防のための食事療法、食事指導を行う、管理栄養士として知って置くべき、基本的な医学の常識を学ぶ、重要な教科です。				
到達目標	管理栄養士として必要な病気の成り立ちや症状についての基本的な知識を身につける				
アクティブ・ラーニング 型授業	無		全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	佐藤 勝重	【第 1 回】 予習 : 指定教科書で、「診断のための検査」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。 授業 : 診断のための検査 テキスト(P) 14-39 復習配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。			
2	佐藤 勝重	【第 2 回】 予習 : 指定教科書で、「栄養・代謝系疾患 1」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。 授業 : 栄養・代謝系疾患 1 (高尿酸血症、その他) テキスト(P) 40-51 復習 : 配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。			
3	佐藤 勝重	【第 3 回】 予習 : 指定教科書で、「栄養・代謝系疾患 2」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。 授業 : 栄養・代謝系疾患 1 (糖尿病) テキスト(P) 52-62 復習 : 配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。			
4	佐藤 勝重	【第 4 回】 予習 : 指定教科書で、「栄養・代謝系疾患 3」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。 授業 : 栄養・代謝系疾患 2 (脂質異常、肥満) テキスト(P) 62-73 復習 : 配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。			
5	佐藤 勝重	【第 5 回】 予習 : 指定教科書で、「内分泌系疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。 授業 : 内分泌系疾患 テキスト(P) 69-79 復習 : 配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。			
6	佐藤 勝重	【第 6 回】 予習 : 指定教科書で、「消化管疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。 授業 : 消化管疾患 テキスト(P) 80-98 復習 : 配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。			
7	佐藤 勝重	【第 7 回】 予習 : 指定教科書で、「肝胆膵疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。 授業 : 肝胆膵疾患 テキスト(P) 99-116 復習 : 配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。			
8	佐藤 勝重	【第 8 回】 予習 : 指定教科書で、「腎・尿路系疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。 授業 : 腎・尿路系疾患 テキスト(P) 155-180 復習 : 配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。			
9	佐藤 勝重	【第 9 回】 予習 : 指定教科書で、「神経・精神系疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。 授業 : 神経・精神系疾患 テキスト(P) 181-191 復習 : 配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。			
10	佐藤 勝重	【第 10 回】 予習 : 指定教科書で、「循環器系疾患 1」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。 授業 : 循環器系疾患 1 (心不全、動脈硬化、虚血性心疾患) テキスト(P) 117-124 復習 : 配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。			
11	佐藤 勝重	【第 11 回】 予習 : 指定教科書で、「循環器系疾患 2」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。 授業 : 循環器系疾患 2 (高血圧、不整脈、脳血管障害) テキスト(P) 125-135 復習 : 配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。			

12	佐藤 勝重	【第 12 回】 予習 : 指定教科書で、「呼吸器系疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。 授業 : 呼吸器系疾患 テキスト(P) 192-206 復習 : 配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。							
13	佐藤 勝重	【第 13 回】 予習 : 指定教科書で、「血液・造血器系疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。 授業 : 血液・造血器系疾患 テキスト(P) 207-222 復習 : 配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。							
14	佐藤 勝重	【第 14 回】 予習 : 指定教科書で、「免疫・アレルギー系疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。 授業 : 免疫・アレルギー系疾患 テキスト(P) 243-252 復習 : 配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。							
15	佐藤 勝重	【第 15 回】 予習 : 指定教科書で、「婦人科疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。 授業 : 婦人科疾患・乳幼児・小児疾患 テキスト(P) 253-262 復習 : 配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。							
授業開始前学習		一年で学んだ解剖生理学の講義、実習のテキストおよび、病理学の講義の復習を必ず行うこと。 また、教科書の予習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、講義の「学習のポイント」を自分でまとめるように指導する。学ぶべき基礎知識を積み重ねるよう努力させる。							
テキスト・教材		田中 明、藤岡 由夫 編 『臨床医学. 疾病の成り立ち』第 3 版 (羊土社)							
参考書		高久 史麿、尾形 悦郎、黒川 清、矢崎 義雄 監修 『新臨床内科学』(医学書院)							
評価の基準と方法		定期試験 (配点 100 点) により評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△			◎	○	△	
関連科目		解剖生理学 解剖生理学実験 病理学 臨床栄養学							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		内科、神経内科医としての実務経験有り。管理栄養士として、理解しておく必要のある疾病について講義する。							

科目分類	210-211-11	授業コード	GA0181		
科目名称	食品学 I	単位数	2.0 単位		
英文名称	Food Science I	授業区分	講義		
科目責任者	小林 亘	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	小林 亘	開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 火曜日 12:00～15:00 後期 月曜日 12:00～15:00	研究室	4-203		
授業概要	栄養士，管理栄養士の資格を取得するにあたり，人体や健康に影響する食品成分について理解し，さらに実践的な専門科目で食品に関する基礎的知識を活用できるようにするための専門基礎科目である。 主な食品成分の化学的，物理的性質について学び，食品の調理，加工，保存中の成分間反応に関する理解を深める。さらに食品の色，味，香気成分についても食品の嗜好性，機能性と関連づけて学習し，食品表示や日本食品標準成分表についても学習する。				
到達目標	食品成分の構造，化学的性質，成分間反応について理解し，さらに嗜好成分，食品の機能性についての知識が身につく，栄養学や生化学とも関連付けて，食品に関する化学的な理解が可能になることを目標とする。 また，食品表示や日本食品標準成分表に関する理解が，実践的な専門科目に活用できるようになることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	小林 亘	【第 1 回】 予習：テキストを読む。 授業：「人間と食品」食文化と食生活・食生活と健康・食料と環境問題・食品の安全性（テキスト P1?9） 復習：食生活と健康、食料と環境問題について現状を把握し、自分の考えをまとめておく。			
2	小林 亘	【第 2 回】 予習：テキスト（水分）を読む。 授業：水分と水分活性（テキスト P56～60） 復習：重要語句の確認、水分活性と食品の保存性についてまとめておく。			
3	小林 亘	【第 3 回】 予習：テキスト（炭水化物）を読む。 授業：炭水化物の分類と構造（テキスト P10～16） 復習：重要語句の確認、主な二糖類の結合様式、でんぷんの構造についてまとめておく。			
4	小林 亘	【第 4 回】 予習：テキスト（炭水化物）を読む。 授業：炭水化物の加熱変化（テキスト P108～111） 復習：重要語句の確認、でんぷんの糊化と老化についてまとめておく。			
5	小林 亘	【第 5 回】 予習：テキスト（食物繊維）を読む。 授業：食物繊維（テキスト P16～21） 復習：重要語句の確認、食物繊維の機能についてまとめておく。			
6	小林 亘	【第 6 回】 予習：テキスト（脂質）を読む。 授業：脂質と脂肪酸（テキスト P35～37） 復習：重要語句の確認、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸についてまとめておく。			
7	小林 亘	【第 7 回】 予習：テキスト（脂質）を読む。 授業：脂質の種類、油脂の理化学的性質（テキスト P37～42） 復習：重要語句の確認、トリアシルグリセロールの構造、レシチンの構造を理解しておく。			
8	小林 亘	【第 8 回】 予習：テキスト（脂質）を読む。 授業：油脂の加工、油脂の酸化（テキスト P101～105） 復習：重要語句の確認、ヨウ素価とケン化価、油脂の酸化要因とその防止法についてまとめておく。			
9	小林 亘	【第 9 回】 予習：テキスト（タンパク質）を読む。 授業：たんぱく質とアミノ酸（テキスト P22～27） 復習：重要語句の確認、アミノ酸の一般式とアミノ酸の種類、ペプチド結合について理解しておく。			
10	小林 亘	【第 10 回】 予習：テキスト（たんぱく質）を読む。 授業：たんぱく質の分類、構造、変性、栄養価（テキスト P27～35） 復習：重要語句の確認、単純たんぱく質の種類、窒素たんぱく質換算係数について理解しておく。			

11	小林 亘	【第 11 回】 予習：テキスト（無機質）を読む。 授業：無機質（テキスト P50～55） 復習：重要語句の確認、主な無機質の欠乏症、生理機能、含有量の多い食品をまとめておく。							
12	小林 亘	【第 12 回】 予習：テキスト（脂溶性ビタミン）を読む。 授業：脂溶性ビタミン（テキスト P42～45） 復習：重要語句の確認、脂溶性ビタミンの欠乏症と過剰症、生理作用、含有量の多い食品をまとめておく。							
13	小林 亘	【第 13 回】 予習：テキスト（水溶性ビタミン）を読む。 授業：水溶性ビタミン（テキスト P46～50） 復習：重要語句の確認、水溶性ビタミンの欠乏症、生理作用、含有量の多い食品をまとめておく。							
14	小林 亘	【第 14 回】 予習：テキスト（食品の二次機能・三次機能）を読む。 授業：食品中の色素成分、呈味成分、香気成分（テキスト P60～69） 復習：主な食品の嗜好成分、食品の褐変反応についてまとめておく。							
15	小林 亘	【第 15 回】 予習：テキスト（食品表示・食品成分表）を読む。 授業：食品表示・栄養成分表示・日本食品標準成分表（テキスト P89～100, P117～125） 復習：食品表示、栄養成分表示、アレルギー表示、食品成分表などの概要をまとめておく。							
授業開始前学習		高校で学んだ化学を復習しておくことが大切である。特に、有機化学の基礎的な知識を復習しておくことと授業が理解しやすい。授業前に必ずテキストを一読し、わからない箇所をチェックしておくことを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法		小テストおよびリアクションペーパーの内容について、次回授業内で適宜返答及び授業内容に反映をする。							
テキスト・教材		高岡 素子 編著『食べ物と健康Ⅰ【食品学総論】』（八千代出版）							
参考書		中村 宣督 他編著『エッセンシャル 食品化学』（講談社） 有井 康博 他著『食と栄養を学ぶための化学』（化学同人） その他適宜紹介する。							
評価の基準と方法		定期試験 50％、小テスト 30％、授業態度 20％とし、総合評価 60 点以上を合格とする。 遅刻および欠席は減点対象とする。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていくとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△				◎	○		
関連科目		食品学Ⅱ（各論）の内容を理解するためにも重要な科目である。食品学実験Ⅰ・Ⅱにも関わりの深い内容で、調理学、基礎栄養学、生化学、食品衛生学等と関連する部分も多い。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-211-11	授業コード	GA0191		
科目名称	食品学Ⅱ	単位数	2.0 単位		
英文名称	Food ScienceⅡ	授業区分	講義		
科目責任者	小林 亘	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	小林 亘	開講時期	1 年		
オフィスアワー	前期 火曜日 12:00～15:00 後期 月曜日 12:00～15:00	研究室	4-203		
授業概要	栄養士，管理栄養士の資格を取得するにあたり，食品素材についての知識を得ることを目的とし，穀類・イモ類・マメ類・野菜類・果実類・キノコ類・藻類などの植物性食品，魚介類・肉類，乳類・卵類などの動物性食品，その他香辛料，嗜好飲料，微生物利用食品などについて，その成分特性，加工特性および保蔵法などに関する理解を深める。さらに食品中の生理機能成分についても学習する。				
到達目標	食料と環境問題，日本における食品の供給と消費の現状などを理解した上で，穀類，イモ類，マメ類，野菜類，果実類，キノコ類，藻類，魚介類，肉類，卵類，乳類，調味料，香辛料および嗜好飲料等の成分特性，加工特性，保存性に関する知識を身につける。 食品の機能性についても理解を深めることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	小林 亘	【第 1 回】 予習：食料自給率，食品ロス，フードマイレージ，地産地消について調べる。 授業：食料と環境問題（テキスト P1～11） 復習：食糧自給率，フードマイレージ，地産地消，食品ロスなどについてまとめる。			
2	小林 亘	【第 2 回】 予習：テキストを読む。穀類・米 授業：米の性状と形態，成分特性，加工と貯蔵（テキスト P13～16） 復習：米の炭水化物，たんぱく質について食品学Ⅰと関連づけて理解しておく。			
3	小林 亘	【第 3 回】 予習：テキストを読む。穀類・小麦 授業：小麦の性状と種類，成分特性，加工特性（テキスト P12～17） 復習：小麦の炭水化物，たんぱく質について食品学Ⅰと関連づけて理解しておく。			
4	小林 亘	【第 4 回】 予習：テキストを読む。穀類・雑穀 授業：大麦，トウモロコシ，そば，その他の雑穀の種類と成分特性（テキスト P18～22） 復習：大麦，トウモロコシ，そば，その他の雑穀の成分特性，利用についてまとめる。			
5	小林 亘	【第 5 回】 予習：テキストを読む。イモ類 授業：イモ類の成分特性，加工と利用（テキスト P22～27） 復習：サツマイモとジャガイモの成分特性，でんぷん以外を主成分とするイモ類についてまとめる。			
6	小林 亘	【第 6 回】 予習：テキストを読む。マメ類 授業：マメ類の成分特性，加工特性（テキスト P27～32） 復習：大豆のたんぱく質，生理機能成分，豆腐の製造，小豆の成分特性，あんの製造についてまとめる。			
7	小林 亘	【第 7 回】 予習：テキストを読む。野菜類・果実類 授業：野菜・果実類の種類と成分特性（テキスト P37～53） 復習：野菜・果実類の生理機能成分・植物性色素についてまとめる。			
8	小林 亘	【第 8 回】 予習：テキストを読む。種実類・キノコ類・藻類 授業：種実類・キノコ類・藻類の種類と成分特性（テキスト P32～37，P53～62） 復習：種実類・キノコ類・藻類の生理機能成分についてまとめる。			
9	小林 亘	【第 9 回】 予習：テキストを読む。魚介類 授業：魚肉の筋肉構造，成分特性（テキスト P75～77） 復習：魚肉のたんぱく質，脂質の特徴をまとめる。			
10	小林 亘	【第 10 回】 予習：テキストを読む。魚介類 授業：魚の死後変化と鮮度，加工特性（テキスト P77～88） 復習：魚の死後硬直の進行と筋肉の生化学的変化，K 値についてまとめる。			

11	小林 亘	【第 11 回】 予習：テキストを読む。肉類 授業：食肉の筋肉構造，成分特性（テキスト P65～69） 復習：食肉のたんぱく質，脂質の特徴をまとめておく。							
12	小林 亘	【第 12 回】 予習：テキストを読む。肉類 授業：食肉成分の変化，食肉加工品（テキスト P69～74） 復習：肉色の変化，食肉の死後硬直・解硬・熟成および食肉加工品についてまとめておく。							
13	小林 亘	【第 13 回】 予習：テキストを読む。乳類 授業：乳類の成分特性，乳製品（テキスト P89～96） 復習：牛乳のたんぱく質，脂質，カルシウム供給源として優れている要因，乳製品についてまとめておく。							
14	小林 亘	【第 14 回】 予習：テキストを読む。卵類 授業：卵類の成分特性，加工特性，鮮度判定（テキスト P96～103） 復習：鶏卵のたんぱく質についてまとめておく。							
15	小林 亘	【第 15 回】 予習：テキストを読む。 授業：調味料・香辛料・嗜好飲料の特徴（テキスト P115～123） 復習：香辛料の成分，アルコール飲料の特徴をまとめておく。							
授業開始前学習		食品学Ⅰで学んだ栄養素の化学的性質および食品成分の理化学的変化などについて復習し，具体的な食品と関連づけて理解できるように準備しておくことが大切である。							
授業内課題のフィードバックの方法		小テストおよびリアクションペーパーの内容について，次回授業内で適宜返答及び授業内容に反映をする。							
テキスト・教材		下橋 淳子 編『食べ物と健康Ⅱ【食品学各論】』（八千代出版）							
参考書		川上 美智子・西川 陽子 編著『食品の科学各論』（理工図書） 中島 一郎 著『初心者のための食品製造学』（光琳） 『日本食品大辞典』（医歯薬出版）							
評価の基準と方法		定期試験 50%，小テスト 30%，授業態度 20%とし，総合評価 60 点以上を合格とする。 遅刻および欠席は減点対象とする。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△				◎	○		
関連科目		食品学Ⅰで学んだ栄養素に関する化学的性質の理解が基礎となる。調理学，食品加工学，食品機能論，食品衛生学などフードスペシャリスト資格認定試験関連科目とも関わりの深い内容である。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-211-32	授業コード	GA0201
科目名称	食品学実験 I	単位数	1.0 単位
英文名称	Experiment in Food Science I	授業区分	実習・実験
科目責任者	小林 亘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小林 亘	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 12:00～15:00 後期 月曜日 12:00～15:00	研究室	4-203
授業概要	食品学分野の基礎となる化学的知識の理解につながる初歩的な理化学実験である。実験器具の基本的な取り扱いを習得し、標準溶液の標定、食品を試料とした中和反応、酸化還元反応などに関する実験を行う。さらに食品の塩分測定、褐変現象に関する実験、油脂の特数および主なビタミンの定性実験も行う。		
到達目標	実験を通し、酸と塩基、中和反応の理論、酸化剤と還元剤、酸化還元反応の理論を理解し、食品中の成分含量を求める計算式について説明できるようにする。 さらに、食品中の塩分含量の測定や食品の褐変反応の要因と防止法および主なビタミンの化学的性質についての実験を通して、理論を実践的な場で活用できるようになることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小林 亘	【第 1 回】 予習：配布資料 1 を読む。 授業：実験に関するガイダンス・溶液の濃度（配布資料 1） 復習：質量パーセント濃度、モル濃度について確認する。	
2	小林 亘	【第 2 回】 予習：配布資料 2 を読む。 授業：0.1M-水酸化ナトリウム標準溶液の標定（配布資料 2）（グループ・ワーク） 復習：ファクターの意味を理解する。	
3	小林 亘	【第 3 回】 予習：配布資料 3 を読む。 授業：食酢中の酢酸の定量（配布資料 3）（グループ・ワーク） 復習：中和反応について確認する。	
4	小林 亘	【第 4 回】 予習：配布資料 4 を読む。 授業：柑橘類のクエン酸の定量（配布資料 4）（グループ・ワーク） 復習：中和反応の演習問題の確認	
5	小林 亘	【第 5 回】 予習：配布資料 5 を読む。 授業：牛乳の比重測定・0.02M-過マンガン酸カリウム標準溶液の調製と標定（配布資料 5）（グループ・ワーク） 復習：牛乳比重補正表を使つての牛乳比重の求め方を確認する。酸化還元反応について確認する。	
6	小林 亘	【第 6 回】 予習：配布資料 6 を読む。 授業：オキシドール中の過酸化水素の定量（配布資料 6）（グループ・ワーク） 復習：過酸化水素と過マンガン酸カリウムによる酸化還元反応を理解する。	
7	小林 亘	【第 7 回】 予習：配布資料 7 を読む。 授業：水中の過マンガン酸カリウム消費量の測定（配布資料 7）（グループ・ワーク） 復習：シュウ酸と過マンガン酸カリウムによる酸化還元反応を理解する。	
8	小林 亘	【第 8 回】 予習：配布資料 8 を読む。 授業：みそ汁中の食塩の定量（配布資料 8）（グループ・ワーク） 復習：食塩摂取量と生活習慣病の関係、減塩についてまとめる。	
9	小林 亘	【第 9 回】 予習：配布資料 9 および食品学 I の教科書 P111～113 を読む。 授業：非酵素的褐変反応と酵素的褐変反応（配布資料 9）（グループ・ワーク） 復習：アミノカルボニル反応の影響因子、食品の褐変防止についてまとめる。	
10	小林 亘	【第 10 回】 予習：配布資料 10 および食品学 I の教科書 P37～38 を読む。 授業：油脂の特数・ケン化価の測定（配布資料 10）（グループ・ワーク） 復習：ケン化価・ヨウ素価に関する演習問題の確認	

11	小林 亘	【第 11 回】 予習：配布資料 11 を読む。 授業：脂溶性ビタミン（VA・VE・VD）の定性反応（配布資料 11）（グループ・ワーク） 復習：食品学Ⅰの教科書 P109～113 を読む。						
12	小林 亘	【第 12 回】 予習：配布資料 12 を読む。 授業：水溶性ビタミン（チアミン・リボフラビン・アスコルビン酸）の定性反応（配布資料 12）（グループ・ワーク） 復習：食品学Ⅰの教科書 P113～120 を読む。						
授業開始前学習	高校の化学で学んだ溶液の濃度，中和反応，酸化還元反応および食品学Ⅰで学んだ成分間反応等について復習しておくことと理解しやすい。 授業前にテキストを読んで，実験の目的や内容を把握しておくことを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法	実験レポートを数回課し，添削して返却する。返却に当たっては，質疑応答および全体の講評も行う。							
テキスト・教材	高岡 素子 編著『食べ物と健康Ⅰ【食品学総論】』（八千代出版） 資料を適宜配布する。							
参考書	松井 徳光・小野 廣紀 著『わかる化学 知っておきたい食とくらしの基礎知識』（化学同人） 中川 徹夫 著『化学の基礎』（化学同人） 土居 純子 著『基礎化学』（羊土社） その他授業の中で紹介する。							
評価の基準と方法	レポート 60%，授業態度 40%（準備，片付け，授業への取り組み）とし，総合評価 60 点以上を合格とする。 遅刻，欠席は減点の対象とする。							
ディプロマポリシー	人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていくこととする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎		○	△
関連科目	食品学Ⅰ・Ⅱや化学で学んだ理論を深めるための内容である。 食品学実験Ⅱおよびその他の理化学関係の実験を履修するための基礎となる実験科目である。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-211-32			授業コード	GA0211
科目名称	食品学実験Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	Experiment in Food ScienceⅡ			授業区分	実習・実験
科目責任者	小林 亘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小林 亘			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 12:00～15:00 後期 月曜日 12:00～15:00			研究室	4-203
授業概要	食品の一般成分分析について学習し、食品成分に関する理解を深めることを主な目的とする。 分析データの取り扱いに関する知識を身につけ、論理的なものの考え方が出来るようにする。 分光光度計やガスクロマトグラフィーを使用した機器分析も行い、測定原理についても学習する。				
到達目標	食品の一般成分および水などの分析実験に基づく、重量分析、容量分析、機器分析の基礎的知識を身につける。さらに主な実験法の原理を理解し、科学的な思考能力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	小林 亘	【第 1 回】 予習：食品学Ⅰの教科書 P120～125 を読む。 授業：一般食品成分分析について（教科書 P120～125） 復習：食品学Ⅰの教科書 P120～125 を読む。			
2	小林 亘	【第 2 回】 予習：配布資料 1 を読む。 授業：水分・灰分・粗脂肪・粗たんぱく質・ミネラル定量のための試料採取（配布資料 1） 復習：重量分析法の確認			
3	小林 亘	【第 3 回】 予習：配布資料 2 を読む。 授業：重量分析・湿式分解法による試料液の調製とカルシウムの定量前半（配布資料 2） 復習：重量分析値の算出法を理解する。			
4	小林 亘	【第 4 回】 予習：配布資料 3 を読む。 授業：カルシウムの定量（配布資料 3） 復習：過マンガン酸カリウム容量法の原理を理解する。			
5	小林 亘	【第 5 回】 予習：配布資料 4 を読む。 授業：モリブデンブルー吸光光度法によるリンの検量線の作成（配布資料 4） 復習：吸光光度法の理解			
6	小林 亘	【第 6 回】 予習：配布資料 5 を読む。 授業：モリブデンブルー吸光光度法によるリンの定量（配布資料 5） 復習：試料中のリンの分析値を算出する。			
7	小林 亘	【第 7 回】 予習：配布資料 6 を読む。 授業：ケルダール窒素蒸留装置による硫酸アンモニウムの定量（配布資料 6） 復習：ケルダール法による窒素の定量について理解する。			
8	小林 亘	【第 8 回】 予習：配布資料 7 を読む。 授業：ケルダール法による粗たんぱく質の定量（配布資料 7） 復習：窒素-たんぱく質換算係数の意味を理解し、試料中の粗たんぱく質含量を算出する。			
9	小林 亘	【第 9 回】 予習：配布資料 8 を読む。 授業：牛乳成分の分離（配布資料 8） 復習：牛乳成分、たんぱく質・糖質の定性反応について理解する。			
10	小林 亘	【第 10 回】 予習：配布資料 9 を読む。 授業：飲料水の硬度・残留塩素の測定（配布資料 9） 復習：水の硬度・残留塩素について理解する。			
11	小林 亘	【第 11 回】 予習：配布資料 10 を読む。 授業：さし粉中の有効塩素の定量（配布資料 10） 復習：ヨードメトリーについて理解する。			

12	小林 亘	【第 12 回】 予習：配布資料 11 を読む。 授業：ガスクロマトグラフィーによるアルコールの定量（配布資料 11） 復習：ガスクロマトグラフィーの原理について理解する。アルコール飲料の製造法、分類について確認する。						
授業開始前学習	食品学Ⅰの教科書にある「食品成分表の利用方法」を良く読んでおくこと。 授業前に実験テキストを読んで実験内容を把握しておくことを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法	実験レポートを数回課し、添削して返却する。返却に当たっては、質疑応答および全体の講評も行う。							
テキスト・教材	高岡 素子 編著『食べ物と健康Ⅰ【食品学総論】』（八千代出版） 資料を適宜配布する。							
参考書	適宜紹介する。							
評価の基準と方法	レポート 60％、授業態度 40％（準備、片付け、授業への取り組み）とし、総合評価 60 点以上を合格とする。 遅刻、欠席は減点の対象とする。							
ディプロマポリシー	人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎		○	△
関連科目	食品学実験Ⅰで学んだことを基礎とし、卒業研究の実験などより発展的な実験を行うためにも必要な内容である。 食品学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容をより深めるための授業である。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-211-12	授業コード	GA0221
科目名称	食品衛生学	単位数	2.0 単位
英文名称	Food Hygienics	授業区分	講義
科目責任者	松本 雄宇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松本 雄宇	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:10 後期 火曜日 13:00～16:10	研究室	4-103
授業概要	食品による健康被害を防止するための法規制、食中毒の原因となる微生物（細菌・ウイルス・寄生虫等）あるいは動物（有毒魚介類）、植物（有毒植物・毒キノコ）、化学物質（カビ毒・重金属等）等についてそれぞれの形態・作用機序・化学的性状・防止法等を学習する。また、食品製造における食品衛生管理、食品添加物、新しい食品の安全性問題（遺伝子組み換え食品）、放射性物質等）についても学習する。		
到達目標	食品衛生の概念を理解し、食品による健康被害を起こさないという視点で予防・リスク軽減を中心に理解・実施できるようにする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松本 雄宇	【第 1 回】 予習：テキスト 1 頁～4 頁、11～13 頁を下読みし、リスクとハザード、食品安全基本法、食品安全委員会について確認する 授業：食品安全の基本的な考え方と食品安全基本法 復習：重要語句の確認と、テキスト 23 頁～24 頁の練習問題を自習	
2	松本 雄宇	【第 2 回】 予習：テキスト 5 頁～10 頁、14 頁～21 頁、25 頁～31 頁を下読みし、食品衛生法と微生物の基本的事項について確認する 授業：食品衛生法・微生物に関する基本的事項 復習：重要語句の確認と、テキスト 41 頁～42 頁の練習問題を自習	
3	松本 雄宇	【第 3 回】 予習：テキスト 32 頁～37 頁を下読みし、食品の変質（揮発性塩基窒素、K 値、油脂の酸敗）について確認する 授業：食品の変質 復習：重要語句の確認と、テキスト 41 頁～42 頁の練習問題を自習	
4	松本 雄宇	【第 4 回】 予習：テキスト 37 頁～41 頁、43 頁～50 頁を下読みし、食品変質の防止法、食中毒の概要について確認する 授業：食品変質の防止法・食中毒の概要 復習：重要語句の確認と、テキスト 98 頁～100 頁の練習問題を自習	
5	松本 雄宇	【第 5 回】 予習：テキスト 50 頁～56 頁を下読みし、各植物に含まれる毒素名について確認する 授業：自然毒食中毒：植物性自然毒 復習：重要語句の確認と、テキスト 98 頁～100 頁の練習問題を自習	
6	松本 雄宇	【第 6 回】 予習：テキスト 57 頁～72 頁を下読みし、各魚介類に含まれる自然毒とサルモネラ菌による食中毒について確認する 授業：自然毒食中毒：動物性自然毒～微生物性食中毒Ⅰ 復習：重要語句の確認と、テキスト 98 頁～100 頁の練習問題を自習	
7	松本 雄宇	【第 7 回】 予習：テキスト 72 頁～85 頁を下読みし、各微生物による食中毒の特徴を確認する 授業：微生物性食中毒Ⅱ 復習：重要語句の確認と、テキスト 98 頁～100 頁の練習問題を自習	
8	松本 雄宇	【第 8 回】 予習：テキスト 85 頁～92 頁を下読みし、各微生物による食中毒の特徴を確認する 授業：微生物性食中毒Ⅲ 復習：重要語句の確認と、テキスト 98 頁～100 頁の練習問題を自習	
9	松本 雄宇	【第 9 回】 予習：テキスト 93 頁～97 頁、107 頁～117 頁を下読みし、ウイルス性食中毒と寄生虫による食中毒の特徴を確認する 授業：微生物性食中毒Ⅳ、寄生虫症 復習：重要語句の確認と、テキスト 98 頁～100 頁、119 頁～120 頁の練習問題を自習	

10	松本 雄宇	【第 10 回】 予習：テキスト 101 頁～107 頁、121 頁～140 頁を下読みし、食品由来の感染症の特徴と、HACCP について確認する 授業：食品による感染症・食品衛生管理 復習：重要語句の確認と、119 頁～120 頁、141 頁の練習問題を自習							
11	松本 雄宇	【第 11 回】 予習：テキスト 143 頁～148 頁を下読みし、各カビ毒の特徴について確認する 授業：食品中の汚染物質 カビ毒 復習：重要語句の確認と、テキスト 171 頁～172 頁の練習問題を自習							
12	松本 雄宇	【第 12 回】 予習：テキスト 148 頁～170 頁を下読みし、食品中の問題となる化学物質について確認する 授業：食品中の汚染物質 化学物質 復習：重要語句の確認と、テキスト 171 頁～172 頁の練習問題を自習							
13	松本 雄宇	【第 13 回】 予習：テキスト 187 頁～214 頁を下読みし、食品添加物の分類、ADI の設定、表示および用途について確認する 授業：食品添加物 復習：重要語句の確認と、テキスト 215 頁～216 頁の練習問題を自習							
14	松本 雄宇	【第 14 回】 予習：テキスト 173 頁～185 頁を下読みし、器具・容器包装に使用される物質（プラスチックやガラス）の特徴を確認する 授業：食品の器具と容器包装 復習：重要語句の確認と、186 頁の練習問題を自習							
15	松本 雄宇	【第 15 回】 予習：テキスト 217 頁～230 頁を下読みし、遺伝子組換え食品や放射線について確認する 授業：新しい食品の安全性問題 復習：重要語句の確認と、テキスト 230 頁の練習問題を自習							
授業開始前学習		毎回講義の前に教科書に目を通してくと、講義の内容が理解しやすく疑問点も発見できる。							
授業内課題のフィードバックの方法		小テストの内容について授業で解説する。							
テキスト・教材		小塚諭編「イラスト食品の安全性」（東京教学社）							
参考書									
評価の基準と方法		定期試験 6 0 %、小テスト 4 0 % で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△				◎	○		
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-211-33	授業コード	GA0231
科目名称	食品衛生学実験	単位数	1.0 単位
英文名称	Experiment in Food Hygienics	授業区分	実習・実験
科目責任者	松本 雄宇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松本 雄宇	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:10 後期 火曜日 13:00～16:10	研究室	4-103
授業概要	食品衛生学実験の理化学実験・微生物実験を行うことによって、講義で学習した内容について理解を深める。普段食べている食品中の食品添加物、腐敗アミン、細菌数や油脂の変質度等について実験手法を学ぶとともに関連する法律についても理解する。また、実験結果を班でまとめプレゼンテーションを行う。		
到達目標	基礎的な実験手法を身につけ、実験を通じて講義で学んだ食品衛生の内容についてより理解を深める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松本 雄宇	【第 1 回】 予習：テキスト 1 頁～2 頁を下読みし、実験の概要を確認する 授業：1. 理化学実験の基礎 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める	
2	松本 雄宇	【第 2 回】 予習：テキスト 4 頁～6 頁を下読みし、実験の概要を確認する 授業：2. 食品中の発色剤（亜硝酸塩）の検査 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める	
3	松本 雄宇	【第 3 回】 予習：テキスト 8 頁～10 頁を下読みし、実験の概要を確認する 授業：3. 食品中の保存料（ソルビン酸）の検査 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める	
4	松本 雄宇	【第 4 回】 予習：テキスト 11 頁～12 頁を下読みし、実験の概要を確認する 授業：4. 食品中の漂白剤（亜硫酸）の検査 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める	
5	松本 雄宇	【第 5 回】 予習：1～4 の実験についてレポートを復習する 授業：1～4 の実験の 1 つについて班で内容をまとめプレゼンテーションを行う 復習：発表内容についてレポートを作成し提出する	
6	松本 雄宇	【第 6 回】 予習：テキスト 13 頁～14 頁を下読みし、実験の概要を確認する 授業：5. 食品の腐敗・変質試験（ヒスタミンの検査） 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める	
7	松本 雄宇	【第 7 回】 予習：テキスト 15 頁～16 頁を下読みし、実験の概要を確認する 授業：6. 油脂の変質試験（酸価、過酸化価の検査） 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める	
8	松本 雄宇	【第 8 回】 予習：テキスト 17 頁～20 頁を下読みし、実験の概要を確認する 授業：7. 食器の洗浄度検査 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める	
9	松本 雄宇	【第 9 回】 予習：テキスト 21 頁～24 頁を下読みし、実験の概要を確認する 授業：8・9. 細菌検査① 生菌数測定法・ふき取り検査 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める	
10	松本 雄宇	【第 10 回】 予習：テキスト 21 頁～24 頁を下読みし、実験の概要を確認する 授業：8・9. 細菌検査② 生菌数測定法・ふき取り検査 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める	
11	松本 雄宇	【第 11 回】 予習：6～9 の実験についてレポートを復習する 授業：6～9 の実験の 1 つについて班で内容をまとめプレゼンテーションを行う 復習：発表内容についてレポートを作成し提出する	

12	松本 雄宇	【第 12 回】 予習：手の洗い方について予習する 授業：10. 手の洗浄試験 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める						
授業開始前学習	テキストの該当部分を熟読した上で実験に臨むこと。「食品衛生学」の内容もよく復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	実験レポートについて個別に添削し解説する。プレゼンテーションについては授業後に講評を行う。							
テキスト・教材	実験開始前に自前テキストを配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	実験は出席して自分で実施することが重要であるので、実験への取り組み姿勢（24%）、プレゼンテーション（26%）及びレポート（50%）により評価する。							
ディプロマポリシー	人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎		○	△
関連科目	あらかじめ「食品衛生学」と「微生物学」の内容をよく理解しておくこと。また「食品学」と密接に関連する内容が含まれるため、これらの科目と合わせて総合的に理解することが重要である。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-431-13	授業コード	GA0240
科目名称	食品加工学	単位数	2.0 単位
英文名称	Food Processing	授業区分	講義
科目責任者	津久井 学	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	津久井 学	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	[テーマ]食品加工（保蔵）学の主たる意義は、食品の生産から消費に至る間の品質制御にある。各種食品は多成分から成り、その品質は物理・化学的、生化学的および生物学的な要因により変質（腐敗）する。この変質要因とその防止法を学ぶとともに、各種加工食品の製造方法について学ぶ。		
到達目標	[目 標]本講義では、食品の変質要因について理解した上で、その品質制御法（保蔵・加工方法）について学ぶとともに、各種農産、畜産、水産加工食品の製造方法について学ぶ。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	津久井 学	【第 1 回】 予習：テキストの構成（目次）と 1～4 ページの講読 授業：ガイダンス & 食品加工・保蔵の意義を理解する [テキスト p1-4] 復習：食品を理解し、その変質要因を覚える	
2	津久井 学	【第 2 回】 予習：テキスト 5～42 ページの講読 授業：食品の変質Ⅰ：物理・化学的要因 [テキスト p5-42] 復習：水分・pH・酸素・温度・光等の食品への影響を理解し、覚える	
3	津久井 学	【第 3 回】 予習：テキスト 5～42 ページの講読 授業：食品の変質Ⅱ：生化学的要因 & Ⅲ：生物学的要因 [テキスト p5-42] 復習：酵素や微生物を中心とした生物による食品への影響を理解し、覚える	
4	津久井 学	【第 4 回】 予習：テキスト 43～93 ページの講読 授業：食品加工・保蔵の原理と方法 [テキスト p43-93] 復習：食品加工・保蔵技術を理解し、覚える	
5	津久井 学	【第 5 回】 予習：テキスト 94～109 ページの講読 授業：第 1-4 回の復習（課題解決型学習）、加工食品の規格基準と品質表示、保健機能食品など [テキスト p94-109] 復習：食品関連法令、規格基準、表示を理解し、覚える	
6	津久井 学	【第 6 回】 予習：テキスト 110～121 ページの講読 授業：農産加工（穀類、イモ類、デンプン） [テキスト p110-121] 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える	
7	津久井 学	【第 7 回】 予習：テキスト 121～124 ページの講読 授業：農産加工（豆類） [テキスト p121-124] 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える	
8	津久井 学	【第 8 回】 予習：テキスト 124～134 ページの講読 授業：第 5-7 回の復習（課題解決型学習）、農産加工（野菜類、果実類、キノコ類など） [テキスト p124-134] 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える	
9	津久井 学	【第 9 回】 予習：テキスト 135～159 ページの講読 授業：畜産加工（畜肉製品、乳製品、卵製品） [テキスト p135-159] 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える	
10	津久井 学	【第 10 回】 予習：テキスト 160～170 ページの講読 授業：水産加工（乾製品、塩蔵品、練り製品、調味加工品、海藻加工品など） [テキスト p160-170] 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える	

11	津久井 学	【第 11 回】 予習 : テキスト 171～189 ページの講読 授業 : 第 8-10 回の復習（課題解決型学習）、発酵食品（酒類、味噌、醤油、食酢など） [テキスト p171-189] 復習 : 上記におけるキーワードを理解し、覚える							
12	津久井 学	【第 12 回】 予習 : テキスト 190～201 ページの講読 授業 : 調味料 [テキスト p190-201] 復習 : 上記におけるキーワードを理解し、覚える							
13	津久井 学	【第 13 回】 予習 : テキスト 201～205 ページの講読 授業 : 第 11-12 回の復習（課題解決型学習）、嗜好食品（茶類、コーヒー、ココア、清涼飲料など） [テキスト p201-205] 復習 : 上記におけるキーワードを理解し、覚える							
14	津久井 学	【第 14 回】 予習 : テキスト 206～221 ページの講読 授業 : インスタント食品、食用油脂など [テキスト p206-221] 復習 : 上記におけるキーワードを理解し、覚える							
15	津久井 学	【第 15 回】 予習 : 第 1 回～第 14 回の講義内容の復習 授業 : 各種食品の映像を通して、再度、食品の意義を整理・考察する 復習 : 上記におけるキーワードを理解し、覚える							
授業開始前学習		食品学（総論・各論）、食品関連実験・実習、食品衛生学などこれまで学んだ食品関連科目を整理・理解しておく							
授業内課題のフィードバックの方法		実施した小テストについて授業時に解説するとともに、課題についてはオンラインツールの GSE クラスルーム上で評価しコメントする。							
テキスト・教材		北尾悟・鍋谷浩志編『N ブックス 五訂 食品加工学』（建帛社：ISBN978-7679-0719-2）							
参考書		杉田・平・田島・安井編『日本食品大辞典』（医歯薬出版） 『食品加工総覧』（農文協）							
評価の基準と方法		課題（5 回） 60% 小テスト（5 回） 40%							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△				◎	○	△	
関連科目		食品関連科目全て							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-430-14	授業コード	GA0250
科目名称	食品機能論	単位数	2.0 単位
英文名称	Food Function	授業区分	講義
科目責任者	津久井 学	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	津久井 学	開講時期	4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	食品の役割が一次機能（栄養性）、二次機能（嗜好性）、三次機能（生体調節機能）として認知されるようになり、特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品といった保健機能食品や特別用途食品といった機能性食品が認可され、市販されている。しかし、この分野の発展は著しく、広がりも大きい。そこで、管理栄養士、栄養士、フードスペシャリスト養成課程において必要な機能（作用）性で分類し、考察する。		
到達目標	食品の特性、機能を理解し、機能性食品を説明できるようになる。また、機能性を成分や作用性に分類して説明できるようになる知識を修得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	津久井 学	【第 1 回】 予習：テキストの構成（目次）と 1～7 ページの講読 授業：ガイダンス & 食品の特性と機能、機能性食品を理解する [テキスト p1-7] 復習：食品の特性・機能・機能性食品の分類を覚える	
2	津久井 学	【第 2 回】 予習：テキスト 8～18 ページの講読 授業：抗酸化（活性酸素除去）機能（1） [テキスト p8-18] 復習：基底状態酸素と活性酸素、活性酸素の生成を理解し、覚える	
3	津久井 学	【第 3 回】 予習：テキスト 18～35 ページの講読 授業：抗酸化（活性酸素除去）機能（2） [テキスト p18-35] 復習：活性酸素と生体、抗酸化物質を理解し、覚える	
4	津久井 学	【第 4 回】 予習：テキスト 36～43 ページの講読 授業：抗酸化（活性酸素除去）機能（2） [テキスト p36-43] 復習：抗酸化機能食品を理解し、覚える	
5	津久井 学	【第 5 回】 予習：テキスト 44～53 ページの講読 授業：消化吸収促進機能（1） [テキスト p44-53] 復習：消化と吸収のメカニズム、ミネラル吸収のメカニズムを理解し、覚える	
6	津久井 学	【第 6 回】 予習：テキスト 53～63 ページの講読 授業：消化吸収促進機能（2） [テキスト p53-63] 復習：ミネラル吸収機能食品、ビタミン吸収のメカニズムを理解し、覚える	
7	津久井 学	【第 7 回】 予習：テキスト 64～81 ページの講読 授業：難消化、吸収阻害と微生物活性機能（1） [テキスト p64-81] 復習：難消化成分と生体、微生物活性機能、難消化性炭水化物を理解し、覚える	
8	津久井 学	【第 8 回】 予習：テキスト 81～87 ページの講読 授業：難消化、吸収阻害と微生物活性機能（2） [テキスト p81-87] 復習：その他の難消化成分、食物繊維機能食品を理解し、覚える	
9	津久井 学	【第 9 回】 予習：テキスト 88～106 ページの講読 授業：脂質関連代謝機能（1） [テキスト p88-106] 復習：n-3 系脂肪酸と n-6 系脂肪酸を理解し、覚える	
10	津久井 学	【第 10 回】 予習：テキスト 106～114 ページの講読 授業：脂質関連代謝機能（2） [テキスト p106-114] 復習：ジアシルグリセロール、植物性ステロールを理解し、覚える	
11	津久井 学	【第 11 回】 予習：テキスト 115～121 ページの講読 授業：酵素阻害機能（1）：レニンアンジオテンシン系と血圧 [テキスト p115-121] 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える	

12	津久井 学	【第 12 回】 予習：テキスト 121～125 ページの講読 授業：酵素阻害機能（2）：消化関連酵素阻害と糖尿病 [テキスト p121-125] 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える							
13	津久井 学	【第 13 回】 予習：テキスト 125～126 ページの講読 授業：酵素阻害機能（3）：酵素阻害機能性食品 [テキスト p125-126] 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える							
14	津久井 学	【第 14 回】 予習：テキスト 127～145 ページの講読 授業：免疫系に及ぼす機能 [テキスト p127-145] 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える							
15	津久井 学	【第 15 回】 予習：テキスト 146～155 ページの講読 授業：神経系に及ぼす機能 [テキスト p146-155] 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える							
授業開始前学習		食品学（総論・各論）、食品加工学などこれまで学んだ食品関連科目を整理・理解しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		実施した課題はクラスルームで提出後、評価してフィードバックします。							
テキスト・教材		※本授業では、随時プリントを配布しますので、特に必要ありません。食品学総論および各論と食品加工学（履修していた学生）の教科書をお持ちください。							
参考書		N ブックス 改訂食品機能学【第 3 版】 青柳康夫編 建帛社（ISBN／978-4-7679-0579-2） その他、食品学総論、食品加工学など食品関連科目の教科書							
評価の基準と方法		平常点（課題実施状況） 40％ 課題 60％（6-7 回実施）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○	△	
関連科目		食品学総論、食品加工学など食品関連科目すべて							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-211-11	授業コード	GA0261
科目名称	調理学	単位数	2.0 単位
英文名称	Cooking Science	授業区分	講義
科目責任者	松森 慎悟	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松森 慎悟	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	4-116
授業概要	食品の歴史的変遷や食文化などの「人間と食べ物の関わりについて」からはじまり、調理の意義や調理操作の原理、そして調理機器の使用方法などの「調理の基本」となる知識を学び、さらに「調理操作による食品組織・物性と栄養成分の変化」を学び理解を深める。		
到達目標	調理系関連科目の基礎科目に当たるため、調理における基本的知識を修得する。すなわち、調理の意義、調理操作の原理、調理器具の使用方法、食品の調理特性などについて理解することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松森 慎悟	【第 1 回】 予習 : テキスト P 1～9 を読んでおく。 授業 : 第 1 章 : 人間と食品 (食べ物) (P 1～9) 復習 : 重要語句の確認、配布資料の見直し。	
2	松森 慎悟	【第 2 回】 予習 : テキスト P 9～19 を読んでおく。 授業 : 第 1 章 : 人間と食品 (食べ物)、第 2 章 : 食事設計の基礎/食事設計の意義・内容 (P 9～19) 復習 : 重要語句の確認、配布資料の見直し。	
3	松森 慎悟	【第 3 回】 予習 : テキスト P 18～24 を読んでおく。 授業 : 第 2 章 : 食事設計の基礎/嗜好性の主観的評価・客観的評価 (P 18～24) 復習 : 重要語句の確認、配布資料の見直し。	
4	松森 慎悟	【第 4 回】 予習 : テキスト P 24～31 を読んでおく。 授業 : 第 2 章 : 食事設計の基礎/嗜好性の主観的評価・客観的評価 (P 24～31) 復習 : 重要語句の確認、配布資料の見直し。	
5	松森 慎悟	【第 5 回】 予習 : テキスト P 33～45 を読んでおく。 授業 : 第 3 章 : 調理の基本/調理の意義? 代表的な調理器具の使用法 (P 33～45) 復習 : 重要語句の確認、配布資料の見直し。	
6	松森 慎悟	【第 6 回】 予習 : テキスト P 44～57 を読んでおく。 授業 : 第 3 章 : 調理の基本/代表的な調理器具の使用? 代表的な調理操作 (P 44～57) 復習 : 重要語句の確認、配布資料の見直し。	
7	松森 慎悟	【第 7 回】 予習 : テキスト P 58～61 を読んでおく。 授業 : 中間テスト、第 3 章 : 調理の基本/食品の特徴に応じた調理の特性 (P 58～61) 復習 : 重要語句の確認、配布資料の見直し。	
8	松森 慎悟	【第 8 回】 予習 : テキスト P 61～69 を読んでおく。 授業 : 第 3 章 : 調理の基本/食品の特徴に応じた調理の特性 (植物性食品 : 米、小麦) (P 61～69) 復習 : 重要語句の確認、配布資料の見直し。	
9	松森 慎悟	【第 9 回】 予習 : テキスト P 69～75 を読んでおく。 授業 : 第 3 章 : 調理の基本/食品の特徴に応じた調理の特性 (植物性食品 : 小麦～いも類) (P 69～75) 復習 : 重要語句の確認、配布資料の見直し。	
10	松森 慎悟	【第 10 回】 予習 : テキスト P 75～82 を読んでおく。 授業 : 第 3 章 : 調理の基本/食品の特徴に応じた調理の特性 (植物性食品 : 豆類～果実類) (P 75～82) 復習 : 重要語句の確認、配布資料の見直し。	
11	松森 慎悟	【第 11 回】 予習 : テキスト P 82～91 を読んでおく。 授業 : 第 3 章 : 調理の食品の特徴に応じた調理の特性 (植物性食品、動物性食品) (P 82～91) 復習 : 重要語句の確認、配布資料の見直し。	

12	松森 慎悟	【第 12 回】 予習：テキスト P 91～100 を読んでおく。 授業：第 3 章：調理の基本/食品の特徴に応じた調理の特性（動物性食品：魚介類、卵類、乳類）（P 91～100） 復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。						
13	松森 慎悟	【第 13 回】 予習：テキスト P 100～111 を読んでおく。 授業：第 3 章：調理の基本/食品の特徴に応じた調理の特性（動物性食品、抽出食品素材）（P 100～111） 復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。						
14	松森 慎悟	【第 14 回】 予習：テキスト P 111～122 を読んでおく。 授業：第 3 章：調理の基本/食品の特徴に応じた調理の特性（抽出食品素材）（P 111～122） 復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。						
15	松森 慎悟	【第 15 回】 予習：テキスト P 123～169 を読んでおく。 授業：第 4 章：調理操作による食品組織、物性と栄養成分の変化、第 5 章：食卓構成・食事環境（P 123～169） 復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。						
授業開始前学習		事前に上記の授業内容に該当する箇所を読んでおく学習効果が高い。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 7 回目を実施する中間テストについては、翌週に解説を行う。						
テキスト・教材		『食べ物と健康 マスター調理学（第 4 版）』西堀すき江他編（建帛社）						
参考書		必要に応じて紹介する。						
評価の基準と方法		中間テスト 30%、定期試験 70% で評価する。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成	健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成	栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△				◎	○	△	
関連科目	「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」、「調理学実験」、「食品学Ⅰ・Ⅱ」、「官能評価論」							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-211-33	授業コード	GA0271
科目名称	調理学実験	単位数	1.0 単位
英文名称	Experiment in Cooking Science	授業区分	実習・実験
科目責任者	松森 慎悟	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松森 慎悟	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	4-116
授業概要	これまでに学んできた調理学、調理学実習Ⅰ、Ⅱにおける知識と技術を結び付け、様々な調理科学現象を理論的・科学的に理解することで、より確実な技術をスムーズに身につけることが可能となる。そのために、植物性食品の調理性、動物性食品の調理性、調理と酵素、食品の物性などに関する実験を行う。また、実験科目であるため、毎回グループワークを行う。		
到達目標	調理は長年の経験によるコツをうまく利用している部分が多く、これを理論的・科学的に理解することで、より確実な技術をスムーズに身につけることが可能となる。 そこで本実験では、各種の測定・観察・分析・評価を行うことにより、食品を最適な状態に再現性良く調理することが可能な素養を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松森 慎悟	【第 1 回】 予習：テキスト P1～P10 を読んでおく。 授業：実験を行うに当たって、官能評価について【テキスト P1～P10】 復習：実験上の留意点及び官能評価について確認	
2	松森 慎悟	【第 2 回】 予習：テキスト P12,19,20 を読んでおく。 授業：調理学に関する基礎実験（計量・計測に関する実験）、5 味の識別（Ⅰ）【テキスト P12,19,20】 復習：レポート作成（課題 P12,20 を含む）	
3	松森 慎悟	【第 3 回】 予習：テキスト P22,23 を読んでおく。 授業：米の調理性に関する実験（吸水試験、炊飯試験）【テキスト P22,23】 復習：レポート作成（課題 P23 を含む）	
4	松森 慎悟	【第 4 回】 予習：テキスト P46,47 を読んでおく。 授業：澱粉類の調理性に関する実験（ゾル及びゲルの特性）【テキスト P46,47】 復習：レポート作成（課題 P47 を含む）	
5	松森 慎悟	【第 5 回】 予習：テキスト P49,50 を読んでおく。 授業：介護食に関する実験（増粘剤及びゲル化剤の特性）【テキスト P49,50】 復習：レポート作成（課題 P50 を含む）	
6	松森 慎悟	【第 6 回】 予習：テキスト P14,15,25,26 を読んでおく。 授業：小麦粉の調理性に関する実験（ドウの引張試験）、2 点比較法【テキスト P14,15,25,26】 復習：レポート作成（課題 P26 を含む）	
7	松森 慎悟	【第 7 回】 予習：テキスト P17,43,44 を読んでおく。 授業：砂糖の調理性に関する実験（キャンデーテスト）、3 点比較法【テキスト P17,43,44】 復習：レポート作成（課題 P44 を含む）	
8	松森 慎悟	【第 8 回】 予習：テキスト P33,34 を読んでおく。 授業：食肉の調理性に関する実験（ハンバーグにおける副材料の役割）【テキスト P33,34】 復習：レポート作成（課題 P34 を含む）	
9	松森 慎悟	【第 9 回】 予習：テキスト P36,37 を読んでおく。 授業：卵の調理性に関する実験（鮮度鑑別、卵白の気泡性）【テキスト P36,37】 復習：レポート作成（課題 P37 を含む）	
10	松森 慎悟	【第 10 回】 予習：テキスト P40,41 を読んでおく。 授業：乳及び乳製品の調理性に関する実験（生クリームの泡立てと分離）【テキスト P40,41】 復習：レポート作成（課題 P41 を含む）	
11	松森 慎悟	【第 11 回】 予習：テキスト P28,29 を読んでおく。 授業：野菜の調理性に関する実験（吸水・放水試験）【テキスト P28,29】 復習：レポート作成（課題 P29 を含む）	

12	松森 慎悟	【第 12 回】 予習：テキスト P13,31 を読んでおく。 授業：果実の調理性に関する実験（ペクチン含量）、5 味の識別（Ⅱ）【テキスト P13,31】 復習：レポート作成（課題 P31 を含む）						
授業開始前学習	事前に上記の授業内容に関連する箇所を「調理学」、「食品学」等のテキストで復習しておくこと学習効果が高い。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業 2 回目から 10 回目にあるレポートについては、翌々週に解説を行う。							
テキスト・教材	『調理学実験』松森慎悟著 駒沢女子大学 教科書シリーズ							
参考書	『調理科学実験（第 2 版）』早瀬仁美他編（医歯薬出版） 『調理科学実験』大羽和子他編（学建書院）							
評価の基準と方法	レポート点 60%、授業態度 40% で評価する。							
ディプロマポリシー	人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目	「調理学」、「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」、「食品学」、「官能評価論」							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-211-31	授業コード	GA0281
科目名称	調理学実習 I	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Cooking Science I	授業区分	実習・実験
科目責任者	松森 慎悟	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松森 慎悟	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	4-116
授業概要	調理学で学んだ理論を基に、調理の目的に沿った各種調理操作を実践的に行い、その技術を修得する。すなわち、日本料理、西洋料理、中国料理における基本的な調理操作を行い、食品を衛生上安全でおいしい食べ物にし、食品の持つ栄養素を十分に利用し、さらに消化・吸収を助けるために食べやすくする調理技術を学ぶ。また、実習科目であるため、毎回グループワークを行う。		
到達目標	調理における一連の操作技術を修得する。すなわち、計量の方法、基本的な包丁の扱い方などの非加熱調理操作、煮物、揚げ物などの加熱調理操作を修得する。また、日本料理、西洋料理、中国料理における基本的な調理操作技術を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松森 慎悟	【第 1 回】 予習 : テキスト P 1～9 を読んでおく。 授業 : 授業の概要説明、計量・調味パーセントについて【 P 1～9】 復習 : 実習上の留意点及び調理の基本の確認をする。	
2	松森 慎悟	【第 2 回】 予習 : テキスト P 10～12 を読んでおく。 授業 : 準備操作・加熱操作について、切り方について【 P 10～12】 復習 : 調理の基本についてのまとめレポートを作成する。	
3	松森 慎悟	【第 3 回】 予習 : テキスト P 13～21 を読んでおく。 授業 : 日本料理 : 炊飯方法、和風だしのとおり方、汁物・蒸し物・和え物の特徴について【 P 13～21】 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
4	松森 慎悟	【第 4 回】 予習 : テキスト P 22～29 を読んでおく。 授業 : 日本料理 : 味付飯の炊飯方法、巻き焼き卵、乾物の扱い方、味噌汁、煮物の特徴について【 P 22～29】 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
5	松森 慎悟	【第 5 回】 予習 : テキスト P 30～35 を読んでおく。 授業 : 日本料理 : めん類の茹で方、乾物の戻し方、薄焼き卵、揚げ物・酢の物の特徴について【 P 30～35】 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
6	松森 慎悟	【第 6 回】 予習 : テキスト P 36～41 を読んでおく。 授業 : 日本料理 : 強飯の炊飯方法、焼き物・炒め物（炒り煮）・和え物の特徴について【 P 36～41】 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
7	松森 慎悟	【第 7 回】 予習 : 日本料理編について復習しておく。 授業 : 小テスト、実技試験、魚のさばき方について 復習 : 小テスト及び実技試験の見直し	
8	松森 慎悟	【第 8 回】 予習 : テキスト P 48～57 を読んでおく。 授業 : 中国料理 : 炒飯の作り方、中国風だしの取り方、湯菜・炒菜・点心の特徴について【 P 48～57】 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
9	松森 慎悟	【第 9 回】 予習 : テキスト P 58～65 を読んでおく。 授業 : 中国料理 : お粥の作り方、寒天の扱い方、湯菜・炒菜・点心の特徴について【 P 58～65】 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
10	松森 慎悟	【第 10 回】 予習 : テキスト P 72～79 を読んでおく。 授業 : 西洋料理 : 洋風だし（ブイヨン）の取り方、卵料理、サラダについて【 P 72～79】 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	

11	松森 慎悟	【第 11 回】 予習：テキスト P 80～87 を読んでおく。 授業：西洋料理：ルウ及びソース、ムニエルについて、ゼラチンの扱い方について【 P 80～87】 復習：実習した内容についてレポートを作成する。							
12	松森 慎悟	【第 12 回】 予習：中国及び西洋料理編について復習しておく。 授業：小テスト、実技試験、まとめについて 復習：小テスト及び実技試験の見直し							
授業開始前学習		事前に上記の授業内容に該当する箇所を読んでおく学習効果が高い。							
授業内課題のフィードバックの方法		実施する小テストについては、翌週に解説を行う。また、レポートは返却時に解説を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		『調理学実習Ⅰ』 松森慎悟著 駒沢女子大学 教科書シリーズ							
参考書		「図解による基礎調理」 下村道子、中里トシ子編 （同文書院）							
評価の基準と方法		レポート 3 0 %、小テスト 3 0 %、実技試験 3 0 %、平常点（授業態度等） 1 0 %で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎		○	○
関連科目		「調理学」、「調理学実習Ⅱ」、「調理学実験」、「食品学Ⅰ・Ⅱ」、「官能評価論」、「給食経営管理実習」							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-211-32	授業コード	GA0291
科目名称	調理学実習Ⅱ	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Cooking ScienceⅡ	授業区分	実習・実験
科目責任者	加藤 伸子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤 伸子	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	調理学実習Ⅰで修得した調理の基礎知識、技術を基に応用展開を図る。食品素材や食品の物性の違い、分析能力を養う。幅広い料理のレパートリーを習得し、季節性を取り入れた調理形態や行事食のほか、盛りつけを通して食卓のセッティング、応用性に役立つ実践例を学ぶ。授業は、グループワークが中心となる。		
到達目標	調理の作業にまつわる基礎的知識及び技術をしっかりと習得し定着させる。調理を通し、献立展開の実践に向けて必要となる知識と技術も身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	加藤 伸子	【第 1 回】 予習 : 調理学実習Ⅰで学んだ事を復習しておく。 授業 : 授業の概要説明、アントルメ実習 紅茶のいれ方。 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
2	加藤 伸子	【第 2 回】 予習 : 配布資料の該当箇所を読んでおく。 授業 : 中国料理Ⅰ 湯菜、焼菜、蒸菜の実習。 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
3	加藤 伸子	【第 3 回】 予習 : 配布資料の該当箇所を読んでおく。 授業 : 中国料理Ⅱ 点心、炸菜の実習。 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
4	加藤 伸子	【第 4 回】 予習 : 配布資料の該当箇所を読んでおく。 授業 : 日本料理Ⅰ 精進料理の実習。 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
5	加藤 伸子	【第 5 回】 予習 : 配布資料の該当箇所を読んでおく。 授業 : 日本料理Ⅱ 行事食①正月料理の実習。 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
6	加藤 伸子	【第 6 回】 予習 : 配布資料の該当箇所を読んでおく。 授業 : 西洋料理Ⅰ ポタージュ、ソース、アントルメの実習。 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
7	加藤 伸子	【第 7 回】 予習 : 配布資料の該当箇所を読んでおく。 授業 : 西洋料理Ⅱ 行事食②クリスマス料理の実習。 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
8	加藤 伸子	【第 8 回】 予習 : 配布資料の該当箇所を読んでおく。 授業 : 世界の料理 タイ料理の実習。 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
9	加藤 伸子	【第 9 回】 予習 : 配布資料の該当箇所を読んでおく。 授業 : 世界の料理 韓国料理の実習。 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
10	加藤 伸子	【第 10 回】 予習 : 配布資料の該当箇所を読んでおく。 授業 : 薬膳料理 季節の薬膳料理の実習。 復習 : 実習した内容についてレポートを作成する。	
11	加藤 伸子	【第 11 回】 予習 : 事前に説明する実技試験内容について内容を理解しておく 授業 : 実技試験① 復習 : 実技試験についての反省点等をまとめる。	

12	加藤 伸子	【第 12 回】 予習：配布資料の該当箇所を読んでおく。 授業：アントルメの実習、庖丁研ぎの講義及び実習。 復習：実習した内容についてレポートを作成する。						
授業開始前学習	調理学および調理学実習Ⅰで学んだ内容を復習しておくこと学習効果が高い。							
授業内課題のフィードバックの方法	レポートにより実習の理解度を確認。返却時に必要箇所の解説を行う。個別の質問にも回答する。							
テキスト・教材	配布プリント							
参考書	駒沢女子大学 教科書シリーズ「調理学実習Ⅰ」 「図解による基礎調理」下村道子、中里トシ子編（同文書院）							
評価の基準と方法	レポート40％、実技テスト40％、授業態度20％で評価する。							
ディプロマポリシー	人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎		○	○
関連科目	「調理学」、「調理学実習Ⅰ」、「調理学実験」、「食品学Ⅰ・Ⅱ」、「官能評価論」、「給食経営管理実習」							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-311-11 (J)			授業コード	GB0010
科目名称	基礎栄養学			単位数	2.0 単位
英文名称	Basic Nutrition			授業区分	講義
科目責任者	曾我部 夏子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	曾我部 夏子			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30			研究室	16-102
授業概要	栄養学の基本的な概念を理解する。各種栄養素の特徴および生理的意義、消化・吸収機構やエネルギー代謝などをディスカッションを交えて学習することにより、栄養素が生体で利用される過程を理解する。				
到達目標	・3 大栄養素の消化、吸収について理解する ・ビタミンやミネラルの体内での働き、欠乏症や過剰症について理解する				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	曾我部 夏子	【第 1 回】 予習 : 日本の食生活の問題点を考える 授業 : 栄養学の概念、日本の食生活の現状について (ディスカッション) 復習 : 授業の内容をノートを見直して理解を深める			
2	曾我部 夏子	【第 2 回】 予習 : テキスト『栄養の概念』の項目を読む 授業 : 栄養の概念 (テキスト 2～4 頁) 復習 : 授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める			
3	曾我部 夏子	【第 3 回】 予習 : テキスト『糖質の種類』の項目を読む(テキスト 74～85 頁) 授業 : 糖質の栄養① : 糖質の種類と特徴について 復習 : 授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める			
4	曾我部 夏子	【第 4 回】 予習 : テキスト『脂質の種類・代謝』の項目を読む(テキスト 87～100 頁) 授業 : 脂質の栄養② : 脂質の種類と特徴について 復習 : 授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める			
5	曾我部 夏子	【第 5 回】 予習 : テキスト『タンパク質の種類・代謝』の項目を読む 授業 : タンパク質の栄養① : タンパク質の種類と特徴について(テキスト 58～72 頁) 復習 : 授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める			
6	曾我部 夏子	【第 6 回】 予習 : テキスト『ビタミンの栄養』の項目を読む 授業 : ビタミン・無機質の種類と特徴について (ディスカッション) (テキスト 107～121 頁) 復習 : 授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める			
7	曾我部 夏子	【第 7 回】 予習 : テキスト『消化・吸収』の章を読む 授業 : 消化吸収機構① : 消化・吸収の基本概念 (テキスト 23～33 頁) 復習 : 授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める			
8	曾我部 夏子	【第 8 回】 予習 : テキスト『消化・吸収』の章を読む 授業 : 消化吸収機構② : 管腔内消化とその調節(テキスト 33～35 頁) 復習 : 授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める			
9	曾我部 夏子	【第 9 回】 予習 : テキスト『消化・吸収』の章を読む 授業 : 消化吸収機構③ : 膜消化・吸収 (テキスト 35～37 頁) 復習 : 授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める			
10	曾我部 夏子	【第 10 回】 予習 : テキスト『消化・吸収』の章を読む 授業 : 吸収された栄養素の体内動態 (ディスカッション) (テキスト 37～46 頁) 復習 : 授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める			
11	曾我部 夏子	【第 11 回】 予習 : テキスト『糖質の代謝』の章を読む 授業 : 糖質の栄養② : 糖質の体内での代謝について (ディスカッション) (テキスト 76～85 頁) 復習 : 授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める			

12	曽我部 夏子	【第 12 回】 予習 : テキストテキスト『脂質の代謝』の章を読む 授業 : 脂質の栄養② : 脂質の体内での代謝について (ディスカッション) (テキスト 89～95 頁) 復習 : 授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める							
13	曽我部 夏子	【第 13 回】 予習 : テキストテキスト『タンパク質の代謝』の章を読む 授業 : タンパク質の栄養② : タンパク質の体内での代謝について (ディスカッション) (テキスト 60～67 頁) 復習 : 授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める							
14	曽我部 夏子	【第 14 回】 予習 : テキストテキスト『ビタミンの代謝』の章を読む 授業 : ビタミンの栄養 : ビタミンの体内での代謝について (ディスカッション) (テキスト 109～119 頁) 復習 : 授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める							
15	曽我部 夏子	【第 15 回】 予習 : テキストテキスト『エネルギー代謝』の章を読む 授業 : エネルギー代謝 : エネルギー代謝の概念について (ディスカッション) (テキスト 146～157 頁) 復習 : 授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める							
授業開始前学習		テキストの指定ページを読んでから、授業に臨むこと							
授業内課題のフィードバックの方法		小テストは採点した後、返却して解説を行う。							
テキスト・教材		田地陽一編著『基礎栄養学』 (羊土社)							
参考書		授業の中で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		授業態度 (レポートや小テストなど) 10%、定期試験 90%とし 100 点満点で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△				◎	○		
関連科目		基礎栄養学実習、解剖生理学、栄養生理学、栄養生理学実験							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		産業保健領域での管理栄養士の実務経験あり。就労者に対する保健指導、栄養教育において、本授業で学ぶ糖質代謝、消化吸収等の知識をどのように活かすのか、授業で実例を挙げて紹介する。							

科目分類	210-311-32 (J)	授業コード	GB0021
科目名称	基礎栄養学実習	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Basic Nutrition	授業区分	実習・実験
科目責任者	曾我部 夏子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	曾我部 夏子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	16-102
授業概要	「基礎栄養学」で学んだエネルギー、栄養素の代謝について、グループワークやディスカッションを通して理解を深める。基礎代謝量の概念や算出方法、安静時代謝量の測定法と実測、体組成の評価、栄養素摂取量の算出および評価ができるようになる。		
到達目標	・基礎代謝量、活動時代謝量の測定方法について理解する ・エネルギー代謝量を呼気ガス分析法やメッツ値を使って算出することができる ・それぞれの栄養素の給源食品について理解する ・消化・吸収について、自分の言葉で説明できるようになる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	曾我部 夏子	【第 1 回】 予習 : 基礎栄養学の講義時のノート「エネルギー代謝」の項目を読む 授業 : 実習を行うための諸注意、機器の取り扱いについて 復習 : 実習内容をレポートにまとめる	
2	曾我部 夏子	【第 2 回】 予習 : 安静時代謝とは何か、自分で調べてノートにまとめる 授業 : エネルギー代謝① 安静時代謝量の測定方法の習得 (実習) 復習 : 実習内容をレポートにまとめる	
3	曾我部 夏子	【第 3 回】 予習 : 安静時代謝を推定する方法を調べてノートにまとめる 授業 : エネルギー代謝② 呼気ガス分析法による安静時代謝量、活動代謝量の測定 (グループワーク) 復習 : 測定結果をレポートにまとめる	
4	曾我部 夏子	【第 4 回】 予習 : 自分の行動記録を 7 週間、記録用紙に記入する、また、携帯型の活動量計を 7 週間装着する 授業 : エネルギー代謝③ 行動記録法による活動代謝量の算出 1 復習 : 行動記録法と活動計法の方法の違いによって、同じ日のエネルギー消費量にどの程度の差があるのか、自分の 7 日間の結果をもとにレポートにまとめる	
5	曾我部 夏子	【第 5 回】 予習 : 基礎栄養学の講義時のノート「活動代謝量の測定方法」の項目を読む 授業 : エネルギー代謝④ 活動代謝量の算出 2 (クラス全員のエネルギー消費量について、統計的に解析する) 復習 : 解析結果をもとに、考察してレポートにまとめる	
6	曾我部 夏子	【第 6 回】 予習 : 自分の 2 日分の食事内容を記録用紙に記録する 授業 : 食事記録の解析① 重量換算と栄養計算 復習 : 自分の 2 日間の食事内容について、エネルギー摂取量、栄養素摂取量を算出する	
7	曾我部 夏子	【第 7 回】 予習 : 20 歳代女性の食事摂取基準での各種栄養素の推奨量、目安量を調べる 授業 : 食事記録の解析② 栄養素等摂取量についての評価 復習 : 自分の栄養素等摂取量を食事摂取基準値と比較し、評価する	
8	曾我部 夏子	【第 8 回】 予習 : 国民健康栄養調査の結果(エネルギー、各種栄養素摂取量)を調べる 授業 : 食事調査による栄養摂取量の評価 復習 : 自分の栄養素等摂取量と国民健康栄養調査の結果を比較する	

9	曾我部 夏子	【第 9 回】 予習：国民健康栄養調査の結果(各種栄養素の給源食品摂取量)を調べる 授業：各種栄養素の給源食品についての検討① 復習：クラス員の結果を国民健康栄養調査の結果と比較する							
10	曾我部 夏子	【第 10 回】 予習：国民健康栄養調査と実習での調査結果を比較する 授業：各種栄養素の給源食品についての検討②（ディスカッション） 復習：自分が発表担当になった栄養素について、働きや給源食品について調べる							
11	曾我部 夏子	【第 11 回】 予習：統計処理のための検定方法について調べる 授業：各種栄養素の給源食品についての検討③ 復習：自分が担当になった栄養素について、発表原稿を作成する							
12	曾我部 夏子	【第 12 回】 予習：発表原稿の推敲、プレゼンテーションの練習を行う 授業：実習結果の発表(プレゼンテーション)、期末試験 復習：すべての実習を通して学んだことをレポートにまとめる							
授業開始前学習		1 年次の基礎栄養学の講義の内容を復習してくること 事前に配布したプリントは熟読してくること							
授業内課題のフィードバックの方法		小テストは採点した後、返却して解説を行う。							
テキスト・教材		プリントを配布する							
参考書		田地陽一編著『基礎栄養学』（羊土社）							
評価の基準と方法		授業態度(小テストなど)15%、レポート 40%、発表 15%、期末試験 30%とし、100 点満点で評価する。提出期限を過ぎてレポートが提出された場合は、その遅れた日数にしたがって減点とする。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎		○	△
関連科目		基礎栄養学(講義)、栄養生理学(講義)、栄養生理学実験							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容		産業保健領域での管理栄養士の実務経験あり。就労者に対する保健指導、栄養教育において、本授業で学ぶ糖質代謝、消化吸収等の知識をどのように活かすのか、授業で実例を挙げて紹介する。							

科目分類	210-311-12	授業コード	GB0031
科目名称	応用栄養学 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Practical Nutrition I	授業区分	講義
科目責任者	岡田 昌己	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岡田 昌己	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～13:00 後期 木曜日 09:00～13:00	研究室	4-201
授業概要	応用栄養学分野の授業ではヒトの栄養管理に必要な知識や技術について概説する。応用栄養学 I では、栄養ケア・マネジメントの定義や意義、プロセスなど、栄養管理の基本となる考え方を説明し、特にヒトの栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）のために必要な知識について詳しく解説する。また、栄養管理をする上で重要な日本人の食事摂取基準については、策定目的や基本方針、活用のための理論と方法について詳しく解説する。		
到達目標	応用栄養学では“栄養”の基礎的知識や意義を理解した上で、ヒトの栄養管理に必要な知識を修得する。特に応用栄養学 I では、栄養ケア・マネジメントの定義や意義、栄養管理の基本となる考え方を理解し、栄養ケア・マネジメントの意義やプロセスについて概説できるようになる。また、食事摂取基準の策定目的と基本方針、活用のための理論と方法を理解し、各指標の意味や策定プロセスについて説明できるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	岡田 昌己	【第 1 回】 予習：テキストのシラバスや目次を一読しておく 授業：応用栄養学の概要 復習：応用栄養学のキーワードを確認する	
2	岡田 昌己	【第 2 回】 予習：栄養管理の目的について調べる 授業：栄養管理の基礎（テキスト 1 頁から 5 頁） 復習：栄養管理の目的や栄養ケア・マネジメントの概念・概要をまとめる	
3	岡田 昌己	【第 3 回】 予習：栄養アセスメントの意義・目的を調べる 授業：栄養アセスメントの意義・目的と分類、身体計測（テキスト 6 頁から 9 頁） 復習：栄養アセスメントのポイントをまとめる	
4	岡田 昌己	【第 4 回】 予習：栄養アセスメントの分類を調べる 授業：栄養アセスメント 臨床診査および臨床検査（テキスト 9 頁から 11 頁） 復習：栄養アセスメントの分類について整理する	
5	岡田 昌己	【第 5 回】 予習：栄養アセスメントの分類を調べる 授業：栄養アセスメント 食事調査（テキスト 12 頁から 14 頁） 復習：食事調査の特徴を整理する	
6	岡田 昌己	【第 6 回】 予習：栄養アセスメントのキーワードを確認する 授業：栄養管理のまとめ 復習：栄養管理の基礎についてまとめる	
7	岡田 昌己	【第 7 回】 予習：食事摂取基準の目的を調べる 授業：食事摂取基準の意義・目的（テキスト 16 頁から 18 頁） 復習：食事摂取基準の策定根拠についてまとめる	
8	岡田 昌己	【第 8 回】 予習：食事摂取基準の指標の特徴を調べる 授業：食事摂取基準策定の基礎理論- 1（テキスト 19 頁から 21 頁） 復習：食事摂取基準の指標の特徴をまとめる	
9	岡田 昌己	【第 9 回】 予習：食事摂取基準の指標の特徴を調べる 授業：食事摂取基準策定の基礎理論- 2（テキスト 21 頁から 24 頁） 復習：食事摂取基準の指標の特徴をまとめる	
10	岡田 昌己	【第 10 回】 予習：食事摂取基準の活用について調べる 授業：食事摂取基準活用の基礎理論（テキスト 25 頁から 28 頁） 復習：食事摂取基準活用の個人と集団の違いをまとめる	

11	岡田 昌己	【第 11 回】 予習：エネルギー・栄養素の食事摂取基準を調べる 授業：エネルギー・栄養素別食事摂取基準（テキスト 29 頁から 34 頁） 復習：エネルギー・栄養素の食事摂取基準のポイントをまとめる							
12	岡田 昌己	【第 12 回】 予習：ビタミンの食事摂取基準を調べる 授業：ビタミンの食事摂取基準（テキスト 34 頁から 37 頁） 復習：ビタミンの食事摂取基準のポイントをまとめる							
13	岡田 昌己	【第 13 回】 予習：ミネラルの食事摂取基準を調べる 授業：ミネラルの食事摂取基準（テキスト 37 頁から 41 頁） 復習：ミネラルの食事摂取基準のポイントをまとめる							
14	岡田 昌己	【第 14 回】 予習：食事摂取基準の活用の仕方について調べる 授業：食事摂取基準の活用 主要な栄養素 復習：食事摂取基準の活用のポイントをまとめる							
15	岡田 昌己	【第 15 回】 予習：栄養管理と食事摂取基準について総復習する 授業：栄養管理と食事摂取基準についてのまとめ 復習：栄養管理と食事摂取基準の重要ポイントをまとめる							
授業開始前学習		1 年次の関連科目ですでに学習した内容については、しっかり理解しておくこと。各回の授業までに、該当部分の基本的内容を把握しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業項目ごとに小テストを実施し、小テスト終了後に解説をして重要なポイントの確認を行う。また、間違いの多かった問題については、後日改めて復習をして理解を深める。							
テキスト・教材		小切間美保・栗原晶子 編『応用栄養学』（中山書店） 日本人の食事摂取基準策定検討会報告書『日本人の食事摂取基準（2020 年版）』（厚生労働省）							
参考書		授業中に適宜紹介する。							
評価の基準と方法		定期試験の成績（50%）、課題の成績（30%）、授業内小テストの成績（20%）によって評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○		△
関連科目		解剖生理学、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-311-12	授業コード	GB0041
科目名称	応用栄養学Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Practical Nutrition II	授業区分	講義
科目責任者	三浦 麻子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三浦 麻子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 木曜日 10:30～12:00 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	4-104
授業概要	応用栄養学分野では主にヒトの栄養管理に必要な知識や技術について概説する。応用栄養学Ⅱでは、ヒトの成長・発達・加齢に伴う身体状況の変化について詳しく説明し、それらに応じた栄養管理の考え方を解説する。本講では特に、妊娠期・授乳期、新生児期・乳児期、幼児期における各ライフステージの生理的特徴や栄養アセスメントに法、病態・疾患、さらに個々の身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアの基本的考え方を詳しく解説する。		
到達目標	応用栄養学では“栄養”の基礎的知識や意義を理解した上で、ヒトの栄養管理に必要な知識を修得する。特に応用栄養学Ⅱでは、成長・発達・加齢に伴う身体状況の変化について理解する。ライフステージの中でも、妊娠期・授乳期、新生児期・乳児期、幼児期における生理的特徴や栄養アセスメント法、病態・疾患、さらに個々の身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアの基本的考え方を理解する。そして、個人の状況に応じた栄養ケア・マネジメントの過程や疾病の予防と改善のための方法を説明できるようにすることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三浦 麻子	予習：ライフステージの概念について調べる 授業：成長・発達、加齢とライフステージの概念 復習：成長・発達、加齢のポイントをまとめる	
2	三浦 麻子	予習：女性の性周期とホルモン分泌について調べる 授業：女性の性周期とホルモン分泌（テキスト p.42-44） 復習：性周期とホルモンの種類や働きをまとめる	
3	三浦 麻子	予習：妊娠の成立について調べる 授業：妊婦の生理的・身体的変化（テキスト p.44-47） 復習：妊娠による母体の変化についてまとめる	
4	三浦 麻子	予習：胎児の変化について調べる 授業：母体の変化と胎児の成長（テキスト p.47-50） 復習：胎児の変化についてまとめる	
5	三浦 麻子	予習：授乳期について調べる 授業：乳汁産生・分泌の機序と乳汁成分（テキスト p.57-62） 復習：乳汁産生・分泌の機序と乳汁成分についてまとめる	
6	三浦 麻子	予習：妊娠期・授乳期の栄養アセスメントについて調べる 授業：妊娠期・授乳期の栄養ケア（テキスト p.53-56） 復習：妊娠期・授乳期の栄養ケアのポイントをまとめる	
7	三浦 麻子	予習：妊娠期・授乳期の病態・疾患について調べる 授業：妊娠期・授乳期の病態・疾患（テキスト p.56-62） 復習：妊娠期・授乳期の病態・疾患についてまとめる	
8	三浦 麻子	予習：新生児期・乳児期の生理的特徴を調べる 授業：新生児期・乳児期の発育・発達①（テキスト p.64-69） 復習：新生児期・乳児期の生理的特徴をまとめる	
9	三浦 麻子	予習：新生児期・乳児期の生理的特徴を調べる 授業：新生児期・乳児期の発育・発達②（テキスト p.64-69） 復習：新生児期・乳児期の生理的特徴をまとめる	
10	三浦 麻子	予習：新生児期・乳児期の病態・疾患について調べる 授業：新生児期・乳児期の栄養ケア（テキスト p.70-71） 復習：新生児期・乳児期の病態・疾患についてまとめる	
11	三浦 麻子	予習：新生児期・乳児期の栄養ケアについて調べる 授業：授乳・離乳の支援（テキスト p.72-75） 復習：離乳の進め方についてまとめる	
12	三浦 麻子	予習：成長期の生理的特徴について調べる 授業：幼児の成長・発達（テキスト p.76-81） 復習：幼児の成長・発達についてまとめる	
13	三浦 麻子	予習：幼児期の病態・疾患について調べる 授業：幼児の疾病予防の栄養管理（テキスト p.82-85） 復習：幼児期の病態・疾患についてまとめる	

14	三浦 麻子	予習：幼児期の栄養ケアについて調べる 授業：幼児の栄養アセスメント（テキストp.87-93） 復習：幼児期の栄養ケアについてまとめる						
15	三浦 麻子	予習：妊娠・授乳期から幼児期までの栄養管理のキーワードを確認する 授業：妊娠・授乳期から幼児期までの栄養管理のまとめ 復習：妊娠・授乳期から幼児期までの栄養管理について復習し、まとめる						
授業開始前学習	関連科目ですでに学習した内容については、しっかり理解しておくこと。各回の授業までに、該当部分の基本的内容を把握しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業項目ごとに小テストを実施し、重要なポイントの確認を行う。また、間違いの多かった問題については、後日改めて復習をして理解を深める。							
テキスト・教材	小切間美保・桒原晶子 編『応用栄養学』（中山書店） 日本人の食事摂取基準策定検討会報告書『日本人の食事摂取基準（2020 年版）』（厚生労働省）							
参考書	授業中に適宜紹介する。							
評価の基準と方法	定期試験の成績（50％）、授業内の小テストや課題の成績（50％）によって評価する。							
ディプロマポリシー	人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		△
関連科目	解剖生理学、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-311-13	授業コード	GB0051
科目名称	応用栄養学Ⅲ	単位数	2.0 単位
英文名称	Practical NutritionⅢ	授業区分	講義
科目責任者	三浦 麻子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三浦 麻子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 10:30～12:00 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	4-104
授業概要	応用栄養学分野では主にヒトの栄養管理に必要な知識や技術について概説する。応用栄養学Ⅲでは、ヒトの成長・発達・加齢に伴う身体状況の変化や環境による変化について詳しく説明し、それらに応じた栄養管理の考え方を解説する。本講では特に、学童期・思春期、成人期・更年期、高齢期における各ライフステージの生理的特徴や栄養アセスメント法、病態・疾患、さらに個々の身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアの基本的考え方を解説する。また、運動やストレス、特殊環境時における生理的特徴や栄養ケアの基本的考え方を解説する。		
到達目標	応用栄養学では“栄養”の基礎的知識や意義を理解した上で、ヒトの栄養管理に必要な知識を修得する。特に応用栄養学Ⅲでは、成長・発達・加齢に伴う身体状況の変化や環境による変化について理解する。ライフステージの中でも、学童期・思春期、成人期・更年期、高齢期における生理的特徴や栄養アセスメント法、病態・疾患、さらに個々の身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアの基本的考え方を理解する。また、運動や特殊環境時における生理的特徴や栄養ケアの基本的考え方を理解する。そして、個人の状況に応じた栄養ケア・マネジメントの過程や疾病の予防と改善のための方法を説明できるようになることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三浦 麻子	予習：ライフステージの概念や特殊環境について調べる 授業：ライフステージの確認と特殊環境について 復習：栄養管理のポイントを確認する	
2	三浦 麻子	予習：成長期の生理的特徴について調べる 授業：学童期の成長・発達（テキスト p.76-81） 復習：学童期の成長・発達の特徴についてまとめる	
3	三浦 麻子	予習：学童期の病態・疾患について調べる 授業：学童期の疾病予防の栄養管理（テキスト p.82-85、p.100-105） 復習：学童期の病態・疾患についてまとめる	
4	三浦 麻子	予習：学童期の栄養ケアについて調べる 授業：学童期の栄養ケア（テキスト p.94-98） 復習：学童期の栄養ケアのポイントについてまとめる	
5	三浦 麻子	予習：思春期の特徴について調べる 授業：思春期の生理的特徴と病態・疾患 復習：思春期の特徴についてまとめる	
6	三浦 麻子	予習：加齢による変化について調べる 授業：成人期の生理的特徴（テキスト p.106-112） 復習：成人期の生理的特徴についてまとめる	
7	三浦 麻子	予習：更年期について調べる 授業：更年期の生理的特徴（テキスト p.106-112） 復習：更年期の特徴についてまとめる	
8	三浦 麻子	予習：成人期の病態・疾患について調べる 授業：成人期・更年期の病態・疾患と栄養ケア（テキスト p.113-127） 復習：成人期・更年期の病態・疾患と栄養ケアについてまとめる	
9	三浦 麻子	予習：加齢による変化について調べる 授業：高齢期の生理的特徴（テキスト p.106-112） 復習：高齢期の生理的特徴についてまとめる	
10	三浦 麻子	予習：高齢期の病態・疾患について調べる 授業：高齢期の病態・疾患と栄養ケア（テキスト p.128-135） 復習：高齢期の病態・疾患と栄養ケアについてまとめる	
11	三浦 麻子	予習：運動時のエネルギー代謝の変化について調べる 授業：運動時の身体の変化と身体活動基準（テキスト p.137-150） 復習：運動時の代謝の変化についてまとめる	
12	三浦 麻子	予習：ストレス時の生理的変化について調べる 授業：ストレスと栄養ケア（テキスト p.152-155） 復習：ストレス時の栄養ケアについてまとめる	

13	三浦 麻子	予習：特殊環境下の生理的変化について調べる 授業：特殊環境と栄養ケア（テキストp.157-162） 復習：特殊環境時の栄養ケアについてまとめる							
14	三浦 麻子	予習：災害時の管理栄養士の役割について調べておく 授業：災害時の栄養ケア（テキストp.164-170） 復習：災害時の栄養ケアについてまとめる							
15	三浦 麻子	予習：学童期から成人期・高齢期と特殊環境時の栄養ケアのポイントを確認する 授業：学童期から成人期・高齢期と特殊環境時の栄養ケアのまとめ 復習：学童期から成人期・高齢期と特殊環境時の栄養ケアについて復習し、まとめる							
授業開始前学習		関連科目ですでに学習した内容については、しっかり理解しておくこと。各回の授業までに、該当部分の基本的内容を把握しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業項目ごとに小テストを実施し、重要なポイントの確認を行う。また、間違いの多かった問題については、後日改めて復習をして理解を深める。							
テキスト・教材		小切間美保・栗原晶子 編『応用栄養学』（中山書店） 日本人の食事摂取基準策定検討会報告書『日本人の食事摂取基準（2020 年版）』（厚生労働省）							
参考書		授業中に適宜紹介する。							
評価の基準と方法		定期試験の成績（50％）、授業内の小テストや課題の成績（50％）によって評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○		△
関連科目		解剖生理学、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-311-33	授業コード	GB0061
科目名称	応用栄養学実習	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Practical Nutrition	授業区分	実習・実験
科目責任者	三浦 麻子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三浦 麻子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 10:30～12:00 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	4-104
授業概要	応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて学習した各ライフステージの生理的特徴や栄養ケア・マネジメントの一連の流れについて確認する。また、実際の症例を通して、栄養アセスメントの方法や栄養管理、食事管理の考え方を確認し、献立作成や調理実習（グループワーク）を通して、より実践的な技能を身に付けられるようにする。また、栄養管理を行う際に用いる食事摂取基準について詳細を解説し、実際に活用しながら理解を深める。		
到達目標	栄養ケア・マネジメントの一連の流れや各ライフステージの生理的特徴についてより深く理解し、説明できるようになる。実際の症例について、それぞれの身体状況や栄養状態に応じた栄養アセスメントや栄養管理・食事管理ができるよう、献立作成や実習を通して、より実践的な技能を修得する。また、栄養管理を行う際に用いる食事摂取基準について、その数値の意味を理解した上で、実際に活用できるようになることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三浦 麻子	予習：応用栄養学Ⅰ～Ⅲで使用している『応用栄養学』（中山書店）を一読しておく 授業：栄養管理の概要および食事摂取基準の概要 P.1-59 復習：栄養管理および食事摂取基準の要点のまとめ	
2	三浦 麻子	予習：栄養ケア・マネジメントと食事摂取基準の復習 授業：栄養ケア計画と推定エネルギー必要量の算出 P.60-65 復習：栄養ケア計画のまとめ	
3	三浦 麻子	予習：対象特性別アセスメントのポイントの確認 授業：対象特性別アセスメントの実施 P.67-77 復習：対象特性別アセスメントのポイントの復習	
4	三浦 麻子	予習：妊娠期・授乳期の特性のまとめ 授業：妊娠期・授乳期の栄養ケア・マネジメント P.79-94 復習：妊娠期・授乳期の栄養ケア計画のまとめ	
5	三浦 麻子	予習：乳児期・幼児期の特性のまとめ 授業：乳児期・幼児期の栄養ケア・マネジメント P.96-111 復習：乳児期・幼児期の栄養ケア計画のまとめ	
6	三浦 麻子	予習：成長期（学童期・思春期）の特性のまとめ 授業：成長期（学童期・思春期）の栄養ケア・マネジメント P.113-120 復習：成長期（学童期・思春期）の栄養ケア計画のまとめ	
7	三浦 麻子	予習：災害時の食料備蓄の確認 授業：災害時の食事 ＜調理実習＞（グループワーク） P.136-138 復習：災害時の食事の実習後レポートの作成	
8	三浦 麻子	予習：妊娠期の栄養管理のまとめ 授業：妊娠期の食事 ＜調理実習＞（グループワーク） 復習：妊娠期の食事の実習後レポートの作成	
9	三浦 麻子	予習：乳児期の栄養ケア計画の確認 授業：乳児期の食事（調乳） ＜調理実習＞（グループワーク） 復習：乳児期の食事の実習後レポートの作成	
10	三浦 麻子	予習：乳児期の栄養ケア計画の確認 授業：乳児期の食事（離乳食） ＜調理実習＞（グループワーク） 復習：乳児期の食事の実習後レポートの作成	
11	三浦 麻子	予習：成長期（幼児期・学童期・思春期）の栄養ケア計画の確認 授業：成長期（幼児期・学童期・思春期）の食事 ＜調理実習＞（グループワーク） 復習：成長期（幼児期・学童期・思春期）の食事の実習後レポートの作成	
12	三浦 麻子	予習：各ライフステージごとの特性に応じた栄養管理の考え方の復習 授業：各ライフステージごとの特性に応じた栄養管理について確認テストの実施 復習：各ライフステージごとの特性に応じた栄養管理のまとめ	

授業開始前学習	応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱの内容の復習と、同時進行の応用栄養学Ⅲの内容についてしっかりと理解して臨むこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	実習課題を実施後、授業時間内で解答を確認する。課題提出後は課題の内容をチェックをした上で、ライフステージが変わるごとにそのポイントを復習する。							
テキスト・教材	三浦麻子『応用栄養学実習』（駒沢女子大学教科書シリーズ）							
参考書	小切間美保・柴原晶子 編『応用栄養学』（中山書店） 日本人の食事摂取基準策定検討会報告書『日本人の食事摂取基準（2020年版）』（厚生労働省）							
評価の基準と方法	課題の成績（70%）、授業内の確認テストの成績（30%）によって評価する。							
ディプロマポリシー	人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にできる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎		○	△
関連科目	応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱ、応用栄養学Ⅲ							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-430-14	授業コード	GB0070
科目名称	スポーツ栄養学	単位数	2.0 単位
英文名称	Sports Nutrition	授業区分	講義
科目責任者	大滝 千香子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大滝 千香子	開講時期	4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	アスリートの栄養マネジメントに必要な運動生理学・栄養学に基づいた基礎知識を得る。また、アスリートからの栄養相談を想定したロールプレイングを行い、実践力を養う。チームスタッフとの連携をとることの必要性を学ぶ		
到達目標	アスリートの栄養マネジメントに必要なアセスメント方法（エネルギー消費量の推定、食事調査、血液検査・体力測定データの見方）を習得する。また、ウエイトコントロールの方法、シーズンや競技特性に見合った食事の特徴を学ぶ		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大滝 千香子	【第 1 回】 予習 : アスリート栄養とは スポーツ現場での栄養士の役割を知る 復習 : 授業時のキーワード確認	
2	大滝 千香子	【第 2 回】 予習 : テキストを読んでくる 授業 : 運動時のエネルギー供給機構と食事 P6-17 復習 : アスリートのタイムスタディデータを基にエネルギー消費量を推定してみる	
3	大滝 千香子	【第 3 回】 予習 : 体組成測定方法を知る P19-30 授業 : スポーツ選手の栄養マネジメント・体格 復習 : 授業時のキーワードを確認	
4	大滝 千香子	【第 4 回】 予習 : 糖質摂取について P32-41 授業 : アスリートの糖質摂取とリカバリー 復習 : アスリート（または自身の）1 日の糖質摂取量をと主食量を考えてみる	
5	大滝 千香子	【第 5 回】 予習 : たんぱく質と脂質について P44-69 授業 : アスリートのたんぱく質と脂質の摂取について 復習 : 食材のたんぱく質含有量と 1 日のたんぱく質摂取スケジュールを立ててみる	
6	大滝 千香子	【第 6 回】 予習 : 基礎栄養学のビタミン P100-110 授業 : アスリートのビタミン摂取とコンディション 復習 : アスリートのビタミン、ミネラル必要量について文献報告をまとめる	
7	大滝 千香子	【第 7 回】 予習 : 食事摂取基準について確認してくる P134-157 授業 : 目的別の栄養管理① 増量・減量 復習 : 増量の栄養プランを作成する	
8	大滝 千香子	【第 8 回】 予習 : 骨と貧血について確認してくる P74-96 授業 : 目的別の栄養管理② エネルギーアベイラビリティについて、骨の健康と貧血 復習 : LEA についてまとめる	
9	大滝 千香子	【第 9 回】 予習 : 基礎栄養学水分補給部分 授業 : 体温調節と水分補給 P114-122 復習 : 発汗による体液損失を補う方法をまとめる	

10	大滝 千香子	【第 10 回】 予習 : 遠征時・試合前の食事について調べる P 160-173 授業 : 試合前の食事調整とリハビリ 復習 : 試合中の栄養トラブルについて調べてみる							
11	大滝 千香子	【第 11 回】 予習 : サプリメントの種類を調べる 授業 : 使用目的別のサプリメント P176-188 復習 : 使用実態をまとめる							
12	大滝 千香子	【第 12 回】 予習 : アスリートの年間スケジュールを確認してくる 授業 : スポーツ選手のトレーニングスケジュール p 124-130 復習 : 年間のトレーニング計画に食事計画を立案してみる							
13	大滝 千香子	【第 13 回】 予習 : 食事記録をしておく 授業 : アスリートの実践食事管理・栄養相談ロールプレイング p 234-245 復習 : 献立作成							
14	大滝 千香子	【第 14 回】 予習 : これまでの課題の整理 授業 : アスリートの栄養マネジメント : まとめ、テーブルメモの提出 復習 : 競技特性を考慮した給与栄養目標量の設定と献立作成 (最終レポートの作成)							
15	大滝 千香子	【第 15 回】 予習 : これまでの課題の整理 授業 : アスリートの栄養マネジメント : まとめ、テーブルメモの提出 復習 : 競技特性を考慮した給与栄養目標量の設定と献立作成 (最終レポートの作成)							
授業開始前学習		アスリートの栄養マネジメントは一般個人・集団に対するものと同じである。応用栄養学で学んだ栄養マネジメントの進め方について復習すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		講義期間内の課題においては期間中に確認し対応する							
テキスト・教材		スポーツ栄養学 理論と実践 田口素子 編著 市村出版							
参考書		授業時に紹介する							
評価の基準と方法		授業時の取り組み態度 (4 0 %) 、レポート内容 (30 %) と提出状況 (30 %) で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○		△
関連科目		応用栄養学、運動生理学							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-311-11 (J)	授業コード	GB0091
科目名称	栄養教育論 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Nutritional Education I	授業区分	講義
科目責任者	上杉 幸世	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	上杉 幸世	開講時期	1 年
オフィスアワー	—	研究室	—
授業概要	栄養教育を行うためには、各種指針、法律や制度等を適切に活用する能力が不可欠です。今後、管理栄養士として活躍するために必要となる栄養教育の基礎知識の習得を目指します。		
到達目標	管理栄養士として栄養教育を実施するために必要な指針や指導媒体について理解、説明ができるようになります。また、栄養関係の法規の概要を理解しその重要性を認識できるようになります。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	上杉 幸世	【第 1 回】 予習 : シラバスを読み確認しておくこと 授業 : ガイダンス、食行動変容と管理栄養士の役割 復習 : 授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする	
2	上杉 幸世	【第 2 回】 予習 : 教科書のページを一読 授業 : 栄養教育の歴史、栄養教育と関係法規 (P 257~271) レポート課題①提示 復習 : 授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする	
3	上杉 幸世	【第 3 回】 予習 : レポート課題①準備 授業 : 栄養教育の場「活躍する栄養士たち」(グループワーク) 復習 : 授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする	
4	上杉 幸世	【第 4 回】 予習 : プレゼンテーションの練習をしておく 授業 : 栄養教育の場「職域別管理栄養士の職務と役割」(プレゼンテーション) 復習 : 授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする	
5	上杉 幸世	【第 5 回】 予習 : 教科書の該当ページを一読 授業 : 栄養教育の概念「目的、目標」(P 3~5) (アクティブラーニング・ディスカッション) 復習 : 授業で提示したポイントを確認	
6	上杉 幸世	【第 6 回】 予習 : 教科書の該当ページを一読 授業 : 栄養教育と健康教育、わが国の健康問題他 復習 : 授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする	
7	上杉 幸世	【第 7 回】 予習 : 教科書の該当ページを一読 授業 : 栄養教育の機会と対象「ライフステージ、健康状態」(P 11) 復習 : 授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする	
8	上杉 幸世	【第 8 回】 予習 : 教科書の該当ページを一読 授業 : 健康日本 21 教科書 (p282~287) 復習 : 授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする	
9	上杉 幸世	【第 9 回】 予習 : 教科書の該当ページを一読 授業 : 食環境づくりと栄養教育「食環境整備に関する施策、資源、ツール、取り組みの現状」(P 73~77) レポート課題②提示 復習 : 授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする	

10	上杉 宰世	【第 10 回】 予習 : レポート課題②準備 授業 : 栄養教育のためのツールー 1「食生活指針」 (P 279～281) (アクティブラーニング) 復習 : 授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする							
11	上杉 宰世	【第 11 回】 予習 : 教科書の該当ページを一読 授業 : 栄養教育のための理論的基礎「日本人の食事摂取基準」 (P 14～27) 復習 : 授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする							
12	上杉 宰世	【第 12 回】 予習 : レポート課題準備 授業 : 栄養教育のためのツールー 2「食事バランスガイド」 (P 279～281) (アクティブラーニング) 復習 : レポート作成							
13	上杉 宰世	【第 13 回】 予習 : 授業用資料の収集 授業 : 食事評価演習 (アクティブラーニング) レポート課題③提示 次回の授業で使用する資料収集に関する説明 復習 : 授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする							
14	上杉 宰世	【第 14 回】 予習 : 教科書のページと該当する配布資料を一読 授業 : 栄養情報のとらえ方 (アクティブラーニング) 復習 : 授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする							
15	上杉 宰世	【第 15 回】 予習 : 1 回～ 1 4 回までの内容で不明な部分を再確認して整理しておく 授業 : まとめ 復習 : 管理栄養士にとり栄養教育がなぜ必要なのかを自分なりに整理し「まとめ」を作成しておく。							
授業開始前学習		教科書に目を通しておいください。また、管理栄養士を目指したきっかけを思い出し、自分の管理栄養士像をイメージしてください。							
授業内課題のフィードバックの方法		Portal にて提出とフィードバックをします							
テキスト・教材		辻とみ子・堀田千津子編「新版ヘルス 21 栄養教育・栄養指導論」(医歯薬出版株式会社) 2,800 円 + 税							
参考書		授業内で紹介します							
評価の基準と方法		授業参加状況 (出席状況、授業参加態度) を踏まえ、レポートなどの提出物で 60% (期限に遅れた場合は減点) 、定期試験 40 %の配点で評価します。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎	○	△	
関連科目		栄養教育論Ⅱ、栄養教育論Ⅲ、栄養教育論実習Ⅰ、栄養教育論実習Ⅱの基礎となる科目です。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		企業に管理栄養士として勤務した経験を活かして、管理栄養士の職務・役割と求められる資質や能力について講義します。							

科目分類	210-311-12 （ J ）			授業コード	GB0101
科目名称	栄養教育論Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Nutritional EducationⅡ			授業区分	講義
科目責任者	大坂 裕子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大坂 裕子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 金曜日 09:00～10:30 金曜日 14:40～16:10			研究室	16-101
授業概要	授業の前半では栄養教育のための理論的基礎知識（行動科学理論及びモデル）を学ぶ。それを踏まえ、後半では栄養教育プログラムの目標設定や計画、実施、評価の一連の流れを解説する。授業では理解を深めるため、課題解決型学習に取り組む時間がある。				
到達目標	行動科学の理論やモデルについて正確に説明できるようになる。また、学習した行動科学理論やモデルを用いて実際の栄養教育プログラムを構築し実践できる力を習得する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	大坂 裕子	【第1回】 予習：栄養教育論Ⅰで学んだ内容の確認 授業：栄養教育論Ⅰの要点の復習、栄養教育論Ⅱの学習範囲の確認 復習：授業内容を復習する課題に取り組む			
2	大坂 裕子	【第2回】 予習：テキスト p28-34 を読んでおく 授業：行動科学の理論とモデル（刺激－反応理論・ヘルスビリーフモデル）（テキスト p28-34） 復習：授業で提示したポイントの復習			
3	大坂 裕子	【第3回】 予習：テキスト p34-36 を読んでおく 授業：行動科学の理論とモデル（トランスセオレティカルモデル）（テキスト p34-36） 復習：授業で提示したポイントの復習			
4	大坂 裕子	【第4回】 予習：テキスト p36-38 を読んでおく 授業：行動科学の理論とモデル（計画的行動理論・社会的認知理論）（テキスト p36-38） 復習：授業で提示したポイントの復習			
5	大坂 裕子	【第5回】 予習：テキスト p39-41 を読んでおく 授業：行動科学の理論とモデル（ソーシャルサポート・コミュニティオーガニゼーション・イノベーション普及理論）（テキスト p39-41） 復習：授業で提示したポイントの復習			
6	大坂 裕子	【第6回】 予習：テキスト p47-48 を読んでおく 授業：行動科学の理論とモデル（生態学的モデル・ヘルスリテラシー）（テキスト p47-48） 復習：授業で提示したポイントの復習			
7	大坂 裕子	【第7回】 予習：テキスト p44-46 を読んでおく 授業：栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル（プリシード・プロシードモデル・ソーシャルマーケティング）（テキスト p44-46） 復習：授業で提示したポイントの復習			
8	大坂 裕子	【第8回】 予習：テキスト p49-54 を読んでおく 授業：行動変容技法と概念（テキスト p49-54） 復習：授業で提示したポイントの復習			
9	大坂 裕子	【第9回】 予習：テキスト p89-95 を読んでおく 授業：健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント（テキスト p89-95） 復習：授業で提示したポイントの復習			
10	大坂 裕子	【第10回】 予習：第9回授業のアセスメントの方法と問題点の抽出を復習 授業：アセスメントの実際（課題解決型学習） 復習：授業で提示したポイントの復習			

11	大坂 裕子	【第 11 回】 予習：テキスト p98-101 を読んでおく 授業：栄養教育の目標設定（課題解決型学習）（テキスト p98-101） 復習：授業で提示したポイントの復習							
12	大坂 裕子	【第 12 回】 予習：テキスト p102-115 を読んでおく 授業：栄養教育計画立案（課題解決型学習）（テキスト p102-115） 復習：授業で提示したポイントの復習							
13	大坂 裕子	【第 13 回】 予習：第 12 回授業内容の確認 授業：学習指導案の作成（課題解決型学習） 復習：授業で提示したポイントの復習							
14	大坂 裕子	【第 14 回】 予習：テキスト p120-125 を読んでおく 授業：栄養教育の評価（テキスト p120-125） 復習：授業で提示したポイントの復習							
15	大坂 裕子	【第 15 回】 予習：第 2～14 回のノートの見直し 授業：国家試験に向けての重要キーワードの確認（グループワーク） 復習：授業で提示したポイントの復習							
授業開始前学習		授業前までに栄養教育論Ⅰで学習したことを振り返っておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で取り組んだ課題は授業内で返却する。							
テキスト・教材		辻とみ子・堀田千津子編『新版ヘルス 21 栄養教育・指導論』（医歯薬出版）							
参考書									
評価の基準と方法		授業内提出課題・・・20% 定期試験・・・80%							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎	○	△	
関連科目		「心理学」や「臨床心理学」で学習する内容は、管理栄養士として対象者にアプローチする方法（特に行動科学理論）を学ぶ上で役立ちます。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		栄養教育プログラム立案の講義においては、学生の理解が深まるよう栄養教育講座の講師経験を活かし授業を行う。							

科目分類	210-311-13 (J)	授業コード	GB0111
科目名称	栄養教育論Ⅲ	単位数	2.0 単位
英文名称	Nutritional EducationⅢ	授業区分	講義
科目責任者	大坂 裕子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大坂 裕子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 金曜日 09:00～10:30 金曜日 14:40～16:10	研究室	16-101
授業概要	この授業では、栄養カウンセリングやコーチングを学ぶことで栄養教育に必要なコミュニケーション力の向上を目指す。さらに、ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育に関しては、実践力の育成を目指す。		
到達目標	カウンセリングやコーチングの技法を学び、対象者に合わせた話し方を身につける。また、ライフステージやライフスタイルに合わせた栄養教育の方法を学び自ら考えることで栄養教育を実践できる能力を習得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大坂 裕子	【第 1 回】 予習 : テキスト p55-63 を一読 授業 : 栄養カウンセリング① (実習) 復習 : 授業で提示した今日のポイントを確認	
2	大坂 裕子	【第 2 回】 予習 : 第 1 回授業内容の振り返り 授業 : 栄養カウンセリング② (テキスト p55-63) 復習 : 栄養カウンセリングのキーワードの意味をまとめておく	
3	大坂 裕子	【第 3 回】 予習 : 配布資料を一読 授業 : コーチング① (実習) 復習 : 授業で提示した今日のポイントを確認	
4	大坂 裕子	【第 4 回】 予習 : 配布資料を一読 授業 : コーチング② (課題解決型学習) 復習 : コーチングのキーワードの意味をまとめておく	
5	大坂 裕子	【第 5 回】 予習 : テキスト p65-71 を一読 授業 : 組織づくり・地域づくり・食環境づくりへの展開 (テキスト p65-71) 復習 : 授業内容に沿う具体的事例を探しまとめておく	
6	大坂 裕子	【第 6 回】 予習 : テキスト p73-77 を一読 授業 : 栄養教育と食環境づくり (テキスト p73-77) 復習 : 授業内容に沿う具体的事例を探しまとめておく	
7	大坂 裕子	【第 7 回】 予習 : テキスト p135-143 を一読 授業 : 多様な場におけるライフステージ別の栄養教育の展開 (妊娠・授乳期) (テキスト p135-143) 復習 : 妊娠・授乳期の栄養指導内容をまとめておく	
8	大坂 裕子	【第 8 回】 予習 : テキスト p144-147 を一読 授業 : 多様な場におけるライフステージ別の栄養教育の展開 (乳児期) (テキスト p144-147) 復習 : 乳児期の栄養指導内容をまとめておく	
9	大坂 裕子	【第 9 回】 予習 : テキスト p148-155 を一読 授業 : 多様な場におけるライフステージ別の栄養教育の展開 (保育所・認定こども園・幼稚園) (テキスト p148-155) 復習 : 幼児期の栄養指導内容をまとめておく	

10	大坂 裕子	【第 10 回】 予習 : テキスト p156-166 を一読 授業 : 多様な場におけるライフステージ別の栄養教育の展開 (小・中・高等学校、大学) (テキスト p156-166) 復習 : 学童・思春期の栄養指導内容をまとめておく							
11	大坂 裕子	【第 11 回】 予習 : テキスト p167-179、p211-216 を一読 授業 : 多様な場におけるライフステージ別の栄養教育の展開 (地域・職域) (テキスト p167-179、p211--216) 復習 : 成人期の栄養指導内容をまとめておく							
12	大坂 裕子	【第 12 回】 予習 : テキスト p180-193 を一読 授業 : 多様な場におけるライフステージ別の栄養教育の展開 (高齢者福祉施設や在宅介護の場) (テキスト p180-193) 復習 : 高齢期の栄養指導内容をまとめておく							
13	大坂 裕子	【第 13 回】 予習 : テキスト p203-215, 249-253 を一読 授業 : 多様な場におけるライフステージ別の栄養教育の展開 (栄養と環境に配慮した栄養教育) (テキスト p203-215, 249-253) 復習 : 自分の将来に向けて調べたいことをまとめる							
14	大坂 裕子	【第 14 回】 予習 : 第 7 ～13 回の栄養教育の実際を確認 授業 : 栄養教育の実施についてまとめる (課題解決型学習) 復習 : 栄養教育実施時のキーワードをまとめる							
15	大坂 裕子	【第 15 回】 予習 : 第 1 回から 14 回の授業内容の確認 授業 : 国家試験ガイドラインについて 復習 : 国家試験の過去問に取り組む							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		課題は、授業終了後返却する。 小テストは、授業内で解説する。							
テキスト・教材		辻とみ子・堀田千津子編『新版ヘルス 21 栄養教育・指導論』(医歯薬出版)							
参考書									
評価の基準と方法		授業内提出課題 20% 授業内小テスト 10% 定期試験 70%							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎	○	△	
関連科目		「応用栄養学」で学んだ知識をもとに栄養教育の実際を学習する。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		ライフステージ別栄養教育の講義では、栄養教育講座の講師経験を活かしてより実践的な授業を展開する。							

科目分類	210-311-32 (J)	授業コード	GB0121
科目名称	栄養教育論実習 I	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Nutritional Education I	授業区分	実習・実験
科目責任者	大坂 裕子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大坂 裕子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 金曜日 09:00～10:30 金曜日 14:40～16:10	研究室	16-101
授業概要	対象者に適切な栄養教育を行うために必要な知識と技術を実習や演習を通じて学ぶ。特にこの授業では、①各種栄養アセスメント方法の習得②教材作成技術の習得や対象者に合わせたプレゼンテーション技術の習得を目指す。		
到達目標	①各種栄養アセスメント方法を実際に活用できるようになる。 ②対象者に合わせた栄養教育を展開するための教材作成技術やプレゼンテーション能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大坂 裕子	【第 1 回】 予習：食品成分表及び食事摂取基準を一について学習したことへの復習 授業：栄養教育を実践するための基本的技術（栄養健康情報の収集とプレゼンテーション）、栄養アセスメント方法 復習：授業で提示したポイントの確認と不明な点を整理する	
2	大坂 裕子	【第 2 回】 予習：配布プリントを一読し、身体計測に必要な事項を確認する 授業：栄養アセスメントの方法と実際（身体計測）（実習） 復習：身体計測方法の確認	
3	大坂 裕子	【第 3 回】 予習：食事調査の実施 授業：食事調査の実際（食事記録の確認と転記）（実習） 復習：調査内容の確認と各調査方法の整理	
4	大坂 裕子	【第 4 回】 予習：栄養価計算ソフトの利用方法の確認 授業：食事調査の集計（栄養価計算）（実習） 復習：栄養素等摂取量の栄養価計算方法の確認	
5	大坂 裕子	【第 5 回】 予習：食事摂取基準及び食事バランスガイドの復習 授業：食事調査の評価（データシート作成）（実習） 復習：食事調査結果評価の確認	
6	大坂 裕子	【第 6 回】 予習：栄養や健康に関わるポスターやちらしの情報収集 授業：栄養教育教材づくりの検討（課題解決型学習） 復習：選択したテーマ内容と授業で提示したポイントの確認	
7	大坂 裕子	【第 7 回】 予習：作成教材の下書き 授業：栄養教育教材づくり（実習） 復習：選択したテーマ内容と授業で提示したポイントの確認	
8	大坂 裕子	【第 8 回】 予習：栄養教育論Ⅱで学んだ栄養教育プログラムの復習 授業：栄養教育計画作成（ディスカッション） 復習：授業で作成した学習指導案の再確認	
9	大坂 裕子	【第 9 回】 予習：栄養教育論Ⅱで学んだ学習指導案の復習 授業：栄養教育発表準備（シナリオ作成）（グループワーク） 復習：授業で提示したポイントの確認	

10	大坂 裕子	【第 10 回】 予習：インターネットを用いて食育教材を調べまとめる 授業：栄養教育発表準備（媒体作成）（グループワーク） 復習：授業で提示したポイントの確認							
11	大坂 裕子	【第 11 回】 予習：発表原稿の確認 授業：栄養教育発表準備（リハーサル）（グループワーク） 復習：授業で提示したポイントの確認							
12	大坂 裕子	【第 12 回】 予習：発表準備（原稿や資料の確認） 授業：教育媒体を使用してのロールプレイによる栄養教育の実際（発表） 授業の振り返り（重要ポイントの確認） 復習：発表の振り返り及び授業内容の確認							
授業開始前学習		「食品成分表」「食事摂取基準」「三色食品群」「食事バランスガイド」について復習しておいてください。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出課題については、授業終了後返却します。 プレゼンに関しては授業内でコメントします。							
テキスト・教材		『食事摂取基準 2020 年版』（第一出版），『日本食品標準成分表』（いずれの出版社のものでも可）							
参考書		調理のためのベーシックデータ							
評価の基準と方法		提出課題 70%、プレゼンテーション 30%							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎		○	○
関連科目		「給食経営管理実習」で学ぶ行事食献立作成や「応用栄養学」で学ぶ食事摂取基準やライフステージ別栄養と関連付けて学んでほしい。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容		栄養教育講座の講師の経験を、対象者への適切な栄養教育の在り方（教材選択やプレゼン方法）の講義に活かし授業を行う。							

科目分類	210-311-33 (J)	授業コード	GB0131
科目名称	栄養教育論実習Ⅱ	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Nutritional EducationⅡ	授業区分	実習・実験
科目責任者	大坂 裕子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大坂 裕子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 金曜日 09:00～10:30 金曜日 14:40～16:10	研究室	16-101
授業概要	栄養教育論の講義を踏まえ、対象者に適切な栄養教育を行うために必要な知識と技術を学ぶ。特にこの授業では、①栄養アセスメント方法の1つである質問紙調査について ②対象者に適した栄養教育の実践を学ぶ。		
到達目標	①質問紙調査の計画から実施、評価に必要な能力を身につける。 ②栄養教育に必要な媒体作成能力及びプレゼンテーション能力を高める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大坂 裕子	【第1回】 予習：栄養教育論実習Ⅰの復習（特にアセスメント方法と結果） 授業：データ解析方法の習得（実習） 復習：データ解析方法の練習	
2	大坂 裕子	【第2回】 予習：食事摂取基準の見直し 授業：集団の栄養素等摂取量アセスメント（実習） 復習：対象の栄養素等摂取状況の問題点をまとめる	
3	大坂 裕子	【第3回】 予習：気になる記事を探してみる 授業：先行研究の調べ方、研究倫理について、質問紙調査の計画（実習） 復習：先行研究を調べてまとめる	
4	大坂 裕子	【第4回】 予習：先行研究の準備 授業：質問紙調査の作成（グループワーク） 復習：プレテストの実施	
5	大坂 裕子	【第5回】 予習：Google フォームの使用の確認 授業：質問紙調査の完成・実施（グループワーク） 復習：授業で提示したポイントの確認	
6	大坂 裕子	【第6回】 予習：図表作成の方法の確認 授業：質問紙調査の集計（グループワーク） 復習：授業で提示したポイントの確認	
7	大坂 裕子	【第7回】 予習：プレゼン資料の作成方法の見直し 授業：質問紙調査のまとめ（報告会資料作成）（グループワーク） 復習：報告会準備	
8	大坂 裕子	【第8回】 予習：報告会準備 授業：調査結果報告会（発表） 復習：調査結果の論文作成	
9	大坂 裕子	【第9回】 予習：対象者の問題点の確認 授業：栄養教育計画の作成（課題解決型学習） 復習：授業で提示したポイントの確認	
10	大坂 裕子	【第10回】 予習：栄養教育プログラム（特に教材作成）についての復習 授業：栄養教育準備（教育媒体の作成）（実習） 復習：授業で提示したポイントの確認	
11	大坂 裕子	【第11回】 予習：発表準備 授業：栄養教育の実践（発表） 復習：履修者の発表内容から振り返りを行う	

12	大坂 裕子	【第 12 回】 予習：第 1 ～11 回までの授業内容のまとめ 授業：授業内容の振り返り（確認問題に取り組む） 復習：授業で提示したポイントの確認						
授業開始前学習	「食事摂取基準」について復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	発表については、終了後授業内でコメントする。 提出物に関しては、授業終了後返却する。 確認テストは授業内で解説する。							
テキスト・教材	『日本人の食事摂取基準（2020 年版）』（第一出版）							
参考書	必要に応じ授業内で紹介する							
評価の基準と方法	課題取り組み状況（提出物） 50%、 課題取り組み状況（プレゼンテーション） 20%、 授業内課題テスト 30%							
ディプロマポリシー	人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎		○	○
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容	栄養教育講座の講師経験を媒体作成能力やプレゼンテーション能力の向上を目指す講義に活かしている。							

科目分類	210-311-12 (J)			授業コード	GB0141
科目名称	臨床栄養学概論			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Clinical Nutrition			授業区分	講義
科目責任者	工藤 美香			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 美香			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 木曜日 14:40～16:10 金曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 14:40～16:10			研究室	16-106
授業概要	臨床栄養学では、傷病者・要介護者の病態や栄養状態に基づいた総合的な栄養管理を理解する。 そこで臨床栄養学概論では、臨床栄養学の基礎である意義・目的を把握し、疾患と栄養、医療と臨床栄養、福祉・介護と臨床栄養などの関係を理解したうえ、臨床栄養学に必要な傷病者・要介護者の栄養ケアプロセスの手法を学ぶ。				
到達目標	臨床栄養学の基礎である意義・目的を把握し、疾患と栄養、医療と臨床栄養、福祉・介護と臨床栄養などの関係と臨床栄養学に必要な傷病者・要介護者の栄養ケアプロセスの基本を理解できるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	工藤 美香	【第 1 回】 予習 : テキスト P1-P4 を熟読する 授業 : 臨床栄養学の意義と目的【テキスト P1-P4】 復習 : テキスト及び配布資料により復習する			
2	工藤 美香	【第 2 回】 予習 : テキスト P5-P12 を熟読する 授業 : 医療と臨床栄養【テキスト P5-P12】 復習 : テキスト及び配布資料により復習する			
3	工藤 美香	【第 3 回】 予習 : テキスト P13-P22 を熟読する 授業 : 福祉・介護と臨床栄養【テキスト P13-P22】 復習 : テキスト及び配布資料により復習する			
4	工藤 美香	【第 4 回】 予習 : テキスト P23-P29 を熟読する 授業 : 栄養ケアプロセス【テキスト P23-P29】 復習 : テキスト及び配布資料により復習する			
5	工藤 美香	【第 5 回】 予習 : テキスト P30-P34 を熟読する 授業 : 栄養スクリーニング・栄養アセスメント（問診、観察）【テキスト P30-P34】 復習 : テキスト及び配布資料により復習する			
6	工藤 美香	【第 6 回】 予習 : テキスト P35-P37 を熟読する 授業 : 栄養アセスメント(身体計測)【テキスト P35-P37】 復習 : テキスト及び配布資料により復習する			
7	工藤 美香	【第 7 回】 予習 : テキスト P38-P39 を熟読する 授業 : 栄養アセスメント(臨床検査)【テキスト P38-P39】 復習 : テキスト及び配布資料により復習する			
8	工藤 美香	【第 8 回】 予習 : テキスト P40-P43 を熟読する 授業 : 栄養アセスメント(栄養食事調査・栄養必要量の算定)【テキスト P40-P43】 復習 : テキスト及び配布資料により復習する			
9	工藤 美香	【第 9 回】 予習 : テキスト P43-P48 を熟読する 授業 : 栄養ケア計画と実施、栄養モニタリングと評価【P43-P48】 復習 : テキスト及び配布資料により復習する			
10	工藤 美香	【第 10 回】 予習 : テキスト P49-P51 を熟読する 授業 : 栄養ケアの記録【P49-P51】 復習 : テキスト及び配布資料により復習する			
11	工藤 美香	【第 11 回】 予習 : テキスト P53-P65 を熟読する 授業 : 栄養・食事療法, 栄養補給法【テキスト P53-P65】 復習 : テキスト及び配布資料により復習する			

12	工藤 美香	【第 12 回】 予習 : テキスト P66-P72 を熟読する 授業 : 経腸栄養補給法と経静脈栄養補給法の実践【テキスト P66-P72】 復習 : テキスト及び配布資料により復習する							
13	工藤 美香	【第 13 回】 予習 : テキスト P73-P81 を熟読する 授業 : 傷病者・要介護者への栄養教育【テキスト P73-P81】 復習 : テキスト及び配布資料により復習する							
14	工藤 美香	【第 14 回】 予習 : テキスト P82-P88 を熟読する 授業 : 薬と栄養・食事の相互作用【テキスト P82-P88】 復習 : テキスト及び配布資料により復習する							
15	工藤 美香	【第 15 回】 予習 : テキスト P1-P104 を熟読する 授業 : 第 1 回～第 14 回までのまとめ 復習 : テキスト及び配布資料により復習する							
授業開始前学習		事前学習 ・復習を行い、十分に理解した上で受講すること							
授業内課題のフィードバックの方法		課題の内容によるが、主として個別対応とする。また、全員が知っておくべき課題内容や質問等の場合には、授業で説明、講義を行う。							
テキスト・教材		『最新 臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 第 5 版』（光生館）改訂予定あり 「臨床栄養管理ポケット辞典 3 訂」 このほかに適宜資料を配布する							
参考書									
評価の基準と方法		小テスト及び提出物 20%，まとめ課題又はテスト 80%とし、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○	△	
関連科目		解剖生理学、病理学、基礎栄養学など専門科目全般							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		病院、介護福祉施設、在宅栄養管理の実務経験あり。 実際の症例をもとに傷病者・要介護者の栄養ケアプロセスについて学ぶ。 患者個々における栄養管理法を具体的に立案できるように治療食、経腸栄養剤、総合栄養食品の使い方などを学ぶ。さらに医療介護スタッフと連携して行う栄養管理について考える。							

科目分類	210-311-14 (J)	授業コード	GB0150
科目名称	臨床栄養管理論	単位数	2.0 単位
英文名称	Clinical Nutrition Management	授業区分	講義
科目責任者	西村 一弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西村 一弘	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 10:40～12:10	研究室	16-105
授業概要	臨床栄養学の実践を講義と演習から学ぶ 講義の中で臨床栄養学に臨む姿勢も同時に学ぶ 病院や施設における実際の栄養管理業務を学ぶ		
到達目標	臨床栄養学の知識を基に、臨床現場で行う臨床栄養管理の基礎を身に着ける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	西村 一弘	【第 1 回】 予習：教科書と参考書を確認する 授業：オリエンテーション、診療報酬・介護報酬制度（クエスチョンバンク 690-697、プリント） 復習：診療報酬・介護報酬制度について復習する	
2	西村 一弘	【第 2 回】 予習：栄養管理プロセスの基礎を確認する 授業：栄養管理プロセスの基礎について講義（栄養管理プロセス 2-177） 復習：栄養管理プロセスの基礎の確認	
3	西村 一弘	【第 3 回】 予習：栄養管理の記録方法を確認する 授業：栄養管理記録の講義と演習（栄養管理プロセス 178-186） 復習：栄養管理記録の確認	
4	西村 一弘	【第 4 回】 予習：消化器系疾患を確認する 授業：肝臓・胆嚢・膵臓・腸疾患について演習（臨床栄養認定管理栄養士のためのガイドブック 2-34） 復習：肝臓・胆嚢・膵臓・腸疾患の確認	
5	西村 一弘	【第 5 回】 予習：糖尿病と脂質異常症を確認する 授業：糖尿病と脂質異常症について講義（臨床栄養認定管理栄養士のためのガイドブック 35-63） 復習：糖尿病と脂質異常症の確認	
6	西村 一弘	【第 6 回】 予習：循環器・腎疾患を確認する 授業：循環器・腎疾患について演習（臨床栄養認定管理栄養士のためのガイドブック 80-102） 復習：循環器・腎疾患の確認	
7	西村 一弘	【第 7 回】 予習：高齢者の疾患を確認する 授業：高齢者の疾患について講義（臨床栄養認定管理栄養士のためのガイドブック 114-134） 復習：高齢者の疾患の確認	
8	西村 一弘	【第 8 回】 予習：検査値と疾患を確認する 授業：検査値と疾患について講義（プリント） 復習：検査値と疾患の確認	
9	西村 一弘	【第 9 回】 予習：くすりと疾患を確認する 授業：くすりと疾患について演習（プリント） 復習：くすりと疾患の確認	
10	西村 一弘	【第 10 回】 予習：衛生管理・災害対策・指導力を確認する 授業：衛生管理・災害対策・指導力について講義 復習：衛生管理・災害対策・指導力の確認	
11	西村 一弘	【第 11 回】 予習：事例検討の準備 授業：事例検討（高齢者、低栄養）の演習（教科書・参考書） 復習：演習の振り返りを行う	

12	西村 一弘	【第 12 回】 予習：事例検討の準備 授業：事例検討（肥満、内分泌疾患、代謝疾患）の演習（教科書・参考書） 復習：演習の振り返りを行う							
13	西村 一弘	【第 13 回】 予習：事例検討の準備 授業：事例検討（肝疾患、脾疾患、消化器疾患）の演習（教科書・参考書） 復習：演習の振り返りを行う							
14	西村 一弘	【第 14 回】 予習：事例検討の準備 授業：事例検討（肥満、内分泌疾患、代謝疾患）の演習（教科書・参考書） 復習：演習の振り返りを行う							
15	西村 一弘	【第 15 回】 予習：事例検討の準備 授業：事例検討（腎・尿路疾患、循環器疾患）の演習（教科書・参考書） 復習：全体の振り返りを行う							
授業開始前学習		臨床の教科書を読み、基本用語を予習する							
授業内課題のフィードバックの方法		レポート提出を課題として、採点した内容をフィードバックする							
テキスト・教材		『クエスチョン・バンク 2023-24 第 20 版』（メディックメディア） 『臨床栄養認定管理栄養士のためのガイドブック』（東京医学社） 『改訂版栄養管理プロセス』（第一出版）							
参考書		臨床栄養学第 5 班（光生館）							
評価の基準と方法		レポート 20%、授業内テスト 70%とし、授業態度 10%を含め総合的に評価する							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○	△	
関連科目		臨床栄養学論、栄養食事療法実習、解剖生理学、生化学							
その他		コミュニケーションの重要性についても学ぶ							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		病院、診療所、介護施設における栄養介入の経験を活かし、実際の患者を通じた事例をもとに講義や演習を行う。 医師、看護師、薬剤師、セラピストなど多職種との連携についても伝える。 地域包括ケアシステムを見据えて職域が異なる管理栄養士の同職種連携の実際を伝える							

科目分類	210-311-13（J）			授業コード	GB0161
科目名称	臨床栄養学Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Clinical NutritionⅠ			授業区分	講義
科目責任者	西村 一弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西村 一弘			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 10:40～12:10			研究室	16-105
授業概要	臨床栄養学の基本を講義と演習から学ぶ 講義の中で臨床栄養学に臨む姿勢も同時に学ぶ				
到達目標	臨床栄養学の専門用語を覚え、臨床栄養学の基礎を身に着ける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	西村 一弘	【第 1 回】 予習：臨床栄養学の教科書を確認する 授業：オリエンテーション、栄養障害について講義（教科書 89-102） 復習：栄養障害について復習する			
2	西村 一弘	【第 2 回】 予習：肥満と代謝疾患を確認する 授業：肥満と代謝疾患について講義（教科書 103-139） 復習：肥満と代謝疾患の確認			
3	西村 一弘	【第 3 回】 予習：消化器疾患を確認する 授業：消化器疾患について講義（教科書 140-184） 復習：消化器疾患の確認			
4	西村 一弘	【第 4 回】 予習：消化器疾患を確認する 授業：消化器疾患について演習（教科書 140-184） 復習：消化器疾患の確認			
5	西村 一弘	【第 5 回】 予習：循環器疾患を確認する 授業：循環器疾患について講義（教科書 185-207） 復習：循環器疾患の確認			
6	西村 一弘	【第 6 回】 予習：循環器疾患を確認する 授業：循環器疾患について演習（教科書 185-207） 復習：循環器疾患の確認			
7	西村 一弘	【第 7 回】 予習：腎・尿路疾患を確認する 授業：腎・尿路疾患について講義（教科書 208-239） 復習：腎・尿路疾患の確認			
8	西村 一弘	【第 8 回】 予習：腎・尿路疾患を確認する 授業：腎・尿路疾患について講義（教科書 208-237） 復習：腎・尿路疾患の確認			
9	西村 一弘	【第 9 回】 予習：腎・尿路疾患を確認する 授業：腎・尿路疾患について演習（教科書 208-237） 復習：腎・尿路疾患を復習する			
10	西村 一弘	【第 10 回】 予習：腎・尿路疾患を確認する 授業：腎・尿路疾患について演習（教科書 208-237） 復習：腎・尿路疾患を復習する			
11	西村 一弘	【第 11 回】 予習：内分泌疾患を確認する 授業：内分泌疾患について講義（教科書 238-274） 復習：内分泌疾患の確認			

12	西村 一弘	【第 12 回】 予習：内分泌疾患を確認する 授業：内分泌疾患について演習（教科書 238-274） 復習：内分泌疾患の確認							
13	西村 一弘	【第 13 回】 予習：内分泌疾患を確認する 授業：内分泌疾患について演習（教科書 238-274） 復習：内分泌疾患の確認							
14	西村 一弘	【第 14 回】 予習：内分泌疾患を確認する 授業：内分泌疾患について演習（教科書 238-274） 復習：内分泌疾患の確認							
15	西村 一弘	【第 15 回】 予習：事例検討の準備 授業：内分泌疾患、腎・尿路疾患の演習 復習：全体の振り返りを行う							
授業開始前学習		臨床の教科書を読み、基本用語を予習する							
授業内課題のフィードバックの方法		レポート提出を課題として、採点した内容をフィードバックする							
テキスト・教材		『最新 臨床栄養学 第 5 版』（光生館）							
参考書		『臨床栄養認定管理栄養士のためのガイドブック』（東京医学）							
評価の基準と方法		レポート 20%、定期テスト 70%とし、授業態度 10%を含め総合的に評価する							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にける技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○	△	
関連科目		解剖生理学、生化学							
その他		コミュニケーションの重要性についても学ぶ							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		病院、診療所、介護施設における栄養介入の経験を活かし、実際の患者を通じた事例をもとに講義や演習を行う。 医師、看護師、薬剤師、セラピストなど多職種との連携についても伝える。 地域包括ケアシステムを見据えて職域が異なる管理栄養士の同職種連携の実際を伝える							

科目分類	210-311-13 (J)	授業コード	GB0170
科目名称	臨床栄養学Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Clinical Nutrition II	授業区分	講義
科目責任者	松永 裕美子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松永 裕美子	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	各疾病に対する病態をはじめとする栄養素の体内代謝を踏まえ、栄養必要量の算出、栄養補給法の検討をはじめとする栄養管理計画を作成し、実施、評価を行い、臨床栄養教育の実施できる知識、技術を習得する。		
到達目標	臨床栄養管理は、各疾患の病因と病態、症状、診断と治療を理解し、栄養・食事療法により疾病の治療促進や再発の予防を図ることである。また、栄養教育により自己管理能力を高めることである。栄養治療を適切に行うためには、栄養必要量の算出と栄養補給法の選択により栄養摂取を図ることである。栄養管理を行った行為は適切に記録に残すことが求められる。これらの内容を行うために必要な知識と技術を修得することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松永 裕美子	【第 1 回】 予習：栄養ケアプロセスの方法について確認する。 授業：栄養ケアプロセスの復習【P23～P72】 復習：教科書及び配布資料により栄養ケアプロセスの方法を復習する。	
2	松永 裕美子	【第 2 回】 予習：国家試験の問題を確認する。 授業：国家試験問題に取り組む(QB2024-25) 復習：国家試験問題の解説を読み、復習する。	
3	松永 裕美子	【第 3 回】 予習：内分泌疾患の病態、治療栄養管理をまとめる。 授業：内分泌疾患【P238～P244】 復習：教科書および配布資料により復習する。	
4	松永 裕美子	【第 4 回】 予習：神経疾患、摂食障害、摂食機能の障害の病態、治療栄養管理をまとめる。 授業：神経疾患、摂食障害、摂食機能の障害【P245～P261】 復習：教科書および配布資料により復習する。	
5	松永 裕美子	【第 5 回】 予習：呼吸器疾患の病態、治療栄養管理をまとめる。 授業：呼吸器疾患【P262～P274】 復習：教科書および配布資料により復習する。	
6	松永 裕美子	【第 6 回】 予習：血液系の疾患の病態、治療栄養管理をまとめる。 授業：血液系の疾患【P275～P288】 復習：教科書および配布資料により復習する。	
7	松永 裕美子	【第 7 回】 予習：筋・骨格筋疾患、免疫・アレルギー疾患の病態、治療栄養管理をまとめる。 授業：筋・骨格筋疾患、免疫・アレルギー疾患【P289～P314】 復習：教科書および配布資料により復習する。	
8	松永 裕美子	【第 8 回】 予習：感染症、癌の病態、治療栄養管理をまとめる。 授業：感染症、癌【P315～P322】 復習：教科書および配布資料により復習する。	
9	松永 裕美子	【第 9 回】 予習：手術・周術期の病態、治療栄養管理をまとめる。 授業：手術・周術期患者の管理【P333～P340】 復習：教科書および配布資料により復習する。	

10	松永 裕美子	【第 10 回】 予習：クリティカルケアの治療栄養管理をまとめる。 授業：クリティカルケア【P341～P349】 復習：教科書および配布資料により復習する。							
11	松永 裕美子	【第 11 回】 予習：摂食機能の障害の病態、治療栄養管理をまとめる。 授業：摂食機能の障害【P385～P395】 復習：教科書および配布資料により復習する。							
12	松永 裕美子	【第 12 回】 予習：身体・知的障害、乳幼児・小児疾患の病態、治療栄養管理をまとめる。 授業：身体・知的障害、乳幼児・小児疾患【P350～P354、P366～P384】 復習：教科書および配布資料により復習する。							
13	松永 裕美子	【第 13 回】 予習：妊産婦・授乳婦疾患の病態、治療栄養管理をまとめる。 授業：妊産婦・授乳婦の疾患【P355～P365】 復習：教科書および配布資料により復習する。							
14	松永 裕美子	【第 14 回】 予習：高齢者の疾患の病態、治療栄養管理をまとめる。 授業：高齢者の疾患【P396～P411】 復習：教科書および配布資料により復習する。							
15	松永 裕美子	【第 15 回】 予習：1-14 回授業で各自まとめたもので予習する。 授業：授業のまとめ 復習：教科書および配布資料により復習する。							
授業開始前学習		教科書をよく読み、理解できなかったところはポケット辞典等の参考資料で調べておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題の内容によるが、主として個別対応とする。また、全員が知っておくべき課題内容や質問等の場合には、授業で説明、講義を行う。							
テキスト・教材		『最新 臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 第 5 版』（光生館） 『QB 管理栄養士 国家試験問題解説 2024-25』（メディックメディア） 『臨床栄養管理ポケット辞典』（建帛社） このほかに適宜資料を配布する							
参考書									
評価の基準と方法		小テスト及び提出物 40%，定期テスト 60%とし、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○	△	
関連科目		解剖生理学、病理学、基礎栄養学など専門科目全般							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		病院、介護福祉施設の実務経験あり。 医療現場において、患者の外来、入院から退院後における栄養管理は、医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、理学療法士など各分野の専門職からなる栄養サポートチーム（NST）で行う。 各疾患の病因と病態、症状、診断と治療を理解し、多職種と連携して行う患者個々の栄養管理の手法を学ぶ。							

科目分類	210-311-33 (J)	授業コード	GB0181
科目名称	臨床栄養学実習 I	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Clinical Nutrition I	授業区分	実習・実験
科目責任者	工藤 美香	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 美香	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 14:40～16:10 金曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 14:40～16:10	研究室	16-106
授業概要	病院や介護保健施設で実際に行われる身体計測や臨床検査、臨床診査などのアセスメントや栄養補給、栄養教育、食事介助の実際について学び、病院での管理栄養士の役割について理解を深める。カルテや臨床検査値の見方からベッドサイドで患者教育の仕方まで幅広く学ぶ。また、栄養アセスメントで必要な身体計測、バイタルチェックなどを実践的にを行い、データに基づく栄養管理計画を立案する。 また授業では、毎回ペアワークを行う。		
到達目標	病院や介護保健施設で実際に行われる身体計測や臨床検査、臨床診査などのアセスメントや栄養補給、栄養教育、食事介助の実際について学び、病院での管理栄養士の役割について理解できる。カルテや臨床検査値の見方からベッドサイドで患者教育の仕方と栄養管理計画を立案できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	工藤 美香	授業の進め方 1 回 180 分×12 回 【第 1 回】 予習 : 臨床栄養学の教科書全般を熟読する 授業 : オリエンテーション 臨床栄養管理の意義、技術、診療記録の作成 (ペアワーク及びグループワーク) 復習 : 外来カルテ、初診記録の英語で書かれた略語の意味を調べる	
2	工藤 美香	【第 2 回】 予習 : 自分自身の身体計測などの評価方法を検討しておく 授業 : 身体計測 (体組成計)、バイタルチェック、血液生化学検査などによる栄養状態の評価を行う。第 2 回?第 14 回まで、身体計測およびバイタルチェックを行い、経過記録に記載しモニタリングを行う。(ペアワーク及びグループワーク)【テキスト P8-P27】 復習 : 生化学・血液・免疫・一般検査の基準値、疾患名、正式名を覚える。個々の検査結果を評価する	
3	工藤 美香	【第 3 回】 予習 : 食事調査記録と一週間の食事内容を調べる 授業 : 栄養管理システムの実践 (患者管理、献立管理、24 時間食事摂取量調査、必要栄養量の算定、栄養指導記録等) (ペアワーク及びグループワーク)【テキスト P18-P19】 復習 : 栄養管理システムからプリントアウトした帳票の内容を復習する。	
4	工藤 美香	【第 4 回】 予習 : 栄養ケア・プロセスの方法を予習する。 授業 : 栄養ケア・プロセスの手法を学ぶ (栄養診断) 症例を用いて栄養補給法の選択、アセスメントとプランを立案する。(ペアワーク及びグループワーク)【テキスト P28-P37】 復習 : 栄養ケア・プロセスの方法を復習する。	
5	工藤 美香	【第 5 回】 予習 : 栄養ケア・プロセスの方法を予習する。 授業 : ケーススタディー① SGA (主観的包括的アセスメント) 事例を用いて学ぶ。(ペアワーク及びグループワーク)【テキスト P28-P37】 復習 : SGA の手法について復習する。	
6	工藤 美香	【第 6 回】 予習 : 栄養ケア・プロセスの方法を予習する。 授業 : ケーススタディー② ODA (客観的包括的アセスメント) 事例を用いて学ぶ。(ペアワーク及びグループワーク)【テキスト P28-P37】 復習 : ODA の手法について復習する。	
7	工藤 美香	【第 7 回】 予習 : 周術期の栄養管理について調べる。 授業 : 外科手術と栄養管理について学ぶ (ペアワーク及びグループワーク)【テキスト P99-P103】 復習 : 術後の栄養管理について復習する。	
8	工藤 美香	【第 8 回】 予習 : 経腸栄養剤の種類と利用方法を調べる 授業 : 経腸栄養補給法の選択、手技 (経腸栄養ポンプ、半固形栄養剤)、栄養剤の試飲、アセスメントとプラン、(ペアワーク及びグループワーク)【テキスト P37-P45】 復習 : 最新の経腸栄養補給法の情報提供によるレポートを作成する	

9	工藤 美香	【第 9 回】 予習：経静脈栄養補給法の種類と利用方法を調べる 授業：経静脈栄養補給法と選択、手技（輸液ポンプ）、アセスメントとプラン（ペアワーク及びグループワーク） 復習：最新の経静脈栄養補給法の情報提供によるレポートを作成する							
10	工藤 美香	【第 10 回】 予習：嚥下機能評価と口腔ケアを実習するための資料を確認する 授業：嚥下機能評価と口腔ケアの手法、嚥下調整食（ペアワーク及びグループワーク）【テキスト P45-P53】 復習：個々の実習した口腔ケア、嚥下機能評価を復習する。							
11	工藤 美香	【第 11 回】 予習：要介護者の疑似体験を行うため、要介護者の特質を調べる。 授業：リハビリテーションと栄養、チーム医療、高齢者疑似体験（ペアワーク及びグループワーク）【テキスト P157-P160】 復習：個々で体験した要介護者の評価と感想をまとめる。							
12	工藤 美香	【第 12 回】 予習：これまでの学習内容について確認する。 授業：栄養管理の手法のまとめ（ペアワーク及びグループワーク） 復習：個々の栄養管理についてのレポートを作成							
授業開始前学習		主にグループ作業なので、お互いに事前学習を行い、協力しながら実習・演習に臨むこと							
授業内課題のフィードバックの方法		提出した課題等は講評し、個別の質問回答する。							
テキスト・教材		臨床栄養学実習 第 3 版【栄養科学シリーズ NEXT】（講談社） 適宜、資料を配布する。							
参考書		『最新 臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 第 5 版』（光生館） 『臨床栄養管理ポケット辞典 3 訂							
評価の基準と方法		提出物(40%)・授業態度(20%)・まとめテスト（40%）を総合的に評価する							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎		○	○
関連科目		臨床栄養学概論 臨床栄養学 解剖生理学 栄養食事療法実習等専門科目全般							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容		病院、介護福祉施設、在宅栄養管理の実務経験あり。 学生同士がペアとなり、フィジカルアセスメントを行い、患者を『見る』『視る』『診る』力をつける。 カルテや臨床検査値の見方からベッドサイドで患者教育の仕方まで幅広く学ぶ。また、栄養アセスメントで必要な身体計測、バイタルチェックなどを実践的に行い、データに基づく栄養管理計画を立案する。							

科目分類	210-311-33（J）			授業コード	GB0191
科目名称	臨床栄養学実習Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Clinical NutritionⅡ			授業区分	実習・実験
科目責任者	工藤 美香			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 美香			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 14:40～16:10 金曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 14:40～16:10			研究室	16-106
授業概要	病者・要介護者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うための知識を習得する。栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な疾患ごとの栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）、栄養補給、栄養教育、クリニカルパスの概念等について理解する。さらに臨床栄養学実習Ⅰで実践した経験をもとに疾患別栄養管理の症例検討とロールプレイングを実施する。				
到達目標	臨床栄養学実習Ⅰで実践した経験をもとに疾患別栄養管理の症例検討とロールプレイングを実施し、臨地実習に活かすことができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	工藤 美香	授業の進め方 1 回 180 分×12 回 【第 1 回】 予習：臨床栄養学のテキスト全般を熟読する。 授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） 傷病者のスクリーニング、アセスメント、栄養ケア計画、モニタリング、評価の復習、症例検討の方法について学ぶ。 【テキスト P19-P37】 復習：グループにて症例検討、ロールプレイングの準備を行う。			
2	工藤 美香	【第 2 回】 予習：臨床栄養学のテキスト全般を熟読する。 授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） 症例検討において、栄養ケアの記録及び情報提供の方法について学ぶ。【テキスト P19-P37】 復習：グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。			
3	工藤 美香	【第 3 回】 予習：対象症例の外来栄養管理の方法の手順について確認する。 授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイングの準備 グループワーク【テキスト P88-P92】 【テキスト P138-P142】 復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。			
4	工藤 美香	【第 4 回】 予習：対象症例の外来栄養管理の方法の手順について確認する。 授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討(外来) グループワーク【テキスト P88-P92】 【テキスト P138-P142】 復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。			
5	工藤 美香	【第 5 回】 予習：対象症例の外来栄養管理の方法の手順について確認する。 授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討(外来) グループワーク【テキスト P123-P127】 【テキスト P133-P137】 復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。			
6	工藤 美香	【第 6 回】 予習：対象症例の入院栄養管理の方法の手順について確認する。 授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討(外来) グループワーク【テキスト P123-P127】 【テキスト P133-P137】 復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。			
7	工藤 美香	【第 7 回】 予習：対象症例の入院栄養管理の方法の手順について確認する。 授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討(外来) グループワーク【テキスト P77-P88】 【テキスト P108-P112】 復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。			
8	工藤 美香	【第 8 回】 予習：対象症例の外来栄養管理（モニタリング）の方法の手順について確認する。 授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討(入院) グループワーク【テキスト P77-P88】 【テキスト P108-P112】 復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。			

9	工藤 美香	【第 9 回】 予習：対象症例の外来栄養管理（モニタリング）の方法の手順について確認する。 授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討(入院) グループワーク【テキスト P99-P103】【テキスト P118-P122】 復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。							
10	工藤 美香	【第 10 回】 予習：対象症例の外来栄養管理（モニタリング）の方法の手順について確認する。 授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討(入院) グループワーク【テキスト P99-P103】【テキスト P118-P122】 復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。							
11	工藤 美香	【第 11 回】 予習：対象症例の入院栄養管理（モニタリング）の方法の手順について確認する。 授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討(入院) グループワーク【テキスト P153-P156】 復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。							
12	工藤 美香	【第 12 回】 予習：対象症例の入院栄養管理（モニタリング）の方法の手順について確認する。 授業：ロールプレイングのまとめ（まとめテスト） 復習：全症例のまとめ							
授業開始前学習		主にグループ作業なので、お互いに事前学習を行い、協力しながら実習・演習に臨むこと							
授業内課題のフィードバックの方法		提出した課題（SOAP など）等は講評し、個別の質問に回答する							
テキスト・教材		臨床栄養学実習 第 3 版【栄養科学シリーズ NEXT】（講談社） 適宜、資料を配布する。							
参考書		『最新 臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 第 5 版』（光生館） 『臨床栄養管理ポケット辞典 3 訂』（建帛社）							
評価の基準と方法		提出物(40%)・授業態度(20%)・まとめテスト（40%）で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎		○	○
関連科目		臨床栄養学概論 臨床栄養学 解剖生理学 栄養食事療法実習等専門科目全般							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容		病院、介護福祉施設、在宅栄養管理の実務経験あり。 栄養サポートチーム(NST)の専従メンバーとしての役割と栄養管理の実際を学ぶ。 さらに臨床栄養学実習Ⅰで実践した経験をもとに疾患別栄養管理の症例検討とロールプレイングを実施し臨地実習に生かす。							

栄養食事療法実習 I

科目分類	210-311-33 (J)	授業コード	GB0201
科目名称	栄養食事療法実習 I	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Diet Therapy I	授業区分	実習・実験
科目責任者	藤原 恵子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤原 恵子	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	臨床における栄養食事療法の実践について、講義で修得した理論をもとに実践的に学ぶ。栄養食事療法が必要とされる主な疾患の治療食（一般治療食・特別治療食）については、食事形態や栄養成分管理を中心に栄養治療計画に必要な献立作成、調理技法、さらには医療施設で採用されている治療食の展開の方法など栄養食事療法の実践における基礎知識と技術を習得する実習科目である。 授業は、グループワークが中心となる。		
到達目標	栄養食事療法における適切な献立の提案を行うことが可能になる、知識と技術の習得を目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	藤原 恵子	【第 1 回】 予習： 栄養食事療法の重要性の確認、糖尿病食品交換表の確認 授業： オリエンテーション、糖尿病食品交換表を用いたエネルギーコントロール食への展開（個人課題） 復習： 栄養食事療法の確認（教科書 1～12）、糖尿病食品交換表の確認	
2	藤原 恵子	【第 2 回】 予習： 嚥下調整食や一般常食から分粥食について確認（教科書 13～25、112～165） 授業： 嚥下調整食、一般常食から分粥食、特別治療食への展開食についての講義、 グループワークによる献立作成①展開食（エネルギーコントロール食）（グループワーク） 復習： エネルギーコントロール食の献立内容について確認、嚥下調整食や分粥食の調理方法確認（教科書 112～121）	
3	藤原 恵子	【第 3 回】 予習： たんぱく質コントロール食について確認（教科書 55～71、139～142） 授業： グループワークによる献立作成②展開食（たんぱく質コントロール食）（グループワーク） 復習： たんぱく質コントロール食の献立内容について確認（教科書 55～71）	
4	藤原 恵子	【第 4 回】 予習： 実習献立の確認 授業： [調理実習①]展開食（エネルギーコントロール食）（調理実習） 復習： 調理方法の確認	
5	藤原 恵子	【第 5 回】 予習： 実習献立の確認 授業： [調理実習②]展開食（たんぱく質コントロール食）（調理実習） 復習： 調理方法の確認	
6	藤原 恵子	【第 6 回】 予習： 脂質コントロール食について確認（教科書 75～84、142～144） 授業： グループワークによる献立作成③食事記録からの展開献立（脂質コントロール食）（グループワーク） 復習： 脂質コントロール食の献立作成について確認（教科書 75～84）	
7	藤原 恵子	【第 7 回】 予習： 治療食、介護食について確認（教科書 30～109、112～119） 授業： 地域ケア会議について、事例についての講義 グループでの事例検討と発表（グループワーク）（グループ発表） 復習： 事例検討内容の確認	
8	藤原 恵子	【第 8 回】 予習： 実習献立の確認 授業： [調理実習③]展開食（脂質コントロール食）（調理実習） 復習： 調理方法の確認	
9	藤原 恵子	【第 9 回】 予習： 実習献立の確認 授業： [調理実習④]五分粥、嚥下調整食、水分のとり方について 五分粥、嚥下調整食の献立、調理方法について講義および調理実習（調理実習） 復習： 調理方法の確認	

10	藤原 恵子	【第 10 回】 予習 : これまでの実習内容の振り返り、発表内容の確認 授業 : グループでのこれまでの調理実習内容のまとめ発表 (グループ発表) 集団栄養食事指導の説明 復習 : 展開食の献立作成、調理方法の確認							
11	藤原 恵子	【第 11 回】 予習 : メタボリックシンドローム、糖尿病、腎臓病、高血圧 (減塩食)、貧血について食事療法の確認 (教科書 26～84) 授業 : グループワークによる集団栄養食事指導、栄養講座について指導内容の検討や媒体作成 (グループワーク) 復習 : 栄養食事療法の確認							
12	藤原 恵子	【第 12 回】 予習 : 発表内容の確認 授業 : グループでの集団栄養食事指導、栄養講座の発表演習 (グループでの発表) 献立の展開や調理実習、集団栄養食事指導や栄養講座の演習のまとめレポートの作成 復習 : 集団栄養食事指導、栄養講座について演習内容の確認							
授業開始前学習		この授業の準備としては、臨床栄養学ならびに栄養食事療法に関する科目の基礎知識をマスターしておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		実習で作成した献立や料理、レシピを冊子として配布する							
テキスト・教材		長浜幸子他編『実践 臨床栄養学実習』 (第一出版)							
参考書		・『糖尿病食品交換表』 (文光堂) ・『腎臓病食品交換表』 (医歯薬出版) ・ 日本食品成分表 (八訂)							
評価の基準と方法		1.最終レポート 20 点 2.実習技術 50 点 3.授業態度 30 点による総合評価を行う。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎		○	○
関連科目		臨床栄養学、献立作成							
その他		治療食献立に関する本を読む							
予習・復習の所要時間		講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容		病院と介護老人保健施設での給食管理や栄養管理、栄養食事指導、在宅訪問栄養食事指導および、認定栄養ケア・ステーションにおける管理栄養士としての実務経験を活かして実習を行う。							

科目分類	210-311-33 (J)	授業コード	GB0211
科目名称	栄養食事療法実習Ⅱ	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Diet TherapyⅡ	授業区分	実習・実験
科目責任者	西村 一弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西村 一弘	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 10:40～12:10	研究室	16-105
授業概要	臨床における栄養食事療法の実際について、講義で習得した理論をもとに実践的に学ぶ。栄養食事療法が必要とされる主な疾患の治療食（一般治療食・特別治療食）については、食事形態や栄養成分管理を中心に栄養治療計画に必要な献立作成、調理技法、さらには医療施設で採用されている治療食の展開の方法など栄養食事療法の実際における基礎知識と技術を習得する科目である。授業は、グループワークが中心となる。		
到達目標	栄養食事療法における適切な献立の提案を行うことが可能になる、知識と技術の習得を目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	西村 一弘	【第 1 回】 予習：栄養食事療法の重要性の確認 授業：オリエンテーション、食事記録からの展開（個人課題） 復習：栄養食事療法の確認（教科書 1～12）	
2	西村 一弘	【第 2 回】 予習：教科書の確認（教科書 1～43） 授業：医療施設の変遷における管理栄養士の役割の講義 グループワークによる献立作成①展開食（エネルギーコントロール食） 復習：教科書の確認（教科書 26～43）	
3	西村 一弘	【第 3 回】 予習：糖尿病の病態について確認（教科書 55～71、139～142） 授業：糖尿病食品交換表を用いたグループワークによる献立作成（エネルギーコントロール食） 復習：エネルギーコントロール食の献立作成について確認（教科書 122～145）	
4	西村 一弘	【第 4 回】 予習：実習献立の確認 授業：【調理実習①】展開食（エネルギーコントロール食） 復習：調理方法の確認	
5	西村 一弘	【第 5 回】 予習：腎臓病食品交換表の確認 授業：腎臓病食品交換表の使い方と展開食（たんぱく質コントロール食） 復習：腎臓病食品交換表の確認	
6	西村 一弘	【第 6 回】 予習：治療用特殊食品について確認 授業：グループワークによる献立作成展開食（たんぱく質コントロール食：たんぱく質調整米） 復習：たんぱく質コントロール食の献立作成について確認	
7	西村 一弘	【第 7 回】 予習：CKD について確認 授業：たんぱく質調整パン・めんなどを用いたたんぱく質コントロール食献立の作成 復習：作成した献立の確認	
8	西村 一弘	【第 8 回】 予習：実習献立の確認 授業：【調理実習②】展開食（たんぱく質コントロール食：米） 復習：調理方法の確認	
9	西村 一弘	【第 9 回】 予習：実習献立の確認 授業：【調理実習③】展開食（たんぱく質コントロール食：パン・めんなど） 復習：調理方法の確認	
10	西村 一弘	【第 10 回】 予習：肝臓・胆嚢・膵臓疾患の栄養ケアの確認 授業：脂質コントロール食への展開と実習用献立の作成 復習：献立と調理方法の確認	

11	西村 一弘	【第 11 回】 予習：実習献立の確認 授業：【調理実習④】展開食（脂質コントロール食） 復習：調理方法の確認							
12	西村 一弘	【第 12 回】 予習：教科書の確認 授業：個別栄養食事指導の演習 復習：栄養食事療法の確認							
授業開始前学習		臨床栄養学ならびに栄養食事療法に関する科目の基礎知識をマスターしておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		実習で作成した献立や料理、レシピを配布する。							
テキスト・教材		・長浜幸子他編『実践 臨床栄養学実習』（第一出版） ・『糖尿病食品交換表』（光文堂） ・日本食品成分表（八訂）							
参考書		授業の中で随時紹介する。							
評価の基準と方法		1.最終レポート 20 点 2.実習技術 30 点 3.授業態度 50 点 による総合評価を行う。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎		○	○
関連科目		臨床栄養学							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容		病院管理栄養士の実務経験を活かして実習を行う。							

科目分類	210-311-13 (J)	授業コード	GB0221
科目名称	公衆栄養学 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Public Health Nutrition I	授業区分	講義
科目責任者	児玉 小百合	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	児玉 小百合	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 14:40～17:40	研究室	16-104
授業概要	地球レベルで健康・栄養問題の現状と課題を知ることからはじめ、人々の健康増進と QOL 向上を組織的に支援する公衆栄養活動の意義と役割について考えます。この授業では国の健康・栄養政策や関連法規を学習し、公衆栄養学の基礎知識を身につけます。また地域で展開されている住民主体の公衆栄養活動を紹介し、活動に協力する経験を通して学びを深めます。		
到達目標	1) 公衆栄養学の概念について説明できる。 2) 国内外の健康・栄養問題に対応した主要な栄養政策について説明できる。 2) 公衆栄養活動の意義や役割を説明できる。 3) 栄養疫学の概要について理解できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	児玉 小百合	【第 1 回】 予習 : シラバスの授業内容確認, 世界の健康・栄養問題の現状と課題 (第 2 章 E), 公衆栄養学の概念 (第 1 章 A) 授業 : 世界の健康・栄養問題の現状と課題 (第 2 章 E), 公衆栄養学の概念 (第 1 章 A) 復習 : 世界の健康・栄養問題の現状と課題 (第 2 章 E), 公衆栄養学の概念 (第 1 章 A) のスライド復習とノート作成	
2	児玉 小百合	【第 2 回】 予習 : 公衆栄養活動の歴史, ヘルスプロモーション, コミュニティと公衆栄養活動 (第 1 章 A～B) 授業 : 公衆栄養活動の基本と展開過程 1 (公衆栄養活動の歴史, ヘルスプロモーション, コミュニティと公衆栄養活動) (第 1 章 A～B) 復習 : 公衆栄養活動の基本と展開過程 1 (第 1 章 A～B) のスライド復習とノート作成	
3	児玉 小百合	【第 3 回】 予習 : 疾病予防, 住民参加, 多職種連携他 (第 1 章 A～B, 第 5 章 E) 授業 : 公衆栄養活動の基本と展開過程 2 (疾病予防, 住民参加 (事例紹介, 課題説明), 多職種連携他) (第 1 章 A～B, 第 5 章 E), グループワーク 復習 : 公衆栄養活動の基本と展開過程 2 (第 1 章 A～B, 第 5 章 E) のスライド復習とノート作成, 課題の取り組み	
4	児玉 小百合	【第 4 回】 予習 : 健康状態の変化, 平均寿命, 健康寿命 (第 2 章 A) 授業 : わが国の健康・栄養問題の現状と課題 1 (健康状態の変化, 平均寿命, 健康寿命) (第 2 章 A) 復習 : わが国の健康・栄養問題の現状と課題 1 (第 2 章 A) のスライド復習とノート作成	
5	児玉 小百合	【第 5 回】 予習 : 食事の変化, 食生活の変化 (第 2 章 B～C) 授業 : わが国の健康・栄養問題の現状と課題 2 (食事の変化, 食生活の変化) (第 2 章 B～C) 復習 : わが国の健康・栄養問題の現状と課題 2 (第 2 章 B～C) のスライド復習とノート作成	
6	児玉 小百合	【第 6 回】 予習 : 食環境の変化, 食料需給表, 食料自給率 (第 2 章 D) 授業 : わが国の健康・栄養問題の現状と課題 3 (食環境の変化, 食料需給表, 食料自給率) (第 2 章 D) 復習 : わが国の健康・栄養問題の現状と課題 3 (第 2 章 D) のスライド復習とノート作成	
7	児玉 小百合	【第 7 回】 予習 : 第 1～6 回授業復習 (第 1～2 章), 練習問題 (P61) 授業 : ふりかえりテスト (第 1～6 回) と解説, 栄養政策 (公衆栄養活動を担う人材育成, 公衆栄養学と関連法規 (地域保健法, 健康増進法)) (第 3 章 A～B) 復習 : ふりかえりテスト復習, 栄養政策 (第 3 章 A～B) のスライド復習とノート作成	
8	児玉 小百合	【第 8 回】 予習 : 国民健康・栄養調査 (第 3 章 C) 授業 : 国民健康・栄養調査 (調査の目的・沿革, 内容, 方法) (第 3 章 C) 復習 : 国民健康・栄養調査 (第 3 章 C) のスライド復習とノート作成	

9	児玉 小百合	【第9回】 予習：食生活指針，食事バランスガイド（第3章C），諸外国の食生活指針とフードガイド（第3章F4） 授業：実施に関する指針，ツール（食生活指針，食事バランスガイド他）（第3章C），諸外国の食生活指針とフードガイド（第3章F4） 復習：実施に関する指針，ツール（第3章C），諸外国の食生活指針とフードガイド（第3章F4）のスライド復習とノート作成							
10	児玉 小百合	【第10回】 予習：健康日本21（第3章E1） 授業：わが国の健康増進基本方針と地方計画1（健康日本21）（第3章E1） 復習：健康日本21（第3章E1）のスライド復習とノート作成							
11	児玉 小百合	【第11回】 予習：食育基本法，食育推進基本計画（第3章E3） 授業：わが国の健康増進基本方針と地方計画2（食育基本法，食育推進基本計画）（第3章E3） 復習：食育基本法，食育推進基本計画（第3章E3）のスライド復習とノート作成							
12	児玉 小百合	【第12回】 予習：特定健康診査・特定保健指導他（第3章E2） 授業：わが国の健康増進基本方針と地方計画3（特定健康診査・特定保健指導他）（第3章E2） 復習：特定健康診査・特定保健指導他（第3章E2）のスライド復習とノート作成							
13	児玉 小百合	【第13回】 予習：第7～12回授業復習（第3章: 3Fは4のみ），練習問題（P136） 授業：ふりかえりテスト（第7～12回）と解説，栄養疫学（概要，食事摂取量の測定方法1）（第4章A,D） 復習：ふりかえりテスト復習，栄養疫学（第4章A,D）のスライド復習とノート作成							
14	児玉 小百合	【第14回】 予習：食事摂取量の測定方法2（第4章D） 授業：栄養疫学（食事摂取量の測定方法2）（第4章D），夏期休暇中の課題提示（自分の食事の食事記録） 復習：栄養疫学，授業全体のスライド復習とノート作成，夏期休暇中の課題確認							
15	児玉 小百合	【第15回】 予習：授業全体のふりかえり，スライドとノートの復習 授業：第1回～第14回までの最終確認まとめテスト 復習：最終確認まとめテストの復習							
授業開始前学習		住んでいる地域の保健所、保健センターについて、栄養や健康に関連する取り組みをホームページ等を使用し確認しましょう。							
授業内課題のフィードバックの方法		各ふりかえりテストの実施後に解説を行う。提出課題に対して修正案等を提示する。							
テキスト・教材		吉池信男・林 宏一（編）『公衆栄養学（改訂第8版）』（株式会社南江堂）							
参考書		『国民健康・栄養調査（結果の概要，報告書）』（厚生労働省ホームページ），その他参考資料のコピーを適宜配布する。							
評価の基準と方法		3回のテスト（80%），課題（20%）により評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○	△	
関連科目		公衆衛生学，栄養教育論							
その他		住んでいる地域では、住民参加によるどのような公衆栄養活動が取り組まれていますか？地域社会で人々の健康と QOL を食事・栄養面から支援する専門職として、管理栄養士に必要な公衆栄養学の基礎知識を身につけましょう。この授業では、地域で活動している住民主体の公衆栄養活動を紹介します。グループで栄養・食事のリーフレット等を作成し、活動で配布してもらう予定です。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		沖縄県の健康長寿関連事業（内閣府一括交付金）の研究協力者として、保健センターと協働して疫学研究の分析や評価に携わった経験を活かし、公衆栄養学の基礎事項を講義する。							

科目分類	210-311-13 (J)	授業コード	GB0231
科目名称	公衆栄養学Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Public Health Nutrition II	授業区分	講義
科目責任者	児玉 小百合	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	児玉 小百合	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 14:40～17:40	研究室	16-104
授業概要	地域の健康・栄養対策は「公衆栄養マネジメント」の考え方にに基づき、現状の課題を明らかにして健康・栄養対策（公衆栄養プログラム）を計画します。この授業では、公衆栄養プログラムを計画・実施・評価する手法を学習します。事例を基にディスカッションし、集団の特性や目的に応じた公衆栄養プログラムの事業計画作成に向けて理解を深めていきます。		
到達目標	1)公衆栄養のマネジメントサイクルについて説明できる。 2)地域・集団の栄養課題に対応する公衆栄養プログラムの事業計画および評価と効果測定の手法を説明できる。 3)地域特性に対応した公衆栄養プログラムの事業計画の基礎事項が理解できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	児玉 小百合	【第 1 回】 予習：シラバスの授業内容確認・集団を対象とした食事摂取基準の活用（第 4 章 F） 授業：栄養疫学 1（食事摂取量の評価方法 1：集団を対象とした食事摂取基準）（第 4 章 F） 復習：栄養疫学 1（第 4 章 F）のスライド復習とノート作成	
2	児玉 小百合	【第 2 回】 予習：総エネルギー調整栄養素摂取量他（第 4 章 F） 授業：栄養疫学 2（食事摂取量の評価方法 2：総エネルギー調整栄養素摂取量他）（第 4 章 F） 復習：栄養疫学 2（第 4 章 F）のスライド復習とノート作成	
3	児玉 小百合	【第 3 回】 予習：第 1～2 回授業復習（第 4 章），練習問題（P188～189） 授業：ふりかえりテスト（第 1～2 回）と解説，地域診断と公衆栄養マネジメント（地域診断の意義と目的，公衆栄養マネジメントの重要性，プロセス）（第 5 章 A） 復習：ふりかえりテスト復習，地域診断と公衆栄養マネジメント（第 5 章 A）のスライド復習とノート作成	
4	児玉 小百合	【第 4 回】 予習：公衆栄養アセスメント（第 5 章 B） 授業：公衆栄養アセスメント（第 5 章 B） 復習：公衆栄養アセスメント（第 5 章 B）のスライド復習とノート作成	
5	児玉 小百合	【第 5 回】 予習：公衆栄養プログラムの目標設定，計画（第 5 章 C～D） 授業：公衆栄養プログラムの目標設定，計画（第 5 章 C～D） 復習：公衆栄養プログラムの目標設定，計画（第 5 章 C～D）のスライド復習とノート作成	
6	児玉 小百合	【第 6 回】 予習：公衆栄養プログラムの実施，評価（第 5 章 E～F） 授業：公衆栄養プログラムの実施，評価（第 5 章 E～F） 復習：公衆栄養プログラムの実施，評価（第 5 章 E～F）のスライド復習とノート作成	
7	児玉 小百合	【第 7 回】 予習：第 3～6 回授業復習（第 5 章），練習問題（P230） 授業：ふりかえりテスト（第 3～6 回）と解説，公衆栄養プログラムの展開 1（地域特性に対応したプログラムの展開）（第 6 章 A），ディスカッション 復習：ふりかえりテスト復習，公衆栄養プログラムの展開 1（第 6 章 A）のスライド復習とノート作成	
8	児玉 小百合	【第 8 回】 予習：食環境整備のためのプログラムの展開（第 6 章 B） 授業：公衆栄養プログラムの展開 2（食環境整備のためのプログラムの展開）（第 6 章 B），ディスカッション 復習：公衆栄養プログラムの展開 2（食環境整備のためのプログラムの展開）（第 6 章 B）のスライド復習とノート作成	
9	児玉 小百合	【第 9 回】 予習：母子の公衆栄養プログラム（第 6 章 C1） 授業：公衆栄養プログラムの展開 3（母子の公衆栄養プログラム）（第 6 章 C1），ディスカッション 復習：公衆栄養プログラムの展開 3（第 6 章 C1）のスライド復習とノート作成	
10	児玉 小百合	【第 10 回】 予習：学童・思春期の公衆栄養プログラム（第 6 章 C2） 授業：公衆栄養プログラムの展開 4（学童・思春期の公衆栄養プログラム）（第 6 章 C2），ディスカッション 復習：公衆栄養プログラムの展開 4（第 6 章 C2）のスライド復習とノート作成	

11	児玉 小百合	【第 11 回】 予習：成人の公衆栄養プログラム（第 6 章 C3） 授業：公衆栄養プログラムの展開 5（成人の公衆栄養プログラム）（第 6 章 C3），ディスカッション 復習：公衆栄養プログラムの展開 5（第 6 章 C3）のスライド復習とノート作成							
12	児玉 小百合	【第 12 回】 予習：高齢者，障害者の公衆栄養プログラム（第 6 章 C4～5） 授業：公衆栄養プログラムの展開 6（高齢者，障害者の公衆栄養プログラム）（第 6 章 C4～5），ディスカッション 復習：公衆栄養プログラムの展開 6（第 6 章 C4～5）のスライド復習とノート作成							
13	児玉 小百合	【第 13 回】 予習：生活習慣病ハイリスク集団の公衆栄養プログラム（第 6 章 C6） 授業：公衆栄養プログラムの展開 7（生活習慣病ハイリスク集団の公衆栄養プログラム）（第 6 章 C6），ディスカッション 復習：公衆栄養プログラムの展開 7（第 6 章 C6）のスライド復習とノート作成							
14	児玉 小百合	【第 14 回】 予習：第 7～13 回授業復習（第 6 章），練習問題（P276） 授業：ふりかえりテスト（第 7～13 回）と解説，諸外国の健康・栄養政策（第 3 章 G） 復習：ふりかえりテスト復習，諸外国の健康・栄養政策（第 3 章 G）のスライド復習とノート作成							
15	児玉 小百合	【第 15 回】 予習：授業全体のふりかえり，スライドとノートの復習 授業：第 1 回～第 14 回までの最終確認まとめテスト 復習：最終確認まとめテストの復習							
授業開始前学習		公衆栄養学Ⅰで学習した事項を復習しておきましょう。							
授業内課題のフィードバックの方法		各ふりかえりテストの実施後に解説を行う。							
テキスト・教材		吉池信男・林 宏一（編）『公衆栄養学（改訂第 8 版）』（株式会社南江堂）							
参考書		伊藤貞嘉、佐々木 敏（監修）『日本人の食事摂取基準 2020 年度』（第一出版株式会社），公衆栄養学実習で使用する教科書，その他参考資料のコピーを適宜配布する。							
評価の基準と方法		4 回のテスト（90%），授業態度等（10%）により評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○	△	
関連科目		公衆栄養学実習，公衆衛生学							
その他		地域社会で人々の健康と QOL を食事・栄養面から支援する管理栄養士として、地域特性や目的に応じた公衆栄養プログラムの事業計画の基礎事項を学習しましょう。授業では公衆栄養プログラムの事例を基にディスカッションを多く取り入れ、理解を深めていきます。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		沖縄県の健康長寿関連事業（内閣府一括交付金）の研究協力者として、保健センターと協働して疫学研究の分析や評価に携わった経験を活かし、活動事例を授業で紹介する。							

科目分類	210-311-33 (J)	授業コード	GB0241
科目名称	公衆栄養学実習	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Public Health Nutrition	授業区分	実習・実験
科目責任者	児玉 小百合	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	児玉 小百合	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 14:40～17:40	研究室	16-104
授業概要	実習の前半では既存の調査データ等を収集し、現状の課題を見つけるための科学（疫学）的な評価方法を実習します。後半は実在する市町村を対象として、人々の健康の増進を支援する公衆栄養プログラムの事業計画をグループで作成し、プレゼンテーションする技術を身につけます。		
到達目標	1)地域・職域における健康・栄養課題の現状を科学（疫学）的に評価できる。 2)健康・栄養課題の解決のための、集団の特性や目的に応じた事業計画を作成できる。 3)他者と協力して課題に取り組み、成果をプレゼンテーションする技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	児玉 小百合	【第 1 回】 予習：シラバスの授業内容確認・地域診断，既存資料の活用と留意点（第 1 章，第 2 章 1～2） 授業：オリエンテーション（実習の進め方）、地域における公衆栄養アセスメント 1（地域診断，既存資料の活用と留意点）（第 1 章，第 2 章 1～2） 復習：地域における公衆栄養アセスメント 1（第 1 章，第 2 章 1～2）の復習	
2	児玉 小百合	【第 2 回】 予習：エクセルの集計，関数，グラフの作成方法を確認しておくこと 授業：地域における公衆栄養アセスメント 2（国民健康・栄養調査を用いた評価（集計，関数，グラフ等））（第 2 章 2） 復習：集計，関数，グラフ等の復習	
3	児玉 小百合	【第 3 回】 予習：公衆栄養学 I の夏季休暇中の課題（自分の食事の食事記録（2 日間・秤量法））を確認し、持参すること 授業：地域における公衆栄養アセスメント 3（食事記録の評価，食物摂取頻度調査の実施）（第 2 章 3） 復習：食事調査の種類と方法，栄養価計算結果の確認	
4	児玉 小百合	【第 4 回】 予習：情報の処理と分析の手法：基本的な集計の方法（第 2 章 5，公衆栄養学の教科書（第 4 章 F）） 授業：地域における公衆栄養アセスメント 4（情報の処理と分析の手法：基本的なデータ集計の方法）（第 2 章 5，公衆栄養学の教科書（第 4 章 F）） 復習：基本的なデータ集計の方法の復習	
5	児玉 小百合	【第 5 回】 予習：情報の処理と分析の手法：基本的な集計の方法（第 2 章 5，公衆栄養学の教科書（第 4 章 F）） 授業：地域における公衆栄養アセスメント 5（統計処理を用いた対象集団の評価 1（47 都道府県データの分析（量的調査））（第 2 章 5，公衆栄養学の教科書（第 4 章 F）） 復習：47 都道府県データの分析（2 グループ間の比較（t 検定）他）の復習	
6	児玉 小百合	【第 6 回】 予習：情報の処理と分析の手法：基本的な集計の方法（第 2 章 5，公衆栄養学の教科書（第 4 章 F）） 授業：地域における公衆栄養アセスメント 6（統計処理を用いた対象集団の評価 2（NDB オープンデータ他）の活用（質的調査））（第 2 章 5） 復習：47 都道府県データ（メタボリックシンドローム）の分析（相関分析， χ^2 乗分析他）の復習	
7	児玉 小百合	【第 7 回】 予習：第 4～6 回実習（分析の手法、統計処理）復習 授業：ふりかえりテスト（第 4～6 回）と解説，地域における公衆栄養アセスメント 7（アンケート調査による情報収集）（第 2 章 4～6） 復習：ふりかえりテスト復習，アンケート調査による情報収集（第 2 章 4～6）の復習	
8	児玉 小百合	【第 8 回】 予習：市町村の栄養・健康に関連する情報をホームページ等で確認 授業：公衆栄養プログラムの事業計画 1（実在する市町村の健康課題の抽出と目標設定）（第 3 章 1） 復習：実在する市町村の健康課題の抽出と目標設定（第 3 章 1）の復習	
9	児玉 小百合	【第 9 回】 予習：市町村の栄養・健康に関連する現状をホームページ等で確認 授業：公衆栄養プログラムの事業計画 2（目標設定，企画立案）（第 3 章 2～3）（グループ活動） 復習：グループで選定した市町村の健康課題を抽出し、公衆栄養プログラムの事業目標を考える	

10	児玉 小百合	【第 10 回】 予習：市町村の栄養・健康に関連する現状をホームページ等で確認 授業：公衆栄養プログラムの事業計画 3（事業計画, 資料作成）（第 3 章 2～3）（グループ活動） 復習：資料作成他、グループで話し合い進める							
11	児玉 小百合	【第 11 回】 予習：資料作成他、グループで話し合い進める 授業：公衆栄養プログラムの事業計画 4（プレゼンテーション準備）（第 3 章 2～3）（グループ活動） 復習：資料作成他、グループで話し合い進める							
12	児玉 小百合	【第 12 回】 予習：プレゼンテーション準備 授業：公衆栄養プログラムの事業計画のプレゼンテーション（グループ別）、評価（第 3 章 4～5） 復習：プレゼンテーションで意見が出た内容について、グループで話し合い修正する（第 3 章 6）							
授業開始前学習		公衆栄養学Ⅰで学習した事項を復習しておきましょう。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題提出後にフィードバックを行う。ふりかえりテストの実施後に解説を行う。グループ活動の成果に講評する。							
テキスト・教材		橋本加代・伊藤裕美他（著）『現場で役立つ公衆栄養学実習 第二版』（株式会社同文書院）							
参考書		公衆栄養学の教科書、政府統計の総合窓口（e-Stat） https://www.e-stat.go.jp/about 、参考資料のコピーを適宜配布する。							
評価の基準と方法		テスト（20％）、提出課題（30％）、グループ活動の取り組み姿勢および成果物（50％）により評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎		○	○
関連科目		公衆栄養学、公衆衛生学、栄養教育論							
その他		地域で人々の健康と QOL を食事・栄養面から支援する専門職の管理栄養士として、地域特性や目的に応じた公衆栄養プログラムの事業を計画する手法を学習し、実在する市町村を対象に事業計画を作成してみましょう。							
予習・復習の所要時間		講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容		沖縄県の健康長寿関連事業（内閣府一括交付金）の研究協力者として、保健センターと協働して疫学研究の分析や評価に携わった。自治体の職員向けに統計解析の講座を開催した経験を活かし、分析手法等をわかりやすく解説する。							

科目分類	210-311-12	授業コード	GB0251
科目名称	給食経営管理論 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Theory of Food Service Management I	授業区分	講義
科目責任者	土岐田 佳子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	土岐田 佳子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～17:50 後期 月曜日 14:40～17:50	研究室	16-109
授業概要	給食経営管理論 I の講義では、基礎として、給食経営管理の意義や概要を理解し、給食運営に必要な栄養・食事管理、食材管理、生産管理、安全・衛生管理、施設・設備管理等、給食経営の実務及び給食計画について学ぶ。		
到達目標	・特定給食施設における管理栄養士・栄養士の役割と業務内容を説明できるようになる。 ・喫食者に適した栄養・食事計画を立て、献立を作成できるようになる。 ・大量調理の特性を踏まえた生産管理ができるようになる。 ・大量調理における安全・衛生対策を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	土岐田 佳子	【第 1 回】 予習 : 給食の目的や意義について考える 授業 : 給食経営管理論のオリエンテーション、給食の概念①（給食の定義、給食の歴史） 復習 : テキスト・配布資料を見直して、給食の定義について確認する	
2	土岐田 佳子	【第 2 回】 予習 : テキスト『健康増進法 第 5 章 特定給食施設』を一読する 授業 : 給食の概念②（給食経営管理に係る関係法規） 復習 : テキスト・配布資料を見直して、健康増進法の内容を確認する	
3	土岐田 佳子	【第 3 回】 予習 : テキスト『栄養・食事管理』の章を一読する 授業 : 栄養・食事管理①（食事の計画と実施） 復習 : テキスト・配布資料を見直して、特定給食施設における食事計画の流れを確認する	
4	土岐田 佳子	【第 4 回】 予習 : テキスト『栄養・食事管理』の章を一読する 授業 : 栄養・食事管理②（食事計画の評価と改善方法） 復習 : テキスト・配布資料を見直して、特定給食施設における食事計画の評価と改善方法を確認する	
5	土岐田 佳子	【第 5 回】 予習 : テキスト『品質管理』の項目を一読する 授業 : 給食経営における品質管理 復習 : テキスト・配布資料を見直して、給食経営における品質管理の方法を確認する	
6	土岐田 佳子	【第 6 回】 予習 : テキスト『生産管理』の項目を一読する 授業 : 給食の生産管理①（食材料管理） 復習 : テキスト・配布資料を見直して、給食の食材料管理を確認する	
7	土岐田 佳子	【第 7 回】 予習 : テキスト『生産管理』の項目を一読する 授業 : 給食の生産管理②（調理管理） 復習 : テキスト・配布資料を見直して、生産システムの特徴を確認する	
8	土岐田 佳子	【第 8 回】 予習 : テキスト『生産管理』の項目を一読する 授業 : 給食の生産管理③（提供サービス） 復習 : テキスト・配布資料を見直して、給食の提供サービスの種類と特徴を確認する	
9	土岐田 佳子	【第 9 回】 予習 : テキスト『給食の安全・衛生』の章を一読する 授業 : 給食の安全・衛生管理①（安全・衛生管理の意義と目的、給食と食中毒・感染症） 復習 : テキスト・配布資料を見直して、食中毒菌の特徴と予防法を確認する	
10	土岐田 佳子	【第 10 回】 予習 : テキスト『給食の安全・衛生』の章を一読する 授業 : 給食の安全・衛生管理②（給食における HACCP の運用） 復習 : テキスト・配布資料を見直して、HACCP に基づく衛生管理の方法を確認する	

11	土岐田 佳子	【第 11 回】 予習 : テキスト『給食の安全・衛生』の章を一読する 授業 : 給食の安全・衛生管理③ (大量調理施設衛生管理マニュアル) 復習 : テキスト・配布資料を見直して、大量調理施設衛生管理マニュアルの内容を確認する						
12	土岐田 佳子	【第 12 回】 予習 : テキスト『給食の安全・衛生』の章を一読する 授業 : 給食の安全・衛生管理④ (事故・災害時対策) 復習 : テキスト・配布資料を見直して、事故への対応方法と危機管理対策を確認する						
13	土岐田 佳子	【第 13 回】 予習 : テキスト『施設と設備』の項目を一読する 授業 : 給食の施設・設備管理① (施設・設備の関連法規、作業区域の区分) 復習 : テキスト・配布資料を見直して、作業区域の区分を確認する						
14	土岐田 佳子	【第 14 回】 予習 : テキスト『施設と設備』の項目を一読する 授業 : 給食の施設・設備管理② (大量調理機器の種類と特徴、食事環境の設計) 復習 : テキスト・配布資料を見直して、大量調理機器の種類と特徴を確認する						
15	土岐田 佳子	【第 15 回】 予習 : 第 1 回～第 14 回で学習した範囲をテキストおよび配布資料を用いて振り返りを行う 授業 : 栄養・食事管理、品質管理、生産管理、安全・衛生管理、施設・設備管理の給食経営管理業務の流れを確認する (給食経営管理論Ⅰのまとめ) 復習 : テキスト・配布資料を見直して、給食経営管理論Ⅰの学習内容を確認する						
授業開始前学習		特定給食施設の種類や特徴について調べておくとい。						
授業内課題のフィードバックの方法		講義内容について個別の質問に対し、随時回答する。						
テキスト・教材		大中佳子 他著『サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 給食経営管理論』 (第一出版)						
参考書		・給食経営管理用語辞典 : 日本給食経営管理学会 (第一出版) ・宮原公子、細山田洋子 編著『給食経営管理論 給食マネジメントを総合的に理解するために』 (化学同人)						
評価の基準と方法		授業態度 (10%)、小テスト (30%)、定期試験 (60%)						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成	健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成	栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成			
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力 実践力
科目の該当					△	◎	○	
関連科目		「給食経営管理論Ⅱ」の内容を理解するうえで重要な科目である。また、「給食経営管理実習」、「臨地実習」の基礎となる科目でもあるため、内容を十分に理解する必要がある。						
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-311-12（J）			授業コード	GB0261
科目名称	給食経営管理論Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Theory of Food Service ManagementⅡ			授業区分	講義
科目責任者	土岐田 佳子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	土岐田・西村			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	給食経営管理論Ⅱでは、給食経営管理論Ⅰで学習した栄養・食事管理、生産管理、安全・衛生管理、施設・設備管理を踏まえ、給食運営に必要な経営管理について学ぶ。給食の運営や経営に関わる組織、会計・原価管理、マーケティングの手法について理解を深め、効率的かつ安全に運営するための給食経営管理全般のマネジメント能力を養う。また、特論として、各特定給食施設の特徴と管理栄養士の役割や業務内容についても学習する。				
到達目標	・給食経営管理を総合的に判断し、栄養面、安全面、経営面を考慮した給食マネジメント能力を身につける。 ・各特定給食施設の特徴、管理栄養士の役割について説明できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態	オムニバス
授業回数	担当者	授業の内容			
1	土岐田 佳子	【第 1 回】 予習：災害時の給食施設の役割について考える 授業：給食経営管理論Ⅱオリエンテーション、危機管理（事故発生時の対応、災害時の給食の役割） 復習：教科書・配布資料を見直して、災害時の対応方法を確認する			
2	土岐田 佳子	【第 2 回】 予習：テキスト『給食の経営管理の概念』の章を一読する 授業：給食の経営管理①（経営管理の概要、給食運営業務の外部委託） 復習：テキスト・配布資料を見直して、給食運営業務の外部委託の目的、委託の形態、契約方法について確認する			
3	土岐田 佳子	【第 3 回】 予習：テキスト『給食の経営管理の概念』の章を一読する 授業：給食の経営管理②（給食とマーケティング） 復習：テキスト・配布資料を見直して、給食経営におけるマーケティングの手法を確認する			
4	土岐田 佳子	【第 4 回】 予習：テキスト『給食の経営管理の概念』の章を一読する 授業：給食の経営管理③（給食経営と組織） 復習：テキスト・配布資料を見直して、組織の構造について確認する			
5	西村 一弘	【第 5 回】 予習：テキスト『入院時食事療養費・入院時生活療養費』の項目を確認する 授業：入院時食事療養費・入院時生活療養費 復習：テキスト・配布資料を見直して、入院時食事療養費・入院時生活療養費の内容を確認する			
6	西村 一弘	【第 6 回】 予習：テキスト『介護報酬』の項目を確認する 授業：介護報酬 復習：テキスト・配布資料を見直して、介護報酬の内容を確認する			
7	土岐田 佳子	【第 7 回】 予習：テキスト『給食運営における人的資源』、『給食業務従事者の教育訓練』の項目を一読する 授業：給食の人事管理 復習：テキスト・配布資料を見直して、人事管理の内容と給食従事者の教育・訓練の方法を確認する			
8	土岐田 佳子	【第 8 回】 予習：テキスト『給食の資源と管理』の項目を一読する 授業：給食における会計・原価管理①（給食の原価構成と収支構造） 復習：テキスト・配布資料を見直して、給食の原価構成と原価管理の方法を確認する			
9	土岐田 佳子	【第 9 回】 予習：テキスト『給食の資源と管理』の項目を一読する 授業：給食における会計・原価管理②（財務諸表） 復習：テキスト・配布資料を見直して、給食経営管理で扱う財務諸表を確認する			
10	土岐田 佳子	【第 10 回】 予習：テキスト『医療施設』の項目を一読する 授業：特論【医療施設】 復習：テキスト・配布資料を見直して、医療施設における管理栄養士の役割について確認する			

11	土岐田 佳子	【第 11 回】 予習：テキスト『高齢者・介護福祉施設』の項目を一読する 授業：特論【高齢者・介護福祉施設】 復習：テキスト・配布資料を見直して、高齢者・介護福祉施設における管理栄養士の役割について確認する							
12	土岐田 佳子	【第 12 回】 予習：テキスト『児童福祉施設』の項目を一読する 授業：特論【児童福祉施設】（グループワーク） 復習：テキスト・配布資料を見直して、児童福祉施設における管理栄養士の役割について確認する							
13	土岐田 佳子	【第 13 回】 予習：テキスト『学校』の項目を一読する 授業：特論【学校】（プレゼンテーション） 復習：テキスト・配布資料を見直して、学校給食における管理栄養士の役割について確認する							
14	土岐田 佳子	【第 14 回】 予習：テキスト『事業所』の項目を一読する 授業：特論【事業所】（プレゼンテーション） 復習：テキスト・配布資料を見直して、事業所における管理栄養士の役割について確認する							
15	土岐田 佳子	【第 15 回】 予習：テキストを一読する 授業：給食経営管理の一連の流れを理解する 復習：テキスト・配布資料を見直して、給食経営管理論Ⅱの学習内容を確認する							
授業開始前学習		食関連ビジネスの動向や食料経済（食の生産・流通・消費・価格）などについて、日頃より情報収集しておくとう良い。							
授業内課題のフィードバックの方法		講義内容等の個別の質問に対し、随時回答する。							
テキスト・教材		大中佳子 他著『サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 給食経営管理論』（第一出版）							
参考書		・給食経営管理用語辞典：日本給食経営管理学会（第一出版） ・片山尚美、原正美 編著『給食経営管理論』（みらい）							
評価の基準と方法		授業態度（10%）、小テスト（30%）、定期試験（60%）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○		
関連科目		「給食経営管理論Ⅰ」と密接に関連している。また、「給食経営管理実習」、「臨地実習」の基礎となる科目でもあるため、内容を十分に理解する必要がある。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		本科目は、複数の担当者が共同で指導する科目であり、担当教員のうち、西村は病院および介護老人保健施設において長年の実務経験を有する。また、日本栄養士会では診療報酬・介護報酬を担当しており、厚生労働省との連携を行っている。本科目では、第 5 回授業・第 6 回授業に最新の診療報酬・介護報酬について講義を行う。							

科目分類	210-311-32		授業コード	GB0271	
科目名称	給食経営管理実習		単位数	1.0 単位	
英文名称	Practice in Food Service Management		授業区分	実習・実験	
科目責任者	土岐田 佳子		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	田崎・土岐田		開講時期	2 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	給食経営管理論Ⅰ・Ⅱで得た知識をもとに大量調理の基本と経営資源（人・物・金）を活用した効果的な給食経営管理の実際を学ぶ。対象者の栄養アセスメントによる栄養・食事計画から、実際の調理・提供、評価・改善までの給食経営管理の一連のプロセスを実習を通して学習する。				
到達目標	・給食経営管理における、PDCA サイクルに基づいた栄養・食事計画から食事の提供、評価・改善までの知識・技術を習得する。 ・HACCP システムに基づいた大量調理施設衛生管理マニュアルを理解し、安全な食事の提供と衛生管理・危機管理に対応できる力を身につける。 ・グループワークを通じて、コミュニケーション能力および協働性を身につける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	土岐田 佳子 田崎 仁美	【第 1 回】 予習：給食経営管理論の教科書を一読する 授業：実習オリエンテーション（実習概要、実習日程など） 復習：給食経営管理実習の一連の流れを確認する			
2	土岐田 佳子 田崎 仁美	【第 2 回】 予習：給与栄養目標量の設定方法と献立作成のポイントを確認する 授業：給与栄養目標量の設定と献立作成、実習で扱う帳票類の説明 復習：帳票の記入方法について確認する			
3	土岐田 佳子 田崎 仁美	【第 3 回】 予習：特定給食施設の施設・設備の確認と大量調理施設衛生管理マニュアルを確認する 授業：厨房見学を通して特定給食施設の施設・設備の特徴と衛生管理について学ぶ 復習：厨房の図面の確認と大量調理施設衛生管理マニュアルを確認する			
4	土岐田 佳子 田崎 仁美	【第 4 回】 予習：モデル献立（和食）の作業指示書、作業工程表を確認する 授業：モデル献立（和食）の大量調理実習 復習：モデル献立（和食）の大量調理実習の評価と改善点を確認する			
5	土岐田 佳子 田崎 仁美	【第 5 回】 予習：モデル献立（洋食）の作業指示書、作業工程表を確認する 授業：モデル献立（洋食）の大量調理実習 復習：モデル献立（洋食）の大量調理実習の評価と改善点を確認する			
6	土岐田 佳子 田崎 仁美	【第 6 回】 予習：実施献立内容を確認する 授業：試作および作業指示書、作業工程表、その他の帳票類の作成 復習：実施献立の作業指示書、作業工程表を確認する			
7	土岐田 佳子 田崎 仁美	【第 7 回】 予習：事業所向け献立（通常献立）の作業指示書、作業工程表を確認する 授業：事業所向け献立（通常献立）の大量調理実習 復習：事業所向け献立（通常献立）の大量調理実習の評価と改善点を確認する			
8	土岐田 佳子 田崎 仁美	【第 8 回】 予習：事業所向け献立（行事食献立）の作業指示書、作業工程表を確認する 授業：事業所向け献立（行事食献立）の大量調理実習 復習：事業所向け献立（行事食献立）の大量調理実習の評価と改善点を確認する			
9	土岐田 佳子 田崎 仁美	【第 9 回】 予習：保育所向け献立（通常献立）の作業指示書、作業工程表を確認する 授業：保育所向け献立（通常献立）の大量調理実習 復習：保育所向け献立（通常献立）の大量調理実習の評価と改善点を確認する			
10	土岐田 佳子 田崎 仁美	【第 10 回】 予習：保育所向け献立（行事食献立）の作業指示書、作業工程表を確認する 授業：保育所向け献立（行事食献立）の大量調理実習 復習：保育所向け献立（行事食献立）の大量調理実習の評価と改善点を確認する			

11	土岐田 佳子 田崎 仁美	【第 11 回】 予習：高齢者向け献立（通常献立）の作業指示書、作業工程表を確認する 授業：高齢者向け献立（通常献立）の大量調理実習 復習：高齢者向け献立（通常献立）の大量調理実習の評価と改善点を確認する							
12	土岐田 佳子 田崎 仁美	【第 12 回】 予習：高齢者向け献立（行事食献立）の作業指示書、作業工程表を確認する 授業：高齢者向け献立（行事食献立）の大量調理実習 復習：高齢者向け献立（行事食献立）の大量調理実習の評価と改善点を確認する							
13	土岐田 佳子 田崎 仁美	【第 13 回】 予習：大量調理実習で使用した帳票類のまとめ 授業：第 7 回～第 12 回授業で実施した大量調理の食材原価、労働生産性の算出および喫食者アンケートの集計 復習：食材原価、労働生産性の算出方法を確認する							
14	土岐田 佳子 田崎 仁美	【第 14 回】 予習：栄養出納表、食品構成表、食品群別荷重平均成分表を確認する 授業：栄養出納表、食品構成表、食品群別荷重平均成分表の作成と報告会発表準備 復習：栄養出納表、食品構成表、食品群別荷重平均成分表の作成方法を確認する							
15	土岐田 佳子 田崎 仁美	【第 15 回】 予習：報告会発表準備 授業：リーダーを務めた大量調理実習についてまとめと評価を行う（報告会の実施） 復習：給食経営管理実習の授業内容のまとめ							
授業開始前学習		・大量調理を行う上で、衛生管理の基本となる「大量調理施設衛生管理マニュアル」について理解を深めておく。 ・日頃から食材や料理、献立作成や市場の食材価格に関心を持つとともに、自ら調理をする習慣をつけておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		実習内容について個別の質問に対し、随時回答する。							
テキスト・教材		適宜、資料を配布する。							
参考書		・伊藤貞嘉・佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020 年度版』（第一出版） ・『大量調理施設衛生管理マニュアル』厚生労働省 ・『食品成分表』改訂最新版（医歯薬出版） ・『調理のためのベーシックデータ』改訂最新版（女子栄養大学出版部）							
評価の基準と方法		実習態度（50％）、課題・レポート（50％）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎		○	○
関連科目		給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ、給食計画論演習、献立作成演習、調理学、調理学実習Ⅰ・Ⅱ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 45 時間							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-311-21	授業コード	GB0281
科目名称	給食計画論演習	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Food Service Planning	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	奥 裕乃	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥 裕乃	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	栄養士・管理栄養士にとって献立作成はすべての業務の基盤である。給食施設における献立作成は、利用者のアセスメントから始まる栄養管理プロセスの流れの中で立案されなければならない。本演習では、アセスメントの方法、栄養・献立計画の作成、栄養・献立計画の評価について学び、各給食施設における給食の目標に沿った献立作成を行うために必要となる基礎的な知識と技術を修得する。		
到達目標	・利用者のアセスメントを行うことができる。 ・アセスメントの結果に基づき栄養・献立計画を作成することができる。 ・栄養・献立計画の評価の方法が説明できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	奥 裕乃	【第 1 回】 予習 : 自身が気になる給食施設の献立内容を調べる 授業 : 栄養管理プロセスの全体像 復習 : 特定給食施設における栄養管理を確認する	
2	奥 裕乃	【第 2 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 日本人の食事摂取基準の基礎 復習 : 食事摂取基準の指標の意味を確認する	
3	奥 裕乃	【第 3 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : アセスメント : アセスメントの方法 復習 : 課題①を仕上げる	
4	奥 裕乃	【第 4 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 栄養・献立計画 (1) : 給与栄養目標量の設定 (エネルギー・たんぱく質・脂質・炭水化物) 復習 : 課題②を仕上げる	
5	奥 裕乃	【第 5 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 栄養・献立計画 (2) : 給与栄養目標量の設定 (ビタミン・ミネラル) 復習 : 課題③を仕上げる	
6	奥 裕乃	【第 6 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 栄養・献立計画 (3) : 給与栄養目標量の設定 (1 食あたりの給与栄養目標量の設定) 復習 : 課題④を仕上げる	
7	奥 裕乃	【第 7 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 栄養・献立計画 (4) : 食品構成表の作成 (食品構成の算出①) 復習 : 課題⑤を行う	
8	奥 裕乃	【第 8 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 栄養・献立計画 (5) : 食品構成表の作成 (食品構成の算出②) 復習 : 課題⑤を仕上げる	
9	奥 裕乃	【第 9 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 栄養・献立計画 (6) : 食品構成表の作成 (食品構成表の作成) 復習 : 課題⑥を仕上げる	

10	奥 裕乃	【第 10 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 栄養・献立計画 (7) : 食品類別荷重平均成分表の作成 (食品類別荷重平均成分表の算出①) 復習 : 課題⑦を仕上げる							
11	奥 裕乃	【第 11 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 栄養・献立計画 (8) : 食品類別荷重平均成分表の作成 (食品類別荷重平均成分表の算出②) 復習 : 課題⑧を仕上げる							
12	奥 裕乃	【第 12 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 栄養・献立計画の評価 (1) : 栄養出納表の作成 復習 : 課題⑨を仕上げる							
13	奥 裕乃	【第 13 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 栄養・献立作成の評価 (2) : 栄養管理報告書の作成 復習 : 栄養管理報告書の内容を確認する							
14	奥 裕乃	【第 14 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 栄養・献立計画の評価 (3) : 利用者の満足度に関わる調査 復習 : 課題⑩を仕上げる							
15	奥 裕乃	【第 15 回】 予習 : 練習問題を解く 授業 : 小テスト: 専門用語の説明と計算問題 復習 : 小テストを振り返る							
授業開始前学習		栄養の基礎、食品学の内容を復習しておく							
授業内課題のフィードバックの方法		課題の提出により理解度を判定する。課題は速やかに学生に返却し、必要があれば再度提出させ繰り返し添削する。							
テキスト・教材		『日本食品成分表』改訂最新版 (医歯薬出版あるいは女子栄養大学出版部)							
参考書									
評価の基準と方法		授業態度 (10%)、課題提出状況および内容 (60%)、小テスト (30%)							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎		○	○
関連科目		献立作成演習、給食経営管理論、給食経営管理実習							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-311-22	授業コード	GB0291
科目名称	献立作成演習	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Menu Creation	授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	田崎 仁美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田崎 仁美	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 13:00～16:00	研究室	4-204
授業概要	献立作成は、管理栄養士業務において重要な基盤のひとつである。献立作成には、栄養学をはじめとした食品、衛生、調理、経済、心理学など多岐にわたる知識が求められる。本演習では、献立作成に必要な知識を習得し、対象者に応じた食事を計画できる力を身につけることで、給食経営管理や、ライフステージと栄養管理の実践、疾病と栄養管理における食事計画・調理につなげる。		
到達目標	・献立の料理構成を理解し、食品の組み合わせ・使用量を説明、評価、改善できる。 ・調味パーセントを活用した調味の標準化を説明できる。 ・食事計画に基づき、対象者に応じた献立の作成、評価・改善ができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田崎 仁美	【第 1 回】 予習 : 教科書（成分表、ベーシックデータ）に目を通しておく 授業 : 献立作成の基本① 復習 : 演習問題を復習する	
2	田崎 仁美	【第 2 回】 予習 : 栄養計算、調味パーセントを復習する 授業 : 献立作成の基本② 復習 : 演習問題を復習する	
3	田崎 仁美	【第 3 回】 予習 : 食事摂取基準の各論を復習する 授業 : 献立作成の手順 復習 : 演習問題の復習	
4	田崎 仁美	【第 4 回】 予習 : 図書資料などをもとに作成したい献立（料理）を検討しておく 授業 : 献立作成（ディスカッション） 復習 : 作成した献立の見直し	
5	田崎 仁美	【第 5 回】 予習 : 献立案の作成 授業 : 献立作成の評価（ディスカッション） 復習 : 作成した献立を実際に調理し、評価、改善案を作成する	
6	田崎 仁美	【第 6 回】 予習 : 事業所における対象者・給食の特徴について調べる 授業 : 対象者別献立：事業所① 復習 : 栄養管理計画を見直す	
7	田崎 仁美	【第 7 回】 予習 : 栄養管理計画をもとに献立を立案する 授業 : 対象者別献立：事業所② 復習 : 献立作成状況を確認し、必要に応じて修正する	
8	田崎 仁美	【第 8 回】 予習 : 栄養管理計画をもとに献立を立案する 授業 : 対象者別献立：事業所③ 復習 : 作成した献立を実際に調理し、評価、改善案を作成する	
9	田崎 仁美	【第 9 回】 予習 : 保育所における対象者・給食の特徴について調べる 授業 : 対象者別献立：保育所① 復習 : 栄養管理計画を見直す	
10	田崎 仁美	【第 10 回】 予習 : 栄養管理計画をもとに献立を立案する 授業 : 対象者別献立：保育所② 復習 : 献立作成状況を確認し、必要に応じて修正する	

11	田崎 仁美	【第 11 回】 予習 : 栄養管理計画をもとに献立を立案する 授業 : 対象者別献立：保育所③ 復習 : 作成した献立を実際に調理し、評価、改善案を作成する							
12	田崎 仁美	【第 12 回】 予習 : 保育所における対象者・給食の特徴について調べる 授業 : 対象者別献立：高齢者施設① 復習 : 栄養管理計画を見直す							
13	田崎 仁美	【第 13 回】 予習 : 栄養管理計画をもとに献立を立案する 授業 : 対象者別献立：高齢者施設② 復習 : 献立作成状況を確認し、必要に応じて修正する							
14	田崎 仁美	【第 14 回】 予習 : 栄養管理計画をもとに献立を立案する 授業 : 対象者別献立：高齢者施設③ 復習 : 作成した献立を実際に調理し、評価、改善案を作成する							
15	田崎 仁美	【第 15 回】 予習 : 第 1 ～ 14 回までの授業内容を確認する 授業 : 献立作成における手順、評価・改善方法について再確認する 復習 : これまで作成した献立を確認し、改善する							
授業開始前学習		献立作成に必要な知識である、調理学、栄養学、給食経営管理論の分野をよく復習しておく							
授業内課題のフィードバックの方法		・作成した課題について添削し、速やかに返却する ・授業内容について、個別の質問に対し、随時回答する							
テキスト・教材		『日本食品成分表』（医歯薬出版） 『調理のためのベーシックデータ 第 6 版』（女子栄養大学出版部） 『日本人の食事摂取基準 2020 年度版』（第一出版）							
参考書									
評価の基準と方法		実習態度（40%）、課題提出（60%）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎		○	○
関連科目		調理学、調理学実習、給食計画論演習、給食経営管理論Ⅰ、栄養教育論、臨床栄養学 など							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-311-34（J）		授業コード	GB0300	
科目名称	総合演習 I		単位数	1.0 単位	
英文名称	Comprehensive Seminar I		授業区分	演習・実習・実験	
科目責任者	岡田 昌己		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	健康栄養学科専任		開講時期	4 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	管理栄養士として必要とされる専門知識や技術について、総まとめを行う。すなわち、3 年次までに習得したすべての専門基礎科目、専門基礎科目について演習形式で要点の復習を行い、それぞれの科目の基礎的な知識や技術の確認を行うとともに定着を図る。この演習により、それぞれの科目で学んだ内容を総合的に活用し、応用力を養うための基礎を固めることを目標とする。				
到達目標	専門基礎科目（公衆衛生学、社会福祉論、健康管理概論、解剖生理学、病理学、臨床医学、生化学、食品学、食品衛生学、調理学）、専門科目（基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理概論）の各分野の内容を、管理栄養士の水準で理解する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	21 回	複数教員の場合の 授業形態	オムニバス
授業 回数	担当者	授業の内容			
1.2	岡田 昌己	【第 1 回】 予習：応用栄養学で学んだ内容を復習する 授業：応用栄養学の総まとめ① 復習：応用栄養学の総まとめ①の配布資料に記載されている要点を復習する 【第 2 回】 予習：応用栄養学で学んだ内容を復習する 授業：応用栄養学の総まとめ② 復習：応用栄養学の総まとめ②の配布資料に記載されている要点を復習する			
3	三浦 麻子	【第 3 回】 予習：応用栄養学で学んだ内容を復習する 授業：応用栄養学の総まとめ③ 復習：応用栄養学の総まとめ③の配布資料に記載されている要点を復習する			
4	土岐田 佳子	【第 4 回】 予習：給食経営管理論で学んだ内容を復習する 授業：給食経営管理論の総まとめ① 復習：給食経営管理論の総まとめ①の配布資料に記載されている要点を復習する			
5	曽我部 夏子	【第 5 回】 予習：基礎栄養学で学んだ内容を復習する 授業：基礎栄養学の総まとめ① 復習：基礎栄養学の総まとめ①の配布資料に記載されている要点を復習する			
6.7	児玉 小百合	【第 6 回】 予習：公衆栄養学で学んだ内容を復習する 授業：公衆栄養学の総まとめ① 復習：公衆栄養学の総まとめ①の配布資料に記載されている要点を復習する 【第 7 回】 予習：公衆栄養学で学んだ内容を復習する 授業：公衆栄養学の総まとめ② 復習：公衆栄養学の総まとめ②の配布資料に記載されている要点を復習する			
8.9	西山 一朗	【第 8 回】 予習：生化学で学んだ内容を復習する 授業：生化学の総まとめ① 復習：生化学の総まとめ①の配布資料に記載されている要点を復習する 【第 9 回】 予習：生化学で学んだ内容を復習する 授業：生化学の総まとめ② 復習：生化学の総まとめ②の配布資料に記載されている要点を復習する			
10	西村 一弘	【第 10 回】 予習：臨床栄養学で学んだ内容を復習する 授業：臨床栄養学の総まとめ① 復習：臨床栄養学の総まとめ①の配布資料に記載されている要点を復習する			
11	大坂 裕子	【第 11 回】 予習：栄養教育論で学んだ内容を復習する 授業：栄養教育論の総まとめ① 復習：栄養教育論の総まとめ①の配布資料に記載されている要点を復習する			

12	佐藤 勝重	【第 12 回】 予習：解剖生理学、病理学、臨床医学で学んだ内容を復習する 授業：解剖生理学、病理学、臨床医学の総まとめ① 復習：解剖生理学、病理学、臨床医学の総まとめ①の配布資料に記載されている要点を復習する							
13	児玉 小百合	【第 13 回】 予習：公衆衛生学、社会福祉論、健康管理概論で学んだ内容を復習する 授業：公衆衛生学、社会福祉論、健康管理概論の総まとめ① 復習：公衆衛生学、社会福祉論、健康管理概論の総まとめ①の配布資料に記載されている要点を復習する							
14	松本 雄宇	【第 14 回】 予習：食品衛生学で学んだ内容を復習する 授業：食品衛生学の総まとめ① 復習：食品衛生学の総まとめ①の配布資料に記載されている要点を復習する							
15.16	松森 慎悟	【第 15 回】 予習：調理学で学んだ内容を復習する 授業：調理学の総まとめ① 復習：調理学の総まとめ①の配布資料に記載されている要点を復習する 【第 16 回】 予習：調理学で学んだ内容を復習する 授業：調理学の総まとめ② 復習：調理学の総まとめ②の配布資料に記載されている要点を復習する							
17	小林 亘	【第 17 回】 予習：食品学で学んだ内容を復習する 授業：食品学の総まとめ① 復習：食品学の総まとめ①の配布資料に記載されている要点を復習する							
18.19	田崎 仁美	【第 18 回】 予習：給食経営管理論で学んだ内容を復習する 授業：給食経営管理論の総まとめ② 復習：給食経営管理論の総まとめ②の配布資料に記載されている要点を復習する 【第 19 回】 予習：給食経営管理論で学んだ内容を復習する 授業：給食経営管理論の総まとめ③ 復習：給食経営管理論の総まとめ③の配布資料に記載されている要点を復習する							
20.21	工藤 美香	【第 20 回】 予習：臨床栄養学で学んだ内容を復習する 授業：臨床栄養学の総まとめ② 復習：臨床栄養学の総まとめ②の配布資料に記載されている要点を復習する 【第 21 回】 予習：臨床栄養学で学んだ内容を復習する 授業：臨床栄養学の総まとめ③ 復習：臨床栄養学の総まとめ③の配布資料に記載されている要点を復習する							
授業開始前学習		3 年終了時まで学んだすべての専門基礎科目並びに専門科目について、可能な範囲で復習をしておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法		定期的に確認テストを行い、どこまで理解しているのかを確認し、その結果に応じて、個別指導を行う。場合によっては再度、試験、またはレポートを提出させる。							
テキスト・教材		それぞれの授業で使用したテキストを持参すること。その他、適宜資料を配布する。							
参考書		それぞれの授業で使用した参考書や配布資料を持参すること。							
評価の基準と方法		定期試験期間中に行う筆記試験の結果を 1 0 0 %として評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていくとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	△		○
関連科目		すべての専門基礎科目並びに専門科目が関連する。							
その他		開講日時が変則的な場合があります。教員からの連絡や掲示に注意してください。それぞれの専門基礎科目並びに専門科目に用いたテキスト、ノート、配布資料等を整理して、必要な時に持参できるよう準備しておきましょう。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		第 10 回、第 12 回、第 20 回、第 21 回は、行政機関や病院等での医師・管理栄養士としての勤務経験のある者が、経験に基づいた講義を行っている。							

科目分類	210-311-34 (J)			授業コード	GB0310
科目名称	総合演習Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	Comprehensive SeminarⅡ			授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	岡田 昌己			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	健康栄養学科専任			開講時期	4 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	管理栄養士として必要とされる専門知識や技術について、総まとめを行い発展させる。すなわち、4 年前期までに習得したすべての専門基礎科目、専門科目について演習形式で要点の復習を行い、総合演習Ⅰで定着させた基礎的な知識や技術を発展させる。また、各専門科目の知識と他の専門科目の知識とを融合させ、複合的・総合的な理解ができるよう、演習によってトレーニングを行う。この演習により、それぞれの専門基礎科目、専門科目で学んだ内容を総合的に活用し、実践的な管理栄養士業務に応用する能力を養うことを目標とする。				
到達目標	専門基礎科目（公衆衛生学、社会福祉論、健康管理概論、解剖生理学、病理学、臨床医学、生化学、食品学、食品衛生学、調理学）、専門科目（基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理概論）の各分野の内容を、管理栄養士の水準で理解し、複合的・総合的に応用する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	オムニバス
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	児玉 小百合	【第 1 回】 予習：総合演習Ⅰで学んだ公衆衛生学、社会福祉論、健康管理概論総まとめ①の内容を復習する 授業：公衆衛生学、社会福祉論、健康管理概論の総まとめ② 復習：公衆衛生学、社会福祉論、健康管理概論の総まとめ②の配布資料に記載されている要点を復習する			
2	西山 一郎	【第 2 回】 予習：総合演習Ⅰで学んだ生化学①の内容を復習する 授業：生化学の総まとめ② 復習：生化学の総まとめ②の配布資料に記載されている要点を復習する			
3	佐藤 勝重	【第 3 回】 予習：総合演習Ⅰで学んだ解剖生理学、病理学、臨床医学の総まとめ①の内容を復習する 授業：解剖生理学、病理学、臨床医学の総まとめ② 復習：解剖生理学、病理学、臨床医学の総まとめ②の配布資料に記載されている要点を復習する			
4	小林 亘	【第 4 回】 予習：総合演習Ⅰで学んだ食品学の総まとめ①の内容を復習する 授業：食品学の総まとめ② 復習：食品学の総まとめ②の配布資料に記載されている要点を復習する			
5	松本 雄宇	【第 5 回】 予習：総合演習Ⅰで学んだ食品衛生学の総まとめ①の内容を復習する 授業：食品衛生学の総まとめ② 復習：食品衛生学の総まとめ②の配布資料に記載されている要点を復習する			
6	松森 慎悟	【第 6 回】 予習：総合演習Ⅰで学んだ調理学の総まとめ①の内容を復習する 授業：調理学の総まとめ② 復習：調理学の総まとめ②の配布資料に記載されている要点を復習する			
7	曽我部 夏子	【第 7 回】 予習：総合演習Ⅰで学んだ基礎栄養学の総まとめ①の内容を復習する 授業：基礎栄養学の総まとめ② 復習：基礎栄養学の総まとめ②の配布資料に記載されている要点を復習する			
8	岡田 昌己	【第 8 回】 予習：総合演習Ⅰで学んだ応用栄養学の総まとめ①の内容を復習する 授業：応用栄養学の総まとめ③ 復習：応用栄養学の総まとめ③の配布資料に記載されている要点を復習する			
9	三浦 麻子	【第 9 回】 予習：総合演習Ⅰで学んだ応用栄養学の総まとめ②の内容を復習する 授業：応用栄養学の総まとめ④ 復習：応用栄養学の総まとめ④の配布資料に記載されている要点を復習する			
10	大坂 裕子	【第 10 回】 予習：総合演習Ⅰで学んだ栄養教育論の総まとめ①の内容を復習する 授業：栄養教育論の総まとめ② 復習：栄養教育論の総まとめ②の配布資料に記載されている要点を復習する			

11	工藤 美香	【第 11 回】 予習 : 総合演習 I で学んだ臨床栄養学の総まとめ①の内容を復習する 授業 : 臨床栄養学の総まとめ③ 復習 : 臨床栄養学の総まとめ③の配布資料に記載されている要点を復習する							
12	西村 一弘	【第 12 回】 予習 : 総合演習 I で学んだ臨床栄養学の総まとめ②の内容を復習する 授業 : 臨床栄養学の総まとめ④ 復習 : 臨床栄養学の総まとめ④の配布資料に記載されている要点を復習する							
13	児玉 小百合	【第 13 回】 予習 : 総合演習 I で学んだ公衆栄養学の総まとめ①の内容を復習する 授業 : 公衆栄養学の総まとめ② 復習 : 公衆栄養学の総まとめ②の配布資料に記載されている要点を復習する							
14	土岐田 佳子	【第 14 回】 予習 : 総合演習 I で学んだ給食経営管理論の総まとめ①の内容を復習する 授業 : 給食経営管理論の総まとめ③ 復習 : 給食経営管理論の総まとめ③の配布資料に記載されている要点を復習する							
15	田崎 仁美	【第 15 回】 予習 : 総合演習 I で学んだ給食経営管理論の総まとめ②の内容を復習する 授業 : 給食経営管理論の総まとめ④ 復習 : 給食経営管理論の総まとめ④の配布資料に記載されている要点を復習する							
授業開始前学習		4 年前期までに学んだすべての専門基礎科目並びに専門科目について、可能な範囲で復習をしておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法		定期的に確認テストを行い、どこまで理解しているのか確認し、その結果に応じて、個別指導を行う。場合によっては再度、試験、またはレポートを提出させる。							
テキスト・教材		それぞれの授業で使用したテキストを持参すること。その他、適宜資料を配布する。							
参考書		それぞれの授業で使用した参考書や配布資料を持参すること。							
評価の基準と方法		定期試験期間中に行う筆記試験の結果を 1 0 0 %として評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	△		○
関連科目		すべての専門基礎科目並びに専門科目が関連する。							
その他		開講日時が変則的な場合があります。教員からの連絡や掲示に注意してください。それぞれの専門基礎科目並びに専門科目に用いたテキスト、ノート、配布資料等を整理して、必要な時に持参できるよう準備しておきましょう。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		第 3 回、第 11 回、第 12 回は、行政機関や病院等での医師・管理栄養士としての勤務経験のある者が、経験に基づいた講義を行っている。							

科目分類	210-431-12 (J)	授業コード	GB0400
科目名称	フーズスペシャリスト論	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Food Specialist	授業区分	講義
科目責任者	加藤 伸子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤 伸子	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	多様化する食生活の中で、フーズスペシャリストが果たす役割、業務について解説する。食品業者と消費者との間に立って、主に経済性、安全性、文化的側面から食生活に総合的に関わることの出来る知識と情報を身につけ、食の専門職としてフードサービス、フードビジネスの分野においても社会に貢献できる能力を得る機会とする。		
到達目標	本科目は、フーズスペシャリスト資格認定試験に関わる教科である。 授業を通して、フーズスペシャリスト資格認定試験に対応できる為の知識を習得し、各自が授業で得た知識を自分のものとし、応用できる能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	加藤 伸子	【第 1 回】 予習 : テキストを全体的に見て、これから学ぶ内容を確認しておく。 授業 : フーズスペシャリストとは(食の専門職の現状～専門フーズスペシャリスト資格の成立) テキスト 1～14 頁 復習 : 授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。	
2	加藤 伸子	【第 2 回】 予習 : テキスト該当ページを読んでおく。 授業 : フーズスペシャリストの活躍分野～フーズスペシャリストの責務 テキスト 14～26 頁 復習 : 授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。	
3	加藤 伸子	【第 3 回】 予習 : テキスト該当ページを読んでおく。 授業 : 人類と食物 テキスト 27～44 頁 復習 : 授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。	
4	加藤 伸子	【第 4 回】 予習 : テキスト該当ページを読んでおく。 授業 : 世界の食(食作法～食の禁忌と忌避) テキスト 45～52 頁 復習 : 授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。	
5	加藤 伸子	【第 5 回】 予習 : テキスト該当ページを読んでおく。 授業 : 世界各地の食事情 テキスト 53～60 頁 復習 : 授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。	
6	加藤 伸子	【第 6 回】 予習 : テキスト該当ページを読んでおく。 授業 : 日本の食(日本の食物史) テキスト 61～71 頁 復習 : 授業で学んだこと、おくそれに関連している事項を調べノートにまとめる。	
7	加藤 伸子	【第 7 回】 予習 : テキスト該当ページを読んでおく。 授業 : 食の地域差 テキスト 71～78 頁 復習 : 授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。	
8	加藤 伸子	【第 8 回】 予習 : テキスト該当ページを読んでおく。 授業 : 現代日本の食生活(戦後の食生活の変化～食生活の変化と食産業) テキスト 79～93 頁 復習 : 授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。	
9	加藤 伸子	【第 9 回】 予習 : テキスト該当ページを読んでおく。 授業 : 現代の日本の食生活(食料の供給と食料自給率～環境と食) テキスト 94～102 頁 復習 : 授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。	
10	加藤 伸子	【第 10 回】 予習 : テキスト該当ページを読んでおく。 授業 : 食品産業の役割(フードシステムと食品産業～外食産業) テキスト 103～122 頁 復習 : 授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。	
11	加藤 伸子	【第 11 回】 予習 : テキスト該当ページを読んでおく。 授業 : 食品の品質規格と表示(食品の品質規格、表示にかかわる法律～JAS 法による規格) テキスト 123～135 頁 復習 : 授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。	

12	加藤 伸子	【第 12 回】 予習 : テキスト該当ページを読んでおく。 授業 : 食品の品質規格と表示（食品表示法による表示） テキスト 135～156 頁 復習 : 授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。							
13	加藤 伸子	【第 13 回】 予習 : テキスト該当ページを読んでおく。 授業 : 食品の品質規格と表示（健康や栄養に関する表示制度～その他の法律による表示） テキスト 156～172 頁 復習 : 授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。							
14	加藤 伸子	【第 14 回】 予習 : テキスト該当ページを読んでおく。 授業 : 食情報と消費者保護（食情報の発信と受容～消費者保護の制度） テキスト 173～189 頁 復習 : 授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。							
15	加藤 伸子	【第 15 回】 予習 : テキストとノートの内容確認 授業 : 総まとめと過去問題 復習 : 授業で学んだ内容を整理し、認定試験に向けて過去問題を解いてみる。							
授業開始前学習		予習ではテキストを良く読み、関連事項をある程度調べておく姿勢で授業にのぞむことを期待する。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で到達度の確認を行う小テストを実施し、随時解説を行う。							
テキスト・教材		(株)フードスペシャリスト協会編『四訂フードスペシャリスト論』（建帛社）							
参考書		必要に応じて紹介する							
評価の基準と方法		小テスト 30%、試験 50%、平常点（授業態度、課題提出） 20%							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○		
関連科目		調理学、食品学、栄養学、食品衛生学、官能評価論、食品流通論、フードコーディネート論など食に関わる教科は、認定試験に関わるので各教科の復習が大切である。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		加工食品の商品開発、飲食店でのメニュー開発、メニュープロデュース、メディアでのフードコーディネート、食育活動の実務経験あり。 様々な実務経験から得た、現場の実情等も交えた講義を行う。							

科目分類	210-431-12（J）		授業コード	GB0410	
科目名称	フードコーディネイト論		単位数	2.0 単位	
英文名称	Food Coordination		授業区分	講義	
科目責任者	森野 恵子		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	森野 恵子		開講時期	2 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	食を提供する際、食べる側の人間の嗜好や習慣等を理解し、よりおいしく快適に食事ができるよう、メニュー、食空間全体をコーディネートするには、何が必要なのか、フードコーディネートの基礎知識を学ぶ。フードコーディネイト論では「より質の高い食生活はどのようなものか」という視点に立ち、食と感性、食文化、メニュープランニング、サービスマナー、店舗経営、食育について解説する。				
到達目標	フードコーディネイトが食生活に果たしている役割と 価値について理解し、フードスペシャリストとして食の感性を磨き、見極める力を身につける。 広範囲な食場面において必要とされる知識や技術に加えて、人の心に内在する食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性を磨く諸事項を習得する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	森野 恵子	【第 1 回】 予習：テキスト 1 頁 1 3 頁を講読する 授業：1・フードコーディネートの基本理念（テキスト 1 頁 1 3 頁） 復習：「おいしさの本質」また「もてなし」について実生活の中で振り返り、事例を見つて再確認する。			
2	森野 恵子	【第 2 回】 予習：テキスト 1 5 頁 2 7 頁を講読する 授業：2・食事の文化・日本食の歴史（テキスト 1 5 頁 2 7 頁） 復習：日本の食文化を時代背景ごとに特徴をまとめる。			
3	森野 恵子	【第 3 回】 予習：テキスト 2 7 頁 3 3 頁を講読する 授業：3・特別な日の食事・各国の料理（テキスト 2 7 頁 3 3 頁） 復習：年中行事食、諸外国の食事特徴、現在の傾向をまとめる。			
4	森野 恵子	【第 4 回】 予習：テキスト 3 5 頁 4 3 頁を講読する 授業：4・食卓のコーディネート（テキスト 3 5 頁 4 3 頁） 復習：コーディネートの要点、和食器の特徴を覚える。			
5	森野 恵子	【第 5 回】 予習：テキスト 4 3 頁 5 5 頁を講読する 授業：5・テーブルウェア・スタイル（テキスト 4 3 頁 5 5 頁） 復習：中国、西洋の食器、グラス、テーブルウェアの特徴を覚え、スタイルを理解する。			
6	森野 恵子	【第 6 回】 予習：テキスト 5 7 頁 6 6 頁を講読する 授業：6・食卓のサービスとマナー・日本料理・席次（テキスト 5 7 頁 6 6 頁） 復習：サービスとマナーの基本を理解する。日本料理の箸、椀のマナー実践する。			
7	森野 恵子	【第 7 回】 予習：テキスト 6 7 頁 8 0 頁を講読する 授業：7・中国・西洋・プロトコル（テキスト 6 7 頁 8 0 頁） 復習：中国、西洋のマナー、パーティーの種類、プロトコル理解する。			
8	森野 恵子	【第 8 回】 予習：テキスト 8 1 頁 9 8 頁を講読する 授業：8・メニュープランニング（テキスト 8 1 頁 9 8 頁） 復習：メニュープランニングのルールを理解。会席料理と懐石料理の違いを再確認。メニュー開発の傾向を理解する。			
9	森野 恵子	【第 9 回】 予習：テキスト 9 9 頁 1 0 7 頁を講読する 授業：10・食空間のコーディネート・カラーコーディネート（テキスト 9 9 頁 1 0 7 頁） 復習：食空間レイアウトの注意点、カラーコーディネートを再確認する。			
10	森野 恵子	【第 10 回】 予習：テキスト 1 0 8 頁 1 2 1 頁を講読する 授業：11・照明計画・キッチンコーディネート（テキスト 1 0 8 頁 1 2 1 頁） 復習：照明計画、食空間設備、防災計画について理解する。			

11	森野 恵子	【第 11 回】 予習 : テキスト 1 2 3 頁 1 3 4 頁を講読する 授業 : 1 2・フードサービスマネジメント (テキスト 1 2 3 頁 1 3 4 頁) 復習 : フードサービスマネジメントの基礎と飲食店の起業を理解する。						
12	森野 恵子	【第 12 回】 予習 : テキスト 1 3 4 頁 1 4 3 頁を講読する 授業 : 1 3・投資計画と演習問題 (テキスト 1 3 4 頁 1 4 3 頁) 復習 : 損益分岐点売上高算出を暗記し、演習問題を自習。						
13	森野 恵子	【第 13 回】 予習 : テキスト 1 4 5 頁 1 6 3 頁を講読する 授業 : 1 4・食企画の実践コーディネート・演習問題 (テキスト 1 4 5 頁 1 6 3 頁) 復習 : 食企画の流れを理解し、演習問題の課題を作成する。						
14	森野 恵子	【第 14 回】 予習 : テキスト 1 4 5 頁 1 6 3 頁を講読する 授業 : 1 4・食企画の実践コーディネート・演習問題 の提出 (テキスト 1 4 5 頁 1 6 3 頁) 復習 : 他者の企画を参考に、演習問題の課題の手直しを作成する。						
15	森野 恵子	【第 15 回】 予習 : 8 章の演習問題提出後の考察 授業 : 企画書提出の比較説明。フードスペシャリストに期待すること。 復習 : 各自の企画書の再確認。						
授業開始前学習		授業開始前、どのような内容のものか、テキストを一読し、おおまかに把握しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 1 3 回目に作成する企画書は授業 1 3 ～ 14 回目に提出、講評を参照に訂正箇所に関しては授業 1 4 回目までに提出する。						
テキスト・教材		(社) 日本フードスペシャリスト協会編『三訂フードコーディネート論』(建帛社) この他適宜資料を配布する。						
参考書		授業の中で推薦著書を紹介する。						
評価の基準と方法		全回出席が前提の上で、(通常授業の場合) 定期試験 70 点 演習問題「企画書の作成」30 点の配分とする。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		
関連科目		食文化や調理学、フードスペシャリスト論等も合わせて理解することを勧める。						
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容		フードコーディネーター、食育コーディネーターの実務経験を活かし、注意点や役にたった情報等、社会で求められる資質、能力について講義する。						

科目分類	210-431-13	授業コード	GB0420
科目名称	官能評価論	単位数	2.0 単位
英文名称	Theory of Sensory Evaluation	授業区分	講義
科目責任者	寺本 あい	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	寺本 あい	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	食や栄養に関する情報が氾濫する今日では、食の選択の際に必要な知識や技能は多岐にわたる。そのため、快適な食生活を消費者に提案できる力を持つ「食」の専門家としてのフードスペシャリストは、食品に関する深い知識と品質を判定する技術が要求される。授業ではフードスペシャリスト資格取得に必要な食品の物理的・化学的評価法および官能的な評価法についての知識を学ぶ。		
到達目標	フードスペシャリスト資格取得に必要な食品の物理的・化学的評価法および官能的な評価法を学び、各食品について品質を評価し選択できる知識を身に付けることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	寺本 あい	【第 1 回】 予習) 該当部分のテキストを読んでおく。 授業) ガイダンス、序章 食品の品質とは：(1)食品の特性 (2)食品の品質(p.1～2) 復習) 配布した過去問題プリントの第 1 回授業内容にあたる問題を解答する。(テキストを参照して良いので、正しい答えを導き出すことで復習の機会とする。)	
2	寺本 あい	【第 2 回】 予習) 該当部分のテキストを読んでおく。 授業) 第 1 章 官能評価：1.官能評価の概要、2.官能評価の基本と実施法(p.3～30) 復習) 配布した過去問題プリントの第 2 回授業内容にあたる問題を解答する。(テキストを参照して良いので、正しい答えを導き出すことで復習の機会とする。)	
3	寺本 あい	【第 3 回】 予習) 該当部分のテキストを読んでおく。 授業) 第 2 章 化学的評価法：1.食品成分と品質 p.31～50) 復習) 配布した過去問題プリントの第 3 回授業内容にあたる問題を解答する。(テキストを参照して良いので、正しい答えを導き出すことで復習の機会とする。)	
4	寺本 あい	【第 4 回】 予習) 該当部分のテキストを読んでおく。 授業) 第 2 章 化学的評価法：2.化学的品質評価(p.50～59) 復習) 配布した過去問題プリントの第 4 回授業内容にあたる問題を解答する。(テキストを参照して良いので、正しい答えを導き出すことで復習の機会とする。)	
5	寺本 あい	【第 5 回】 予習) 該当部分のテキストを読んでおく。 授業) 第 3 章 物理的評価法：1.食品の状態 2.レオロジーとテクスチャー (p.60～69) 復習) 配布した過去問題プリントの第 5 回授業内容にあたる問題を解答する。(テキストを参照して良いので、正しい答えを導き出すことで復習の機会とする。)	
6	寺本 あい	【第 6 回】 予習) 該当部分のテキストを読んでおく。 授業) 第 3 章 物理的評価法：3.物理的性質の評価法(p.69～78) 復習) 配布した過去問題プリントの第 6 回授業内容にあたる問題を解答する。(テキストを参照して良いので、正しい答えを導き出すことで復習の機会とする。)	
7	寺本 あい	【第 7 回】 予習) 該当部分のテキストを読んでおく。 授業) 第 3 章 物理的評価法：4.色の評価方法 5.非破壊検査法(p.79～85) 復習) 配布した過去問題プリントの第 7 回授業内容にあたる問題を解答する。(テキストを参照して良いので、正しい答えを導き出すことで復習の機会とする。)	
8	寺本 あい	【第 8 回】 予習) 教科書の見直し、過去問題プリントの解き直しなど、第 7 回 (第 1 章～第 3 章) までの総復習を行う。 授業) 中間小テスト(範囲：第 1 章～第 3 章)と解説 復習) 教科書・過去問題プリントを再度見直し、中間小テストの正答を確認しておく。	
9	寺本 あい	【第 9 回】 予習) 該当部分のテキストを読んでおく。 授業) 第 4 章 個別食品の鑑別：1.米 2.麦類 3.トウモロコシ 4.雑穀類(p.87～106) 復習) 配布した過去問題プリントの第 9 回授業内容にあたる問題を解答する。(テキストを参照して良いので、正しい答えを導き出すことで復習の機会とする。)	

10	寺本 あい	【第 10 回】 予習) 該当部分のテキストを読んでおく。 授業) 第 4 章 個別食品の鑑別: 5.イモ類 6.豆類 7.種実類 (p.107~118) 復習) 配布した過去問題プリントの第 10 回授業内容にあたる問題を解答する。(テキストを参照して良いので、正しい答えを導き出すことで復習の機会とする。)						
11	寺本 あい	【第 11 回】 予習) 該当部分のテキストを読んでおく。 授業) 第 4 章 個別食品の鑑別: 8.野菜, キノコ類 9.果実類 10.海藻類(p.118~138) 復習) 配布した過去問題プリントの第 11 回授業内容にあたる問題を解答する。(テキストを参照して良いので、正しい答えを導き出すことで復習の機会とする。)						
12	寺本 あい	【第 12 回】 予習) 該当部分のテキストを読んでおく。 授業) 第 4 章 個別食品の鑑別: 11.魚介類 12.肉類(p.139~161) 復習) 配布した過去問題プリントの第 12 回授業内容にあたる問題を解答する。(テキストを参照して良いので、正しい答えを導き出すことで復習の機会とする。)						
13	寺本 あい	【第 13 回】 予習) 該当部分のテキストを読んでおく。 授業) 第 4 章 個別食品の鑑別: 13.卵とその加工品 14.乳と乳製品 15.油脂 16.菓子類 (p.162~187) 復習) 配布した過去問題プリントの第 13 回授業内容にあたる問題を解答する。(テキストを参照して良いので、正しい答えを導き出すことで復習の機会とする。)						
14	寺本 あい	【第 14 回】 予習) 該当部分のテキストを読んでおく。 授業) 第 4 章 個別食品の鑑別: 17.酒類 18.茶類 19.コーヒー, ココア 20.清涼飲料 21.醸造食品 (p.187~217) 復習) 配布した過去問題プリントの第 14 回授業内容にあたる問題を解答する。(テキストを参照して良いので、正しい答えを導き出すことで復習の機会とする。)						
15	寺本 あい	【第 15 回】 予習) 該当部分のテキストを読んでおく。 授業) 第 4 章 個別食品の鑑別: 22.調味料 23.香辛料 24.インスタント食品 25.冷凍食品 26.弁当 27.機能性食品(p.217~243) 復習) 配布した過去問題プリントの第 14 回授業内容にあたる問題を解答する。(テキストを参照して良いので、正しい答えを導き出すことで復習の機会とする。) 第 1 回~第 15 回までの総復習として、テキストの見直し、過去問題プリントの解き直しを行う。 ※但し、各回の授業範囲は、授業進度により変動することがある。						
授業開始前学習		前年度までに履修済みの調理学、食品学分野の科目について復習をしておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		各回の復習として用いる過去問題プリントについては、次の授業で解答を配布し、必要に応じて解説を行う。 さらに、毎回過去問題プリントをもとに改変した小テストを classroom 機能を用いて行う。 授業内で実施予定の中間小テストの結果は、受験者本人の希望に応じて個別に開示する。						
テキスト・教材		(公社) 日本フードスペシャリスト協会編『三訂 食品の官能評価・鑑別演習』(建帛社)						
参考書		必要に応じて授業内で推薦図書を紹介、あるいは資料プリント配布する。						
評価の基準と方法		定期試験(70%)、授業内での中間小テスト(30%)で評価する。但し、10%の範囲内で平常点(授業態度・過去問題復習取組状況等)を加味する場合がある。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていくとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○	△	
関連科目	フードスペシャリスト関連科目および調理学・食品学関連科目。							
その他	原則、フードスペシャリスト受験(資格取得)を希望する方向けの科目となります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間(4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-431-13	授業コード	GB0430
科目名称	食品流通論	単位数	2.0 単位
英文名称	Food Marketing	授業区分	講義
科目責任者	津久井 学	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	津久井 学	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	食品は私達の生命と健康を維持し、豊かな食生活を過ごすうえで欠かすことのできないものであり、さまざまな流通過程を経て私たちの手元に届けられる。「食品流通」はこうした流通過程を橋渡しする機能を果たしている。その一方、食品流通には私たちの生活に欠かすことのできない食料を消費者に安全に届けるという重要な社会的使命を担っている。発展と変革が著しいわが国における「食品の消費と流通」の現状を理解し、フーズスペシャリストとして消費者がよりよい食品選択を行えるよう知識を修得する。		
到達目標	食品流通論は、フーズスペシャリスト養成課程の「食品流通・消費に関する科目」として、2 単位を修得することとなり、フーズスペシャリスト資格認定試験では 7/60 問、専門フーズスペシャリスト（食品流通・サービス）資格認定試験では 10/60 問出題される。本科目では、食品消費の態様と食品流通の基本的な仕組みとその重要性について修得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	津久井 学	【第 1 回】 予習：テキストの構成（目次）と 2-17 ページの購読 授業：ガイダンス&食市場の変化 1.豊かな食生活を支える食市場について理解する[テキスト p.2-17] 復習：食品産業とその変遷、食品産業の技術発展などを理解する	
2	津久井 学	【第 2 回】 予習：テキスト 17-27 ページの購読 授業：2.消費者の食品消費の変化[テキスト p.17-27] 復習：食品消費の変化、食品の価格決定と所得弾力性、価格弾力性、食品消費の変化、加工食品の増加などの理解	
3	津久井 学	【第 3 回】 予習：テキスト 27-32 ページの購読 授業：3.食生活の多様化[テキスト p.27-32] 復習：多様化をもたらす社会的要因、健康志向の高まり、食情報の多様化の理解	
4	津久井 学	【第 4 回】 予習：テキスト 33-47 ページの購読 授業：第 1-3 回の復習（課題解決型学習）、食品の流通 1.食品流通の役割と社会的使命 2.卸売流通が必要な食品流通[テキスト p.33-47] 復習：食品流通・卸売流通・小売流通の役割、流通の社会的使命、生鮮食品・加工食品の流通の理解	
5	津久井 学	【第 5 回】 予習：テキスト 48-58 ページの購読 授業：3.食品の小売流通[テキスト p.48-58] 復習：販売形態の分類、多様な小売業態、食品小売業の機能の理解	
6	津久井 学	【第 6 回】 予習：テキスト 59-69 ページの購読 授業：外食・中食産業のマーチャライジング[テキスト p.59-69] 復習：外食産業の業態、食材流通、中食産業の業態、販売形態の理解	
7	津久井 学	【第 7 回】 予習：テキスト 71-80 ページの購読 授業：第 4-6 回の復習（課題解決型学習）、主要食品の流通 1.商品の分類 2.温度帯別食品流通[テキスト p.71-80] 復習：商品特性の基本的分類、商品の制度的分類、常温・恒温・冷蔵・冷凍流通の理解	
8	津久井 学	【第 8 回】 予習：テキスト 80-93 ページの購読 授業：3.主要食品の流通 [テキスト p.80-93] 復習：米、小麦粉製品、野菜・果物、魚介類と魚介加工品、食肉と食肉加工品の流通の理解	
9	津久井 学	【第 9 回】 予習：テキスト 93-107 ページの購読 授業：3.主要食品の流通 [テキスト p.93-107] 復習：鶏卵、飲用乳、乳製品、大豆加工品、漬物・佃煮、惣菜食品の流通の理解	
10	津久井 学	【第 10 回】 予習：テキスト 107-124 ページの購読 授業：第 7-9 回の復習（課題解決型学習）、3.主要食品の流通 [テキスト p.107-124] 復習：食用油脂、調味料、菓子、茶・コーヒー類、清涼飲料、酒類の流通の理解	

11	津久井 学	【第 11 回】 予習：テキスト 125-138 ページの購読 授業：フードマーケティング [テキスト p.125-138] 復習：フードビジネス、フードマーケティングの理解							
12	津久井 学	【第 12 回】 予習：テキスト 139-143 ページの購読 授業：食料消費の課題 1.食料消費と環境問題 [テキスト p.139-143] 復習：3R、食品リサイクルと廃棄物、ロス、フードマイレージ、LCA、バーチャルウォーターの理解							
13	津久井 学	【第 13 回】 予習：テキスト 144-147 ページの購読 授業：第 10-12 回の復習（課題解決型学習）、2.食品流通の安全確保 [テキスト p.144-147] 復習：食品の安全性、アレルギー表示、トレーサビリティ、残留農薬、GAP、HACCP、企業倫理の理解							
14	津久井 学	【第 14 回】 予習：テキスト 147-152 ページの購読 授業：食料消費を取り巻く課題 [テキスト p.147-152] 復習：買物難民、風評被害、地産地消、食育の取り組み、TPP、食料生産と異常気象の理解							
15	津久井 学	【第 15 回】 予習：第 1-14 回の講義内容の整理 授業：映像を通して、食品流通への理解をさらに深める 復習：本講義を通して、キーワードを理解し覚える							
授業開始前学習		食品関連キーワードがでてきますので、これまでに学んだ食品関連科目を整理・理解しておく							
授業内課題のフィードバックの方法		実施した小テストは、原則、授業時に返却するとともに、課題についてはオンラインツールである GSE クラスルーム上で評価コメントする							
テキスト・教材		日本フードスペシャリスト協会編『四訂 食品の消費と流通』（建帛社 ISBN/978-4-7679-0687-4）							
参考書		食品関連科目の教科書							
評価の基準と方法		課題（5 回）60％ 小テスト（5 回）40％							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○		
関連科目		フードスペシャリスト関連科目および食品関連科目							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-310-12 (J)			授業コード	GB0361
科目名称	臨床心理学 I			単位数	2.0 単位
英文名称	Clinical Psychology I			授業区分	講義
科目責任者	吉野 菜穂子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	吉野 菜穂子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10			研究室	4-202
授業概要	管理栄養士は、乳児から高齢者まであらゆる年代の「食」に関する相談を受け、適切な支援を提供することが求められる。そこで、「臨床心理学 I」では、まず乳児期から青年期までの心と身体の特徴や課題、それぞれのステージで生じやすいとされる心理的な問題（葛藤）について学ぶ。そして、支援対象者の「食」に関する問題が、本人にとってどのような意味を持つものであるか考えていく。				
到達目標	乳児期から青年期までの心身の発達と発達課題について理解できるようになることを目指す。また、それぞれの発達段階において生じやすい心身の問題について理解し、具体的な支援内容と支援する際の留意点について理解できるようになることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	吉野 菜穂子	【第 1 回】 予習：シラバスを読む 授業：ガイダンス：授業の概要を説明する 復習：ガイダンスを受けて、自分の興味関心、疑問点などをまとめる			
2	吉野 菜穂子	【第 2 回】 予習：乳児期の子どもの発達について調べる 授業：乳児期の発達の特徴、発達課題について学ぶ 復習：レジュメを読み返し、乳児期の発達の特徴についてふりかえる			
3	吉野 菜穂子	【第 3 回】 予習：乳児期に起こりやすい心身の問題について調べる 授業：乳児期の問題と病理、その支援 復習：レジュメを読み返し、乳児期に生じやすい問題について理解を深める			
4	吉野 菜穂子	【第 4 回】 予習：幼児期の子どもの発達について調べる 授業：幼児期の心身発達の特徴と発達課題 復習：レジュメを読み返し、幼児期の発達の特徴をまとめる			
5	吉野 菜穂子	【第 5 回】 予習：幼児期に起こりやすい心身の問題について調べる 授業：幼児期の問題と病理、その支援（グループワーク） 復習：レジュメとグループディスカッションの内容をふりかえり、幼児期の子どもへの支援について理解を深める			
6	吉野 菜穂子	【第 6 回】 予習：児童期前期（小学校 1 から 3 年頃）の子どもの発達について調べる 授業：児童期前期の心身の発達特徴と課題 復習：レジュメを読み返し、児童期前期の子どもの発達の特徴を理解する			
7	吉野 菜穂子	【第 7 回】 予習：児童期前期の子どもの心身の問題について調べる 授業：児童期前期の心身の問題と支援 復習：レジュメを読み返し、児童期前期で生じやすい心身の問題を理解する			
8	吉野 菜穂子	【第 8 回】 予習：児童期後期（小学校 4 から 6 年頃）の子どもの発達について調べる 授業：児童期後期の子どもの発達特徴と課題 復習：レジュメを読み返し、児童期後期の子どもの発達の特徴をまとめる			
9	吉野 菜穂子	【第 9 回】 予習：児童期後期（前思春期を含む）に生じやすい心身の問題について調べる 授業：児童期後期の問題と病理、その支援 復習：レジュメを読み返し、児童期後期の子どもの問題と支援について理解する			
10	吉野 菜穂子	【第 10 回】 予習：思春期（中学生を中心）の発達の特徴を調べる 授業：思春期の心身の発達特徴と発達課題 復習：レジュメを読み返し、思春期の特徴について理解を深める			
11	吉野 菜穂子	【第 11 回】 予習：思春期（中学生を中心）に生じやすい心身の問題を調べる 授業：思春期の問題と病理、その支援 復習：レジュメを読み返し、思春期の病理と支援のあり方についてふりかえる			

12	吉野 菜穂子	【第 12 回】 予習：思春期（高校生を中心）の発達のテーマについて調べる 授業：思春期の発達課題 復習：レジュメを読み返し、高校生の発達のテーマについてまとめる							
13	吉野 菜穂子	【第 13 回】 予習：思春期の子どもを育てる保護者の発達課題について調べる 授業：思春期（中学生から高校生を中心に）の子どもを育てる親の課題と支援 復習：レジュメを読み返し、思春期の子どもと保護者との関係についてまとめる							
14	吉野 菜穂子	【第 14 回】 予習：青年期の発達課題について調べる 授業：青年期の発達課題について 復習：レジュメを読み返し、青年期の特徴について理解を深める							
15	吉野 菜穂子	【第 15 回】 予習：青年期に生じやすい問題について調べる 授業：青年期の問題と病理、その支援 復習：レジュメを読み返し、青年期に生じやすい問題と対応についてまとめる							
授業開始前学習		心理学Ⅰ、心理学Ⅱの教科書や配布資料を確認し、人間の基本的な心の動きについて確認しておく。授業内容がスムーズに理解できる。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題については、授業の時間内でポイントの解説、次回の課題にむけた改善点などを説明する。							
テキスト・教材		授業内で配布するレジュメや資料を中心に講義を行う。							
参考書		永井徹監修／青木紀久代・平野直己共編『乳幼児期・児童期の臨床心理学』培風館 永井徹監修／井上果子・神谷栄治共編『思春期・青年期の臨床心理学』培風館							
評価の基準と方法		試験の成績と授業内課題の提出（100％）により評価を行う。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	○		◎		△	
関連科目		心理学Ⅰ、心理学Ⅱ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		精神科病院にて臨床心理士として心理療法の経験、小学校や中学校にてスクールカウンセラーとしてカウンセリングの経験あり。相談業務の経験を活かし、児童、思春期の精神病理や保護者支援について講義する。							

科目分類	210-310-12（J）			授業コード	GB0371
科目名称	臨床心理学Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Clinical PsychologyⅡ			授業区分	講義
科目責任者	吉野 菜穂子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	吉野 菜穂子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10			研究室	4-202
授業概要	「臨床心理学Ⅰ」からの継続として、講義の前半は成人期から老年期における心身の発達と、各発達段階における心理社会的な発達課題について学ぶ。講義の後半では、認知症や小児医療、緩和ケアにおける患者理解と支援のあり方について学ぶ。				
到達目標	成人期から老年期までの心身の発達と発達課題、それぞれの発達段階で生じやすいと考えられているこころの問題とその支援について理解できるようになることを目標とする。また、認知症や小児医療、緩和ケアについて理解し、管理栄養士として支援する際に必要とされる基本的なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	吉野 菜穂子	【第 1 回】 予習：シラバスを読む 授業：ガイダンス：講義概要を説明します。 復習：ガイダンスを受け、自分の興味関心のポイント、疑問点などを取り上げておく			
2	吉野 菜穂子	【第 2 回】 予習：自己表現について調べ、キーワードをまとめておく。 授業：自己表現のタイプについて学ぶ。 復習：レジュメを読み返して、自己表現についての理解を深める。			
3	吉野 菜穂子	【第 3 回】 予習：成人期の発達について文献に触れる 授業：成人期の発達の特徴、発達課題について学ぶ 復習：成人期の発達の特徴、発達課題についてふりかえる			
4	吉野 菜穂子	【第 4 回】 予習：成人期に生じやすい課題について考える 授業：成人期に生じやすい心理的問題と支援のあり方について学ぶ 復習：成人期に生じやすい心理的問題の理解と支援のあり方についてふりかえる			
5	吉野 菜穂子	【第 5 回】 予習：中年期の発達について文献にふれる 授業：中年期の発達の特徴、発達課題について学ぶ 復習：中年期の発達の特徴、発達課題についてふりかえる			
6	吉野 菜穂子	【第 6 回】 予習：中年期における心の問題について考える 授業：中年期の問題と病理、支援のあり方について学ぶ 復習：中年期の問題と病理、支援のあり方についてふりかえる			
7	吉野 菜穂子	【第 7 回】 予習：老年期の発達について文献にふれる 授業：老年期の発達の特徴、発達課題について学ぶ 復習：老年期の発達の特徴、発達課題についてふりかえる			
8	吉野 菜穂子	【第 8 回】 予習：老年期の心の問題について考える 授業：老年期の問題と病理、支援のあり方について学ぶ 復習：老年期の問題と病理、支援のあり方についてふりかえる			
9	吉野 菜穂子	【第 9 回】 予習：認知症について文献にふれる 授業：認知症の定義、症状について学ぶ（グループワーク） 復習：認知症の症状と支援のあり方をグループディスカッションの内容を含めふりかえる			
10	吉野 菜穂子	【第 10 回】 予習：認知症に関する文献にふれる 授業：認知症の種類と症状について学ぶ（アルツハイマー病について） 復習：アルツハイマー病の症状と支援のあり方についてふりかえる			
11	吉野 菜穂子	【第 11 回】 予習：認知症について文献にふれる 授業：認知症の種類と症状について学ぶ（レビー小体型認知症など） 復習：レビー小体型認知症などの症状支援のあり方についてふりかえる			

12	吉野 菜穂子	【第 12 回】 予習 : がん医療（小児から成人）について文献にふれる 授業 : がんの診断から初期治療までの流れと患者の心の動きについて学ぶ 復習 : がんの治療の流れと患者支援についてふりかえる							
13	吉野 菜穂子	【第 13 回】 予習 : がん医療について文献にふれる 授業 : 再発から看取りまでの治療の流れと患者の心の動きについて学ぶ 復習 : がんの治療の流れと患者支援についてふりかえる							
14	吉野 菜穂子	【第 14 回】 予習 : 小児医療について文献にふれる 授業 : 小児医療と治療の流れについて学ぶ 復習 : 小児医療と患者支援についてふりかえる							
15	吉野 菜穂子	【第 15 回】 予習 : 小児緩和医療について文献にふれる 授業 : 小児緩和医療と家族支援について学ぶ 復習 : 小児医療と家族支援についてふりかえる							
授業開始前学習		参考書や関連文献、研究論文を事前に読んでおく授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内課題については、次回の授業内で解説を行う。							
テキスト・教材		講義の中で配布するレジュメ、資料を中心に授業を行う。							
参考書		永井徹監修／田中信市・下川昭夫共著『ライフサイクルの臨床心理学シリーズ 3 中年期・老年期の臨床心理学』培風館							
評価の基準と方法		試験の成績と授業内課題の提出（100％）により評価を行う。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	○		◎		△	
関連科目		心理学Ⅰ・Ⅱ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		精神科病院や心療内科クリニックにて臨床心理士として心理療法の経験あり。相談業務の経験を活かし、成人期以降に生じやすい精神病理とその支援について講義する。							

科目分類	210-430-23 (J)			授業コード	GB0380
科目名称	臨床心理学演習			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Clinical Psychology			授業区分	演習・実習・実験
科目責任者	吉野 菜穂子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	吉野 菜穂子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10			研究室	4-202
授業概要	栄養指導の場面では、食生活に加えて家族関係や仕事、対人関係のストレスなど心理的な課題を抱えるクライアントに出会うことが少なくない。そこで、本授業では、最初に精神分析的な人格理論の基礎を学び、その後、創作事例を用いたロールプレイやグループディスカッションを通してクライアントの心の動きや支援者の対応のあり方を体験的に学ぶ。				
到達目標	ロールプレイやグループディスカッションを通して、食生活改善への意欲を語らない、または明らかに拒否的な態度を示すクライアントに対して、その個人が抱えている心理的、社会的な背景にも目を向け、対話を通して適切な支援を検討することができるようになることを目指す。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	吉野 菜穂子	【第 1 回】 予習 : シラバスを読む 授業 : ガイダンス : 授業概要の説明 復習 : ガイダンスを受けて、自分の興味関心のある内容、疑問点などをまとめる			
2	吉野 菜穂子	【第 2 回】 予習 : 食生活が乱れる要因について調べる 授業 : 精神分析的な人格理論-1 復習 : レジュメをふりかえり、要点をまとめる			
3	吉野 菜穂子	【第 3 回】 予習 : 第 2 回のレジュメをふりかえり、食生活の問題と心理的負荷について調べる 授業 : 精神分析的な人格理論-2 復習 : レジュメをふりかえり、こころの機能について要点をまとめる			
4	吉野 菜穂子	【第 4 回】 予習 : 第 3 回のレジュメをふりかえり、心理的負荷がかかった際の心的反応を調べる 授業 : 精神分析的な人格理論-3 復習 : レジュメを読み返し、防衛機制についてまとめる			
5	吉野 菜穂子	【第 5 回】 予習 : 糖尿病の症状と治療について調べる 授業 : 事例の読み方を学ぶ (グループディスカッション) 復習 : 栄養指導の際の情報収集の仕方についてまとめる			
6	吉野 菜穂子	【第 6 回】 予習 : (事前課題) 事例-1 を読み、栄養指導の改善点をまとめる 授業 : 事例検討-1 : 糖尿病の治療中断事例 (ロールプレイとグループディスカッション) 復習 : 創作事例-1 を通して理解したことや気づきをまとめる			
7	吉野 菜穂子	【第 7 回】 予習 : (事前課題) 事例-2 を読み、栄養指導の改善点をまとめる 授業 : 事例検討-2 : 小児肥満事例 (ロールプレイとグループディスカッション) 復習 : 創作事例-2 を通して理解したことや気づきをまとめる			
8	吉野 菜穂子	【第 8 回】 予習 : (事前課題) 事例-3 を読み、栄養指導の改善点をまとめる 授業 : 事例検討-3 : 小児入院治療事例 (ロールプレイとグループディスカッション) 復習 : 創作事例-3 を通して理解したことや気づきをまとめる			
9	吉野 菜穂子	【第 9 回】 予習 : (事前課題) 事例-4 を読み、栄養指導の改善点をまとめる 授業 : 事例検討-4 : 経済的困難を抱える事例 (ロールプレイとグループディスカッション) 復習 : 創作事例-4 を通して理解したことや気づきをまとめる			
10	吉野 菜穂子	【第 10 回】 予習 : (事前課題) 事例-5 を読み、栄養指導の改善点をまとめる 授業 : 事例検討-5 : 高度肥満事例 (ロールプレイとグループディスカッション) 復習 : 創作事例-5 を通して理解したことや気づきをまとめる			
11	吉野 菜穂子	【第 11 回】 予習 : (事前課題) 事例-6 を読み、栄養指導の改善点をまとめる 授業 : 事例検討-6 : うつ病と糖尿病治療の事例 (ロールプレイとグループディスカッション) 復習 : 創作事例-6 を通して理解したことや気づきをまとめる			

12	吉野 菜穂子	【第 12 回】 予習 : (事前課題) 事例-7 を読み、栄養指導の改善点をまとめる 授業 : 事例検討-7 : 依存に課題を抱える事例 (ロールプレイとグループディスカッション) 復習 : 創作事例-7 を通して理解したことや気づきをまとめる							
13	吉野 菜穂子	【第 13 回】 予習 : 摂食障害について調べる 授業 : 摂食障害の特徴と治療について学ぶ 復習 : レジメをふりかえり、要点をまとめる							
14	吉野 菜穂子	【第 14 回】 予習 : (事前課題) 事例-8 を読み、栄養指導の改善点をまとめる 授業 : 事例検討-8 : 思春期の摂食障害事例 (ロールプレイとグループディスカッション) 復習 : 創作事例-8 を通して理解したことや気づきをまとめる							
15	吉野 菜穂子	【第 15 回】 予習 : がん治療と終末期患者の生活について調べる 授業 : 事例検討-9 : 終末期患者の事例 (グループディスカッション) 復習 : 創作事例-9 を通して理解したことや気づきをまとめる							
授業開始前学習		配付されたレジメや課題を読み、関心のある内容や理解の難しい内容、新しい医療用語については図書館等で調べ、基本的な意味が理解できるように準備をする							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内課題については、次回の授業内で解説を行う。							
テキスト・教材		授業内で配布するレジメ、資料、事前課題を中心に講義を行う							
参考書		適宜授業内で紹介する							
評価の基準と方法		授業内課題と授業態度 (50%) とまとめレポート (50%) の提出により評価を行う。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		◎		○	△
関連科目		心理学Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学Ⅰ・Ⅱ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		精神科病院や心療内科クリニックにて臨床心理士として心理療法の経験あり。相談業務の経験を活かし、クライアント理解や信頼関係構築に向けた支援者の態度、言語的コミュニケーションについて講義する。							

科目分類	210-310-13 (J)			授業コード	GB0391
科目名称	カウンセリング論			単位数	2.0 単位
英文名称	Counseling Studies			授業区分	講義
科目責任者	吉野 菜穂子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	吉野 菜穂子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10			研究室	4-202
授業概要	本講義では、管理栄養士としてクライアントやその家族へ支援を提供する際に必要とされる基本的なカウンセリングの知識や技術について学ぶ。前半の授業では、カウンセリングにおける場の設定や支援者としての姿勢、面接を通じた情報収集、伝達の方法について学ぶ。後半の授業では、創作事例やグループワークを通して栄養指導に必要とされるコミュニケーションについて学ぶ。				
到達目標	臨床現場で栄養指導（カウンセリング）を行う際に必要な知識や技術、支援者に求められる姿勢について理解できるようになることを目標とする。また、創作事例に取り組むことでクライアントや支援者自身のこころの動きや行動、言葉の意味を理解し、栄養指導（カウンセリング）の中で適切に生かせるようになることを目指す。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	吉野 菜穂子	【第 1 回】 予習 : シラバスを読む 授業 : ガイダンス : 講義概要の説明 復習 : ガイダンスを受けて、自分の興味関心のある内容、疑問などをまとめる			
2	吉野 菜穂子	【第 2 回】 予習 : 第 2 回のレジュメに目を通して内容を確認しておく 授業 : プレゼンテーションと KJ 法について学ぶ (グループワーク) 復習 : 自分の分析結果から、栄養指導を行う際の心構えについてふりかえる			
3	吉野 菜穂子	【第 3 回】 予習 : カウンセリングが求められる社会的背景について調べ、キーワードをまとめる 授業 : 現代社会においてカウンセリングが求められる背景について学ぶ 復習 : レジュメと資料を読み返し、カウンセリングが求められる背景について理解を深める			
4	吉野 菜穂子	【第 4 回】 予習 : カウンセリングを行う際に必要なことを調べる 授業 : カウンセリングの場の設定、支援者の姿勢について学ぶ (グループワーク) 復習 : レジュメと資料を読み返し、理解したことや気づきをまとめる			
5	吉野 菜穂子	【第 5 回】 予習 : 非言語的コミュニケーションについて、キーワードをまとめる 授業 : 非言語的コミュニケーションとその意味について学ぶ (ワークシート) 復習 : レジュメと資料を読み返し、非言語的コミュニケーションについて理解を深める			
6	吉野 菜穂子	【第 6 回】 予習 : 非言語的コミュニケーションのワークシートを読み返す 授業 : 非言語的コミュニケーションとその意味について学ぶ (解説とふりかえり) 復習 : レジュメと解説資料から、非言語的コミュニケーションについて理解を深める			
7	吉野 菜穂子	【第 7 回】 予習 : クライアント中心療法について調べ、キーワードをまとめる 授業 : クライアント中心療法について学ぶ 復習 : ワークシートを読み返し、クライアント中心療法について理解を深める			
8	吉野 菜穂子	【第 8 回】 予習 : 交流分析について調べ、キーワードをまとめる 授業 : 交流分析について学ぶ 復習 : レジュメと資料を読み返し、交流分析についての理解を深める			
9	吉野 菜穂子	【第 9 回】 予習 : 行動療法について調べ、キーワードをまとめる 授業 : 行動療法について学ぶ 復習 : レジュメと資料を読み返し、行動療法について理解を深める			
10	吉野 菜穂子	【第 10 回】 予習 : 認知行動療法について調べ、キーワードをまとめる 授業 : 認知行動療法について学ぶ-1 (基本編) 復習 : レジュメと資料を読み返し、認知行動療法について理解を深める			
11	吉野 菜穂子	【第 11 回】 予習 : 認知行動療法について調べ、キーワードをまとめる 授業 : 認知行動療法について学ぶ-2 (実践編 : グループワーク) 復習 : ワークシートを読み返し、認知変容について理解を深める			

12	吉野 菜穂子	【第 12 回】 予習 : 「共感」と「同意」について調べ、キーワードをまとめる 授業 : カウンセリング場面における「共感」と「同意」の違いについて学ぶ-1（基礎編） 復習 : レジュメを読み返して、ワークシートへの記載をすすめる							
13	吉野 菜穂子	【第 13 回】 予習 : 「共感」と「同意」について調べ、キーワードをまとめる 授業 : カウンセリング場面における「共感」と「同意」の違いについて学ぶ-2（実践編：グループワーク） 復習 : レジュメと解説資料を読み返して、「共感」について理解を深める							
14	吉野 菜穂子	【第 14 回】 予習 : 「怒り」の感情について調べ、キーワードをまとめる 授業 : プレーンストーミングと KJ 法を用いて「怒り」の背景について学ぶ 復習 : 自分の分析結果をふりかえり、ワークシートへ取り組む							
15	吉野 菜穂子	【第 15 回】 予習 : 「怒り」への対応のワークシートを読み返し、不足部分について調べる 授業 : 「怒り」を表現するクライアントへの理解と対応について学ぶ（グループワーク） 復習 : ワークシートをレジュメを読み返し、「怒り」の感情についての理解を深める							
授業開始前学習		臨床心理学Ⅰ・Ⅱのレジュメを読み、内容を復習しておく授業の内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内課題については、基本的には次の講義内で解説を行う。							
テキスト・教材		授業内で配布するレジュメや資料を中心に講義を行う。							
参考書		授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		試験 80%、平常点（授業態度、授業内ワークシートの提出） 20%により評価を行う。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	○		◎		○	
関連科目		臨床心理学Ⅰ・Ⅱ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		精神科病院や心療内科クリニックにて臨床心理士として心理療法の経験あり。相談業務の経験を活かし、相談者との信頼関係構築に向けた支援者の態度や言語的コミュニケーションについて講義する。							

科目分類	210-430-24	授業コード	GB9901
科目名称	卒業研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Graduation Projects	授業区分	
科目責任者	小澤 多賀子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小澤 多賀子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:10 後期 金曜日 09:00～12:10	研究室	16-103
授業概要	研究テーマは、「運動」と「食事」の両面を対象者の健康づくりを支援するものを推奨する。また、健康増進や介護予防に関する研究も行える。 具体的な進め方は、ステップ 1 として研究を遂行するための基礎能力をつける学習を行う。ステップ 2 では卒業研究のテーマを検討し、ステップ 3 で研究データの収集と分析、ステップ 4 で卒業研究論文の執筆もしくは卒業研究の発表とする。なお、本授業はプレゼンテーションやディスカッションを含む。		
到達目標	・自分が興味のある研究テーマに対して課題を整理し、課題解決のための目的を設定できるようになる。 ・設定した研究目的を明らかにするための研究デザインを設計し、それを実行できるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小澤 多賀子	【第 1 回】 予習：興味のある研究テーマの下調べ 授業：授業の方針 興味のある研究テーマの発表 復習：授業の方針の確認	
2	小澤 多賀子	【第 2 回】 予習：研究論文の検索方法の下調べ 授業：研究論文の選び方と読み方（1）論文の検索方法 復習：インターネットなどでの研究論文の検索	
3	小澤 多賀子	【第 3 回】 予習：興味のあるテーマの先行研究論文について複数検索 授業：研究論文の選び方と読み方（2）論文の読み方のコツ 復習：参考とする研究論文の一読	
4	小澤 多賀子	【第 4 回】 予習：参考とする先行研究論文を閲読し、要点の整理 授業：論文抄読（1）（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：内容に対する議論の整理	
5	小澤 多賀子	【第 5 回】 予習：参考とする先行研究論文を閲読し、要点の整理 授業：論文抄読（2）（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：内容に対する議論の整理	
6	小澤 多賀子	【第 6 回】 予習：参考とする先行研究論文を閲読し、要点の整理 授業：論文抄読（3）（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：内容に対する議論の整理	
7	小澤 多賀子	【第 7 回】 予習：興味のある研究テーマの選出 授業：研究テーマの検討（1）研究課題の整理 復習：研究課題の再整理	
8	小澤 多賀子	【第 8 回】 予習：興味のある研究テーマの選出 授業：研究テーマの検討（2）研究目的の設定 復習：研究目的の再整理	
9	小澤 多賀子	【第 9 回】 予習：研究対象者の選定 授業：研究データの収集（1）（フィールドワーク） 復習：収集データ項目の整理	
10	小澤 多賀子	【第 10 回】 予習：研究データ収集の事前準備 授業：研究データの収集（2）（フィールドワーク） 復習：収集データの整理	

11	小澤 多賀子	【第 11 回】 予習：データセットの作成 授業：研究データの整理と統計解析（ディスカッション） 復習：統計解析結果の確認						
12	小澤 多賀子	【第 12 回】 予習：研究背景、目的、方法の確認 授業：論文執筆（1）研究背景、目的、方法の執筆 復習：研究背景、目的、方法について、誤字脱字のチェック						
13	小澤 多賀子	【第 13 回】 予習：研究結果と考察の確認、参考文献の整理 授業：論文執筆（2）研究結果と考察の執筆、参考文献リストの作成 復習：研究結果と考察、参考文献リストについて、誤字脱字のチェック						
14	小澤 多賀子	【第 14 回】 予習：研究背景から考察までを 1 つに集約 授業：論文執筆（3）論文の完成 復習：完成論文の誤字脱字のチェック						
15	小澤 多賀子	【第 15 回】 予習：研究成果の発表準備 授業：研究成果の発表（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：指摘を受けた部分の整理（必要に応じて論文の加筆修正）						
授業開始前学習		自分の興味のあるテーマや分野に関する情報収集。						
授業内課題のフィードバックの方法		執筆する卒業論文は、完成までの間に、適宜、修正および助言を与える。						
テキスト・教材		適宜資料を配付する。						
参考書		・勝田茂、征矢英昭著：『運動生理学 20 講（第 3 版）』（朝倉書店）2015 年 ・鈴木志保子著：『理論と実践 スポーツ栄養学』（日本文芸社）2021 年 ・田中喜代次、大月直美、小澤多賀子編：『健康華齢のためのスマートライフ』（サンライフ企画）2019 年						
評価の基準と方法		成績評価：論文抄読 20%、実験に対する姿勢や態度 20%、卒業論文もしくは卒業研究発表 60%を総合的に判断して評価する。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	○
関連科目		運動生理学、研究テーマに応じた各専門教科						
その他								
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-430-24（J）		授業コード	GB9903	
科目名称	卒業研究		単位数	2.0 単位	
英文名称	Graduation Projects		授業区分		
科目責任者	曽我部 夏子		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	曽我部 夏子		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30		研究室	16-102	
授業概要	栄養学に関するテーマについて、ディスカッションやグループワークを通して調査・研究方法について習得する。				
到達目標	・栄養学に関する調査研究の方法を理解することができる ・食育計画案を立案することができる				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
15	曽我部 夏子	【第 1 回】 予習：なぜ卒論を履修しようと思ったのか、その理由、意気込みをレポートにまとめる 授業：研究の進め方、テーマの選び方について 復習：1 回目ゼミで学んだ内容をレポートにまとめる			
2	曽我部 夏子	【第 2 回】 予習：昨年度の研究室での卒業研究で使用した資料を読む 授業：研究方法について：研究・調査の実施方法について学ぶ 復習：研究・調査方法についてレポートにまとめる			
3	曽我部 夏子	【第 3 回】 予習：食育に関する調査や法律についての新聞や学術雑誌の記事を集める 授業：研究テーマの選定①：自分の研究テーマの背景、先行研究を調べる 復習：ゼミで取り上げた食育について、自分でさらに情報を集める			
4	曽我部 夏子	【第 4 回】 予習：内閣府や東京都が実施している食育内容について調べる 授業：研究テーマの選定②：自分の研究テーマの背景、先行研究を調べる 復習：ゼミで取り上げた食育について、自分でさらに情報を集める			
5	曽我部 夏子	【第 5 回】 予習：中高生女子のスポーツ選手の身体状況や食生活状況について調べる 授業：研究実施計画立案①（ディスカッション） 復習：研究の実施時期、期間、内容についてレポートにまとめる			
6	曽我部 夏子	【第 6 回】 予習：研究計画を実施するために必要な情報を集める 授業：研究実施計画立案②（ディスカッション） 復習：ゼミでディスカッションした内容を踏まえて、研究計画案を修正する			
7	曽我部 夏子	【第 7 回】 予習：調査用紙の質問項目について検討するため、先行研究を調べる 授業：研究実施に向けての準備① 復習：ゼミでディスカッションした内容を踏まえて、調査用紙案を作成する			
8	曽我部 夏子	【第 8 回】 予習：調査用紙の質問項目について検討する 授業：研究実施に向けての準備② 復習：ゼミのディスカッション結果を踏まえて、調査用紙のレイアウトを修正する			
9	曽我部 夏子	【第 9 回】 予習：作成した調査用紙を使って、予備調査を実施する 授業：研究・調査の実施①:予備調査結果を解析する（グループワーク） 復習：予備調査の結果から、記入ミスが多い質問項目を修正する			
10	曽我部 夏子	【第 10 回】 予習：完成した調査用紙の誤字脱字等がないか確認する 授業：研究・調査の実施②:本調査（グループワーク） 復習：調査用紙の回収枚数、記入漏れ等の確認作業を行う			
11	曽我部 夏子	【第 11 回】 予習：回収した調査用紙の回答を PC に入力する 授業：調査データの解析① 復習：解析結果をグラフ・表にまとめる			

12	曽我部 夏子	【第12回】 予習：解析結果から読み取れることをまとめる 授業：調査データの解析② 復習：ゼミでのディスカッション内容を踏まえて、さらに解析を進める							
13	曽我部 夏子	【第13回】 予習：卒業論文の目次案を検討する 授業：卒業論文の作成① 復習：目的・方法について卒論にまとめる							
14	曽我部 夏子	【第14回】 予習：結果・考察の項目について執筆を進める 授業：卒業論文の作成② 復習：論文を推敲する							
15	曽我部 夏子	【第15回】 予習：プレゼンテーション資料を作成する 授業：研究成果のプレゼンテーション 復習：ゼミでのディスカッション内容を踏まえて、卒論の考察を推敲する							
授業開始前学習		新聞や書籍で、栄養・食育に関する情報・知識を集めておくこと							
授業内課題のフィードバックの方法		レポートは、採点した後、個別でアドバイスをを行う。							
テキスト・教材		初回のゼミの際に指示する							
参考書		ゼミの際に、適宜、紹介する							
評価の基準と方法		ゼミの課題レポート(50%)、研究に取り組む意欲(20%)、研究成果(30%)として判断する							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にできる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	△	○
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		産業保健領域での管理栄養士の実務経験あり。就労者への栄養教育の実例を紹介する。							

科目分類	210-430-24		授業コード	GB9905	
科目名称	卒業研究		単位数	2.0 単位	
英文名称	Graduation Projects		授業区分		
科目責任者	西山 一郎		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	西山 一郎		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 月曜日 16:00～18:00 水曜日 16:00～18:00 後期 月曜日 16:00～18:00 水曜日 16:00～18:00		研究室	16-107	
授業概要	各自が選択した研究テーマにしたがって文献調査や実験を行い、科学的・論理的な結論を導き出すトレーニングを行う。また、研究によって得られた資料やデータをもとにして、論理的に矛盾のない報告書を作成する。具体的には、HPLC 法や SDS-電気泳動法などの生化学的手法を用いて、食物色素、ビタミン類や酵素の分析を行い、これらに関する知識を深めるとともに、新たな発見を目指す。研究の過程で、他の卒業研究生や指導教員とのディスカッションを複数回行う。				
到達目標	研究の一連のプロセスを自分で行うための能力を身につける。すなわち、興味をもったテーマについて、文献調査によって先行研究の内容を把握し、問題点を発見することができるようになる。その問題点を解決するための実験計画を立案し、得られた結果から適切な解釈を導き出し、考察を行うことができるようになることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	西山 一郎	【第 1 回】 予習 : 図書館の利用法やコンピュータの使い方に慣れておく 授業 : (文献検索Ⅰ) 検索方法の習得 復習 : 文献検索を繰り返し行う			
2	西山 一郎	【第 2 回】 予習 : 図書館の利用法やコンピュータの使い方に慣れておく 授業 : (文献検索Ⅱ) 先行研究の調査 復習 : 得られた文献を読み、内容を理解する			
3	西山 一郎	【第 3 回】 予習 : 前回の文献に掲載されている参考文献の中から、必要な文献を選び出す 授業 : (文献検索Ⅲ) 先行研究の調査ならびに関連情報の整理 復習 : 得られた文献を読み、内容を理解する			
4	西山 一郎	【第 4 回】 予習 : これまでに読んだ文献の中から、実験計画の立案に有用と思われるものを選び出す 授業 : 実験計画の立案 (ディスカッション) 復習 : 実験計画について検証をおこなう			
5	西山 一郎	【第 5 回】 予習 : 実験を行うための器具や薬品をそろえ、フローチャートを作成する 授業 : 実験 復習 : 実験結果を整理して、次回の実験計画を立案する			
6	西山 一郎	【第 6 回】 予習 : 実験を行うための器具や薬品をそろえ、フローチャートを作成する 授業 : 実験 復習 : 実験結果を整理して、次回の実験計画を立案する			
7	西山 一郎	【第 7 回】 予習 : 実験を行うための器具や薬品をそろえ、フローチャートを作成する 授業 : 実験 復習 : 実験結果を整理して、次回の実験計画を立案する			
8	西山 一郎	【第 8 回】 予習 : これまでの実験結果を見やすくまとめる 授業 : 実験結果のまとめと実験計画の立案 (ディスカッション) 復習 : 実験計画について検証をおこなう			
9	西山 一郎	【第 9 回】 予習 : 実験を行うための器具や薬品をそろえ、フローチャートを作成する 授業 : 実験 復習 : 実験結果を整理して、次回の実験計画を立案する			
10	西山 一郎	【第 10 回】 予習 : 実験を行うための器具や薬品をそろえ、フローチャートを作成する 授業 : 実験 復習 : 実験結果を整理して、次回の実験計画を立案する			
11	西山 一郎	【第 11 回】 予習 : 実験を行うための器具や薬品をそろえ、フローチャートを作成する 授業 : 実験 復習 : 実験結果を整理して、次回の実験計画を立案する			

12	西山 一朗	【第 12 回】 予習 : 実験を行うための器具や薬品をそろえ、フローチャートを作成する 授業 : 実験 復習 : 実験結果を整理して、次回の実験計画を立案する							
13	西山 一朗	【第 13 回】 予習 : これまでの実験結果を見やすくまとめる 授業 : 実験結果のまとめ（ディスカッション） 復習 : 図表などが効果的かどうかを検証する							
14	西山 一朗	【第 14 回】 予習 : 実験報告書の書き方の例を集め、必要な文献を整える 授業 : 実験報告書の作成 復習 : 作成した原稿を読み直し推敲する							
15	西山 一朗	【第 15 回】 予習 : 関連する文献を読み直す 授業 : 実験報告書の作成 復習 : 作成した原稿を読み直し推敲する							
授業開始前学習		以下の「関連科目」の項目を参照して、各自のテーマに関連する内容を復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		第 14 回目および第 15 回目の授業で提出された実験報告書を添削し、提出後 3 日目に返却する。							
テキスト・教材		使用しない。							
参考書		CiNii、J-STAGE、ScienceDirect、Academic search premier、Google Scholar、MEDLINE 等による参考文献の検索方法や入手方法については、卒業研究の一環として指導する。							
評価の基準と方法		研究成果や研究報告書（100％）によって評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	△	○
関連科目		「生化学Ⅰ・Ⅱ」や「生化学実験Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容と関連が深い。研究テーマにもよるが、酵素やビタミン、HPLC 法、SDS-PAGE 法などが関連する。また、「食品学」や「基礎栄養学」などとも関連する場合がある。							
その他									
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-430-24	授業コード	GB9906
科目名称	卒業研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Graduation Projects	授業区分	
科目責任者	岡田 昌己	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岡田 昌己	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～13:00 後期 木曜日 09:00～13:00	研究室	4-201
授業概要	運動時、減量時、増量時など、様々な環境下で変化する尿中成分の分析し、一般生活をしている時の尿中成分との比較検討を行っていく。それを元に、論文作成のために必要なデータ収集、文献検索、研究の進め方など、基本的な知識について学び、卒業論文を作成する。また、毎回グループワークを行う。		
到達目標	先行研究などをはじめとする論文検索の方法、蓄尿方法や食事、尿中の栄養素成分の分析方法を理解し、考察・今後の展望についてまとめ、プレゼンテーションが出来る力を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	岡田 昌己	【第 1 回】 予習 : 興味のある研究に関する科目について復習しておく 授業 : オリエンテーション、研究テーマ・目的について検討する 復習 : 自分の興味のある研究についてまとめる	
2	岡田 昌己	【第 2 回】 予習 : インターネットについて基本的な操作をマスターしておく 授業 : 文献検索について学ぶ 復習 : 興味のある研究について文献検索しまとめる	
3	岡田 昌己	【第 3 回】 予習 : 文献検索の方法を理解しておく 授業 : 先行研究について検討する 復習 : 先行研究についてまとめる	
4	岡田 昌己	【第 4 回】 予習 : 興味のある研究、先行研究についてまとめておく 授業 : 研究テーマ・目的の決定、研究の進め方について 復習 : 研究の進め方についてまとめる	
5	岡田 昌己	【第 5 回】 予習 : 尿中成分の正常値、異常値について学んでおく 授業 : 尿中成分の分析法について学ぶ 復習 : 必要な尿中成分の分析法についてまとめる	
6	岡田 昌己	【第 6 回】 予習 : 予備実験の準備をする 授業 : 尿中成分の予備実験を行う 復習 : 予備実験結果についてデータ整理をする	
7	岡田 昌己	【第 7 回】 予習 : 予備実験で分析した成分について調べておく 授業 : 予備実験のまとめ、本実験の計画を立てる 復習 : 本実験の計画についてまとめる	
8	岡田 昌己	【第 8 回】 予習 : 実験をする尿中成分について調べておく 授業 : 実験 復習 : 実験結果についてデータ整理をする	
9	岡田 昌己	【第 9 回】 予習 : 実験をする尿中成分について調べておく 授業 : 実験 復習 : 実験結果についてデータ整理をする	
10	岡田 昌己	【第 10 回】 予習 : 実験をする尿中成分について調べておく 授業 : 実験 復習 : 実験結果についてデータ整理をする	
11	岡田 昌己	【第 11 回】 予習 : 実験をする尿中成分について調べておく 授業 : 実験 復習 : 実験結果についてデータ整理をする	

12	岡田 昌己	【第 12 回】 予習 : 全ての実験のデータを整理しておく 授業 : 実験結果の分析・まとめ 復習 : 分析結果について間違いがないか確認する							
13	岡田 昌己	【第 13 回】 予習 : 研究の目的と実験結果について検討しておく 授業 : 卒業論文のまとめ 復習 : 発表の図・表・文章が正しいか確認しておく							
14	岡田 昌己	【第 14 回】 予習 : パワーポイントの基本的な操作について学んでおく 授業 : 卒業論文発表の準備 復習 : 発表の図・表・文章が正しいか確認する							
15	岡田 昌己	【第 15 回】 予習 : 発表の練習をしておく 授業 : 卒業論文発表 「発表」 復習 : 発表の反省をまとめる							
授業開始前学習		興味のあるテーマについて、情報収集しておくとうい。 また、今まで学んできた関連科目の教科書、ノートを見返し、基本的な知識についてよく復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		各課題に関して添削を行い、不十分な個所に関してはヒントを与え、または、グループで話し合わせて、再提出させる。その再提出したものも不十分な場合は解説を行う。							
テキスト・教材		特になし。							
参考書		適宜、テーマに関する資料を指示する。							
評価の基準と方法		テーマに取り組む態度（20 点）、研究成果（60 点）、研究発表（20 点）より、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にできる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	△	○
関連科目		生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、基礎栄養学、栄養生理学、栄養生理学実験							
その他									
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-430-24	授業コード	GB9907
科目名称	卒業研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Graduation Projects	授業区分	
科目責任者	松森 慎悟	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松森 慎悟	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	4-116
授業概要	・グルテンフリーベーグルの品質特性に関する研究 ・アレルギー除去に伴う代替食レシピの開発 ・調理学実習（調理の知識や技術）に関わる実態調査 上記のいずれかをグループで行うため、毎回「グループワーク」や「ディスカッション」を含んでいる。		
到達目標	本授業では、各テーマに基づいて、調査・研究、結果のまとめを行い、実験計画法、基本的な実験手法及び調査方法、結果の解析方法などを習得することを目標とする。また、この一連の取り組みを通して、管理栄養士として必用となる探究力や実践力を身につけることを目的とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松森 慎悟	【第 1 回】 予習 : 研究テーマに関する調査 授業 : ガイダンス 復習 : キーワードの確認	
2	松森 慎悟	【第 2 回】 予習 : 調理学実験の自習 授業 : 基礎実験 復習 : 習得した実験方法の確認	
3	松森 慎悟	【第 3 回】 予習 : 調理学実験の自習 授業 : 基礎実験 復習 : 習得した実験方法の確認	
4	松森 慎悟	【第 4 回】 予習 : 調理学実験の自習 授業 : 基礎実験 復習 : 習得した実験方法の確認	
5	松森 慎悟	【第 5 回】 予習 : 該当する実験について確認 授業 : 各テーマに基づいて実験 復習 : 実験結果の確認	
6	松森 慎悟	【第 6 回】 予習 : 前回実験結果の確認 授業 : 各テーマに基づいて実験 復習 : 実験結果の確認	
7	松森 慎悟	【第 7 回】 予習 : 前回実験結果の確認 授業 : 各テーマに基づいて実験 復習 : 実験結果の確認	
8	松森 慎悟	【第 8 回】 予習 : 前回実験結果の確認 授業 : 各テーマに基づいて実験 復習 : 実験結果の確認	
9	松森 慎悟	【第 9 回】 予習 : 前回実験結果の確認 授業 : 各テーマに基づいて実験 復習 : 実験結果の確認	
10	松森 慎悟	【第 10 回】 予習 : 官能評価方法について確認 授業 : 官能評価 復習 : 評価結果の確認	

11	松森 慎悟	【第 11 回】 予習 : 前回評価結果の確認 授業 : 官能評価 復習 : 評価結果の確認							
12	松森 慎悟	【第 12 回】 予習 : 前回評価結果の確認 授業 : 官能評価 復習 : 評価結果の確認							
13	松森 慎悟	【第 13 回】 予習 : 集計及び統計方法の確認 授業 : 官能評価の集計及び統計 復習 : 集計及び統計結果の確認							
14	松森 慎悟	【第 14 回】 予習 : 前回の結果確認 授業 : 官能評価の集計及び統計 復習 : 集計及び統計結果の確認							
15	松森 慎悟	【第 15 回】 予習 : これまでの結果を確認 授業 : 卒業論文の作成 復習 : 卒業論文の内容を確認							
授業開始前学習		「調理学」、「食品学」等の科目で復習しておくことが臨ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業 15 回目に提出するレポートについては、翌週に解説を行う。							
テキスト・教材		特に無し。							
参考書		必要に応じて紹介する。							
評価の基準と方法		授業態度 3 0 %、卒業論文 7 0 %で評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	△	○
関連科目		「調理学」、「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」、「調理学実験」、「食品学Ⅰ・Ⅱ」、「官能評価論」							
その他									
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-430-24	授業コード	GB9908
科目名称	卒業研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Graduation Projects	授業区分	
科目責任者	土岐田 佳子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	土岐田 佳子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～17:50 後期 月曜日 14:40～17:50	研究室	16-109
授業概要	給食経営管理に関するテーマを取り上げ、実験・調査を行う。実験・調査によって得られた結果について考察し、卒業論文を作成する。		
到達目標	研究の組み立て方、データ収集、データ解析、結果の読み取り、考察の仕方など、研究活動に必要な基礎知識を習得する。また、卒論研究を通じて、給食経営管理に関する知識を深め、実践へ応用できる力を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	土岐田 佳子	【第 1 回】 予習 : 興味のある研究テーマについて、教科書、書籍、学会誌等で情報を収集しておく 授業 : ガイダンス、研究テーマを考える 復習 : 研究テーマについてまとめる	
2	土岐田 佳子	【第 2 回】 予習 : 研究に関する文献の検索方法について調べてくる 授業 : 文献検索の方法を学ぶ 復習 : 文献検索をして、先行研究について調査する	
3	土岐田 佳子	【第 3 回】 予習 : 文献検索で得られた論文や書籍を読んでくる 授業 : 先行研究を調査し、内容をまとめる（調査結果の発表） 復習 : 文献検索で得られた論文や書籍を読み、内容を理解する	
4	土岐田 佳子	【第 4 回】 予習 : 先行研究や教科書を読み実験・実習方法について調べてくる 授業 : 実験・実習方法の検討 復習 : 実験・実習方法について理解する	
5	土岐田 佳子	【第 5 回】 予習 : 実験・実習計画を立てるために必要な情報を集める 授業 : 実験・実習計画の立案 復習 : 実験・実習計画の確認を行う	
6	土岐田 佳子	【第 6 回】 予習 : 実験・実習に必要な器具や試料をリストアップする 授業 : 実験・実習に必要な器具の準備と試料の調製 復習 : 実験・実習に必要な器具と試料の確認を行う	
7	土岐田 佳子	【第 7 回】 予習 : 実験・実習内容を確認する 授業 : 実験・実習① 復習 : 実験・実習結果をまとめ、考察を行う	
8	土岐田 佳子	【第 8 回】 予習 : 実験・実習①の結果から、次回の実験計画を立てる 授業 : 実験・実習② 復習 : 実験・実習結果をまとめ、考察を行う	
9	土岐田 佳子	【第 9 回】 予習 : 実験・実習②の結果から、次回の実験計画を立てる 授業 : 実験・実習③ 復習 : 実験・実習結果をまとめ、考察を行う	
10	土岐田 佳子	【第 10 回】 予習 : これまでの実験・実習データを見直す 授業 : 実験①～③までのデータ整理と中間報告 復習 : これまでの実験・実習データを見直し、今後の実験・実習計画を立てる	
11	土岐田 佳子	【第 11 回】 予習 : これまでの実験・実習データを見直し、今後の実験・実習計画を立てる 授業 : 実験・実習④ 復習 : 実験・実習結果をまとめ、考察を行う	

12	土岐田 佳子	【第 12 回】 予習 : 実験・実習④の結果から、次回の実験計画を立てる 授業 : 実験・実習⑤ 復習 : 実験・実習結果をまとめ、考察を行う							
13	土岐田 佳子	【第 13 回】 予習 : これまでの実験・実習データを見直す 授業 : 実験・実習①～⑤までのデータ整理とまとめ 復習 : これまでの実験・実習結果をまとめ、考察を行う							
14	土岐田 佳子	【第 14 回】 予習 : 卒業論文の目次を考えてくる 授業 : 卒業論文の作成① 復習 : 卒業論文の推敲							
15	土岐田 佳子	【第 15 回】 予習 : 卒業論文の推敲 授業 : 卒業論文の作成② 復習 : 卒業論文の内容を見直す							
授業開始前学習		興味のあるテーマについて、教科書、書籍、学会誌等で情報を集めておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された課題レポートについては、速やかに添削を行い返却する。							
テキスト・教材		特になし。							
参考書		必要な場合に適宜紹介する。							
評価の基準と方法		研究に取り組む姿勢（30％）、課題レポート（20％）、卒業論文（50％）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	△	○
関連科目		給食経営管理論、給食経営管理実習、調理学、調理学実験、調理学実習など							
その他									
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-430-24 (J)	授業コード	GB9909
科目名称	卒業研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Graduation Projects	授業区分	
科目責任者	佐藤 勝重	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 勝重	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 09:00～10:30 後期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	16-108
授業概要	「神経活動の光学的イメージング法を用いた神経機能発生/形成過程の個体発生に関する研究」 高等動物の中枢神経系は途方もない数のニューロンやグリアによって構成され、その集合体としてはじめて中枢神経系特有の機能が発現する。本卒業研究では、神経活動の光学的イメージング法を発生過程の中枢神経系に適用し、その機能がどのように発生して成熟していくのかを、個体発生の時間軸に沿って解明する。また、授業では、得られたデータに関してディスカッションを行う。		
到達目標	発生神経生理学に関する研究を通して、研究の立案、実行、データの解析、研究成果のまとめ方を修得し、将来、管理栄養士として研究に従事する際に必要な基本的知識、方法を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	佐藤 勝重	【第 1 回】 予習 : 解剖生理学の「神経系」の項を復習する。 授業 : 神経系の構造と機能の解説 復習 : 神経系の構造と機能のキーワードについてまとめる。	
2	佐藤 勝重	【第 2 回】 予習 : ニューロンの機能について復習する。 授業 : ニューロン活動の生理学的測定法の解説 復習 : ニューロン活動の生理学的測定法についてまとめる。	
3	佐藤 勝重	【第 3 回】 予習 : 光の特徴について調べる。 授業 : ニューロン活動の光学的イメージング法の解説 復習 : ニューロン活動の光学的イメージング法についてまとめる。	
4	佐藤 勝重	【第 4 回】 予習 : リンゲル液などあらかじめ提示するキーワードについて調べる。 授業 : 実験準備、薬品の調製 復習 : 実験準備、薬品調整の方法についてまとめる。	
5	佐藤 勝重	【第 5 回】 予習 : 鶏、ラットの解剖について調べる。 授業 : 標本作製の練習 復習 : 標本の作成法についてまとめる。	
6	佐藤 勝重	【第 6 回】 予習 : 第 1 回から第 5 回までの内容の復習をする。 授業 : 実験 1 神経系の機能発生---解剖学的解析 復習 : 実験 1 の結果をまとめる。	
7	佐藤 勝重	【第 7 回】 予習 : 実験 1 の結果の見直し、反省 授業 : 実験 2 神経系の機能発生---生理学的解析 復習 : 実験 2 の結果をまとめる。	
8	佐藤 勝重	【第 8 回】 予習 : 実験 2 の結果の見直し、反省 授業 : 実験 3 神経系の機能発生---解剖学的解析と生理学的解析の比較 復習 : 実験 3 の結果をまとめる。	
9	佐藤 勝重	【第 9 回】 予習 : 実験 3 の結果の見直し、反省 授業 : 実験 4 神経系の機能形成---解剖学的解析 復習 : 実験 4 の結果をまとめる。	
10	佐藤 勝重	【第 10 回】 予習 : 実験 4 の結果の見直し、反省 授業 : 実験 5 神経系の機能形成---生理学的解析 復習 : 実験 5 の結果をまとめる。	

11	佐藤 勝重	【第 11 回】 予習 : 実験 5 の結果の見直し、反省 授業 : 実験 6 神経系の機能形成---解剖学的解析と生理学的解析の比較 復習 : 実験 6 の結果をまとめる。							
12	佐藤 勝重	【第 12 回】 予習 : 実験 6 の結果の見直し、反省 授業 : 実験 7 神経系の機能発生/形成---解剖学的解析と生理学的解析の比較 復習 : 実験 7 の結果をまとめる。							
13	佐藤 勝重	【第 13 回】 予習 : 実験 1 - 7 の結果の見直し、反省 授業 : データ解析のまとめ (ディスカッション) 復習 : 実験 1 - 7 の結果をまとめる。							
14	佐藤 勝重	【第 14 回】 予習 : 解析データの整理 授業 : 図の作成 (ディスカッション) 復習 : 作成した図の説明文の作成							
15	佐藤 勝重	【第 15 回】 予習 : 作成した図とその説明文の再チェック 授業 : レポート作成 (ディスカッション) 復習 : 作成したレポートの再チェックを行う。							
授業開始前学習		解剖生理学で学んだ内容を復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		実験で得られたデータに関して、どうしてそのような結果になったのか、次の実験をどのように進めたら良いのかをまとめる。まとめた内容に関して、ディスカッションを行いフィードバックする。							
テキスト・教材		研究中に適宜紹介する。必要な文献はコピーを配布する。							
参考書		研究中に適宜紹介する。							
評価の基準と方法		レポート (配点 100 点) により評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	△	○
関連科目		解剖生理学 解剖生理学実験							
その他									
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		内科、神経内科医としての実務経験有り。実務経験から生じた問題について、卒業研究生とともに実験系から解析し、データの解析法、論文のまとめ方を指導する。							

科目分類	210-430-24	授業コード	GB9910
科目名称	卒業研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Graduation Projects	授業区分	
科目責任者	松本 雄宇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松本 雄宇	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:10 後期 火曜日 13:00～16:10	研究室	4-103
授業概要	・食品に含まれる物質の安全性と有効性評価 ・食品安全に関する調査・研究 上記のいずれかをグループで行うため、毎回「グループワーク」や「ディスカッション」を含んでいる。		
到達目標	各テーマに基づいて、調査・研究、結果のまとめを行い、実験計画法、基本的な実験手法及び調査方法、結果の解析方法などを習得することを目標とする。また、この一連の取り組みを通して、管理栄養士として必用となる探究力やプレゼンテーション力を身につけることを目的とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松本 雄宇	【第 1 回】 予習 : 研究テーマに関する調査 授業 : ガイダンス 復習 : キーワードの確認	
2	松本 雄宇	【第 2 回】 予習 : 図書館の利用法やコンピュータの使い方に慣れておく 授業 : 先行研究の調査 復習 : 得られた文献を読み、内容を理解する	
3	松本 雄宇	【第 3 回】 予習 : 前回の文献に掲載されている参考文献の中から、必要な文献を選び出す 授業 : 先行研究の調査ならびに関連情報の整理 復習 : 得られた文献を読み、内容を理解する	
4	松本 雄宇	【第 4 回】 予習 : これまでに読んだ文献の中から、研究計画の立案に有用と思われるものを選び出す 授業 : 研究計画の立案（ディスカッション） 復習 : 研究計画について検証をおこなう	
5	松本 雄宇	【第 5 回】 予習 : 研究に必要な器具や薬品をそろえ、プロトコルを作成する 授業 : 実験・調査 復習 : 結果を整理して、次回の実験計画を立案する	
6	松本 雄宇	【第 6 回】 予習 : 研究に必要な器具や薬品をそろえ、プロトコルを作成する 授業 : 実験・調査 復習 : 結果を整理して、次回の実験計画を立案する	
7	松本 雄宇	【第 7 回】 予習 : 研究に必要な器具や薬品をそろえ、プロトコルを作成する 授業 : 実験・調査 復習 : 結果を整理して、次回の実験計画を立案する	
8	松本 雄宇	【第 8 回】 予習 : これまでの結果を見やすくまとめる 授業 : 結果のまとめと研究計画の立案（ディスカッション） 復習 : 研究計画について検証をおこなう	
9	松本 雄宇	【第 9 回】 予習 : 研究に必要な器具や薬品をそろえ、プロトコルを作成する 授業 : 実験・調査 復習 : 結果を整理して、次回の実験計画を立案する	
10	松本 雄宇	【第 10 回】 予習 : 研究に必要な器具や薬品をそろえ、プロトコルを作成する 授業 : 実験・調査 復習 : 結果を整理して、次回の実験計画を立案する	
11	松本 雄宇	【第 11 回】 予習 : 研究に必要な器具や薬品をそろえ、プロトコルを作成する 授業 : 実験・調査 復習 : 結果を整理して、次回の実験計画を立案する	

12	松本 雄宇	【第 12 回】 予習 : 研究に必要な器具や薬品をそろえ、プロトコルを作成する 授業 : 実験・調査 復習 : 結果を整理して、次回の実験計画を立案する							
13	松本 雄宇	【第 13 回】 予習 : これまでの結果を見やすくまとめる 授業 : 結果のまとめ（ディスカッション） 復習 : 図表などが効果的かどうかを検証する							
14	松本 雄宇	【第 14 回】 予習 : 報告書の書き方の例を集め、必要な文献を整える 授業 : 研究報告書の作成 復習 : 作成した原稿を読み直し推敲する							
15	松本 雄宇	【第 15 回】 予習 : 関連する文献を読み直す 授業 : 研究報告書の作成 復習 : 作成した原稿を読み直し推敲する							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		各課題に関して添削を行い、再提出させる。再提出したものも不十分な場合は解説を行う。							
テキスト・教材									
参考書									
評価の基準と方法		テーマに取り組む態度（20%）、研究成果（20%）、研究報告（60%）より、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	△	○
関連科目		「食品衛生学」や「生化学Ⅰ・Ⅱ」、栄養生理学などが関連する							
その他									
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	210-430-24 (J)	授業コード	GB9912
科目名称	卒業研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Graduation Projects	授業区分	
科目責任者	工藤 美香	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 美香	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 14:40～16:10 金曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 14:40～16:10	研究室	16-106
授業概要	臨床栄養学分野として医療・介後に貢献できる研究を目指している。施設先での患者・要介護者・在宅療養者などの人を対象とした症例研究、介護食等の開発による試食・喫食調査などを実施する。臨地実習Ⅲまたは実施可能な病院及び福祉施設に研究デザインを考え決定し、依頼、承諾の後、研究を実施、得られたデータから解析、考察する。その研究成果を卒業研究発表会及び学会等でプレゼンテーションを行い、さらに卒業論文を作成する。		
到達目標	実施可能な病院及び福祉施設に研究デザインを考え決定し、依頼、承諾の後、研究を実施、得られたデータから解析、考察できる。その研究成果を学会等でプレゼンテーションを行い、さらに卒業論文を作成することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	工藤 美香	【第 1 回】 予習 : 文献などの調査・分析を行う 授業 : 文献等の調査・分析から研究項目を考える(グループワーク) 復習 : 文献等の調査・分析を行う	
2	工藤 美香	【第 2 回】 予習 : 文献などの調査・分析を行う 授業 : 文献等の調査・分析から研究項目を考える(グループワーク) 復習 : 文献などの調査・分析を行う	
3	工藤 美香	【第 3 回】 予習 : 指導教員との研究打合せ・研究計画の作成法の準備 授業 : 指導教員との研究打合せ・研究計画の作成法の準備 (ディスカッション) 復習 : 指導教員との研究打合せ・研究計画の作成法の準備	
4	工藤 美香	【第 4 回】 予習 : 指導教員との研究打合せ・研究計画の作成法の準備 授業 : 指導教員との研究打合せ・研究計画の作成 (ディスカッション) 復習 : 指導教員との研究打合せ・研究計画の作成法の確認	
5	工藤 美香	【第 5 回】 予習 : 研究の方法を教科書等で自習する 授業 : 研究の方法を教科書等で自習する 復習 : 研究の方法を教科書等で自習する	
6	工藤 美香	【第 6 回】 予習 : テーマに沿った開発や調査内容などの資料を準備する 授業 : テーマに沿った開発や調査内容などの資料を準備する (プレゼンテーション) 復習 : テーマに沿った開発や調査内容などの資料を準備する	
7	工藤 美香	【第 7 回】 予習 : 調査などを遂行するために文献等を熟読する 授業 : 調査などを遂行する (研究内容により、学外活動あり) 復習 : 調査などを遂行する	
8	工藤 美香	【第 8 回】 予習 : データ整理を行う 授業 : データ整理を行う 復習 : データ整理を行う	
9	工藤 美香	【第 9 回】 予習 : データから解析する 授業 : データから解析する 復習 : データから解析する	
10	工藤 美香	【第 10 回】 予習 : 解析結果をまとめる 授業 : 解析結果をまとめる (ディスカッション) 復習 : 解析結果をまとめる	
11	工藤 美香	【第 11 回】 予習 : 卒業研究発表会及び学会発表準備 授業 : 卒業研究発表会及び学会発表準備 (プレゼンテーション) 復習 : 卒業研究発表会及び学会発表準備	

12	工藤 美香	【第 12 回】 予習：卒業研究発表会及び学会発表の為の自習 授業：卒業研究発表会及び学会発表の実施（プレゼンテーション） 復習：卒業研究発表会及び学会発表の反省							
13	工藤 美香	【第 13 回】 予習：卒業研究発表会及び卒業論文の準備 授業：卒業研究発表会及び卒業論文の準備 復習：卒業研究発表会及び卒業論文の準備							
14	工藤 美香	【第 14 回】 予習：卒業研究発表会資料又は卒業論文の作成 授業：卒業研究発表会資料又は卒業論文の作成 復習：卒業研究発表会資料又は卒業論文の作成							
15	工藤 美香	【第 15 回】 予習：卒業研究発表会資料又は卒業論文の作成 授業：卒業研究発表会資料又は卒業論文の作成 復習：卒業研究発表会資料又は卒業論文の作成							
授業開始前学習		先行文献を良く読み、新しい研究テーマを考案すること							
授業内課題のフィードバックの方法		提出した課題等にはできるだけ早めにフィードバックし、質問に個別に回答する。							
テキスト・教材									
参考書		研究テーマによって指定する							
評価の基準と方法		研究計画書(40%)、卒業研究発表会又は卒業論文(60%)の成果による							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	△	○
関連科目		臨床栄養学、食介護論、栄養食事療法実習、応用栄養学など							
その他		研究内容によっては、正課学外活動を行うことがある。その場合、交通費等は自己負担とする。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		病院、介護福祉施設、在宅栄養管理の実務経験あり。 臨床栄養学分野として医療・介護に貢献できる研究を目指している。施設先での患者、要介護者、在宅療養者などの「人」を対象とした症例研究、治療食、介護食等の開発と官能評価などを実施する。臨地実習Ⅲ又は実施可能な病院及び在宅、福祉施設に承諾頂いた後に研究を実施し、解析後考察する。							

科目分類	210-430-24	授業コード	GB9913
科目名称	卒業研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Graduation Projects	授業区分	
科目責任者	三浦 麻子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三浦 麻子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 10:30～12:00 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	4-104
授業概要	卒業研究では、研究テーマを設定し、研究目的や方法などを決めて調査を実施し、得られた成果を考察してまとめ、その研究成果を発表するという、研究の一連の流れについて解説し、実際のスキルを身に付ける。まず、様々なライフステージにおけるヒトを対象とした健康・栄養問題について、実際にどのような調査が行われているかを調べる。そこから各自興味のある事柄について、具体的な研究テーマを絞り込み、調査方法を決め、データ収集や解析をし、発表した上で報告書をまとめる。授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。		
到達目標	研究テーマを絞り込み、調査方法を決め、データ収集、解析、報告書をまとめていくという、一連の研究過程を実際に行うことで、創造的な研究を行う能力を身に付け、プレゼンテーション能力を養うことを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三浦 麻子	予習 : 基礎ゼミ I・II 教科書を一読しておく 授業 : 研究の進め方について 復習 : 研究の進め方についてポイントをまとめる	
2	三浦 麻子	予習 : 関心のあるテーマについて調べる 授業 : 研究テーマの選び方について (グループディスカッション) 復習 : 研究テーマ選定のための情報を収集する	
3	三浦 麻子	予習 : 研究テーマに関する情報を収集する 授業 : 文献検索、情報収集の方法について (グループワーク) 復習 : 収集した文献資料や情報をまとめる	
4	三浦 麻子	予習 : 統計解析の基礎についての学習する 授業 : 統計解析について (グループワーク) 復習 : 統計解析についてまとめる	
5	三浦 麻子	予習 : 研究テーマに関する資料の要約をする 授業 : 研究テーマの決定と発表 (グループディスカッション、発表) 復習 : 研究テーマを見直す	
6	三浦 麻子	予習 : 研究テーマに関する情報を収集する 授業 : 研究テーマの情報の選定とデータ解析 (グループワーク) 復習 : 研究テーマに関する情報の集約をする	
7	三浦 麻子	予習 : 研究方法の確認をする 授業 : 研究方法の決定と準備 (グループワーク) 復習 : 研究方法の見直しをする	
8	三浦 麻子	予習 : 研究対象者の情報を収集する 授業 : 研究対象者の決定と予備調査 (グループワーク) 復習 : 研究対象者の見直しと選定をする	
9	三浦 麻子	予習 : 調査内容について検討する 授業 : 調査内容の確定 (グループワーク) 復習 : 調査内容の見直しをする	
10	三浦 麻子	予習 : 収集データの整理をする 授業 : 収集データの解析 (グループワーク) 復習 : 収集データをまとめる	
11	三浦 麻子	予習 : 収集データの見直しと解析をする 授業 : 研究成果のまとめ (グループワーク) 復習 : 研究成果の見直しをする	
12	三浦 麻子	予習 : プレゼンテーションの方法について調べる 授業 : 研究成果の発表方法について (グループワーク) 復習 : 研究成果の発表準備をする	
13	三浦 麻子	予習 : 研究成果の発表準備をする 授業 : 研究成果の発表と評価 (グループワーク、発表) 復習 : 研究成果の発表を踏まえた解析をする	

14	三浦 麻子	予習 : 研究報告書の構成について確認する 授業 : 研究報告書の作成 (グループワーク) 復習 : 研究報告書の加筆・訂正をする						
15	三浦 麻子	予習 : 研究報告書の校正をする 授業 : 研究報告書の提出と評価 (グループワーク) 復習 : 研究方法の一連の流れの振り返りを行う						
授業開始前学習		応用栄養学で学んだ内容について復習し、興味ある課題に関する資料については収集しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		研究発表会を行うので、その内容についてその都度指導を行う。						
テキスト・教材		なし						
参考書		必要に応じて紹介する。						
評価の基準と方法		研究への取り組み方 (50%)、研究成果の発表と報告書 (50%) によって評価する。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にできる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	○
関連科目	応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱ、応用栄養学Ⅲ、応用栄養学実習							
その他								
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-430-24 (J)	授業コード	GB9914
科目名称	卒業研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Graduation Projects	授業区分	
科目責任者	大坂 裕子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大坂 裕子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 金曜日 09:00～10:30 金曜日 14:40～16:10	研究室	16-101
授業概要	研究テーマは、各ライフステージの対象者に適切な栄養教育を行うために必要な基礎資料を得るような内容及び栄養教育に効果的な教材の検討を考えている。そのために質問紙調査の実施やオリジナル食育媒体の作成と実演が主な内容となる。卒業研究であるので、すべての授業が「ディスカッション」「実習」及び「プレゼンテーション」で行われる。		
到達目標	研究を行うことで、管理栄養士に必要な基本的技術（先行研究の調べ方、調査用紙の作成方法、教育媒体の作成方法、論文のまとめ方など）を習得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大坂 裕子	【第 1 回】 予習：ライフステージ別栄養教育について復習しておく 授業：資料検索の方法について 復習：先行研究論文検索	
2	大坂 裕子	【第 2 回】 予習：先行研究論文検索 授業：先行研究論文抄読会（日本語論文） 復習：抄読会の内容の確認	
3	大坂 裕子	【第 3 回】 予習：先行研究論文検索 授業：先行研究論文抄読会（英語論文） 復習：先行研究論文のまとめ	
4	大坂 裕子	【第 4 回】 予習：研究計画の立案 授業：研究テーマ決定、調査方法の検討 復習：類似調査の検索	
5	大坂 裕子	【第 5 回】 予習：教材 or 調査用紙の案作成 授業：教材 or 調査用紙作成 復習：教材 or 調査用紙の確認	
6	大坂 裕子	【第 6 回】 予習：教材 or 調査用紙の下書き 授業：教材 or 調査用紙の作成 復習：教材 or 調査用紙の完成	
7	大坂 裕子	【第 7 回】 予習：食育 or 調査実施の準備 授業：食育 or 調査実施 復習：評価方法の検討	
8	大坂 裕子	【第 8 回】 予習：実施結果ノートのまとめ 授業：実施結果のまとめ 復習：実施結果の考察	
9	大坂 裕子	【第 9 回】 予習：統計処理についての復習 授業：実施結果の集計 復習：実施結果の考察	
10	大坂 裕子	【第 10 回】 予習：図表作成方法確認 授業：実施結果の集計（図表作成） 復習：実施結果の考察	
11	大坂 裕子	【第 11 回】 予習：第 8～10 回の実施結果のまとめ 授業：実施結果のディスカッション 復習：考察のまとめ	

12	大坂 裕子	【第 12 回】 予習：論文の書き方の復習 授業：論文作成（下書き） 復習：下書きの完成							
13	大坂 裕子	【第 13 回】 予習：ディスカッション項目の検討 授業：論文作成（ディスカッション） 復習：論文作成							
14	大坂 裕子	【第 14 回】 予習：プレゼンテーション資料作成の復習 授業：報告発表資料作成 復習：発表資料見直し							
15	大坂 裕子	【第 15 回】 予習：資料見直しと発表練習 授業：結果発表会 復習：研究報告書の作成							
授業開始前学習		どんなテーマで研究に取り組みたいのか考えをまとめておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題については、都度コメントをつけて返却する。 論文に関しては、簡単な製本をしてコメントを付して返却する。							
テキスト・教材									
参考書		各自のテーマにあう推薦図書を紹介する。							
評価の基準と方法		課題取り組み状況 40% 研究結果論文や研究結果発表会の評価 60%							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	△	○
関連科目		卒業研究であるのであらゆる教科との関連があるが、特に「栄養教育論」や「栄養教育論実習」で学習した質問紙調査及び教材作成の方法などは深くかわる。							
その他		研究内容によっては、正課学外活動（年数回、大学近辺）を行うことがある。その場合、交通費は実費負担となる。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		栄養教育の実務経験を教材作りの教育に活かして指導する。							

科目分類	210-430-24（J）			授業コード	GB9915
科目名称	卒業研究			単位数	2.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	
科目責任者	吉野 菜穂子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	吉野 菜穂子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10			研究室	4-202
授業概要	管理栄養士としてクライアントやその家族へ支援を提供する際には、クライアントの身体の状態や食生活における課題を把握すると同時に、クライアントのこころの動きや家族との関係を理解することも重要である。本講義では、管理栄養士がクライアントや家族のこころの面を理解し支援するために必要とされる臨床心理学的な知識や技術について学ぶ。				
到達目標	先行研究を踏まえて独自の研究のテーマを設定、研究方法を選択し卒業研究としてまとめることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	吉野 菜穂子	【第 1 回】 予習：シラバスを読む。 授業：ガイダンス：卒業論文作成にむけた全体的なスケジュールについて説明する 復習：ガイダンスを受けて、年間スケジュールについて考える			
2	吉野 菜穂子	【第 2 回】 予習：卒業論文として取り上げたいテーマについて考える 授業：卒業論文作成において、必要な準備、具体的な作業手順について学ぶ 復習：卒業論文としてまとめたいテーマ、関連する領域について調べる			
3	吉野 菜穂子	【第 3 回】 予習：関心のあるテーマについての文献、論文にあたる 授業：卒業論文のテーマを選ぶ 復習：関連のある研究や文献を具体的に調べる			
4	吉野 菜穂子	【第 4 回】 予習：卒業論文のテーマに関連する文献に目を通す 授業：先行研究についてまとめる 復習：先行研究で明らかになっていることをまとめておく			
5	吉野 菜穂子	【第 5 回】 予習：先行研究の論文を読む 授業：先行研究では明らかにされていない点を見つける 復習：卒業論文として取り上げたい独自のテーマについて考える			
6	吉野 菜穂子	【第 6 回】 予習：自分が選んだテーマについて問題意識をまとめておく 授業：研究目的と方法について学ぶ（ディスカッション） 復習：研究方法についてふりかえる			
7	吉野 菜穂子	【第 7 回】 予習：具体的な調査、研究のスケジュールを考えておく 授業：具体的な調査、実験の実施にあたり留意点などを学ぶ（ディスカッション） 復習：研究スケジュールについてまとめる			
8	吉野 菜穂子	【第 8 回】 予習：研究スケジュールの点検をする 授業：研究スケジュールと方法について発表する 復習：実際の研究活動にあたり不足部分などがないか自己点検する			
9	吉野 菜穂子	【第 9 回】 予習：研究データの収集状況についてまとめる 授業：研究データの収集状況についてまとめ、発表する（プレゼンテーション） 復習：論文作成にあたり不足のデータがないかどうかふりかえる			
10	吉野 菜穂子	【第 10 回】 予習：データの分析方法について調べる 授業：研究データを分析する 復習：分析の経過についてふりかえる			
11	吉野 菜穂子	【第 11 回】 予習：分析の途中経過についてまとめる 授業：分析の結果についてまとめ、発表する（プレゼンテーション） 復習：分析の結果についてふりかえる			

12	吉野 菜穂子	【第 12 回】 予習 : 研究目的と分析の結果についてまとめる 授業 : 研究の目的とデータ分析の結果をふまえて考察する 復習 : 考察の内容についてふりかえる							
13	吉野 菜穂子	【第 13 回】 予習 : 先行研究との比較を行う 授業 : 研究結果を先行研究と比較し、新しい知見の提示ができたかどうかまとめる 復習 : 研究目的にそった結果を提示できたかどうかふりかえる							
14	吉野 菜穂子	【第 14 回】 予習 : 卒業論文における達成と課題についてまとめる 授業 : 研究目的に沿ってどの程度論文作成がすすめられたかふりかえる（ディスカッション） 復習 : 作成にあたり困難な点についてふりかえる							
15	吉野 菜穂子	【第 15 回】 予習 : 卒業論文作成の全過程についてまとめる 授業 : 卒業論文で明らかにできた内容、今後の課題などを明らかにする（プレゼンテーション） 復習 : 卒業論文作成の全過程をふりかえる							
授業開始前学習		これまでに受講してきた講義内容、実習先での体験などをふりかえり、卒業論文として取り上げたいテーマや関心のある事柄について自分なりにまとめておくと、作業をスムーズに行うことができると思われる							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内に提出された課題については、添削を行い改善のポイントを次回の授業内で伝える。							
テキスト・教材		授業内で適宜紹介する。							
参考書		授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		卒業論文を提出し、その内容により評価する（100 点）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	△	○
関連科目		心理学、臨床心理学、カウンセリング論、臨床心理学演習							
その他									
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		精神科病院や心療内科クリニック、小学校、中学校における心理療法（カウンセリング）の経験あり。相談業務の経験を活かし、卒業研究のテーマ設定や調査方法、分析等について講義する。							

科目分類	210-430-24 (J)			授業コード	GB9916
科目名称	卒業研究			単位数	2.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	
科目責任者	西村 一弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西村 一弘			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 10:40～12:10			研究室	16-105
授業概要	給食経営管理学分野と栄養食事療法分野に貢献できる研究を目指している。患者などの人を対象とした症例研究、小児 1 型糖尿病サマーキャンプに参加し、参加する患者やスタッフに対する給食の運営管理や栄養食事療法の指導を実施する。その中で研究を実施し、得られたデータから解析、考察する。その他、治療食のメニュー開発等を行う。その研究成果を学会等で発表し、さらに卒業論文を作成する。				
到達目標	基礎研究や臨床研究の方法から論文作成までの一連の流れを理解して、研究者としての基礎を習得する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	西村 一弘	【第 1 回】 予習 : 研究に関する文献などの調査・分析を行う 授業 : 研究に関する文献などの調査・分析から、研究内容を考える 復習 : 研究に関する文献などの調査・分析から、研究内容を考える			
2	西村 一弘	【第 2 回】 予習 : 研究に関する文献などの調査・分析から、研究内容を考える 授業 : 研究に関する文献などの調査・分析から、研究内容を考える 復習 : 研究に関する文献などの調査・分析から、研究内容を考える			
3	西村 一弘	【第 3 回】 予習 : 指導教員との打ち合わせ 授業 : 指導教員との打ち合わせ 復習 : 指導教員との打ち合わせ			
4	西村 一弘	【第 4 回】 予習 : 指導教員との打ち合わせ 授業 : 指導教員との打ち合わせ 復習 : 指導教員との打ち合わせ			
5	西村 一弘	【第 5 回】 予習 : 研究の方法を教科書等で自習する 授業 : 研究の方法を教科書等で自習する 復習 : 研究の方法を教科書等で自習する			
6	西村 一弘	【第 6 回】 予習 : 調査などの準備 授業 : 調査などの準備 復習 : 調査などの準備			
7	西村 一弘	【第 7 回】 予習 : 調査などの実施 授業 : 調査などの実施 復習 : 調査などの実施			
8	西村 一弘	【第 8 回】 予習 : データの整理を行う 授業 : データの整理を行う 復習 : データの整理を行う			
9	西村 一弘	【第 9 回】 予習 : データの整理を行う 授業 : データの整理を行う 復習 : データの整理を行う			
10	西村 一弘	【第 10 回】 予習 : データの解析を行う 授業 : データの解析を行う 復習 : データの解析を行う			
11	西村 一弘	【第 11 回】 予習 : 解析結果をまとめる 授業 : 解析結果をまとめる 復習 : 解析結果をまとめる			

12	西村 一弘	【第 12 回】 予習 : 学会発表準備 授業 : 学会発表準備 復習 : 学会発表準備							
13	西村 一弘	【第 13 回】 予習 : 学会発表予習 授業 : 学会発表実施 復習 : 学会発表反省							
14	西村 一弘	【第 14 回】 予習 : 卒業論文作成 授業 : 卒業論文作成 復習 : 卒業論文作成							
15	西村 一弘	【第 15 回】 予習 : 卒業論文作成 授業 : 卒業論文作成 復習 : 卒業論文作成							
授業開始前学習		各種関連学会誌に掲載されている論文を読み、研究テーマの仮説を考える。							
授業内課題のフィードバックの方法		個別の質問に対しては、随時回答する							
テキスト・教材		特になし							
参考書		適宜論文のテーマに関する先行論文							
評価の基準と方法		取組む姿勢や態度（30 点）、学会発表（30 点）、卒業研究論文（40 点）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にける技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	△	○
関連科目		臨床栄養学、給食経営管理、栄養食事療法、応用栄養学							
その他		統計解析の方法について学ぶ 研究内容によっては、正課学外活動（年に数回、大学近辺など）を行うことがある。その場合、交通費は実費負担となる。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		病院と介護老人保健施設での 35 年間の経験を活かし、研究手法として先行研究の探し方など具体的な指導を行う それぞれのテーマごとに実践者の施設や企業に訪問して、見学やデータ入力などを行う 私が所属する学会において研究内容の発表の場を設け、発表用の媒体作成のポイントや発表方法を指導する							

科目分類	210-430-24			授業コード	GB9917
科目名称	卒業研究			単位数	2.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	
科目責任者	小林 亘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小林 亘			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 12:00～15:00 後期 月曜日 12:00～15:00			研究室	4-203
授業概要	科学的根拠に基づいて人々の健康に貢献できるようになるために、仮説・検証・まとめのステップを実践する。テーマの設定から始まり、その仮説を検証する方法を計画して、調査や実験などを主体的に実施する。得られた結果を論理的に考え、研究成果の発表、卒業論文等にまとめる。 食品成分と健康をテーマとし、食品（主に植物性食品）の成分分析および機能性評価試験等を実施し、食品素材の健康機能性を探求する。また、食品の健康機能性を活かした商品開発や献立作成等を通じて、食育活動や栄養教育への応用を検討・学修する。				
到達目標	1．科学的思考に基づいた情報を選択することができる。 2．科学的根拠を示すプロセスを理解する。 3．エビデンスに基づく分析や考察ができる。 4．論理的に記述・発表できる 5．研究課題の中でコミュニケーション力や協調性など社会で役立つ人間力を養う。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	小林 亘	【第 1 回】 予習：食品成分と健康に関して興味のある話題を選び、自分の考え、意見をまとめる 授業：オリエンテーション 復習：テーマとする食品成分について検討事項を整理する			
2	小林 亘	【第 2 回】 予習：テーマとする食品成分について調べる 授業：研究テーマの選定 復習：研究計画の詳細をまとめる			
3	小林 亘	【第 3 回】 予習：研究内容に関わる文献を読む 授業：文献内容検討 復習：文献内容のまとめ			
4	小林 亘	【第 4 回】 予習：実験の準備 授業：実験，ディスカッション 復習：実験ノートのまとめ			
5	小林 亘	【第 5 回】 予習：実験の準備 授業：実験，ディスカッション 復習：実験ノートのまとめ			
6	小林 亘	【第 6 回】 予習：実験の準備 授業：実験，ディスカッション 復習：実験ノートのまとめ			
7	小林 亘	【第 7 回】 予習：実験の準備 授業：実験，ディスカッション 復習：実験ノートのまとめ			
8	小林 亘	【第 8 回】 予習：実験の準備 授業：実験，ディスカッション 復習：実験ノートのまとめ			
9	小林 亘	【第 9 回】 予習：実験の準備 授業：実験，ディスカッション 復習：実験ノートのまとめ			

10	小林 亘	【第 10 回】 予習：実験の準備 授業：実験，ディスカッション 復習：実験ノートのまとめ						
11	小林 亘	【第 11 回】 予習：実験の準備 授業：実験，ディスカッション 復習：実験ノートのまとめ						
12	小林 亘	【第 12 回】 予習：実験の準備 授業：実験，ディスカッション 復習：実験ノートのまとめ						
13	小林 亘	【第 13 回】 予習：資料の準備 授業：報告書の制作 復習：内容の検討						
14	小林 亘	【第 14 回】 予習：資料の準備 授業：報告書の仕上げ 復習：報告書の推敲						
15	小林 亘	【第 15 回】 予習：報告資料の準備 授業：研究発表，ディスカッション 復習：今後の課題検討						
授業開始前学習		食品成分と健康に関して，日本人の健康問題の現状を把握しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		研究テーマに関して，定期的にディスカッションを行，参考文献の紹介やアドバイスをを行う。 内容については学生と共に検討を行い，報告書にまとめるに当たっては添削指導等を繰り返す。						
テキスト・教材		使用しない						
参考書		適宜紹介する。						
評価の基準と方法		研究報告書 60%，卒業研究への取組状況 40%で評価する。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	○
関連科目	食品学，調理学，栄養学および生化学分野の講義、実験							
その他								
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	210-430-24 (J)	授業コード	GB9918
科目名称	卒業研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Graduation Projects	授業区分	
科目責任者	児玉 小百合	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	児玉 小百合	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 14:40～17:40	研究室	16-104
授業概要	地域という場において管理栄養士は多職種と連携し、住民の健康・食生活を支援する。卒業研究では、地域住民の QOL 向上を支援する公衆栄養活動をテーマに研究する。研究の計画から成果の発表まで段階を踏んで行き、研究の基礎手法を身に着ける。最初に文献や調査報告書等から、人々の健康、栄養・食事、社会的決定要因等の課題を調べ、研究対象や活動内容を明確にする。ディスカッションの上、地域住民や関連団体等との連携も視野に入れ、研究デザインを決定する。公衆栄養活動を計画・実施・評価し、研究成果を卒業研究の報告書としてまとめ、プレゼンテーションする場を設ける。		
到達目標	地域における健康、栄養・食事、社会的決定要因等を評価し、課題解決を目指した研究デザインを作成できる。研究の計画・実施・評価・成果の発表まで、基礎手法を身に着ける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	児玉 小百合	【第 1 回】 予習：公衆栄養学実習の内容を復習しておくこと 授業：ゼミのガイダンス 復習：研究の進め方の確認	
2	児玉 小百合	【第 2 回】 予習：人々の健康、栄養・食事、社会的決定要因等を調べる 授業：文献や調査報告書等の検索の方法、解説 復習：文献や調査報告書等で健康、栄養・食事、社会的決定要因等を調べる	
3	児玉 小百合	【第 3 回】 予習：文献や調査報告書等で健康、栄養・食事、社会的決定要因等を調べ、選定する 授業：調べた文献や調査報告書等を持ち寄り、内容を紹介し共有する（発表・ディスカッション） 復習：健康、栄養・食事、社会的決定要因等の課題を考察する	
4	児玉 小百合	【第 4 回】 予習：健康、栄養・食事、社会的決定要因等の課題を考察し、研究対象を検討する 授業：研究デザイン作成 1（課題を持ち寄り、研究対象を決定。活動内容を検討する）（ディスカッション） 復習：公衆栄養活動の内容を検討する	
5	児玉 小百合	【第 5 回】 予習：公衆栄養活動の内容を検討する 授業：研究デザイン作成 2（地域住民や関連団体等との連携も視野に入れ、研究デザイン決定）（ディスカッション） 復習：公衆栄養活動の内容を検討する	
6	児玉 小百合	【第 6 回】 予習：公衆栄養活動の内容・評価方法を検討する 授業：研究デザイン作成 3（公衆栄養活動の内容・評価方法の検討）（ディスカッション） 復習：公衆栄養活動の内容・評価方法を検討する	
7	児玉 小百合	【第 7 回】 予習：公衆栄養活動の内容・評価方法を検討する 授業：研究デザイン作成 4（公衆栄養活動の研究デザイン確定）、活動実施準備（ディスカッション） 復習：公衆栄養活動の活動実施準備	
8	児玉 小百合	【第 8 回】 予習：公衆栄養活動の活動実施準備 授業：公衆栄養活動の活動実施準備（ディスカッション） 復習：公衆栄養活動の活動実施準備	
9	児玉 小百合	【第 9 回】 予習：公衆栄養活動の活動実施準備 授業：公衆栄養活動の活動実施（地域での実施） 復習：公衆栄養活動の活動実施のふりかえり	
10	児玉 小百合	【第 10 回】 予習：公衆栄養活動の活動実施のふりかえり 授業：公衆栄養活動の活動実施評価（ディスカッション）、収集データの整理・解析 復習：収集データの整理・解析	

11	児玉 小百合	【第 11 回】 予習：収集データの整理・解析 授業：収集データの解析結果を持ち寄る（発表・ディスカッション） 復習：収集データの解析結果を基に考察する						
12	児玉 小百合	【第 12 回】 予習：解析結果を基に考察する 授業：研究成果のまとめ方の解説 復習：研究報告書の作成						
13	児玉 小百合	【第 13 回】 予習：研究報告書の作成 授業：研究報告書の作成，途中経過報告 復習：研究報告書の作成						
14	児玉 小百合	【第 14 回】 予習：研究報告書の作成 授業：研究報告書の仮完成，研究成果のプレゼンテーション準備 復習：研究成果のプレゼンテーション準備						
15	児玉 小百合	【第 15 回】 予習：研究成果のプレゼンテーション準備 授業：研究成果のプレゼンテーション実施 復習：研究報告書の修正，完成						
授業開始前学習		公衆栄養学，公衆栄養学実習の授業内容を復習しておくこと。関心のある健康・食生活について調べておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		文献や調査報告書等の発表およびディスカッションの際に，講評の機会を設ける。研究報告書の作成過程において，適宜，修正案の提示等を行う。						
テキスト・教材		関連する資料を適宜配布する						
参考書		公衆栄養学，公衆栄養学実習の教科書，政府統計の総合窓口（e-Stat） https://www.e-stat.go.jp/about ，論文検索データベース・サービス（CiNii Research） https://cir.nii.ac.jp/						
評価の基準と方法		プレゼンテーション・作成資料（30%），研究報告書（50%），研究への取り組み（20%）により総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成	栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	○
関連科目		公衆栄養学，公衆衛生学，栄養教育論						
その他								
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容		沖縄県の健康長寿関連事業（内閣府一括交付金）の研究協力者として，保健センターと協働して疫学研究の分析や評価に携わった経験を活かし，地域における研究実施について解説する。						

科目分類	210-430-24	授業コード	GB9919
科目名称	卒業研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Graduation Projects	授業区分	
科目責任者	田崎 仁美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田崎 仁美	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 13:00～16:00	研究室	4-204
授業概要	給食経営管理に関連した研究テーマに基づいて、論文調査や実例研究、実験・調査活動を進める。得られたデータを適切に集計・分析・考察をし卒業論文を作成する。		
到達目標	・研究テーマに対して、研究計画の立案を通して研究の進め方や手法を身につける。 ・給食施設における課題を取り上げることで、管理栄養士として専門的な知識を深める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田崎 仁美	【第 1 回】 予習：興味のある研究のテーマについて調べておく 授業：オリエンテーション 復習：興味のある研究のテーマについてまとめる	
2	田崎 仁美	【第 2 回】 予習：興味のある研究のテーマについてまとめる 授業：文献抄読①文献検索 復習：文献を検索し、資料を収集する	
3	田崎 仁美	【第 3 回】 予習：検索した文献をまとめておく 授業：文献抄読②レジュメ作成 復習：レジュメの内容を見直し、次回発表の準備を進める	
4	田崎 仁美	【第 4 回】 予習：レジュメ内容を見直し、発表にそなえる 授業：文献抄読③発表・まとめ（発表・ディスカッション） 復習：発表内容を見直し、修正する	
5	田崎 仁美	【第 5 回】 予習：これまでの収集した文献から研究計画のための資料をまとめる 授業：研究計画①計画の立案（グループワーク） 復習：立案した計画を見直し、必要に応じて修正する	
6	田崎 仁美	【第 6 回】 予習：研究計画を見直す 授業：研究計画②計画内容の発表（発表・ディスカッション） 復習：発表内容をもとに、計画内容を検討する	
7	田崎 仁美	【第 7 回】 予習：前回のディスカッション内容を整理する 授業：研究計画③計画の立案（グループワーク） 復習：研究計画をまとめる	
8	田崎 仁美	【第 8 回】 予習：研究計画内容を確認する 授業：研究準備①研究スケジュール、調査方法の決定（グループワーク） 復習：研究スケジュールを確認し、必要に応じて修正する	
9	田崎 仁美	【第 9 回】 予習：調査・測定内容を確認する 授業：調査・測定の実施① 復習：結果をまとめ、確認する	
10	田崎 仁美	【第 10 回】 予習：調査・測定内容を確認する 授業：調査・測定の実施② 復習：結果をまとめ、確認する	
11	田崎 仁美	【第 11 回】 予習：調査・測定内容を確認する 授業：調査・測定データの整理、解析①（グループワーク） 復習：解析データを見直し、必要に応じて追加調査の準備をする	

12	田崎 仁美	【第 12 回】 調査・測定内容を確認する 授業：調査・測定データの整理、解析②（グループワーク） 復習：解析データを確認する							
13	田崎 仁美	【第 13 回】 予習：卒業論文の構成を検討しておく 授業：卒業論文の作成① 復習：卒業論文の推敲							
14	田崎 仁美	【第 14 回】 予習：卒業論文の推敲 授業：卒業論文の作成② 復習：卒業論文の内容を推敲する							
15	田崎 仁美	【第 15 回】 予習：研究成果の発表準備 授業：研究成果の発表（発表・ディスカッション） 復習：発表内容をもとに卒業論文を推敲する							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		興味ある内容について、情報を収集しておくこと							
テキスト・教材		提出された課題や、発表内容について適宜、添削および助言をおこなう							
参考書		適宜資料を配布する							
評価の基準と方法		授業態度（20％）、課題レポート（20％）、卒業論文（60％）							
ディプロマポリシー		人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成		栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成		健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成		栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	△	○
関連科目		給食経営管理論、給食経営管理実習など							
その他									
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									